

平成16年度（第48回）
岩手県教育研究発表会発表資料

特 別 活 動

学校生活への適応と主体的な選択を促す
中学校学級活動の進め方に関する研究
－ガイダンスの機能を生かした指導計画の作成をとおして－

研究協力校
花巻市立湯口中学校

平成17年2月9日
岩手県立総合教育センター
教科領域教育室
藤原良治

〈 目 次 〉

| | | |
|-----|------------------------------------------|----|
| I | 研究目的 | 1 |
| II | 研究の方向性 | 1 |
| III | 研究の年次計画 | 1 |
| IV | 本年度の研究の内容と方法 | 1 |
| 1 | 研究の目標 | 1 |
| 2 | 研究の内容 | 1 |
| 3 | 研究の方法 | 1 |
| 4 | 研究の対象 | 1 |
| V | 研究結果の分析と考察 | 2 |
| 1 | ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画の作成 | 2 |
| (1) | 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する基本的な考え方 | 2 |
| (2) | ガイダンスの機能を生かした指導計画を作成することについての基本的な考え方 | 2 |
| (3) | 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する推進試案 | 3 |
| (4) | ガイダンスの機能を生かした3年間の学級活動の指導計画 | 5 |
| (5) | ガイダンスの機能を生かした各学年の学級活動の指導計画 | 6 |
| (6) | ガイダンスの機能を生かした単位時間の学級活動の指導計画 | 8 |
| 2 | ガイダンスの機能を生かした指導計画の作成や指導実践の推進にかかわる留意事項 | 8 |
| (1) | 各学校の条件を踏まえた指導計画の作成 | 8 |
| (2) | 校内の組織体制と指導計画作成までの年間の推進日程 | 9 |
| (3) | 指導実践の計画的、組織的な推進にかかわる組織体制と連絡調整 | 9 |
| 3 | ガイダンスの機能を生かした指導計画に基づく指導実践とその分析・考察 | 10 |
| (1) | 分析・考察の内容と方法 | 10 |
| (2) | 指導実践の計画 | 10 |
| (3) | 指導実践記録 | 10 |
| (4) | 指導実践をとおしてみた指導計画案の活用について | 14 |
| (5) | 指導実践結果の分析・考察 | 16 |
| 4 | 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する研究のまとめ | 19 |
| (1) | 成果 | 19 |
| (2) | 課題 | 19 |
| VI | 研究のまとめ | 19 |
| 1 | 研究の成果 | 19 |
| 2 | 今後の課題 | 20 |
| | [おわりに] | |
| | 【引用文献】 | |
| | 【参考文献】 | |
| | 【補充資料】 | 22 |

I 研究目的

学習指導要領第1章総則において、新たに「生徒が学校や学級での生活によりよく適応するとともに、現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、ガイダンスの機能の充実を図ること」が示された。これを受けて、第4章特別活動において「学校生活への適応や人間関係の形成、選択教科や進路の選択などの指導に当たっては、ガイダンスの機能を充実するよう学級活動等の指導を工夫すること」が求められている。

しかし、これまでもガイダンスの機能を生かした指導が展開されてはきたものの、意図的、計画的に行われることが少なく、学校生活に十分適応できずに人間関係にかかわる問題を抱える生徒や、学習における選択に当たって目的意識をもてず適切に対応できない生徒も見られる。

このような状況を改善するためには、特別活動の学級活動における生徒一人一人の可能性を開発するようなガイダンスの機能を生かした指導計画を作成し、生徒が豊かな人間関係のなかで有意義な生活を築き、主体的に選択や決定が行えるようにしていくことが必要である。

そこで、この研究は、ガイダンスの機能を生かした指導計画の作成をとおして、学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方を明らかにし、中学校における学級活動の指導の改善に役立てようとするものである。

II 研究の方向性

学校生活への適応と主体的な選択を促す学級活動の指導の進め方の改善に資するため、ガイダンスの機能を生かす場面や、機能を充実させるための工夫点、学級活動の題材とのかかわりに着目し、3年間の系統性・発展性に配慮した学級活動の指導計画を作成し提示することとする。

III 研究の年次計画

この研究は平成15年度から平成16年度にわたる2年次研究である。

第1年次（平成15年度）

学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する基本的な考え方の検討、基本構想の立案、推進試案の作成、指導計画の作成

第2年次（平成16年度）

指導計画に基づく指導実践とその分析・考察、学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する研究のまとめ

IV 本年度の研究の内容と方法

1 研究の目標

中学校学級活動において、ガイダンスの機能を生かした指導計画に基づいて指導実践を行い、その結果の分析と考察をとおして、学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方の妥当性について検討し、明らかにする。

2 研究の内容

- (1) ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画の作成
第1年次に作成した推進試案に基づき、ガイダンスの機能を生かした単位時間の学級活動の指導計画案を作成する。併せて、3年間の指導計画案と各学年の指導計画案を修正する。
- (2) ガイダンスの機能を生かした指導計画の作成や指導実践の推進にかかわる留意事項
第1年次の研究で課題となった、「指導計画の作成や指導実践の推進を学校全体で計画的、組織的に進める際の、校内の組織体制の在り方」と「指導計画案を各学校で運用する上での留意点」を整理する。
- (3) ガイダンスの機能を生かした指導計画に基づく指導実践とその分析・考察
ガイダンスの機能を生かした単位時間の学級活動の指導計画案に基づいた指導実践を行う。その結果について、担任教師（指導教師）へのアンケートを基に分析・考察する。
- (4) 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する研究のまとめ
ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画に基づいた指導実践の成果と課題をまとめ、学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方の妥当性について明らかにする。

3 研究の方法

- (1) 質問紙法
研究協力校の教師を対象とした調査を指導実践後に行い、学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する妥当性の検討に役立てる。
- (2) 指導実践
ガイダンスの機能を生かした指導計画案を用いた学級活動の指導実践を行い、妥当性について確かめる。

4 研究の対象

研究協力校 花巻市立湯口中学校

V 研究結果の分析と考察

1 ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画の作成

学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する基本的な考え方とそれに基づく基本構想及び推進試案、3年間の学級活動の指導計画と各学年の学級活動の指導計画（第1次案）については、本研究の第1年次（平成15年度）に明らかにした。この第1年次の研究の内容は、第2年次の研究内容である「中学校学級活動におけるガイダンスの機能を生かした指導計画」の作成の基盤となるものであり、以下にその概略を示す。

(1) 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する基本的な考え方

適応とは、自らが暮らす生活環境に対して、物的関係や人的関係において積極的にかかわってよりよく順応し、精神的にもうまく合致している状況ととらえる。また、主体的な選択とは、さまざまな問題に出会った時に、自らのもちうる情報や解決法を基に、自らの意志と責任でより適切な選択や決定をすることととらえる。以上のことを踏まえ、「学校生活への適応と主体的な選択」について、本研究では次のようにとらえることとする。

- 一人一人の生徒が学校や学級の生活に積極的にかかわってよりよく適応し、豊かな人間関係の中で好ましい人間関係を形成し有意義な生活を築くようにすること。〔適応にかかわるとらえ〕
- 学業や進路あるいは自己の生き方等にかかわって、自らの意志と責任でより適切な選択やよりよい自己決定ができるようにすること。〔選択にかかわるとらえ〕（「学習指導要領解説—総則編—」 p.90より部分引用）

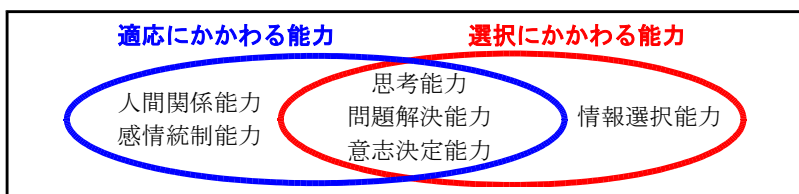
これらのことは、ガイダンスの機能の充実がねらうところに一致するものであり、それは同時に、生徒の自己指導能力を高めていくことでもある。すなわち、「学校生活への適応と主体的な選択」の能力を高めることは自己指導能力を高めることであり、これらのことにかかわる能力として、人間関係能力、感情統制能力、思考能力、問題解決能力、意志決定能力、情報選択能力の六つを上げることができる。この六つの能力については、【表1】のようにとらえることができる。

【表1】学校生活への適応と主体的な選択にかかわる六つの能力

| | |
|--------|-----------------------------------------|
| 人間関係能力 | 人とのかかわりを意識的につくる能力 |
| 感情統制能力 | 自分の思い通りにならない状況に陥っても、感情を統制し、冷静に状況を判断する能力 |
| 思考能力 | 他からの指示や知識に頼るのではなく、自分で適切に考えることのできる能力 |
| 問題解決能力 | 自分の保有するさまざまな解決の方法を繰り出して問題を解決する能力 |
| 意志決定能力 | さまざまな情報の中から、必要なものを選び自信と勇気をもって決定する能力 |
| 情報選択能力 | 情報を選択し、自分の生き方を方向付ける能力 |

〔注〕 表中のゴシックは、それぞれの能力の中核となる語句を表す

本研究が目指す、生徒の「学校生活への適応と主体的な選択」における「適応にかかわる能力」及び「選択にかかわる能力」と【表1】の六つの能力との関係については、右の【図1】のようにとらえることとする。



【図1】学校生活への適応と主体的な選択にかかわる六つの能力の関係

(2) ガイダンスの機能を生かした指導計画を作成することについての基本的な考え方

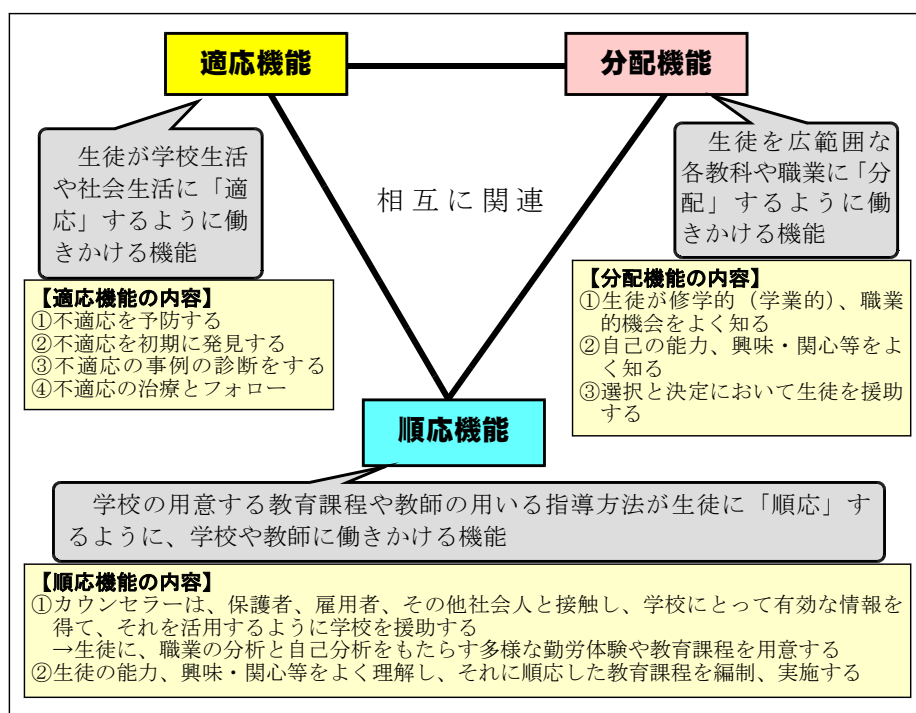
ア ガイダンスの機能を生かした指導計画を作成することの意義

生徒の「学校生活への適応と主体的な選択」を促すため、学級活動はもとより、中学校教育全体の指導の具体的な改善の方策として学習指導要領に「ガイダンスの機能の充実」が示された。「ガイダンス」は、「案内、指導、手引き、学生指導」といった意味であり、学習指導要領解説の特別活動編（p.82）には右のように規定されている。

- 生徒のよりよい適応や選択にかかわる、集団場面を中心とする指導・援助であり、生徒一人一人を最大限に開発しようとするもの。

また、ガイダンスには、「適応機能」、「分配機能」、「順応機能」の三つの機能があり、それぞれの働きや相互の関係をまとめると、次頁の【図2】のようになる。順応機能は教師や

学校へ働きかけるものであり、これがなされて、適応機能と分配機能が作用するのだが、三者はあくまでも一体のものである。一方、適応機能と分配機能は、直接生徒に働きかけるものであり、適応機能は「学校生活への適応」に、分配機能は「主体的な選択」に合致する。そこで、「学校生活への適応と主体的な選択」のために「ガイダンスの機能の充実」が学習指導要領に示された。



【図2】ガイダンスの三つの機能

この、ガイダンスの機能を生かす上では、生徒の活動に対して適切な情報提供や案内・説明、体験活動、各種の援助・相談活動などを学校全体として進めることが必要である。ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画を作成し、それに基づいた指導を展開することによって、学校生活への適応や主体的な選択が促されるばかりでなく、生徒に自己指導の力が身に付き、生涯にわたって自己実現していくことにつながるものと考えられる。

イ ガイダンスの機能を生かした指導計画作成の視点

ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画は、一つ一つの活動の系統性・発展性に留意し、学校として計画的、組織的に行うように組まれていなければならない。そのための指導計画作成の視点として、右の六点を考える。

- ・学校生活への適応と主体的な選択を促すためにガイダンスの機能を生かす場面
- ・学習指導要領の学級活動の内容例とガイダンスの機能を生かす題材とのかかわり
- ・ガイダンスの機能を生かす題材の系統性・発展性
- ・ガイダンスの機能を充実させるための工夫点（指導内容や指導方法等）
- ・全教師の協力のもとでの展開
- ・3年間を見通した展開

(3) 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する推進試案

ア 推進試案の作成に当たり基本としておさえること

学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する推進試案の作成に当たっては、①学校全体の計画的・組織的な取組によってガイダンスの機能を充実させるように進めることが重要である。さらに、②3年間の系統性・発展性を踏まえた計画を作成すること、③学校教育目標や目指す生徒像を確認し、全教師の共通理解と協力のもとに進めることも常に念頭に置きながら進めることが大切である。

イ 推進試案の作成にかかわるガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画の見直しの視点と作成の仕方

(ア) 現在使用している学級活動の指導計画の見直しと修正

現在使用している学級活動の指導計画を、生徒や地域の実態等、学校の特徴を踏まえつつ、次の視点から見直し、必要に応じて修正する。

- ① 学校行事や生徒会行事等との整合性が図られているか。適時性は図られているか。
- ② ガイダンスの機能の充実のために指導すべき題材はもれなく位置付いているか。その系統性や適時性はどうか。

この点に関しては、次の(イ)と(ロ)とも並行して進める必要がある。

(イ) ガイダンスの機能を生かす場面の検討

次頁【表2】のような場面で、ガイダンスの機能の充実を図る指導の工夫を一層進める必要がある。

【表2】ガイダンスの機能を生かす場面

| 生かす場面 | | 特徴的な事項 | どのような配慮や工夫が必要か |
|-----------------------------------|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 生徒が学校生活やそこでの人間関係などによりよく適応する指導において | 入学時や新学期開始時期 | 新生活への期待の一方で環境の変化への不安が交錯し、生徒の精神状態が不安定になる傾向がある。 | <ul style="list-style-type: none"> できる限り不安を取り除き、新生活への夢や希望を膨らませるようにする 教師と生徒及び生徒相互の好ましい人間関係が生まれるように配慮する 生徒自身が学校や学級における諸活動や集団の意義、内容などについて十分に理解し、自発的によりよい生活に取り組むことができるように必要に応じて十分な指導時間を確保する |
| | 新たな学習や各種の学習活動の開始時期 | 学習や諸活動に意欲的に取り組むことができない要因としては、目的を明確にもつことができなかった場合や、やり方が分からない場合、見通しがもてない場合、人間関係に不安がある場合等が考えられる。 | <ul style="list-style-type: none"> 新たな学習活動や諸活動が始まる前の段階では、左記の点に配慮して事前指導を十分に行い、生徒がこれから始まる学習活動や諸活動に、意欲をもって積極的かつ主体的に取り組むことができるようにする 学習指導や学習活動及び諸活動で使用した資料を整理し、適宜修正を加えて引き継いでいく |
| 選択教科や進路等の選択の指導において | 選択教科等に関して | 生徒各自が、必ずしも自己の興味・関心や意志に基づいて選択しているとは言い難く、結果的に自ら選択した選択教科の学習に意欲的でない面もある。 | <ul style="list-style-type: none"> 学習活動のねらいや内容及び方法、よりよい選択の仕方や考え方等についての理解を図り、生徒の学習意欲を喚起して主体的に学習に取り組むことができるよう工夫する 指導の時間を十分に確保するため、学級活動の時間の他に、選択教科等の時間の一部を充てるなどの工夫をする |
| | 進路の選択に関して | 進路の問題は、絶えず選択の連続であり、しかも中学校卒業時のみならず一生涯にわたるものでもある。 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人が自己理解を深め、自己の将来の生き方を考え卒業後の進路を主体的に選択し、積極的に自己実現を図っていくことができるような指導の工夫をする 進路指導にかかわるガイダンスの場や機会が、従来のままで十分であるかどうか、何についてのガイダンスを、いつ、どのような形で、どれだけ行っていくかを吟味する |

(ウ) 学習指導要領に示された学級活動の活動内容例とガイダンスの機能を生かす題材とのかかわり

学習指導要領には、学級活動の活動内容が三つ示され、それぞれについてより具体的な活動内容例が示されている。これらの学級活動の活動内容例とガイダンスの機能を生かす題材とのかかわりを、「学習指導要領解説－特別活動編－」と先行研究を基にして、【表3】のように考えた。

(エ) 「適応にかかわる能力」及び「選択にかかわる能力」との関係

2頁の【表1】【図1】の六つの能力を、学年レベルと単位時間レベルの指導計画案に位置付ける。

(オ) ガイダンスの機能を充実させるための工夫点

最後に、ガイダンスの機能を充実させるための工夫として、【表4】の

五つの観点に沿って学級活動の指導計画案（3年間、各学年、単位時間の指導計画）を再度見直し、ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画を完成させる。

【表3】学習指導要領に示された学級活動の活動内容例とガイダンスの機能を生かす題材とのかかわり

| 学級活動の活動内容 | 学級活動の活動内容例 |
|-----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 学級や学校の生活の充実と向上に関すること | ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決 イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理 ウ 学校における多様な集団の生活の向上 |
| (2) 個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関すること | エ 青年期の不安や悩みとその解決 オ 自己及び他者の個性の理解と尊重 カ 社会の一員としての自覚と責任 キ 男女相互の理解と協力 ク 望ましい人間関係の確立 ケ ボランティア活動の意義の理解 コ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成 サ 性的な発達への適応 シ 学校給食と望ましい食生活の形成 |
| (3) 学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択に関すること | ス 学ぶことの意義の理解 セ 自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用 ソ 選択教科等の適切な選択 タ 進路適性の吟味と進路情報の活用 チ 望ましい職業観・労働観の形成 ツ 主体的な進路の選択と将来設計 |

「注」 **ゴシック**の活動内容例が、ガイダンスの機能を生かせる題材

【表4】ガイダンスの機能を充実させるための工夫点

| ガイダンスの機能を充実させるための工夫点 | 主にどの計画レベルで検討するか |
|-------------------------------------|-----------------|
| ア ねらいの明確化 | 単位時間の計画レベル |
| イ 適時、適切な場での活動（3年間の中での位置付け） | 3年間の計画レベル |
| ウ よりよい内容（適切な内容） | 3年間の計画レベル |
| エ 効果的な方法（指導方法や活動形態、他の教育活動との連携） | 各学年の計画レベル |
| オ 学校のもつ教育力の発揮（全教員、上級生、卒業生、地域の人材の活用） | 単位時間の計画レベル |

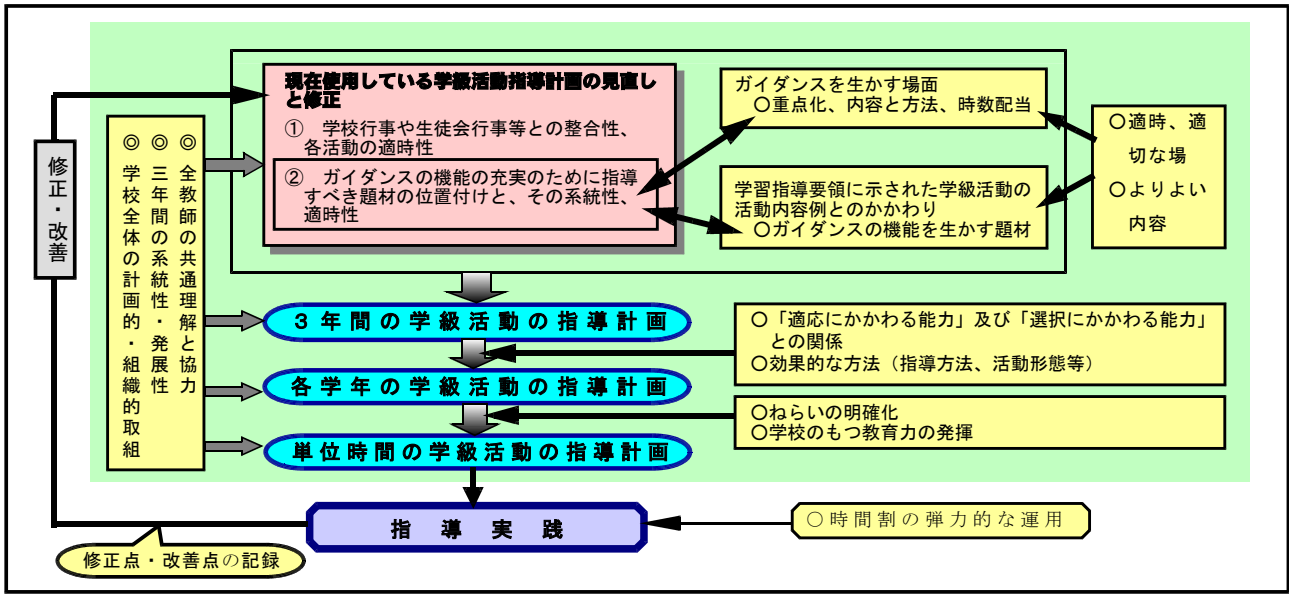
ウ ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画に基づく指導実践とその後の指導計画の修正

作成した学級活動の指導計画に基づいて指導実践を行った後は、指導計画を再検討し、修正を加えていく。そのために、毎時間の指導実践後に指導計画に修正すべき点や改善すべき点を記録する。

このような指導実践と指導計画の修正のサイクルを着実に行うことによって、学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動を進めることができるものとする。

エ 推進試案

これまで述べてきたことを踏まえて、学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する推進試案を、【図3】のようにまとめた。



【図3】学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する推進試案

(4) ガイダンスの機能を生かした3年間の学級活動の指導計画

「ガイダンスの機能を生かした3年間の学級活動の指導計画案」については、推進試案に基づいて、【表5】のように作成した（昨年度提示した指導計画案について、単位時間の指導計画案との整合性を考慮して修正したものの一部である）。この表では、ガイダンスの機能を生かして「学校生活への適応と主体的な選択を促す」学級活動の題材に絞って、題材配列一覧表の形で示してある。表中の「題材名」については、研究協力校の学級活動年間計画表及び日本進路指導協会編「中学生生活と進路」を基にした。なお、「別冊資料」に、3年間の指導計画案作成の具体的手順や関連資料（「題材配列検討シート」）、及び各題材間の系統性・発展性の関係を付加した図を示す。

【表5】ガイダンスの機能を生かした3年間の学級活動の指導計画案（部分）

| 月 | 主な行事 | 第1学年 | | | 第2学年 | | | 第3学年 | | |
|---|------------------------------------------------------------|-------------|----|----|---------------|----|----|--------------|----|----|
| | | 題材名 | 適応 | 選択 | 題材名 | 適応 | 選択 | 題材名 | 適応 | 選択 |
| 4 | ・始業式 ・入学式 ・生徒会オリエンテーション ・3年修学旅行 ・応援歌練習 ・体育祭 | 1中学生になって | ◎ | | 12年生になって | ◎ | | 13年生になって | ◎ | |
| | | 2 3中学校とは何か | ◎ | | 2学級目標を決めよう | ○ | | 2学級目標を決めよう | ○ | |
| | | 4学級目標を決めよう | ○ | | 3 4学級組織作り | ○ | | 3修学旅行の準備 | | ○ |
| | | 5 6学級組織作り | ○ | | 5選択教科で自分を伸ばそう | | ◎ | 4学級組織作り | ○ | |
| 5 | ・生徒総会 ・中間テスト | 7選択教科を選ぼう | | ◎ | 6体育祭に向けて | ◎ | ○ | 5自分で選ぶ選択教科 | | ◎ |
| | | 8体育祭に向けて | ◎ | ○ | 7 | | | 6体育祭に向けて | ◎ | ○ |
| | | 9 | | | 8自分を高める学習 | ○ | ◎ | 83年生の学習 | ○ | ○ |
| | | 10中学生の学習 | | ◎ | 9 | | | 9 | | |
| 6 | ・地区中総体 ・期末テスト | 11望ましい学習方法 | ○ | ◎ | 10 | | | 10何のために学ぶのか | ○ | ◎ |
| | | 13 | | | 11 | | | 11学級の充実と改善 | ◎ | |
| | | 14私達の将来の希望1 | | ◎ | 12人はなぜ働くのか | | ◎ | 12 13先輩の姿に学ぶ | | ◎ |
| | | 15私達の将来の希望2 | | ◎ | 13人はなぜ学ぶのか | ○ | ◎ | | | |
| 7 | ・県中総体 ・期末面談 ・終業式 | 16一学期の反省 | ○ | | 14一学期の学級反省 | ○ | | 14一学期の反省 | ○ | |
| | | 17班・係の活動反省 | ○ | | 15一学期の学年反省 | ○ | | 15生き方について考える | | ◎ |
| | | 18夏休みの生活設計 | ○ | | 16夏休みの生活設計 | ○ | | | | |
| | | | | | | | | | | |

【注1】◎印は適応や選択にかかわりの深い題材、○印は適応や選択にかかわりのある題材／【注2】■ 1つで1単位時間を表す

(5) ガイダンスの機能を生かした各学年の学級活動の指導計画

「ガイダンスの機能を生かした各学年の学級活動の指導計画案」については、前頁【表5】で示した3年間の指導計画案に基づき、各学年ごとに、「学級活動の題材」と「指導のねらい」・「指導の方法」・「指導の留意点」との関係、「学校生活への適応と主体的な選択にかかわる六つの能力」との関係が付加して作成した。主要資料は日本進路指導協会編『中学生生活と進路』指導書（1～3年）である。

本頁と次頁にわたり、【図4】として、第1学年の「ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画案」の部分を示す。これは、昨年度提示した計画案について、単位時間の指導計画案との

| 月 | 主な行事 | 第1学年 | | | 題材グループ名 | ■：指導のねらい ◎：指導の方法 ▲：指導の留意点 |
|----|------------------------------------------------------------|----------------|-----|-----|----------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | 題材名 | 活動種 | 誌・歌 | | |
| 4 | ・始業式 ・入学式 ・生徒会オリエンテーション ・3年修学旅行 ・応援歌練習 ・体育祭 | 1中学生になって | ア、ク | ◎ | 中学校生活の出発(含：選択教科) 私たちの学級 | ■中学校生活に少しでも早く慣れさせ、希望と意欲をもって学習や諸活動、毎日の生活に臨む心構えと決意をもたせる。 ◎オリエンテーション計画による指導。 ▲新しい生活への不安を取り除き、学級への所属感をもたせて学校生活への意欲を高める。 ▲中学校の活動の組織や内容を理解させ、進んで活動に参加しようとする意欲と態度を養うように努める。 |
| | | 2 3中学校とは何か | ア、ク | ◎ | | |
| | | 4学級目標を決めよう | イ、ク | ○ | | |
| | | 5 6学級組織作り | イ、ク | ○ | | |
| | | 7選択教科を選ぼう | ソ、ク | ◎ | | |
| 5 | ・生徒総会 ・中間テスト | 8体育祭に向けて | ア、ウ | ◎ | 私たちの学級 | ■生徒達の主体性と自主性を培い、充実した学校生活を送る基盤を築かせる。 ■学級経営の基盤、人間関係を円滑にする基盤となる学級組織の在り方を考えさせ、活発に活動できる学級組 |
| | | 9 | | | | |
| | | 10中学生の学習 | ス | ◎ | | |
| 6 | ・地区中総体 ・期末テスト | 11 | | | 中学校の学習と将来の生き方 | ■学ぶことの意義や目的を考えさせ、将来に希望をもって意欲的に学んでいこうとする態度を育てる。 ■自己の学習を振り返らせ、望ましい学習方法と学習習慣を身に付けていこうとする意欲をもたせる。 ■進路学習の概略をとおして職業や進路の多様性に気付かせ、将来設計をとおして進路意識を高めさせる。 ◎先輩の学習計画の紹介、教科担任との連携。 ▲学ぶことが将来の「生き方」に深くかかわることに気付かせる。 ▲将来の夢や希望の実現のための中学校生活の在り方を考えさせる。 |
| | | 12望ましい学習方法 | セ | | | |
| | | 13 | | | | |
| 7 | ・県中総体 ・期末面談 ・終業式 | 14私達の将来の希望1 | ツ | ◎ | 中学校の学習と将来の生き方 | ■学ぶことの意義や目的を考えさせ、将来に希望をもって意欲的に学んでいこうとする態度を育てる。 ■自己の学習を振り返らせ、望ましい学習方法と学習習慣を身に付けていこうとする意欲をもたせる。 ■進路学習の概略をとおして職業や進路の多様性に気付かせ、将来設計をとおして進路意識を高めさせる。 ◎先輩の学習計画の紹介、教科担任との連携。 ▲学ぶことが将来の「生き方」に深くかかわることに気付かせる。 ▲将来の夢や希望の実現のための中学校生活の在り方を考えさせる。 |
| | | 15私達の将来の希望2 | ツ | ◎ | | |
| | | 16一学期の反省 | | ○ | | |
| 8 | ・始業式 ・地区陸上大会 | 17班・係の活動反省 | | ○ | 学級生活のなかで | ■二学期の大きな流れを把握させ、学校生活への早期の適応を図らせながら、望ましい人間関係を確立させる。 ◎一学期末の反省とアンケートを基にした話し合い。 ▲集団生活が人間形成に果たす役割の重要性を理解させる。 |
| | | 18夏休みの生活設計 | | ○ | | |
| | | 19夏休みの収穫 | ア、ウ | ◎ | | |
| 9 | ・地区新人戦 ・中間テスト | 20二学期の計画 | ア、ウ | ◎ | 働く人びとに学ぶ | ■身近に働く人びとの姿や考え方に触れることにより、職業選択能力や職業観・勤労観を育成する。 ◎職場訪問のロールプレイング、職場訪問学習の事前学習。 |
| | | 21 22働く人々のすがた | チ | ○ | | |
| | | 23働く人々の仕事と考え1 | チ | ○ | | |
| 10 | ・生徒会立会演説会 ・県新人戦 ・文化祭 | 24働く人々の仕事と考え2 | チ | ○ | 自分を知ろう | ◎保護者の声や友達からの手紙を基にした「自分の特色」のまとめ、個性と職業についての話し合い。 ▲互いの個性を認め合う中で自己のよさを理解させる。 |
| | | 25文化祭の取り組み | ア、ウ | ◎ | | |
| | | 26 | | | | |
| 11 | ・県新人戦 ・(総合[発表会]) ・期末テスト | 27人と個性 | タ | ◎ | 自分を知ろう | ◎保護者の声や友達からの手紙を基にした「自分の特色」のまとめ、個性と職業についての話し合い。 ▲互いの個性を認め合う中で自己のよさを理解させる。 |
| | | 28自分の特色、友達のよさ | タ | ◎ | | |
| | | 29 | | | | |
| 12 | ・学期反省 ・期末面談 ・終業式 | 30健康で安全な生活 | | ○ | 自主的な行動をしよう | ■心身の発達の不均衡からくる不安や悩み、自己嫌悪などの問題のとらえ方や解決法を知り、積極的に解決させる。 ◎いらいらや不安・悩みのアンケートを基にした話し合い。 ▲自分の心身の成長に着目させ、集団の一員としての心構えを考えさせ、自己を積極的に生かしていく意欲や態度を育てる。 |
| | | 31二学期の反省 | | ○ | | |
| | | 32休みの生活設計 | | ○ | | |
| 1 | ・始業式 | 33冬休みの反省と新年の決意 | エ | ◎ | 自主的な行動をしよう | ■将来の進路希望を実現させるためには適切な進路計画が必 |
| | | 34悩みとその解決 | エ | ◎ | | |

「活動内容」欄の記号ア～ツは、4頁【表3】の学級活動の活動内容例に示したア～ツに同じ

◎印は適応や選択にかかわりの深い題材
 ○印は、適応や選択にかかわりのある題材

【図4】第1学年の「ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画案」(部分)

整合性を考慮して修正したものである。(各学年の指導計画案の全容については、「別冊資料」に示す。)

【図4】中の「学校生活への適応と主体的な選択にかかわる六つの能力」は、「ガイダンスの機能を生かす題材」の3年間の系統性・発展性を見ていく指標や、各題材（活動）での評価の観点にもなるものとする。

また、各学年の年度初めにおいては、生徒が学級や学校の生活及びそこで人間関係などに、よりよく適応するように、十分な時間を確保しながら学校全体で意図的、計画的に指導する必要がある。そこで、各学年の年度初めのオリエンテーション期間における「ガイダンスの機能を生かした学級活動」と他の教育活動との関連を図った指導展開の具体案を作成し、別冊資料に示すこととした。

| 適 応 に か か わ る 能 力 | | | 選 択 に か か わ る 能 力 | | |
|---------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 人間関係能力 | 感情統制能力 | 思考能力 | 問題解決能力 | 意志決定能力 | 情報選択能力 |
| <p>1, 2自分から進んでコミュニケーションをとる。 1級友への理解を深める。</p> | <p>1中学校生活や新しい友達に対する不安を取り除く。</p> | <p>1, 2, 7中学校生活への希望や抱負をもつ。</p> | <p>2, 3集団の中で楽しい学校生活を送るための方策（相談など）を知り、</p> | <p>3中学校の学習や活動の特色を知り、意欲的に取り組む。</p> | |
| <p>各能力の白抜き反転数字の番号は、題材名の前の反転数字の番号に同じで、どの題材のときにどの能力がかかっているかを示している</p> | | | | | |
| <p>4明確な目標や責任をもって活動する。 5, 6互いの存在や個性を尊重して組織作りを行う。</p> | <p>4異なる役割や立場も、集団の一員としての立場を自覚し、行動する。</p> | <p>4「このようにしたい」という願いや考えをもつ。</p> | <p>4学級生活の在り方を考え、話し合いで学級目標/学級組織を決定する。</p> | <p>4みんなの願いを踏まえて学級目標を決める。 5, 6自分にふさわしい役割に進んで取り組み、責任を果たす。</p> | |
| | | <p>10何のために学ぶのかということについて考える。 12これまでの自己の学習生活を振り返る。</p> | <p>12学習計画や学習方法について自ら工夫していく。</p> | <p>10, 14, 15将来の夢や希望をもち、意欲的に学ぼうという志をもつ。 12苦手教科の克服や日常の学習を継続するよう努力をする。</p> | <p>12自己の学習の反省や級友の反省から学習の工夫を知り、意欲を高める。 14, 15多様な進路及び生涯学習の場や機会を知り、3年間の進路学習の見直しをもつ。</p> |
| <p>19自分と級友との交わり方を見つめ直す。</p> | <p>19夏休みの生活や学習が本意に終わっても、その気持ちを引きずらないように心掛ける。 20新学期に当たった不安を取り除く。</p> | <p>19夏休みの目標や計画に沿って夏休みを振り返り、成果と課題を明確にする。</p> | <p>20学級生活をよりよくするための工夫や計画についての話し合いで積極的に意見を述べる。</p> | <p>20話し合いで決定したことを踏まえ、集団生活の中で自分を生かしていく意欲をもつ。</p> | <p>21働く人びとの姿は職業によって多様であることを知り、職業に対する視野を広げる。 22働く人びとの姿を調査する際の一般的な準備や質問項目について理解する。 23自らの職業観・勤労観の基礎を築く。 24職場訪問学習報告会の情報を、職業選択能力や自らの職業観・勤労観の拡充に生かす。</p> |
| <p>24職員と協力して職場訪問学習の報告を行う。</p> | | <p>21職業を仕事の内容からとらえる。 22働く人びとへ調査活動の疑似体験をとおして、訪問調査の仕方やマナーを考える。 23人は何のために働いているのか考える。</p> | <p>23働く人びとの職業観や勤労観を参考にして、自分の希望する職業をとらえ直す。</p> | <p>24職場訪問学習報告会で学んだことを基に、これからの中学校生活での心掛けを決意する。</p> | |
| <p>グレーの網掛けは、適応にかかわる要素が強い題材グループ</p> | | | | | |
| <p>27互いの個性の中で、を理解していく。</p> | | | <p>28自分の個性を将来の職業に生かして行こうとする気持ちをもつ。</p> | <p>27自分を知るための内容や方法を理解することで、個性と進路の関係に気付く。</p> | |
| <p>33級友同士で、互いに理解し、敬愛し、励まし合う中で、自分を高める。</p> | <p>33新学期に当たった不安を取り除く。 34心身の発達の不均衡からくる不安や悩みを負けず、自己を肯定的にとらえ、積極的に生かしていく。</p> | <p>34行動面での変化から心身の発達に伴う心の変化について見つめ直す。</p> | <p>34心身の発達の不均衡からくる不安や悩みは、誰もが経験する自我の目覚めであることを知り、解決していく。</p> | <p>33中堅学年に向けて1年生の締めくくりにしっかりと行う気持ちをもつ。</p> | <p>36インターネットで就きたい(興味のある)職業に就くまでのコ</p> |
| | | <p>36「20年後の自分」</p> | <p>37進路計画の必要性に</p> | <p>36自己を生かすため</p> | |

【図4】の右頁

(6) ガイダンスの機能を生かした単位時間の学級活動の指導計画

「ガイダンスの機能を生かした単位時間の学級活動の指導計画案」については、5頁【表5】に基づき、各題材ごとの具体的な指導計画を、学習展開案の形で示すこととした。

この指導計画案（学習展開案）は、①目標、②ガイダンスの機能（適応／選択）にかかわる能力、③指導上の工夫（留意点）、④展開、⑤事後指導の五つで構成した。その際、目標とガイダンスの機能（適応／選択）にかかわる能力及び指導上の工夫（留意点）については、各学年の学級活動の指導計画案を基にして作成した。また、4頁【表4】で示したガイダンスの機能を充実させるための工夫点が明らかになるように留意した。

このようにして作成した、第1学年、第2学年、第3学年それぞれの学年の、各単位時間の学級活動の指導計画案を「別冊資料」に示す。

なお、この中から、研究協力校において指導実践して頂いた第1学年の4月の計画案（適応にかかわる指導計画案）と第3学年の8、9月の計画案（主に選択にかかわる指導計画案）の一部を、10頁からの「指導実践の概要とその分析・考察」において提示する。

2 ガイダンスの機能を生かした指導計画の作成や指導実践の推進にかかわる留意事項

(1) 各学校の条件を踏まえた指導計画の作成

各学校でガイダンスの機能を生かした指導計画を作成する際には、本研究の推進試案で示した視点と手順の他に、各学校の生徒の実態等と、以下の諸点に留意する必要があると考える。

ア 三学期制か、二学期制か

これは、学期の節目や長期休業前後の適応指導にかかわって留意すべき点である。

三学期制の場合は学期の節目に長期休業が位置しており適応指導も一体的に進めることが可能である。これに比べて二学期制の場合は、学期の節目と長期休業の時期がずれるため、学期の節目での適応指導はそれほど問題にならないが、長期休業前後の適応指導が不十分になる危険性があると考えられる。

イ 学級編成替えを行うかどうか

これは、2・3年生の年度初めの適応指導にかかわって留意すべき点である。

学年が単学級であったり、学校の方針として2・3年生への進級時の学級編成替えを行わない場合は、人間関係作りの面での適応指導はそれほど問題はないと思われる。しかし、それであっても、年度初めの学級作りやその年度（またはその学期）の見通しをもたせること等にかかわる適応指導は十分に行う必要がある。

ウ 学区の小学校は2校以上か、1校か

これは、特に1年生の入学時点での適応指導、特にも好ましい人間関係作りにかかわって留意すべき点である。

2校以上の小学校から生徒が入学してくる場合は、互いに羞恥心や警戒心が働いたり、出身小学校毎のグループでまとまったりと、新しい人間関係を築く上でこの時期・学年特有の障壁がある。こうした点に配慮し、できるだけ早い時期に和やかな雰囲気の中で一人一人の生徒の自己開示や他者理解、相互の交流が促されるような機会を設ける必要がある。

なお、1校の小学校からの入学であっても、すでに小学校段階で人間関係に問題を抱えている場合には、中学校という新しい環境を契機にして心機一転を図らせる指導を特別に工夫する必要がある。

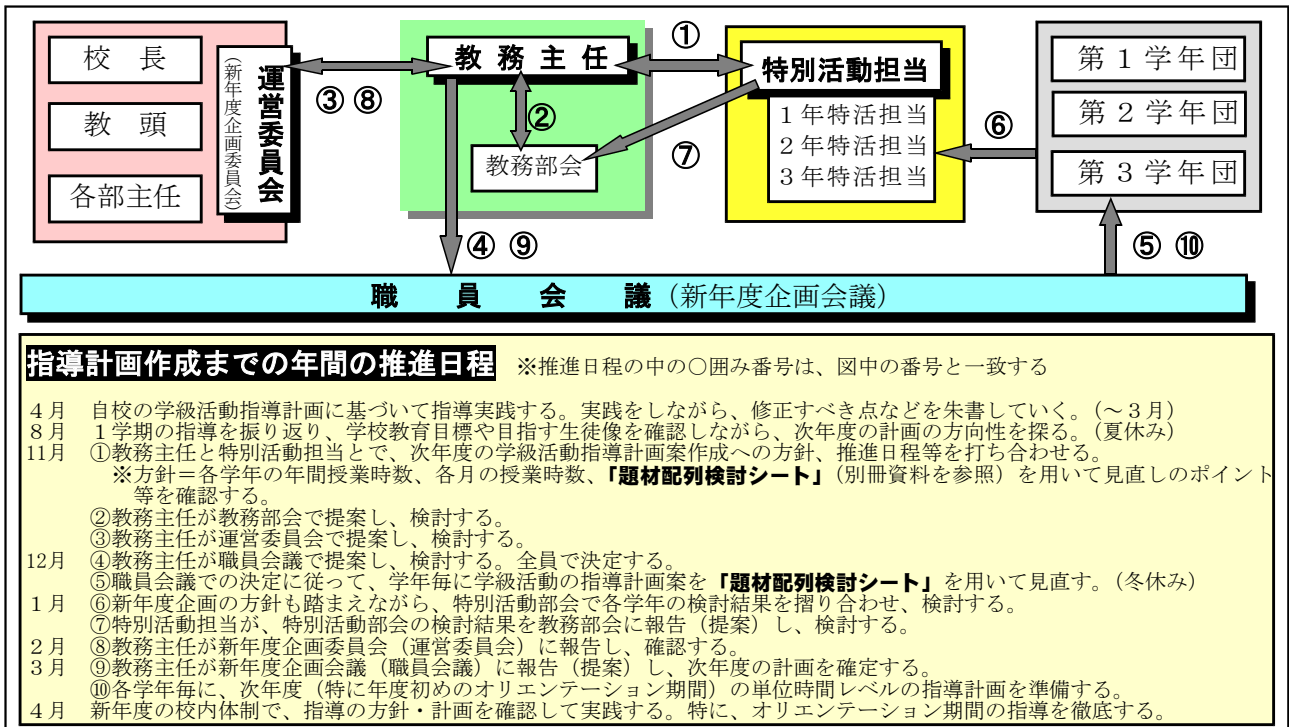
エ 選択教科の開設状況はどうなっているか

これは、選択教科の選択の指導場面設定にかかわって留意すべき点である。

例えば、通年での選択教科の開設の場合と、前期・後期に分けて開設する場合とでは、当然指導場面設定や指導時数・方法が異なる。また、本指導計画案では、学校のもつ教育力の発揮を意図して、選択教科の選択に当たって関係教員がそれぞれの選択教科の説明をしたり、資料として前年度の先輩の活動記録や生の声を活用したりする方法を提案したが、教員の人的構成によっては年度毎に選択教科の開設状況が変わり、こうした工夫が難しいことが想定される。そうした場合には、例えば、試行学習期間を数回設け、その間に個別の相談活動を充実させるなどして主体的な選択を促すことが肝要と考える。

(2) 校内の組織体制と指導計画作成までの年間の推進日程

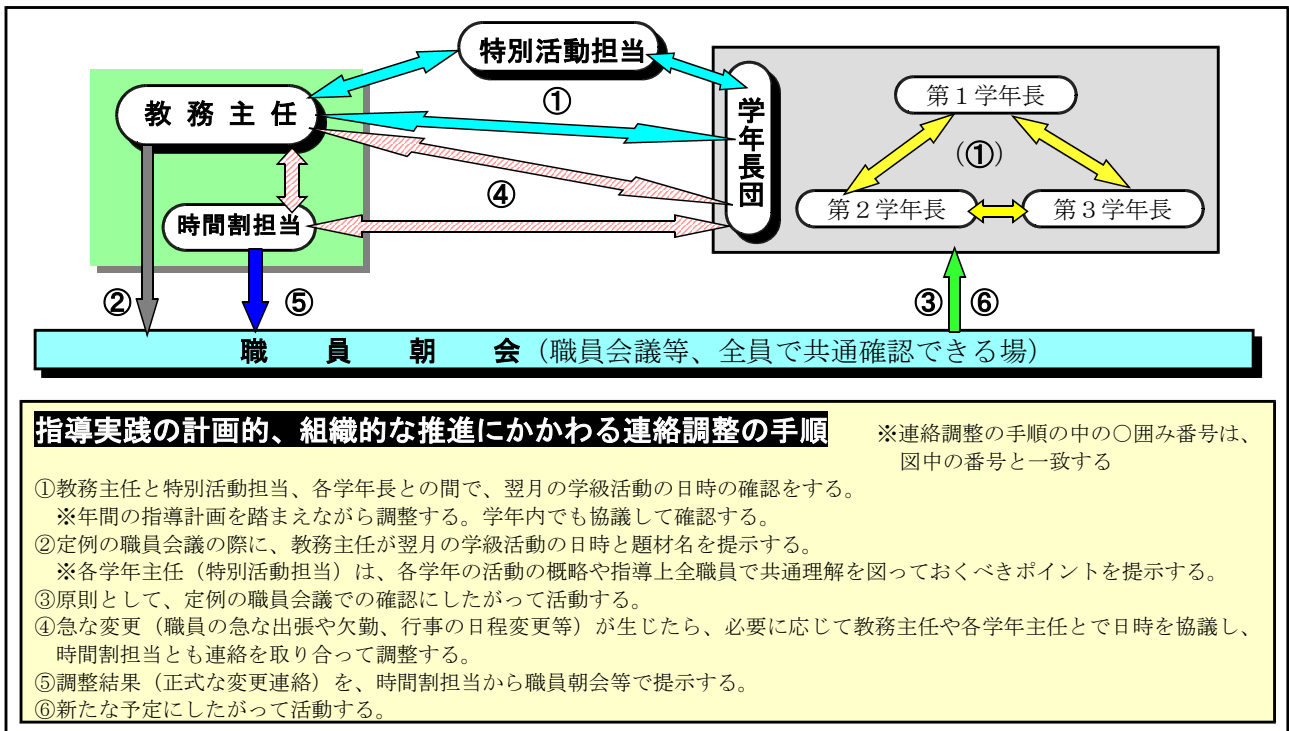
各校においてガイダンスの機能を生かした指導計画を作成するに当たっては、本研究の推進試案で示した視点と手順に基づいて進めることになると思われる。その際、全教職員の共通理解と協力のもとに学校全体の計画的・組織的な取組として進めるために、校内の組織体制と年間推進日程を考えておく必要がある。その概要案を、次の【図5】のように考えた。



【図5】校内の組織体制と指導計画作成までの年間の推進日程の概要

(3) 指導実践の計画的、組織的な推進にかかわる組織体制と連絡調整

指導効果を一層高めるためには、指導計画案に基づきながらも、時間割の弾力的な運用等によって実際の指導がより適時に適切な形で実施されるように工夫することが肝要と考える。そのための組織体制と連絡調整の概要案を次の【図6】のように考えた。



【図6】指導実践の計画的、組織的な推進にかかわる組織体制と連絡調整の概要

3 ガイダンスの機能を生かした指導計画に基づく指導実践とその分析・考察

(1) 分析・考察の内容と方法

学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する推進試案に基づいて作成した「ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画案」により指導実践を行う。その後で、研究協力校の教師を対象に「ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画案の妥当性（研究の方向性とのかかわり、よかったところ、改善すべき点）」、「学校生活への適応にかかわる生徒の状況」、「主体的な選択にかかわる生徒の状況」、「その他」に関して評定尺度法と自由記述法併用のアンケートを行い、それに基づいて分析・考察する。その計画は【表6】のとおりである。

【表6】分析・考察の内容と方法

| 調査項目 | 対象 | 調査内容 | 調査方法 | 処理・解釈の方法 |
|-----------------|----|-----------------------------------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 指導計画案の妥当性 | 教師 | 指導計画案と研究の方向性とのかかわり、指導計画案のよかったところ、指導計画案の改善・修正点 | 質問紙 | 指導実践後に調査し、その記述内容から、指導計画案の妥当性（研究の方向性とのかかわり、作成した指導計画案のよかったところ、改善すべき点）について分析・考察する。 |
| 学校生活への適応にかかわる状況 | 教師 | 教師がとらえた、生徒の学校生活への適応にかかわる状況 | 質問紙 | 指導実践後に調査し、その記述内容から、生徒の学校生活への適応にかかわって効果が見られたかどうかとその根拠について分析・考察する。 |
| 主体的な選択にかかわる状況 | 教師 | 教師がとらえた、生徒の主体的な選択にかかわる状況 | 質問紙 | 指導実践後に調査し、その記述内容から、生徒の主体的な選択にかかわって効果が見られたかどうかとその根拠について分析・考察する。 |

「注」 教師用アンケート用紙は、巻末の「補充資料」参照。

(2) 指導実践の計画

指導実践は、研究協力校に対して研究の概要と指導計画案を提示し、各学年毎に単位時間の指導計画案の活用可能な部分を積極的に活用して指導して頂いた。そして、実際に指導に活用した指導計画案については気付いた点を朱書して頂いた。

また、特に学校・学級生活への適応にかかわって第1学年の4月の指導実践を、主体的な選択にかかわって第3学年の8、9月の指導実践を参観させて頂いた。

なお、3年間の学級活動の指導計画案と各学年毎の指導計画案についても検討し、気付いた点を朱書して頂いた。

(3) 指導実践記録

第1学年と第3学年での指導実践の概要は以下の【表7】【表8】、【資料1】～【資料4】のとおりである。

【表7】第1学年の指導実践日時と題材名及び指導の内容

| 日 時 | 題 材 名 | 指 導 の 内 容 |
|-----------|-----------|----------------------------------------------------|
| 4月6日 1校時 | 中学生になって | 前日の入学式で宿題にしていた「自己紹介カード」を基に、新しい友達とのコミュニケーション活動を行う。 |
| 4月6日 2校時 | 中学校とは何か | 全校集会の形で、中学校生活の心得や約束事を学ぶ。 |
| 4月7日 1校時 | 学級組織作り① | 学級組織作りに当たっての留意点と進め方について確認した上で、学級組織を決定する。 |
| 4月7日 2校時 | 学級組織作り② | |
| 4月20日 1校時 | 学級目標を決めよう | 16日に事前アンケートを実施し、これを受けてグループ毎に一次案を考え、学級全体で練り上げて決定する。 |

【表8】第3学年の指導実践日時と題材名及び指導の内容

| 日 時 | 題 材 名 | 指 導 の 内 容 |
|------------|-------------|------------------------------------------------------------|
| 8月18日 1校時 | 二学期の計画 | 二学期の大きな流れを、行事を中心に確認し、学級として頑張っていくことを決定する。 |
| 8月23日 5校時 | 進路先の調査① | 上級学校訪問のガイダンス（事前説明会）を行う。 |
| 8月24日 1校時 | 自分を見つめ直す | 自己理解を深め、自分の諸特性を進路選択に生かしていく決意をより強くする。 |
| 9月13日 5校時 | 進路先の調査② | 上級学校訪問の、事前学習として、訪問先での質問を作る。 |
| 10月13日 5校時 | 学習の課題や悩みの解決 | 学習の不安や悩みの事前調査を基にそれらをどうやって克服するか、グループ討議やピア・カウンセリングを取り入れて考える。 |

【資料1】第1学年 4月6日「中学生になって」の指導実践の概要

1年-1 題材名 「中学生になって」

1 目標

- ア 中学校入学の喜びや希望、抱負などを話し合わせ、中学校生活への不安を和らげ、希望と意欲をもって毎日の生活に臨む心構えと決意をもたせる。
- イ 学級の間人間関係作りのきっかけとして、互いを知り、認め合い、みんなと協力していこうとする意識を高める。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **人間関係能力**：◎自分から進んでコミュニケーションをとる。◎級友への理解を深める。
- イ **感情統制能力**：中学校生活や新しい友達に対する不安を取り除く。
- ウ **思考能力**：中学校生活への希望や抱負をもつ。

学年毎の計画案から

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 事前に配付した「自己紹介カード」を用いて自己紹介し合い、級友への理解を深める。
- イ 自己紹介には、**ゲーム形式の活動**を取り入れ、和やかな雰囲気の中で自己開示や他者理解が図られるようにする。
- ウ 新しい生活への不安を取り除き、学級への所属感をもたせて学校生活への意欲を高める。

4 展開

| 進 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5分 | 1 入学式を終え、中学生になった感想を発表する。 自己紹介をとおして互いを知り合い、中学校生活への希望と抱負をもとう |
| 展 | 2 担任の先生の自己紹介を聞く。 ・担任の先生の「自己紹介カード」に基づく自己紹介を聞く 3 生徒同士で自己紹介を行う。 (1) 隣のの人に名前を伝え、互いに握手する。 【自己紹介ゲーム1】 (2) 「自己紹介カード」に基づいて、各自が自己紹介をする。 ・次の【自己紹介ゲーム2】のやり方の説明を受けてから自己紹介の活動を行う ・メモはとらずにしっかりと聞く |
| 開 | 4 各自の自己紹介を基にして、級友への理解や中学校生活への希望や抱負を深めるためのゲームを行う。 【自己紹介ゲーム2】 ・みんなの特技や趣味 ・中学校生活への希望や抱負 |
| 40分 | 5 みんなの自己紹介を聞いての感想や気持ちを発表する。 ・みんなの素晴らしいところ 5 ・みんなの気持ち、自分の気持ち 5 ・自分の学校生活に生かしていきたいこと |
| 終末 | |

主な指導と援助

5～6名に発表してもらい、期待と不安が交錯している状況を浮き彫りにする。
そして、自己紹介をとおして、級友を知り合い、学校生活への希望や抱負を確かめ合うような活動をするをテーマとして確認する。

担任教師が和やかに自己紹介を行い、自己開示をとおして、生徒との親和関係を築くように配慮する。

【自己紹介ゲーム1】の進め方
・決められた時間内で、男女を問わずできるだけ多くの級友と名前を伝え合い、握手をする。
・教師は計時を行い、あわせて和やかな雰囲気になるように配慮する。

人間関係能力◎と**感情統制能力**に関する工夫
→自己紹介ゲーム1


【自己紹介ゲーム2】の進め方
・教師が、特技や趣味、中学校生活への希望や抱負といった中からテーマを決め、生徒の発表を聞きながらメモをとる。
・全員の紹介が終わったら、教師が生徒の言葉を取り上げて再現し、生徒はそれが誰のものだったかを当てる。

人間関係能力◎に関する工夫
→自己紹介ゲーム2を意識させた自己紹介

先生や級友との関わりの中で感じたこと、考えたこと、今後に生かしたいことを振り返らせる。

思考能力に関する工夫
→感想や気持ちの発表

▼自己紹介カード

| | |
|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | 自己紹介カード 氏名 _____ 年齢 _____ 平成 ____年 ____月 ____日 生まれ 血液型 _____ (型) 1. 好きなことば、食べ物、色、スポーツ、遊び、動物など 2. 私をこう呼んでください(ニックネーム) 3. 私の長所・特徴 4. 趣味や特技など 5. ○中学生になったの抱負・希望(頑張りたい教科や活動など) |
|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

▼活動の様子

【自己紹介ゲーム1】

T: みなさんに自己紹介をしてもらいます。まず、**隣の人同士で、自分の名前と自己紹介カードの中から一つを紹介して握手**をしてください。
S: (恥ずかしそうにしながら互いに自己紹介)
T: 次は、今の要領で教室いっぱいを使って自己紹介をします。ルールは、**男女交互に時間内でできるだけ多くの人と自己紹介**をすることです。何人の人とできたか覚えておいてください。
S: (わいわい騒ぎながら楽しそうに自己紹介をするが、**男女間では恥ずかしがってなかなかできない**ている)



【自己紹介ゲーム2】

T: クイズタイム! これから、自己紹介の中で誰かが話した事を言います。誰が言った事柄かを当ててください。
・ドラえもんグッズ集め
・ピアノが趣味
・野球が得意
・豚が好き
・社会を頑張りたい
・もの真似が得意 など
S: (張り切って挙手し、回答している。**みんな楽しそうな表情**。先生の突っ込んだ質問に大いに沸いた)

【感想の発表】

S: ○○さんが、もの真似できるなんてびっくりしました。
S: □□君は、小学校の時、いつも同じ班だったけど、給食の時も話をしなくて、何が好きなのかも分からなかったんだけど、今日始めてそれが分かった。
T: 予習や復習を頑張ろうという人もいたね。そういう思いを出し合ってすてきな学級にしよう。

考察

中学校に入学して初めての学級活動であり、目標に挙げたように中学校生活への適応を図る上で大事な時間である。そこで、自己紹介としてゲーム形式の活動を取り入れ、和やかな雰囲気の中で自己開示や他者理解が図られるようにした。
【自己紹介ゲーム1】では、「男女交互に」という教師の適切な指示があったが、恥ずかしさのため、男女の交流は不活発であった。これを改善するためには、例えば、男女交互に二重の輪を作り、順番に自己紹介をする方法も考えられる。ただし、フリーに活動させることによって人間関係が見えてくる場合が多く、その観察に重きを置くことも考えられる。
生徒の感想に、友達の新たな一面を知ることができたということが挙げられたのは大きな成果だった。

【資料2】第1学年 4月20日「学級目標を決めよう」の指導実践の概要

1年-4 題材名 「学級目標を決めよう」

1 目標

ア 「こんな学級がいい」という共通理解を四らせ、集団の一員としての自覚をもって望ましい学級作りをしていくための「学級目標」を設定させる。

イ 「学級目標」作りをとおして、生徒達の主体性と自主性を培い、充実した学校生活を送る基盤を築かせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

ア **人間関係能力**：明るく楽しい学級となるよう、思いやりと責任をもって活動する。

イ **思考能力**：こんな学級にしたいという願いや考えをもつ。

ウ **問題解決能力**：よりよい学級集団の在り方を考え、話し合いで目標を決定する。

エ **意志決定能力**：みんなの願いを踏まえて学級目標を決める。

3 指導上の工夫（留意点）

ア 事前に「こんな学級がいい!!」のカードに各自の思いや願い（場合によっては父母のもの）を書かせ、それを集計した結果を配付しておき、よく読んで話し合いに臨むようにさせる。

イ 学級目標は学級生活のよりどころとなるものであるから、具体的で評価が可能なものになるようにさせる。

4 展開

| 時 | 主な学習活動と生徒の反応等 | 主な指導と援助 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 「こんな学級がいい!!」のアンケート集計を確認し、活動のテーマを知る。 みんなの願いを反映させた「学級目標」を作ろう | アンケート集計結果から、学級のみんながおおよそどのような願いを持っているかを確認し、みんなの願いを反映させた学級目標を作ることを活動テーマとする。 |
| 5分 | | 思考能力 に関する工夫 →「こんな学級がいい!!」のアンケート集計 |
| 展 | 2 学級目標作り当たったの留意点や担任の先生の願い及び活動の進め方についての説明を聞く。 ・具体的で評価が可能なもの ・担任方針あいさつの内容の再確認 ・学級目標作りの活動の進め方 | 学級目標は学級生活のよりどころとなるものであるから、具体的で評価が可能なものになるようにさせる。 入学式後の学級開きでの担任方針あいさつの内容を振り返らせ、担任の願いを確認する。 グループごとに話し合っって案を作り、それを全体でまとめていくこと、全体の司会は担任が行うことを確認する。 |
| 開 | 3 学級目標作りの活動をする。 (1) 数人ずつの任意のグループに分かれ、「こんな学級がいい!!」のアンケート集計を基に、グループとしての学級目標の案を考える。 ・各グループの案とその理由 (2) 各グループからの案を基に話し合い、学級目標を決定する。 ・各グループからの案に対する質疑 ・各グループからの案の整理統合や修正 ・学級目標の決定 | グループは、座席をみながら数名で適宜編制する。司会と発表者も適宜指定する。 その案を考えた理由についても発表できるように準備させる。 |
| 42分 | | 人間関係能力 や 問題解決能力 に関する工夫 →グループでの話し合い |
| 終 | 4 活動を振り返っての感想や決定した学級目標に対する感想を発表する。 ・みんなの意見や願いが込められた | 学級目標作りの活動の経過と、自分及び級友の言動を振り返っての感想や、決定した学級目標の下での学級や自分のあるべき姿について考えさせ、発表させる。 次の学級組織作りの活動につなげる。 |
| 3分 | | 思考能力 に関する工夫 →感想や気持ちの発表 |
| 分 | | |

5 事後指導

・生徒各自の「こんな学級がいい」のアンケート集計結果や、決定した学級目標を、通信等で紹介する。

・決定された学級目標を教室正面に掲示し、折に触れて学級目標に込められた願いを確認させる。

▼「こんな学級がいい」の事前アンケート結果

- ・みんな仲のよい学級
- ・仲間はずれのない学級
- ・活発でいろんなことを分かり合える学級
- ・どんな人にも優しく一人一人が分かり合える学級
- ・明るく楽しい学級で、みんなが仲のよい学級
- ・優しく、授業では一人1回は発表できる学級
- ・いろんなアイデアを出したり、積極的に発言をしあう学級
- ・話し合いなどの時にたくさん案を出す学級
- ・授業中にみんな1回は発表するような学級
- ・みんなで話に参加し、みんなで話し合えるような学級
- ・自分の思っていることを積極的に発表できる学級
- ・スムーズに授業が進む学級
- ・どこかの田舎にあるような平凡々とした学級
- ・共に活動する学級
- ・まとまりのある学級
- ・何にでも協力して、みんなで助け合える学級
- ・積極的に何かをやるためにがんばる楽しい学級
- ・何にでも一生懸命活動し、協力し合う学級
- ・元気がよくて、にぎやかな学級
- ・明るい学級
- ・楽しい学級
- ・明るく元気な学級
- ・みんな仲よく、楽しい学級
- ・日々進化していく学級

▼活動の様子

T：みんなの願いをプリントにまとめました。区切ったんですが、何で区切ったと思いますか。

S：生活面とか学習面とかの種類別だと思います。

T：（まとまり毎のキーワード、学級目標作りの留意点、教師の願いの確認。特に**具体的で評価が可能なもの**ということについて、「**明るい**」、「**頑張る**」などの具体的な文言で確認）

T：班毎に話し合う前に、各自で考えてみましょう。

S：（各自、プリントや先生の願いなどを踏まえて考える）

T：班毎に話し合ってください。班長さんが司会、副班長さんが記録してください。



T：各班の意見を発表してください

S：（各班から発表）

T：時間がなくなったのでこの後どうやってまとめたらいいですか。

S：（多数決。話し合いなど）

T：学級執行部が各班からの意見をまとめ、それを基に、みんなで話し合うことにしましょう。

考察

学級目標には生徒一人一人の願いが込められるべきこと、1年間の学校生活の拠り所であるべきことを踏まえ、事前アンケートを実施し、具体的で評価が可能なものになるように考えさせた。

決定までに、個人、班、学級全体というステップを踏み、各自の意見を反映させて話し合っていくとしたが、学級全体の話し合いは時間不十分に終わった。

この計画案を生かすには、アンケート結果を基にして各自の考えをまとめるまでを家庭で行うなどの工夫が必要なことが分かった。また、具体的で評価が可能なものにこだわるあまり、考えが細かくなり過ぎたり、まとまりにくくなったりしたようであった。スローガンのものと、生活面、学習面、行事面などの視点を与えて考えさせることも必要であることが分かった。

【資料3】第3学年 8月24日「自分を見つめ直す」の指導実践の概要

3年-【 題材名 「自分を見つめ直す」】

1 目標

- ア 進路選択の主体である「自分」に対する理解を一層深めさせる。
- イ 自分の能力や適性、興味・関心について検討し、進路選択に生かすことができるようにさせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：自己理解の学習を振り返り、自己の成長や変化に気付く。
- イ **問題解決能力** や **意志決定能力**：自己の能力や適性、興味・関心を見つめ直し、それを進路選択に生かす。
- ウ **情報選択能力**：自己理解を深める力を培う。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 1・2年生での学習を生かし、総合的に自分をとらえさせ、進路の実現への基盤とさせる。
- イ 生徒一人一人の希望進路を確認しておいて指導する。

4 展開

| 進 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 入 | 1 進路選択のための段階を確認し、本時は「自分の特色」について考えることを把握する。 自分についての理解を深め、自分の諸特性を 進路選択に生かしていこう |
| 3 | 分 |
| 展 | 2 自分を理解するためにどんな学習をしたか、また、自分を理解する方法にはどんなものがあったかを確認する。 ・進路適性検査 ・十人十色 ・自己評価、相互評価 等 |
| 3 | ワークシート「自分についてのまとめ」にしたがって作業をし、自分の特色をつかむ。 (1) 自分の行動の傾向や性格について記入する。 (2) 自分が考えている将来の仕事とその適性について記入する。 |
| 4 | 今までの自分と比べて、変わったところ（成長したところ）をワークシートに記入し、発表する。 ・身体的にかかわる変化 ・性格や言動にかかわる変化 ・学習にかかわる変化 等 |
| 5 | 希望進路（上級学校、職業）実現のために、今後努力が必要なことをワークシートに記入する。 |
| 6 | 自分について見つめ直した結果から考えて、自分が希望する進路について通していると思われる点や不安な点をワークシートにまとめる。 |
| 7 | 希望進路について通していると思われる点 希望進路について不安な点 |

主な指導と援助

教師の説明で、進路選択のための6つの段階（①将来の希望職業、②進路を決める目的、③自分の特色、④進路先の状況、⑤進路計画、⑥進路相談）を再確認し、本時の活動テーマを把握させる。
※進路選択の6つの段階＝3年-12-13で触れておく。できれば教室掲示しておきたい。

1・2年生での進路学習の記録があれば、参考にさせる。客観的に自分を理解する方法として、進路適性検査等があったことを確認する。確認程度とし、意見が出ない時は教師が説明する。

作業のための時間を十分に確保する。机間指導をし、自分の特色や希望職業に通している点等を書けないうる生徒に助言をする。

情報選択能力に関する工夫

→自分の特色や進路適性を考える

できるだけ多くの人に発表させる。同じようなことが出されたら、挙手で意思表示させる。肯定的に自分を見つめさせる。

思考能力に関する工夫

→自己の変化（成長）した点

「自分についてのまとめ」と希望進路の特性を対比して今後の努力事項を考えさせる。机間指導をし、書けないうる生徒に助言をする。

まとめる時間を十分に確保する。不安な点は、教育相談等とおして、できるだけ早く解決するようにアドバイスする。

問題解決能力 及び **意志決定能力**に関する工夫

→自己を見つめ直した上での希望進路の選択

▼活動の様子

- T：（進路選択のための6つの段階を説明し、本時は「自分の特色」について学習することを確認）
- T：ワークシート1番の「自分についてのまとめ」のところの作業をして、自分を振り返ってください。
- S：（各自ワークシートにしたがって作業）
- T：前までの自分と比べて変わったところ、成長したところをワークシートに記入してください。
- S：（各自作業）
- T：発表してもらいます。
- S：調子がいいときはいいいい。
- S：隣の人と話すことが多くなった。
- S：我慢できるようになった。
- T：性格や行動の成長を書いている人が多くいました。**自分を好きになるというのは大事なことです**。「心のノート」の31頁、「自分をまるごと好きになる」のところを読んでみてください。

S：（「心のノート」を読む）



「心のノート」を読んでいます。

（以下省略）

▼ワークシートの記入項目からの抜粋

- I 自分についてのまとめ
 - 自分の行動の傾向や性格について次の観点から自己評価し、特色をまとめてみよう。（はい、中間、いいの3段階評価）
 - 都合が悪くても仕事を優先する
 - 自分の考えをはっきり主張する
 - 注意は素直に聞いて改める
 - しっかり指導できる
 - 失敗してもすぐ立ち直る
 - 行事などにすすんで参加する
 - 怒ったり人に当たったりしない
 - 清掃は人が見ていなくてもする
 - 忍耐強い
 - 細かいことまで考え、気を配る
 [まとめ]
 - 自分で考えている将来の仕事について、次の観点（省略）から自己評価し、1番でまとめた自分の特色も考えて、通している点をまとめてみよう。
 - 自分が興味をもっている教科や特技をまとめてみよう。
- II 自分の成長点・努力すべき点
 - 1・2年生の時と比べて、成長した点や努力が必要な点について、次の観点からまとめよう。
 - 自分の性格・言動
 - 仕事への興味と適性
 - 学習の状況
 - 身体状況・運動能力
 - 自分を見つめ直したことを総合して、自分の希望する進路について、自分の通していると思う点や現在不安に思う点をまとめてみよう。

考察

中学校3年生の二学期は、進路選択について本格的に考えていく時期である。自分自身を正しく知ることが進路選択の基本であることに立脚し、現時点での自分についてまとめさせて、進路選択に生かしていくように考えた。
ワークシートでの作業をおして自己理解が深まるように、振り返りの観点を具体的なものにし、自己の能力や適性、興味・関心などを総合的に見つめ、自己を肯定的に捉えることができるように記入事項を工夫した。
夏休みが終わったばかりであったが、授業後の感想からは、進路選択の大事な二学期が始まったことを認識できており、この計画案による指導は効果があったことが分かった。なお、自己を肯定的に見つめさせる一つの手段として、担任教師から「心のノート」の活用が提示されたことは、ガイダンスの機能を充実させる効果的な方法として示唆に富むものであった。

(4) 指導実践をとおしてみた指導計画書の活用について (※ 14、15頁見開きで)
 次の【資料4】は、「3年-22 学習の課題や悩みの解決」の指導実践（この指導実践は研究者が行った）を例に、指導計画書の考え方や活用の手順・方法を示したものである。

【資料4】3年「学習の課題や悩みの解決」の指導実践の概要

1 「学習の課題や悩みの解決」の指導計画の考え方 (※5頁の推進試案に沿って指導計画の考え方を示す)

- ガイダンスの機能を生かす場面→進路の選択に関する題材
- 学習指導要領に示された学級活動の活動内容例とのかかわり
→「青年期の不安や悩みとその解決」、「自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用」に関する題材
- 適応と選択にかかわる能力
- ガイダンスの機能を充実させるための工夫
 - ㊦ ねらいの明確化
 - ㊧ 適時、適切な場での指導（3年間の中での位置付け）

| 3年-22 題材名 「学習の課題や悩みの解決」 | | 指導計画案 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---------------|---|--------------------------------------------------------------------|---|------------------------------------------------------------------------------------|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---------------------------------------------------------------------------|---|------------------------------------------------|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 目標 ア 学習上の不安や悩みから逃げずに、前向きに解決する努力をさせる。 イ 事例検討や相談活動をとおして、学習の改善を図らせる。 | <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 主な指導と援助 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> アンケート結果から気付いたことを数者に発表させる。学習に関する不安や悩みは、誰でもが持っていることを把握させ、その原因や解決の方策等を考えることをとおして、各自の学習活動の改善に結び付けられることを、活動テーマとして確認する。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> M君、F君と比べて、自分の学習習慣や学習環境と似ているところがあれば指摘させ、挙げられた点について学級全体の傾向を学手により確認させる。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 感情統制能力に関する工夫 →学習上の悩みの原因と自分との対比 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 導入で示した、学級のみならず「学習に関する不安や悩み」のアンケート結果とも照らし合わせて考えさせる。 苦手意識を取り除くための視点として、三つの点を指摘させる。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 問題解決能力に関する工夫 →グループでの話し合い </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 各自の学習活動の実態と学習上の不安や悩みを素直に記入させる。「相談用紙」を二つ折りにし、裏に自分だけが分かる印を付けさせる。「相談用紙」を集め、任意の級友に渡すように再配布させる。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 人間関係能力に関する工夫 →「相談用紙」への正直な記入 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 実際にアドバイスを励ましを考えさせる。書き終わったら、二つ折りにして提出させる。自分のマークの付いた「相談用紙」を持っていかせる。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 次の観点から、自分の思いや感想をまとめさせる。 ・学習活動の実態、不安や悩みを書いたときの気持ち ・カウンセラーとしてアドバイスを励ましを記入していた時の気持ち ・回答を読んだ時の気持ち </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 数者に発表させる。本時の活動を基にして自分の学習活動を改善し、進路実現に向けて努力していくように促す。また、教育相談を随時実施することを告げて、まとめる。「相談用紙」に氏名を記入させ、提出させる。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> 感情統制能力に関する工夫 →ピア・カウンセリングによるアドバイスと励まし </div> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | ガイダンスの機能（適応/選択）にかかわる能力 ア 人間関係能力 ：自ら進んで心を打ち明け、相談する。 イ 感情統制能力 ：学習上の不安や悩みは誰にでもあり、それから逃げない気持ちをもつ。 ウ 問題解決能力 ：グループ討議や相談によって解決を図る。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 指導上の工夫（留意点） ア 事前に、「学習に関する不安や悩み」のアンケートを実施し、集計して資料化しておく。 イ ピア・カウンセリング や教育相談を実施する。 ウ 一人で悩んで投げやりにならないようにさせる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 展開 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">時</th> <th style="width: 60%;">主な学習活動と生徒の反応等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td> 「学習に関する不安や悩み」のアンケート集計を確認し、活動のテーマを知る。 学習上の不安や悩みを取り除き、学習活動の改善を図ろう </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td> 「中学生活と進路」p.50の「集中力を高めて成果をあげる」を読んで、悩みの原因（問題点）はどこにあるかを考える。 ・「ながら勉強」 ・夜更し時間帯の勉強 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td> 「中学生活と進路」pp.52-53の「苦手意識を取りのぞこう」を読んで、苦手意識を取り除く方法を班で考える。 ・不得意になった原因を突き止める ・理解できるところとできないところをはっきりさせる ・自分の将来の希望と結び付けて考える </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td> 各自の学習活動の実態と、学習上の不安や悩みを「相談用紙」に記入する（クライアント）。 ・相談用紙の、今までの「家庭での学習の取り組み状況」のアンケートに回答する ・学習活動に関する不安や悩みを書く </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td> 任意の級友の「相談用紙」にコメントを記入する（カウンセラー）。 ・クライアントの学習の実態、不安や悩みに対して、アドバイスや励ましを記入する </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6</td> <td> 回答を熟読した上で、自分の思いや感想をまとめる。 ・カウンセラーの思いをよく考えてみる </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7</td> <td> ピア・カウンセリングを取り入れて学習活動を振り返っての、自分の思いや感想を発表する。 ・不安や悩みは自分だけではなかった ・具体的なアドバイスがあって参考になる ・どちらも悩んでいるので先生に相談したい </td> </tr> </tbody> </table> | | 時 | 主な学習活動と生徒の反応等 | 1 | 「学習に関する不安や悩み」のアンケート集計を確認し、活動のテーマを知る。 学習上の不安や悩みを取り除き、学習活動の改善を図ろう | 2 | 「中学生活と進路」p.50の「集中力を高めて成果をあげる」を読んで、悩みの原因（問題点）はどこにあるかを考える。 ・「ながら勉強」 ・夜更し時間帯の勉強 | 3 | 「中学生活と進路」pp.52-53の「苦手意識を取りのぞこう」を読んで、苦手意識を取り除く方法を班で考える。 ・不得意になった原因を突き止める ・理解できるところとできないところをはっきりさせる ・自分の将来の希望と結び付けて考える | 4 | 各自の学習活動の実態と、学習上の不安や悩みを「相談用紙」に記入する（クライアント）。 ・相談用紙の、今までの「家庭での学習の取り組み状況」のアンケートに回答する ・学習活動に関する不安や悩みを書く | 5 | 任意の級友の「相談用紙」にコメントを記入する（カウンセラー）。 ・クライアントの学習の実態、不安や悩みに対して、アドバイスや励ましを記入する | 6 | 回答を熟読した上で、自分の思いや感想をまとめる。 ・カウンセラーの思いをよく考えてみる | 7 | ピア・カウンセリングを取り入れて学習活動を振り返っての、自分の思いや感想を発表する。 ・不安や悩みは自分だけではなかった ・具体的なアドバイスがあって参考になる ・どちらも悩んでいるので先生に相談したい |
| 時 | 主な学習活動と生徒の反応等 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 「学習に関する不安や悩み」のアンケート集計を確認し、活動のテーマを知る。 学習上の不安や悩みを取り除き、学習活動の改善を図ろう | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 「中学生活と進路」p.50の「集中力を高めて成果をあげる」を読んで、悩みの原因（問題点）はどこにあるかを考える。 ・「ながら勉強」 ・夜更し時間帯の勉強 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 「中学生活と進路」pp.52-53の「苦手意識を取りのぞこう」を読んで、苦手意識を取り除く方法を班で考える。 ・不得意になった原因を突き止める ・理解できるところとできないところをはっきりさせる ・自分の将来の希望と結び付けて考える | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 各自の学習活動の実態と、学習上の不安や悩みを「相談用紙」に記入する（クライアント）。 ・相談用紙の、今までの「家庭での学習の取り組み状況」のアンケートに回答する ・学習活動に関する不安や悩みを書く | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 任意の級友の「相談用紙」にコメントを記入する（カウンセラー）。 ・クライアントの学習の実態、不安や悩みに対して、アドバイスや励ましを記入する | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 回答を熟読した上で、自分の思いや感想をまとめる。 ・カウンセラーの思いをよく考えてみる | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | ピア・カウンセリングを取り入れて学習活動を振り返っての、自分の思いや感想を発表する。 ・不安や悩みは自分だけではなかった ・具体的なアドバイスがあって参考になる ・どちらも悩んでいるので先生に相談したい | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 事後指導 ・学習計画を作成させ、それに基づいて学習させる。また、必要に応じて個別の教育相談を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

次頁の発問等のA～Gに対応↓

3年生二、三学期の進路指導の流れ

自分を見つめ直す
↓
 進路先の調査
↓
学習の課題や悩みの解決
↓
 進路を最終決定する
↓
 自分の道を切り開く
↓
 進路の手続き
↓
 勇気を出して自分の道を
↓
 希望にあふれて
↓
 上級学校への心構え

㊦ よりよい内容(適切な内容)
 ㊧ 効果的な方法

㊨ 事前アンケートの実施と資料化
 ㊩ ピア・カウンセリング
 ㊪ ロールプレイ

㊫ 学校のもつ教育力の発揮

2 活用の手順・方法

- 題材における目標（指導計画案1）の確認
- ガイダンスの機能にかかわる能力と展開部での位置付け（指導計画案2、4）の確認
- 指導の展開部の流れ（指導計画案4）の理解
- 指導上の工夫（指導計画案3）のアンケート「学習に関する不安や悩み」の実施と資料化（次頁2の1）
- ピア・カウンセリングの方法の確認。「相談用紙」（次頁3）、回収箱の用意
- 「中学生活と進路」の資料（次頁2の2など）を用いたロールプレイについて、教師によるTTで行うか、生徒に行わせるかの検討と事前練習
- 教師の発問・指示・援助等（次頁1）、板書事項（次頁4）の用意

1 教師の発問・指示・援助等

A T: **学習に関する不安や悩みのアンケート結果**をまとめてみました。T: (TP提示。項目を指しながら) どれが多いと思いますか。T: このグラフを見ての感想や気付いたことを述べてください。T: (生徒の発表を受けて、共通する事項を板書する)

B T: **誰でも悩みはあるんですね。それでは、これらの悩みの原因や解決の方法をみんなで考えていきましょう。**
T: (学習課題を板書)
T: ①番の「やる気が出ない」、「飽きる」の問題について考えます。今から、私と佐藤先生とで演技をします。何が(どんなことが)問題なのかをよく考えながら、二人の会話を聞いてください。
T: (教師二人で、「中学生活と進路」3年p.50を基にロールプレイ)
T: 何が(どんなことが)問題だと思えましたか。
T: (「ながら勉強」と「夜寝い時間帯での勉強」に集約し、挙手によって実態確認させる。そのような勉強で能率はどうかも聞く。)
T: やっぱ、生活リズムを正していく必要があります。
T: 次に、②番の「勉強の仕方が悪い」とか「苦手教科」の問題をどうしたらよいか考えます。(「進路学習ワークシート」配付)
T: では、配付したプリントの2番のところ、演技します。先生役は私、A君役を〇〇君、Bさん役を△△さんをお願いします。
T: みなさんには、この後、班に分かれて、苦手意識を取り除く方法を話し合ってもらいます。演技の中にそれを考えるヒントがありますからそれを考えながら演技を見てください。
C T: (三人でロールプレイ)
T: **班体制になって、苦手意識を取り除く方法を話し合ってください。** 班長さんが司会として意見をまとめ、ワークシートの2番の下の記事欄に、3つ記入してください。
T: (各班を巡回し、状況把握や支援をする。)
T: 各班の話し合いの結果を発表してもらいます。
T: (各班から出された意見を、黒板に板書し、整理する。)
T: (板書を基に) これらが、苦手教科克服の一般的な視点ですね。
T: 次に、一人一人の悩みや不安について考えていきます。プリントを配ります。(「相談用紙」を配付)
T: (名前はまだ書かない) やり方を説明します。1番に、自分の現在の学習状況と不安や悩みを書きます。それを別の誰かに見ってもらってアドバイスをもらいます。ピア・サポートといえます。
D T: 裏の、□の中に、自分だけが分かるマークを付けてください。
T: 1番に自分のことを記入します。正直に書いてください。
T: (巡回しながら作業状況の確認や支援をする。)
T: 二つ折りにして、中が見えないようにして前の箱に入れます。
T: (箱は二つ用意。生徒を列毎に半分に分けて入れる箱を指定。)
T: 二つの箱を交換し、それぞれ中のプリントをシャッフルします。交換した箱からどれでもいいので持って行ってください。
T: **プリントを開いて、1番の勉強の取り組みの実態や悩みをよくみて、よいアドバイスや励ましを書いてあげてください。親身になって書くんですよ。**
E T: (巡回しながら作業状況の確認や支援をする。)
T: 二つ折りにして前の箱に戻し、再交換します。自分の書いた印のあるものを間違えないように持って行ってください。
T: 2番の回答を良く読んでください。どうですか?
F T: **今日の活動を振り返ります。今日の活動全体の感想、アドバイスを書いていた時と回答を読んだ感想を書いてください。**
T: (巡回しながら作業状況の確認や支援をする。)
G T: **数人に発表してもらいます。(数名に指名する。)**
T: これをきっかけに、みんなで励まし合って良い方向へ高めていってください。とにかく、友達や先生に聞くことが大切です。
T: **プリントに名前を書いてください。集めますので。**
T: (挨拶) みなさんの頑張りを祈っています!

2 ワークシート (授業用) ※別冊資料p.108参照

進路学習ワークシート 学習の課題や悩みの解決 「学習資料」 3B・氏名

1 「学習に関する不安や悩み」事前アンケート結果 (マル1つ1人で、●:男子/○:女子)

| | |
|-----------------------|-------------------|
| 1 家庭での勉強に集中できない | ●●●●●○○○○○ (16/6) |
| 2 勉強時間が確保できない | ●●●●●○○○○○ (17/8) |
| 3 勉強方法が分からない | ●●●●●○○○○○ (19/5) |
| 4 すぐに飽きてしまう | ●●●●●○○○○○ (5/5) |
| 5 みんながどれ位勉強しているのか気になる | ●●●●●○○○○○ (5/5) |
| 6 適当な問題集や参考書がない | ●●●●●○○○○○ |
| 7 授業中集中できない | ●●●●●○○○○○ |
| 8 やる気が起これない | ●●●●●○○○○○ (12/4) |
| 9 苦手教科があって勉強できない | ●●●●●○○○○○ (10/8) |
| 10 授業についていけない | ●●●●●○○○○○ |
| 11 分からない点を教わる相手がない | ●●●●●○○○○○ |
| 12 その他(具体的に) | ●●●●●○○○○○ |

2 「苦手意識を取りのぞこう」

先生 さてA君、きみはとくに数学が苦手だったね。
A君 そうですよ。でも、九九くらいは覚えていますよ。
(笑)
先生 A君が数学の勉強をしたくないのは、結局のところ、これまでの勉強でわからないところがそのままになっているからではないのかな。
A君 そのとおりです。よく聞いて、わかるときの授業にはついていけるし、ちゃんと理解できたときは、勉強しているのも楽しいですよ。
でも、どこまでがわからなくて、どこからがわからないのか、それがよくわからないんです。あれ、なんだか混乱してしまっちゃった。
Bさん 私が苦手にしている理科についても、まったく同じじゃないですか。
先生 さっさいた新着本を断ち切るには、それが先決だよ。なぜ、その教科が不得意なのか、原因をきちんと突きとめないと、穴のあいたバケツいくら水をいれようとしても、その穴をふさがない限り、水はたまらないのだから。
A君 そうか。でもいつ頃から数学が苦手になってしまったのかな。たしか1年生のときには、そんなに不得意ではなかったはずだけど、なぜかそう思っている。1・2年生のときの勉強を手触りしてみようかな。たぶん、どこからわからなくなったのか、わかってほしい。
Bさん 私は理科のなかでも、OだのHだのCだのという記号が出てくると、もうぜんぜんだめです。先生、ところで、Bさんは英語が得意だけど、そうなのには何かきっかけがあったの、成程もいいます。
Bさん 授業、海外の学校に留学したいという自分の将来に結びつけてみると、勉強する姿勢も出てくるよ。それと得意とか不得意とかいうのは、ちょっとくたさげによることも多いんだ。
A君 ほんとにヤング雑誌に連載されている時代劇が好きなの、それで歴史はわりと得意になったんだ。数学もその連載もあると、ひょっとして好きになれるかもしれません。
それだと、簡単に数学も得意科目になっていいのかな。
Bさん 私も理科に興味を持てるように、何かきっかけを探してみようかな。先生、何かヒントはありますか。
先生 たとえば、みんなが好きでゲームの題でいえば、攻略法の裏技と同じで、自分でつかんだコツは絶対に忘れなかなければ、自分でそのコツをつかむくらいをしてみようかな。

【作業】上の資料を読んで、苦手意識を取りのぞくための方法を班で話し合い、3つにまとめよう。

- ①
- ②
- ③

3 悩み「相談用紙」(授業用) ※別冊資料p.109参照

進路学習ワークシート 学習の課題や悩みの解決 「相談用紙」

【表側】

※裏面の口(四角)の中に、あなただけが分かる印や記号を記入してください。

1 「家庭での学習の取り組み状況」を振り返り、また、学習上の不安や悩みを書きましよう。
(1) 今までの家庭での学習について、自分の取り組み状況を振り返ってましよう。

| | | | | | |
|------------------------------------|---|---|---|---|---|
| 1 計画を立てて勉強している | □ | □ | □ | □ | □ |
| 2 計画とおりに勉強できている | □ | □ | □ | □ | □ |
| 3 教科書などの理解をしている | □ | □ | □ | □ | □ |
| 4 教科書などをノートにまとめている | □ | □ | □ | □ | □ |
| 5 問題集などをしっかりと解いている | □ | □ | □ | □ | □ |
| 6 単語や漢字練習などを書きながら覚えようとしている | □ | □ | □ | □ | □ |
| 7 分からない点や理解できない点は友達や先生などについて解決している | □ | □ | □ | □ | □ |

(2) 現在抱えている学習上の不安や悩みを書きましよう。

※裏(この面)が見えないように、二つ折りにして、前の箱に入れてください。

2 「家庭での学習の取り組み状況」や学習上の不安や悩みに対するアドバイスや励まし(カウンセラー→1番に記されている学習の取り組み状況や不安や悩みに対して、アドバイスや励ましを考え、記入してください。)

※裏(この面)が見えないように、二つ折りにして、前の箱に入れてください。

3 この活動の内容についての感想、クライアントやカウンセラーを経験した気持ち、2番のアドバイスや励ましを読んだ上での素直な気持ちなど、自分の思いをまとめてください。

氏名

【裏面】

4 板書事項

先生 友人 にも聞く

① やる気が出ない ・ あきる
② 勉強の仕方が × ・ 苦手教科

① 集中力を高める
② ながら勉強
③ 生活リズムを正す

① 苦手になった理由を突き止める
② 苦手意識を取り除く
③ 自分だけの将来と結び付ける

・ 分かるところと分からないところを明確にする
・ 生活リズムを正す

学習上の不安や悩みを取り除き、学習活動の改善を図ろう

▼授業後の生徒の感想 (抜粋)

【○:男子、◎:女子】

- すごくいい活動だと思った。これからはアドバイスを受けたようになってみようと思った。もっと勉強しようと思う。
- 他の人の不安や悩みが自分に近いところもあった。もう少しアドバイスを書いてほしかった。受験に向けて気持ちを高めていく。
- この活動で悩みが少しとれた気がする。アドバイスの内容はまあまあだった。これからは、勉強好きになって、受験勉強に取り組んでいきたいと思う。
- 自分で問題点を言っておきながら、自分でもやってなかったのがあった。アドバイスの内容は確かにそうだった。やってみようと思う。
- ◎おもしろい活動だと思いました。アドバイスをみて、少し自信が出てきました。
- ◎学習についてのみんなの考えが分かった。頑張ろうと思った。分からないことを、絶対分かるようにする。
- ◎これを書いてくれた人も同じだからちょっと安心した。勉強についてみんながどう思っているかが分かって良かった。苦手教科を克服できるように頑張る。
- ◎みんなもたくさん悩んでいるのが分かったし、勉強時間を多くしようと思う。受験勉強を頑張ってテストの点数を上げようと思う。

(5) 指導実践結果の分析・考察

次の【表9】～【表16】は、指導実践後に、研究協力校の担任団の教師10名を対象に調査計画に基づいてアンケートを実施し、その結果をまとめたものである。

ア アンケート項目1番「研究の方向性について」の問いについて

研究の方向性に関しては、【表9】、【表10】のような結果であった。これらの結果から、①ガイダンスの機能を生かすところとして取り上げた四つの場面、②ガイダンスの機能を充実させるため工夫点として取り上げた五つの観点と指導計画への位置付け方、③適応と選択にかかわる六つの能力を指導計画に位置付けて3年間の系統性・発展性を考えたこと、④学習指導要領に示された学級活動の内容例とガイダンスの機能を生かす題材とのかかわりについて、いずれもほぼ妥当であると捉えられたことが分かる。

しかしながら、3年間の系統性・発展性については、それほど評価が高くはない。これは、3年間の指導の系統性が分かりづらいということの意味しているものと考えられる。また、ガイダンスの機能を生かすことのできる題材かどうかの判断については、活動内容例によって評価にややばらつきが見られる。個々の活動内容例の中でも何を（どんな題材を）中心に据えるかによって見解が分かれることは当然のことであるが、例えば「サ 性的な発達への適応」で「不適当」とする意見に対しては検討が必要と考える。

【表9】 研究の方向性について

| | |
|--------------------------|---|
| 1-(1)：ガイダンスの機能を生かす場面について | |
| ア 妥当 | 2 |
| イ 概ね妥当 | 8 |
| ウ やや不適当 | 0 |
| エ 不適当 | 0 |

1-(2)-①：ガイダンスの機能を充実させるための工夫点として取り上げた観点について

| | |
|---------|---|
| ア 妥当 | 3 |
| イ 概ね妥当 | 7 |
| ウ やや不適当 | 0 |
| エ 不適当 | 0 |

1-(2)-②：ガイダンスの機能を充実させるための工夫点の指導計画への位置付け方について

| | |
|---------|---|
| ア 妥当 | 3 |
| イ 概ね妥当 | 7 |
| ウ やや不適当 | 0 |
| エ 不適当 | 0 |

1-(4)：3年間の系統性・発展性について

| | |
|---------|----|
| ア 妥当 | 0 |
| イ 概ね妥当 | 10 |
| ウ やや不適当 | 0 |
| エ 不適当 | 0 |

「注」いずれも単位：人

【表10】 研究の方向性について

| 1-(3)：学習指導要領に示された学級活動の内容例とガイダンスの機能を生かす題材とのかかわりについて | | | | | | | | | |
|----------------------------------------------------|-------------------------|------------------|------|-------|-----|-------------------|------|-------|-----|
| 学級の活動内容 | 学級活動の活動内容例 | ガイダンスの機能を生かせると判断 | | | | ガイダンスの機能を生かせないと判断 | | | |
| | | 妥当 | 概ね妥当 | やや不適当 | 不適当 | 妥当 | 概ね妥当 | やや不適当 | 不適当 |
| 学級や学校の生活の充実と向上に関すること | ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決 | 6 | 2 | 1 | | | | | |
| | イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理 | | | | | 2 | 4 | 2 | |
| | ウ 学校における多様な集団の生活の向上 | 8 | 2 | | | | | | |
| | エ 青年期の不安や悩みとその解決 | 6 | 2 | 1 | | | | | |
| 個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関すること | オ 自己及び他者の個性の理解と尊重 | | | | | 1 | 8 | | |
| | カ 社会の一員としての自覚と責任 | | | | | 3 | 5 | 1 | |
| | キ 男女相互の理解と協力 | | | | | 2 | 3 | 1 | |
| | ク 望ましい人間関係の確立 | 6 | 2 | 1 | | | | | |
| | ケ ボランティア活動の意義の理解 | | | | | 2 | 5 | | |
| | コ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成 | | | | | 1 | 5 | 1 | |
| | サ 性的な発達への適応 | | | | | 2 | 4 | | 1 |
| シ 学校給食と望ましい食生活の形成 | | | | | 3 | 4 | | | |
| 学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択に関すること | ス 学ぶことの意義の理解 | 6 | 3 | | | | | | |
| | セ 自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用 | 3 | 4 | 2 | | | | | |
| | ソ 選択教科等の適切な選択 | 3 | 4 | 2 | | | | | |
| | タ 進路適性の吟味と進路情報の活用 | 8 | 1 | | | | | | |
| | チ 望ましい職業観・労働観の形成 | | | | | 3 | 3 | 1 | |
| ツ 主体的な進路の選択と将来設計 | 7 | 2 | | | | | | | |

「注1」ゴジックの活動内容例が、ガイダンスの機能を生かせると判断した題材

「注2」合計が10人に満たない項目は無回答あり (単位：人)

イ アンケート項目2番「生徒の学校生活への適応を促すことにかかわって」の問いについて

生徒の学校生活への適応を促すことに関しては、【表11】のような結果であった。これらの結果から、本研究で提示した学級活動の指導計画案は、教師サイドから見て、生徒の学校生活への適応を促す指導に大方役に立つと捉えられたことが分かる。

特にも、本指導計画案が、「個の思いを尊重し、自分の意

【表11】 生徒の学校生活への適応を促すことにかかわって

2-(1)：生徒の学校生活への適応を促す上で指導計画案が役立つかについて

| | |
|------------|---|
| ア 役立つ | 3 |
| イ まあまあ役立つ | 6 |
| ウ あまり役立たない | 0 |
| エ 役立たない | 0 |

「注」無回答1 (単位：人)

思をもとう」とさせる工夫がなされていること、「活動のテーマが具体的で分かりやすい」こと、「不適応に対して、中学入学時から計画を立てて進めて」いくようにしていることが評価されている。

一方、本指導計画案の趣旨には理解を示しながらも、現実問題として、学級活動の時間をどのようにして確保するかという悩みを吐露した意見もあった。

ウ アンケート項目3番「生徒の主体的な選択を促すことにかかわって」の問いについて

生徒の主体的な選択を促すことに関しては、【表12】のような結果であった。これらの結果から、本研究で提示した学級活動の指導計画案は、教師サイドから見て、生徒の主体的な選択を促す指導に大方役に立つと捉えられたことが分かる。

特にも、本指導計画案が、「進路学習を行う上で多面的に働く」ように工夫されていること、「考えるポイントが設定されている」こと、「学級の連帯を深め、支え合うきっかけになる」ような活動が工夫されていることが評価されている。

一方、ここでも、学級活動の時間の確保の問題が挙げられている。また、「自分はどうかであるか」という主体性を「ガイダンスの機能とどう効果的にかかわらせて」育成するのかが不明確という意見もあった。この点については、3年間もしくは学年毎の指導の系統性が分かりづらいということの意味しているものと考えられる。

エ アンケート項目4番「学校生活への適応にかかわる生徒の様子について」の問いについて

学校生活への適応にかかわる生徒の様子に関しては、【表13】のような結果であった。これらの結果から、本研究で提示した学級活動の指導計画案に基づいた指導によって、教師の観察からは、生徒に学校生活への適応にかかわる効果が若干認められたことが分かる。

適応にかかわる具体的な生徒の様子として、「学級目標設定を小グループから全体」に広げて指導したことが「クラスに適した目標となり、意識化」につながったこと、「活動への取り組みに意欲が感じられる」よう

【表11-②】 生徒の学校生活への適応を促すことにかかわって

| |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2-(2) : 生徒の学校生活への適応を促す上で指導計画案が役立つと思われる点について |
| <input type="checkbox"/> 個から集団、そして個へ返すのが基本であるが、中1の段階では、「望ましい〜」ことは指導すべきだが、もっと個の思いを尊重、または考えさせるべきと思われる。どうしても周りに流され、自分の意志を持つとうしない生徒が多いように感じるから…。 <input type="checkbox"/> 活動のテーマが具体的、分かりやすくあげられている。 <input type="checkbox"/> 学校への不適応も考えられる生徒に対しても、中学入学時から計画を立てて進めていけば指導できることもある。 |
| 2-(3) : 生徒の学校生活への適応を促す上で指導計画案の改善・修正が必要と思われる点について |
| <input checked="" type="checkbox"/> どこでその学活や時間をとることができるか。学校全体で前年度から計画していくことが必要。年間計画を作る上で、どこにどの学活を入れるか考えながら。しかし、難しい面がある。 |

【表12】 生徒の主体的な選択を促すことにかかわって

| | | | | | | | | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---|-----------|---|------------|---|---------|---|
| 3-(1) : 生徒の主体的な選択を促す上で指導計画案が役立つかについて | | | | | | | | |
| <table border="1"> <tr> <td>ア 役立つ</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>イ まあまあ役立つ</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>ウ あまり役立たない</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>エ 役立たない</td> <td>0</td> </tr> </table> | ア 役立つ | 4 | イ まあまあ役立つ | 5 | ウ あまり役立たない | 0 | エ 役立たない | 0 |
| ア 役立つ | 4 | | | | | | | |
| イ まあまあ役立つ | 5 | | | | | | | |
| ウ あまり役立たない | 0 | | | | | | | |
| エ 役立たない | 0 | | | | | | | |
| 「注」無回答1 (単位:人) | | | | | | | | |

| |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3-(2) : 生徒の主体的な選択を促す上で指導計画案が役立つと思われる点について |
| <input type="checkbox"/> 進路学習を行う上で、多面的に働くということについて考えられる。 <input type="checkbox"/> 各題材とも考える(思考能力)ポイントが設定されている。 <input type="checkbox"/> 進路学習を進めていく上でかなり重要である。 <input type="checkbox"/> ともすれば孤独になりがちな「進路」において、ガイダンス機能が学級の連帯を深め、支え合うきっかけになると感じました。 <input type="checkbox"/> (これまで)クライアント、カウンセラーという関係になって生徒がアドバイスしたり、励まされたりする場面がなかったので、(3年-22の指導実践は)とても新鮮で、生徒もアドバイスされたことがうれしかったようである。 |
| 3-(3) : 生徒の主体的な選択を促す上で指導計画案の改善・修正が必要と思われる点について |
| <input checked="" type="checkbox"/> どこでその学活や時間をとることができるか。学校全体で前年度から計画していくことが必要。年間計画を作る上で、どこにどの学活を入れるか考えながら。しかし、難しい面がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 最終的には「主体的な」ことを目指すので、「自分はどうかであるか」ということが大切になってくると思われる。「ガイダンス機能」を、そのこととどう効果的にかかわらせていくのか…学びたいと感じました。 |

【表13】 学校生活への適応にかかわる生徒の様子について

| | | | | | | | | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|---|----------------|---|------------------|---|----------|---|
| 4-(1) : この指導計画案に基づいた指導によって、生徒に、学校生活への適応にかかわる効果が表れたか | | | | | | | | |
| <table border="1"> <tr> <td>ア そう思う</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>イ どちらかといえばそう思う</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>ウ どちらかといえばそう思わない</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>エ そう思わない</td> <td>0</td> </tr> </table> | ア そう思う | 1 | イ どちらかといえばそう思う | 5 | ウ どちらかといえばそう思わない | 1 | エ そう思わない | 0 |
| ア そう思う | 1 | | | | | | | |
| イ どちらかといえばそう思う | 5 | | | | | | | |
| ウ どちらかといえばそう思わない | 1 | | | | | | | |
| エ そう思わない | 0 | | | | | | | |
| 「注」無回答3 (単位:人) | | | | | | | | |

| |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4-(2) : 生徒のどのような様子からそのように思われたのか |
| <input checked="" type="checkbox"/> (新年度初めのオリエンテーション期間中)、学級目標決定にあたっての際、少人数グループから案を出すために話し合いが十分なされ、全体での話し合いになったときも、理由が明確化され、自分たちのアイディアの中からさらにクラスに適した目標をキャッチコピー的な形でまとめることができた。その後も、折りに触れて目標を意識させやすかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 各活動に取り組み姿勢が意欲的に感じられる。 <input checked="" type="checkbox"/> 話し合いの場面で自分の気持ちを伝えようという気持ちが現れ始めた。 <input checked="" type="checkbox"/> 直後においては意識をもって生活していると思われるが、中1は、友人関係や様々な問題から気持ちが揺れ動く時期であり、繰り返しの援助が必要であるから。 |
| 「注」各文頭のイ、ウの囲み文字は、前表4-(1)に同じ。 |

になったこと、「話し合いで自分の気持ちを伝えよう」という姿勢が見られるようになってきたことが挙げられている。

一方、指導直後は適応にかかわる効果を感じられるものの、「繰り返しの援助が必要である」との意見も見られた。これも、提示した指導計画の3年間もしくは学年毎の指導の系統性が分かりづらいということの意味しているものと考えられる。

オ アンケート項目5番「主体的な選択にかかわる生徒の様子について」の問いについて

主体的な選択にかかわる生徒の様子に関しては、【表14】のような結果であった。これらの結果から、本研究で提示した学級活動の指導計画案に基づいた指導によって、教師の観察からは、生徒に主体的な選択にかかわる効果が若干認められたことが分かる。

主体的な選択にかかわる具体的な生徒の様子として、「他からの意見やアドバイスによって、新しい考えや視野の拡大」につながっていること、「方向性を示唆することで、よりよい方向に向かっている」こと、「進路の情報収集への意識のある生徒が多くなったと感じる」こと、「進路や学習に前向きに頑張ろうという気持ちが感じられるようになった」ことが挙げられている。

一方、「選択教科の決定に当たって他学年の意見を聞くことは難しい」という意見があった。これに対しては、8頁の「エ 選択教科の開設状況はどうなっているか」で述べたような対策を講じることを考える。

カ アンケート項目6番「その他」の問いと指導計画案に朱書して頂いた事項について

その他に関しては、【表15】のとおりであった。また、提示した指導計画案に、気付いた点を朱書して頂いた事項をまとめて、【表16】に示した。

これらの中では、1年生の**2**及び**4**の指導計画に対する改善や修正が必要であると考えられる。

以上のことから、本研究で提示した、ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画案は妥当であり、生徒の学校生活への適応と主体的な選択を促す上でも効果が認められたといえる。

【表14】 主体的な選択にかかわる生徒の様子について

5-1) : この指導計画案に基づいた指導によって、生徒に、主体的な選択にかかわる効果が表れたか

| | |
|------------------|---|
| ア そう思う | 1 |
| イ どちらかといえばそう思う | 5 |
| ウ どちらかといえばそう思わない | 1 |
| エ そう思わない | 0 |

「注」無回答3 (単位：人)

5-2) : 生徒のどのような様子からそのように思われたのか

- 他クラスの発表や意見を聞いたり、先生や先輩のアドバイスを聞くことで、新しい考えをもったり、視野が広がったと思う。
- 中1は自己が確立された意志をもてる生徒は少ないと思われる。つまり、周りに流されがちであり、このような形態で、一つの方向性を示唆することで、よりよい方向に向かっていると思われる。
- 進路に関しても積極的に情報を集めようという意識のある生徒が多くなったように感じる。
- 学級の仲間からのアドバイスによって、進路に関する悩みを共有し、前向きに頑張ろうとする気持ちが感じられるようになった。
- 3Bでの(研究者本人が行った「学習の課題や悩みの解決」の)授業後、生徒達には気軽に学習を教え合ったり励まし合ったりする場面が見られ、大変有意義だったんだなあと思いました。また、よし頑張るぞという学習に対する意欲を向上させる動機付けにもなったと思いました。
- 選択教科決定にあたって、他学年(3年)の意見(アドバイス)を聞く機会を設けるとすることは難しいのではないかと。生徒の実態によって授業内容も異なってくるので、なかなか難しいように思った。

「注」各文頭のア、イの囲み文字と、無の白抜き文字は、前表5-1)に同じ。

【表15】 その他

6 : その他、どのようなことでもお気づきの点

- ◎ アンケートをとり、まとめることで、生徒たちが冷静に自分たちにことを見つめることができると思う。また、発表する力、他の意見から学ぶ力が伸びると思う。

【表16】 指導計画案に朱書していただいた事項

- 1年-**1** 「中学生になって」の「自己紹介ゲーム2」では、仲間から聞いたことを思い出して答えようとしていて良かった。
- 1年-**1** 「中学生になって」の終末の感想では、「今までは気付かなかった級友の一面が見られて良かった。」という感想があり、良かった。
- 1年-**2** 「中学生とは何か」の展開は、説明を聞くだけの流れで、もう少し工夫が必要である。
- 1年-**4** 「学級目標を決めよう」の留意点の「具体的に評価が可能なもの」という観点を強調しすぎると、生徒は、あまりにも具体的すぎる目標を考えてしまうところがあると思う。
- 全学年の「選択教科の選択」で、「先輩の体験談を生かす」という工夫点は、昨年度と設置コースが異なるのでできなかった。

4 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する研究のまとめ

本年度は、昨年度の成果を踏まえながら、①ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画を作成すること（単位時間の指導計画の作成を中心に、3年間の指導計画と各学年の指導計画を修正すること）、②作成した指導計画案に基づいて指導実践を行い、その結果の分析と考察をとおして学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方の妥当性を検討すること、③昨年度課題としていたガイダンスの機能を生かした指導計画の作成や指導実践の推進にかかわる留意事項への対応策を考えること、の三つを進めてきた。

ここでは、ガイダンスの機能を生かした指導計画に基づいた指導実践と、その分析・考察によって明らかになった成果と課題についてまとめる。

(1) 成果

ア 指導実践をとおすことによって、指導計画に沿った指導がほぼ無理なく展開できることが確かめられたことと、活用上の留意点や改善の視点が明らかになったこと

イ 第3学年で指導実践した一つの事例を基に、単位時間の指導計画案の活用例を示すことができたこと

ウ ガイダンスの機能を生かした指導計画の作成の視点として考えた、①ガイダンスの機能を生かす場面、②機能を充実させるための工夫点とその指導計画案への位置付け方、③学級活動の題材とのかかわり、④3年間の系統性・発展性について、いずれもほぼ妥当であると受け止められたこと

エ ガイダンスの機能を生かした指導計画案は、教師サイドから見て、生徒の学校生活への適応や主体的な選択を促す指導に大方役に立つと捉えられたこと

オ ガイダンスの機能を生かした指導計画案に基づいた指導によって、教師の観察からは、生徒に学校生活への適応や主体的な選択にかかわる効果が認められたこと

(2) 課題

ア ガイダンスの機能を生かす学級活動の題材を吟味すること

イ 改善・修正の必要性を指摘された指導計画案の展開を工夫すること

以上のことから、本研究で作成した、ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画案は、学校生活への適応と主体的な選択を促す上で効果があり、中学校学級活動の指導の改善に役立つという見通しをもつことができた。

VI 研究のまとめ

この研究は、ガイダンスの機能を生かした指導計画の作成をとおして、学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方を明らかにし、中学校における学級活動の指導の改善に役立てようとするものである。

2年次研究の第1年次である昨年度は、先行研究や文献から得た資料や情報を基に、学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方についての基本的な考え方の検討、基本構想の立案並びに推進試案の作成を行った。また、それらの結果を踏まえて、ガイダンスの機能を生かした指導計画案（3年間の指導計画案、各学年の指導計画案）の作成を行った。

第2年次である今年度は、ガイダンスの機能を生かした指導計画案を作成（単位時間の指導計画案を中心に作成し、それとの整合性を加味して3年間の指導計画案と各学年の指導計画案を修正）した。そしてそれに基づいた指導実践を行い、その結果の分析と考察をとおして、学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する妥当性の検討を行った。

2年間の研究の成果と課題については、次のようにまとめることができる。

1 研究の成果

(1) 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する基本的な考え方の検討

先行研究や文献を基に、学校生活への適応と主体的な選択にかかわる六つの能力を明らかにすることをとおして、ガイダンスの機能を生かした指導計画を作成することが学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動を進める上で重要であるという考えを示すことができたこと

- (2) 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する基本構想の立案
学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動を進めるためには、ガイダンスの機能を生かした指導計画が、一つ一つの学級活動の系統性・発展性に留意し、学校として計画的、組織的に行うように組まれている必要があるという考えに基づいて、基本構想を立案することができたこと
- (3) 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する推進試案の作成
基本構想を受けて、基本としておさえるべきことを踏まえながら、現在使用している学級活動の指導計画の見直しと修正を行い、指導実践をとおしてさらに修正を加えることで、学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動を進めることができるという考えに基づいて、推進試案を作成することができたこと
- (4) ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画の作成
指導計画の作成においては、推進試案に基づいて、①「ガイダンスの機能を生かした3年間の学級活動の指導計画案」、②「ガイダンスの機能を生かした各学年の学級活動の指導計画案」及び③「ガイダンスの機能を生かした単位時間の学級活動の指導計画案」を作成することができた。また、これらの作成にかかわる考え方や手順、関連資料等をまとめ、別冊資料として「ガイダンスの機能を生かした学級活動指導計画案集」を作成することができたこと
- (5) ガイダンスの機能を生かした指導計画の作成や指導実践の推進にかかわる留意事項
第1年次の研究の課題であった「指導計画の作成や指導実践の推進を学校全体で計画的、組織的に進める際の、校内の組織体制の在り方」と「指導計画案を各学校で運用する上での留意点」について、①各学校の条件を踏まえた指導計画案の作成、②校内の組織体制と指導計画作成までの年間の推進日程、③指導実践の計画的、組織的な推進にかかわる組織体制と連絡調整の三点から整理して示すことができたこと
- (6) ガイダンスの機能を生かした指導計画に基づく指導実践とその分析・考察
研究協力校における指導実践をとおして教師のアンケートからは、①指導計画作成の四つの視点（ガイダンスの機能を生かす場面、機能を充実させるための工夫点と指導計画案への位置付け方、学級活動の題材とのかかわり、3年間の系統性・発展性への配慮）が妥当であること、②提示した指導計画案は、学校生活への適応と主体的な選択を促す上で役に立つこと、③生徒に、学校生活への適応と主体的な選択にかかわる効果が見られたことが分かったこと
- (7) 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する研究のまとめ
指導実践の分析と考察により成果と課題をまとめ、推進試案に基づいて作成したガイダンスの機能を生かした指導計画は、生徒の学校生活への適応と主体的な選択を促す上で効果があり、中学校学級活動の指導の改善に役立つという見通しをもつことができたこと

2 今後の課題

- (1) 今回作成した単位時間の指導資料以外の、各単位時間で活用する指導資料の整備・充実を図ること
- (2) 今回提示した指導計画案に基づく指導実践をさらに進め、指導計画案の修正・改善を行うこと
- (3) 職場訪問学習や職場体験学習、高校体験入学や高校説明会などのように、長期にわたって他領域とも連携して指導がなされる啓発的体験活動等における題材と指導の一連の流れを示すこと

おわりに

この研究を進めるにあたり、ご協力いただきました研究協力校の先生方に心からお礼を申し上げます。

【引用文献】

文部省(1999),『中学校学習指導要領(平成10年12月)解説-総則編-』,東京書籍, p. 90

文部省(1999),『中学校学習指導要領(平成10年12月)解説-特別活動編-』,ぎょうせい, p. 82

【参考文献】

坂本昇一(1999),『生徒指導が機能する教科・体験・総合的学習』,文教書院

仙崎 武・進路力を育てるネットワーク(2001),『中学生の進路力を育てる総合的な生き方の学習プラン』,実業之日本社

仙崎 武・渡辺三枝子(2002),『ガイダンス・カウンセリングで学校を変える 小・中学校におけるガイダンス・カウンセリングの展開』,教育開発研究所

高橋哲夫・森嶋昭伸・今泉紀嘉(2004),『「ガイダンスの機能の充実」によるこれからの生徒指導、特別活動』,教育出版

谷合明雄(1996),『新しい進路指導の提案 中学1・2年』,明治図書

日本進路指導協会(2002),『中学生活と進路 指導書』(1年~3年),実業之日本社

宮川八岐(2000),『全訂特別活動読本』,教育開発研究所

森嶋昭伸・鹿嶋研之助(2000),『新中学校教育課程講座 特別活動』,ぎょうせい

森嶋昭伸・鹿嶋研之助(2000),『改訂中学校学習指導要領の展開 特別活動編』,明治図書

参考Webページ

岡山県教育センター 調査研究 長期研修員研究 平成14年度 集団生活への適応を重視した学級活動年間指導計画の作成-中学校第1学年を対象として-

<http://www.edu-c.pref.okayama.jp/choken/H14/h14-seika/pdf/itami.PDF>

鹿児島県総合教育センター カリキュラムセンター 特別活動 ガイダンスの機能の充実

<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/kari/keiei/tokubetu/gaidansu.pdf>

鹿児島県総合教育センター 調査研究 指導資料 平成13年度 ガイダンスの機能の充実-学級活動等の実践例を通して-

<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/er/edu-info/shido/h13/h1309/s01354.pdf>

新潟県教育庁義務教育課 平成12年度新教育課程説明会資料 適応・選択能力を高めるガイダンス機能の充実

<http://www.pref.niigata.jp/gimukyo/sinkatei/h12/pdf/tokut1.pdf>

新潟県教育庁義務教育課 平成13年度新教育課程説明会資料 ガイダンス機能を充実させた学級活動の工夫

http://www.pref.niigata.jp/gimukyo/sinkatei/h13/pdf2/j_tokubetukatudou3.PDF

広島県立教育センター 教育相談・生徒指導情報 生徒指導の理論

<http://pfrq3.hiroshima-c.ed.jp/soudan/h14/sidou/00202.pdf>

【補充資料】

指導実践後の「教師用アンケート」

※ 回答欄は紙面の都合で縮小した

ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画案を活用した指導実践を行っての率直なご感想・ご意見をお教えてください。

| | | | | |
|----------|---------|----------------------------|-----|--|
| [年学級担任] | [年副担任] | その他 [<small>分学名</small>] | お名前 | |
|----------|---------|----------------------------|-----|--|

指導計画案について

1 研究の方向性にかかわって

(1) ガイダンスの機能を生かす場面について、①入学時や新学期開始時期の指導、②新たな学習や各種の学習活動の開始時期の指導、③選択教科等の指導、④進路の選択の指導の四つを取り上げて、指導計画案に位置付けましたが、これについていかがだったでしょうか。

ア 妥当 イ 概ね妥当 ウ やや不適當 エ 不適當

(2) ガイダンスの機能を充実させるための工夫点として、①ねらいの明確化、②適時、適切な場での活動（3年間の中での位置付け）、③よりよい内容（適切な内容）、④効果的な方法（指導方法や活動形態、他の教育活動との連携）、⑤学校のもつ教育力の発揮（全教員、上級生、卒業生、地域の人々の活用）の五つを取り上げて、指導計画案に位置付けましたが、これについていかがだったでしょうか。

① 取り上げた観点について

ア 妥当 イ 概ね妥当 ウ やや不適當 エ 不適當

② 指導計画案への位置付け方について

ア 妥当 イ 概ね妥当 ウ やや不適當 エ 不適當

(3) 学習指導要領に示された学級活動の活動内容例とガイダンスの機能を生かす題材とのかかわりを、【下表】のようにとらえて指導計画案に位置付けましたが、これらのとらえ方についていかがだったでしょうか。下表のア～ツの個々の活動内容例毎に、適否に○印をお願いします。

(注) **ゴシツク**の活動内容例が、ガイダンスの機能を生かせると判断した題材

| 学話の活動内容 | 学級活動の活動内容例 | ガイダンスの機能を生かせると判断 | | | | ガイダンスの機能を生かせないと判断 | | | |
|-------------------------------|-------------------------|------------------|------|-------|-----|-------------------|------|-------|-----|
| | | 妥当 | 概ね妥当 | やや不適當 | 不適當 | 妥当 | 概ね妥当 | やや不適當 | 不適當 |
| 学級や学校の生活の充実と向上に関すること | ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決 | | | | | | | | |
| | イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理 | | | | | | | | |
| | ウ 学校における多様な集団の生活の向上 | | | | | | | | |
| 個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関すること | エ 青年期の不安や悩みとその解決 | | | | | | | | |
| | オ 自己及び他者の個性の理解と尊重 | | | | | | | | |
| | カ 社会の一員としての自覚と責任 | | | | | | | | |
| | キ 男女相互の理解と協力 | | | | | | | | |
| | ク 望ましい人間関係の確立 | | | | | | | | |
| | ケ ボランティア活動の意義の理解 | | | | | | | | |
| | コ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成 | | | | | | | | |
| | サ 性的な発達への適応 | | | | | | | | |
| | シ 学校給食と望ましい食生活の形成 | | | | | | | | |
| 学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択に関すること | ス 学ぶことの意義の理解 | | | | | | | | |
| | セ 自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用 | | | | | | | | |
| | ソ 選択教科等の適切な選択 | | | | | | | | |
| | タ 進路適性の吟味と進路情報の活用 | | | | | | | | |
| | チ 望ましい職業観・労働観の形成 | | | | | | | | |
| ツ 主体的な進路の選択と将来設計 | | | | | | | | | |

(4) 3年間の系統性・発展性について、適応と選択にかかわる六つの能力とのかかわりでとらえて指導計画案に位置付けましたが、これについていかがだったでしょうか。

ア 妥当 イ 概ね妥当 ウ やや不適當 エ 不適當

2 生徒の学校生活への適応を促すことにかかわって

(1) 生徒の学校生活への適応を促す上で、この指導計画案は、役立つでしょうか、どうでしょうか。
役立つ まあまあ役立つ あまり役立たない 役立たない

| | | |
|--|--|--|
| | | |
|--|--|--|

(2) 生徒の学校生活への適応を促す上で、この指導計画案が役立つと思われる点についてご記入ください。

| |
|--|
| |
|--|

(3) 生徒の学校生活への適応を促す上で、この指導計画案の改善・修正が必要と思われる点についてご記入ください。

| |
|--|
| |
|--|

3 生徒の主体的な選択を促すことにかかわって

(1) 生徒の主体的な選択を促す上で、この指導計画案は、役立つでしょうか、どうでしょうか。
役立つ まあまあ役立つ あまり役立たない 役立たない

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
|--|--|--|--|

(2) 生徒の主体的な選択を促す上で、この指導計画案が役立つと思われる点についてご記入ください。

| |
|--|
| |
|--|

(3) 生徒の主体的な選択を促す上で、この指導計画案の改善・修正が必要と思われる点についてご記入ください。

| |
|--|
| |
|--|

生徒の様子について

4 学校生活への適応にかかわる生徒の様子について

(1) この指導計画案に基づいた指導によって、生徒に、学校生活への適応にかかわる効果が表れたと思いますか。

- ア そう思う
- イ どちらかといえばそう思う
- ウ どちらかといえばそう思わない
- エ そう思わない

(2) 生徒のどのような様子からそのように思われたのかを、例にならって具体的にご記入ください。

| |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 例：年度初めのオリエンテーション期間の指導後の「中学生活への決意文」によると、生徒の多くは「学校生活や友人関係の不安が和らぎ、友人関係も良好に築くことができた」「中学校の生活サイクルや学習、諸活動の特徴がよく分かったので、積極的に活動し思い出をたくさん作りたい」等と記していた。その後の実際の場面でも、学級目標を意識してみんなで協力し合って諸活動に意欲的に取り組み、落ち着いた生活ぶりであった。 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

5 主体的な選択にかかわる生徒の様子について

(1) この指導計画案に基づいた指導によって、生徒に、主体的な選択にかかわる効果が表れたと思いますか。

- ア そう思う
- イ どちらかといえばそう思う
- ウ どちらかといえばそう思わない
- エ そう思わない

(2) 生徒のどのような様子からそのように思われたのかを、例にならって具体的にご記入ください。

| |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 例：授業後の感想等によると、多くの生徒が、学習する意義について将来の希望職業等自分の生き方と結びつけて考えるようになってきた。また、進路に関する悩み等に対し、教師はもとより、友人・先輩・家族・身近な人々等から多角的に情報を集め、「これで解決してみよう」「これだったら自分にもできる」「この方法で自分を伸ばそう」といった様に、自らの意志と責任でより適切な選択をする生徒がみられるようになってきた。 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

その他

6 その他、どのようなことでも結構ですので、お気づきの点があればご記入をお願いします。

| |
|--|
| |
|--|

ご多用のところ、ご協力ありがとうございました。

学校生活への適応と主体的な選択を促す
中学校学級活動を進めるための

ガイダンスの機能を生かした
学級活動指導計画案集

平成17年2月9日
岩手県立総合教育センター
教科領域教育室
藤原良治

《 目 次 》

この目次や本文中に記載した参照頁、各学年の単位時間の指導計画案の目次、指導資料などには、リンクを作成してあります。

| | |
|----------------------------------------------------------------------------|------------|
| I 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の推進 ----- | 1 |
| 1 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動を進めることについての考え方 -- | 1 |
| 2 ガイダンスの機能についてのとらえ ----- | 2 |
| (1) ガイダンスとは ----- | 2 |
| (2) ガイダンスの機能とは ----- | 2 |
| 3 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動を進めるための指導計画作成 ---- | 3 |
| ◎ 作成の視点と手順 ----- | 3 |
| ◎ ガイダンスの機能を生かした中学校学級活動の指導計画作成のための資料 ----- | 4 |
| ◎ 「題材配列検討シート」を用いて検討した結果（例） ----- | 6 |
| ◎ 「題材配列検討シート」（第1学年） ----- | 7 |
| ◎ 「題材配列検討シート」（第2学年） ----- | 8 |
| ◎ 「題材配列検討シート」（第3学年） ----- | 9 |
| II ガイダンスの機能を生かした学級活動指導計画 ----- | 10 |
| 1 - (1) 3年間の学級活動の指導計画案（全題材一覧表） ----- | 10 |
| 1 - (2) 3年間の学級活動の指導計画案（各題材の3年間の系統性・発展性の関係） ----- | 11 |
| 2 - (1) 第1学年のガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画案 （年度初めのオリエンテーション期間の指導計画含む） ----- | 12 |
| 2 - (2) 第2学年のガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画案 （年度初めのオリエンテーション期間の指導計画含む） ----- | 16 |
| 2 - (3) 第3学年のガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画案 （年度初めのオリエンテーション期間の指導計画含む） ----- | 20 |
| 3 ガイダンスの機能を生かした単位時間の学級活動の指導計画案 ----- | 24 |
| ◎ 単位時間毎の学級活動指導計画案の構成 ----- | 24 |
| ◎ 第1学年のガイダンスの機能を生かした単位時間の学級活動の指導計画案 ----- | 25 |
| ○ 目次 ----- | 25 |
| ○ 計画案 ----- | 26 |
| ◎ 第2学年のガイダンスの機能を生かした単位時間の学級活動の指導計画案 ----- | 54 |
| ○ 目次 ----- | 54 |
| ○ 計画案 ----- | 55 |
| ◎ 第3学年のガイダンスの機能を生かした単位時間の学級活動の指導計画案 ----- | 80 |
| ○ 目次 ----- | 80 |
| ○ 計画案 ----- | 81 |
| 4 指導資料 ----- | 103 |
| III 参考資料 ----- | 110 |
| ◎ 学習指導要領に示された学級活動の活動内容例とガイダンスの機能を生かす題材 とのかかわりの一覧表（中学校学習指導要領解説－特別活動編－より） | |

1 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の推進

1 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動を進めることについての考え方

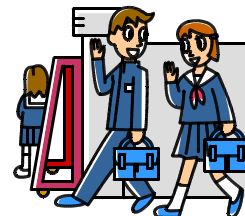
Q 中学校で、学校生活への適応と主体的な選択を促す学級活動を進めるのははどうしてですか？

現在、中学校教育は、不登校や学校不適応、いじめ、人間関係での問題等といった生徒指導上の問題、学習意欲の喪失や自己喪失、選択教科の拡大に伴う適切な選択の在り方や高校中途退学者等への対応といった学業指導及び進路指導上の問題を抱えています。

このような問題の解決の中心的な場は、教育課程の中では、特別活動、特に学級活動であるといえます。それは、学級活動の特質の一つとして次のような点があるからです。

○学校における基礎的な生活の場であり、学校生活への適応や豊かな人間関係の形成、選択教科や進路の選択など、生徒が当面する諸課題への対応や健全な生活態度の育成を図る活動や指導・援助が中心に行われる場である。
(「学習指導要領解説－特別活動編」 p.26より部分引用)

学級活動の指導の進め方を工夫した結果、新年度当初に見られた生徒指導上の問題が改善されたり、学年が上がるにつれて選択の関心・意欲が高まったりしている事例も報告されてきています。したがって、学校生活への適応と主体的な選択を促す上では、中学校学級活動の進め方を見直し、工夫・改善することが必要であると考えます。



Q 「学校生活への適応」と「主体的な選択」とは、どのようなことをいうのですか？

適応とは、自らが暮らす生活環境に対して、物的関係や人的関係において積極的にかかわってよりよく順応し、精神的にもうまく合致している状況ととらえます。

主体的な選択とは、さまざまな問題に出会った時に、自らのもちうる情報や解決法を基に、自らの意志と責任でより適切な選択や決定をすることととらえます。

このことを踏まえ、「**学校生活への適応と主体的な選択**」を、次のように考えます。

○一人一人の生徒が学校や学級の生活に積極的にかかわってよりよく順応し、豊かな人間関係の中で好ましい人間関係を形成し有意義な生活を築くようにすること。
 ○学業や進路あるいは自己の生き方等にかかわって、自らの意志と責任でより適切な選択やよりよい自己決定ができるようにすること。
(「学習指導要領解説－総則編」 p.90より部分引用)

Q 生徒が学校生活によりよく適応したり、主体的に選択したりするためには、どのような力を身に付けさせればよいのですか？

「学校生活への適応と主体的な選択」を高めることは自己指導能力を高めることでもあります。このことにかかわる能力として、人間関係能力、感情統制能力、思考能力、問題解決能力、意志決定能力、情報選択能力の六つを挙げることができます。この六つの能力については【表1】のようにとらえるこ

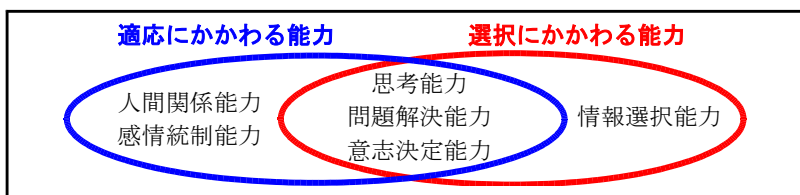
【表1】 学校生活への適応と主体的な選択にかかわる六つの能力

| | |
|--------|-----------------------------------------|
| 人間関係能力 | 人とのかかわりを意識的につくる能力 |
| 感情統制能力 | 自分の思い通りにならない状況に陥っても、感情を統制し、冷静に状況を判断する能力 |
| 思考能力 | 他からの指示や知識に頼るのではなく、自分で適切に考えることのできる能力 |
| 問題解決能力 | 自分の保有するさまざまな解決の方法を繰り出して問題を解決する能力 |
| 意志決定能力 | さまざまな情報の中から、必要なものを選び自信と勇気をもって決定する能力 |
| 情報選択能力 | 情報を選択し、自分の生き方を方向付ける能力 |

「注」 表中のゴシックは、それぞれの能力の中核となる語句を表す

とができると考えます。

生徒の「学校生活への適応と主体的な選択」における「適応にかかわる能力」及び「選択にかかわる能力」と【表1】の六つの能力との関係については、【図1】のようにとらえることとします。



【図1】 学校生活への適応と主体的な選択にかかわる六つの能力の関係

2 ガイダンスの機能についてのとらえ

Q 「学校生活への適応と主体的な選択」を促すために、学習指導要領に「ガイダンスの機能の充実」が示されたのはどうしてですか？

「ガイダンス」や「ガイダンスの機能」とは何かを含めて解説してください。

(1) ガイダンスとは

「ガイダンス」は、「案内、指導、手引き、学生指導」といった意味であり、学習指導要領解説の特別活動編には次のように規定されています。

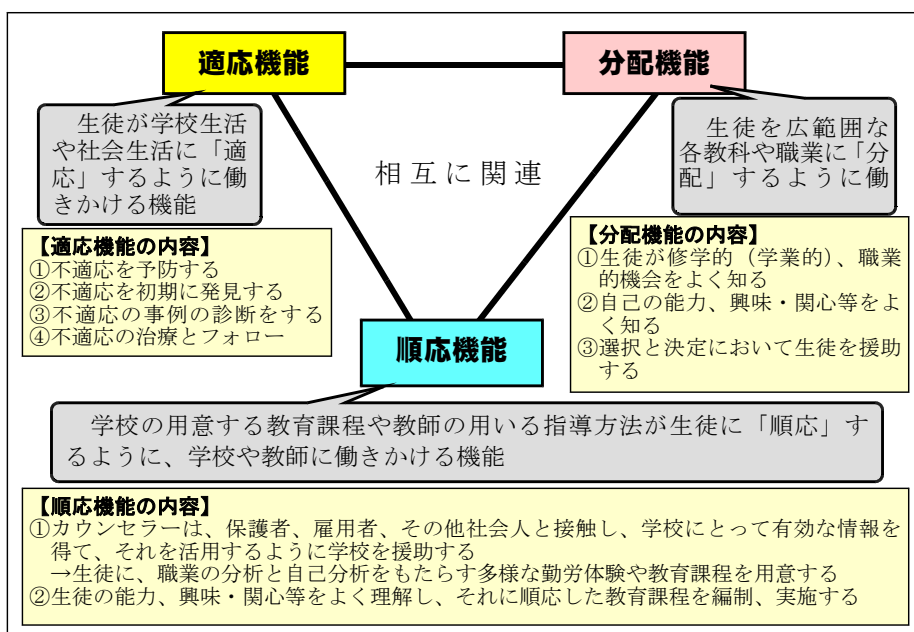
○生徒のよりよい適応や選択にかかわる、集団場面を中心とする指導・援助であり、生徒一人一人を最大限に開発しようとするもの。
(「学習指導要領解説—特別活動編—」p.82)

具体的には、「学級・学校生活への適応や好ましい人間関係の形成、学業や進路等における選択及び自己の生き方などに関して、学校が計画的、組織的に行う、情報提供や案内、説明及びそれらに基づいて行われる学習や活動など」をいいます。

(2) ガイダンスの機能とは

ガイダンスには、「適応機能」、「分配機能」、「順応機能」の三つの機能があり、それぞれの働きや相互の関係をまとめると、【図2】のようになります。

このうち、順応機能はカウンセラーなどが教師や学校へ働きかけるものであり、これがなされて、適応機能と分配機能が作用するという、いわばガイダンスの機能の前提要件となるものです。しかし、三者はあくまでも一



【図2】 ガイダンスの三つの機能

体であり、すべてがセットで作用するものです。

一方、適応機能と分配機能は、直接生徒に働きかけるものであり、機能の内容をみると、適応機能は「学校生活への適応」に、分配機能は「主体的な選択」に合致することが分かります。

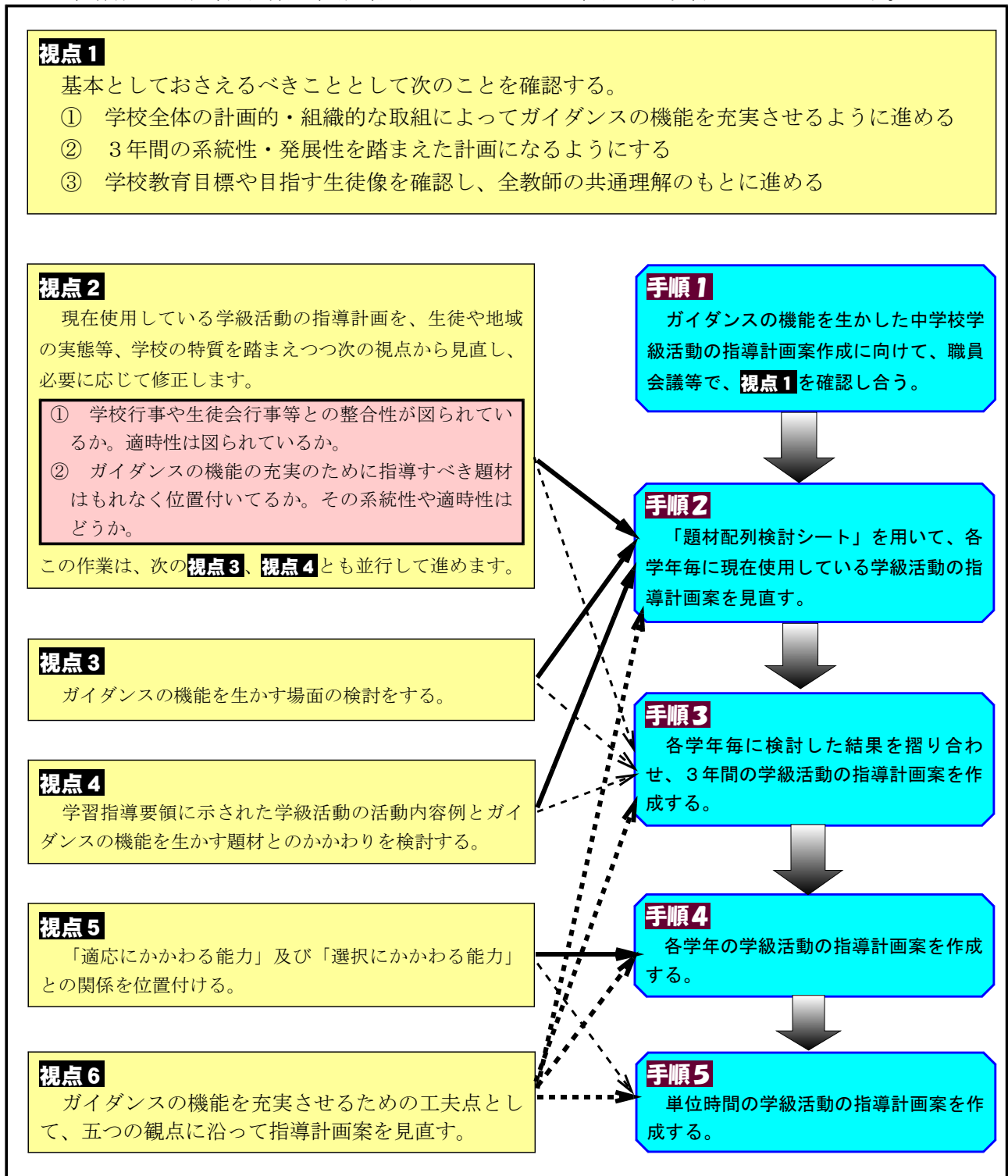
「ガイダンスの機能」がこのような内容を含んでいることから、「学校生活への適応と主体的な選択」にかかわる諸問題の解決手段として、今回の学習指導要領に「ガイダンスの機能の充実」が示されたと考えられます。

3 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動を進めるための指導計画作成

Q 学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動を進めるために、ガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画をどのような視点と手順で作成すればよいのですか？

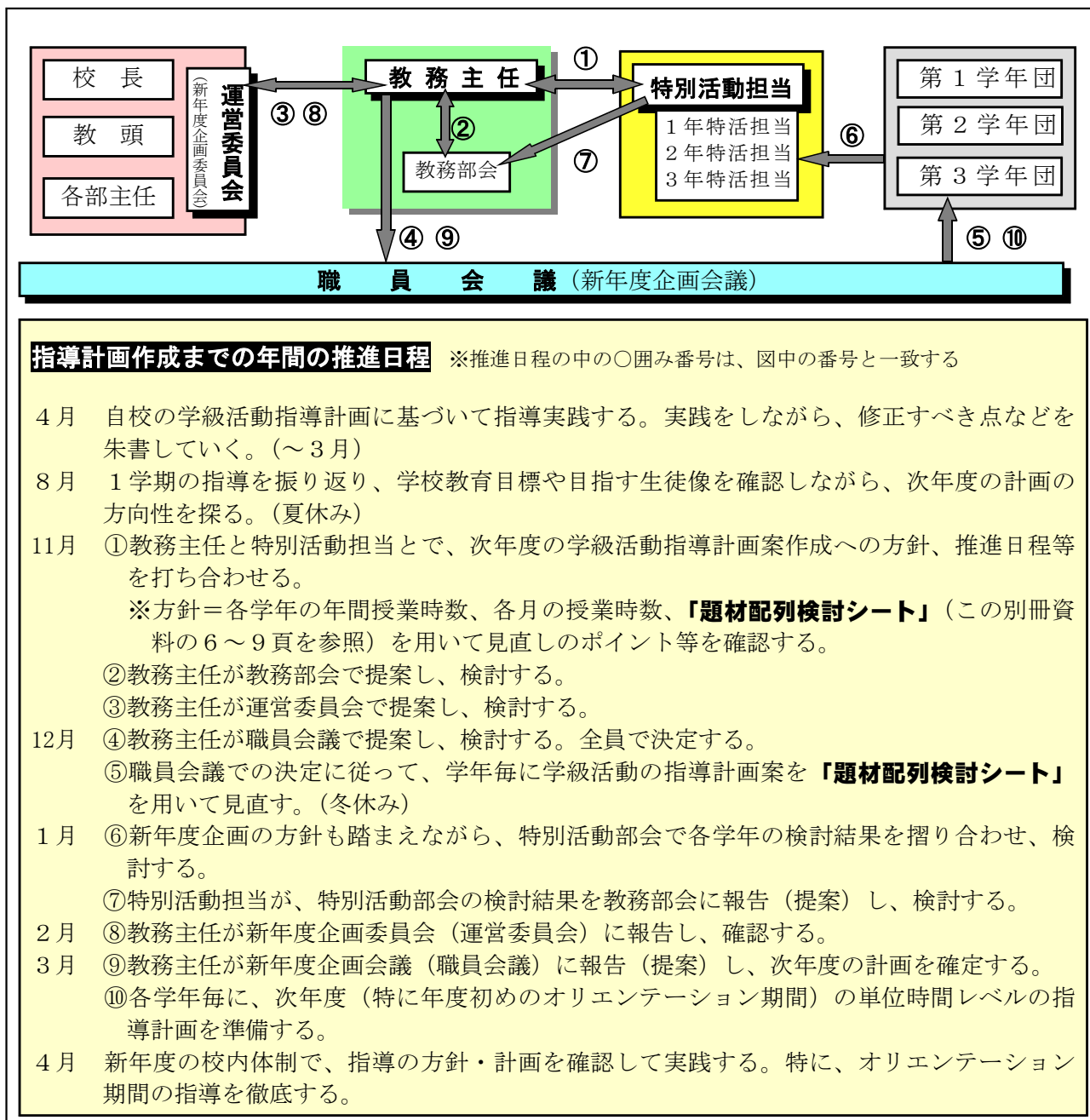
ガイダンスの機能を生かした中学校学級活動の指導計画は、「発表資料」3～5頁の「学校生活への適応と主体的な選択を促す中学校学級活動の進め方に関する推進試案」に基づいて作成します。その作成の視点と手順の概略を示すと、下の【図3】のようになります。

作成に必要な資料（**視点1**～**視点6**にかかわる資料）は、4頁、5頁に示すとおりです。なお、作成した指導計画案は、指導実践をとおしながら、修正・改善を加えていきます。



【図3】 ガイダンスの機能を生かした中学校学級活動の指導計画作成の視点と手順

★ **視点1**にかかわる資料



【図4】 校内の組織体制と指導計画作成までの年間の推進日程の概要

★ **視点2**にかかわる資料

「**題材配列検討シート**」 ※6頁で、実際に検討した例で示します。

このような資料もあります!

学級活動の各題材における「解決策や指導の方法」の工夫として、学習指導要領解説－特別活動編－に示されているものをまとめ、この別冊資料の110～113頁に掲載しました。

ガイダンスの機能を充実させる上で参考になります。ご活用ください。

★ **視点3**にかかわる資料

【表2】 ガイダンスの機能を生かす場面

| 生かす場面 | | 特徴的な事項 | どのような配慮や工夫が必要か |
|-----------------------------------|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 生徒が学校生活やそこでの人間関係などによりよく適応する指導において | 入学時や新学期開始時期 | 新生活への期待の一方で環境の変化への不安が交錯し、生徒の精神状態が不安定になる傾向がある。 | <ul style="list-style-type: none"> できる限り不安を取り除き、新生活への夢や希望を膨らませるようにする 教師と生徒及び生徒相互の好ましい人間関係が生まれるように配慮する 生徒自身が学校や学級における諸活動や集団の意義、内容などについて十分に理解し、自発的によりよい生活に取り組むことができるように必要に応じて十分な指導時間を確保する |
| | 新たな学習や各種の学習活動の開始時期 | 学習や諸活動に意欲的に取り組むことができない要因としては、目的を明確にもつことができなかった場合や、やり方が分からない場合、見通しがもてない場合、人間関係に不安がある場合等が考えられる。 | <ul style="list-style-type: none"> 新たな学習活動や諸活動が始まる前の段階では、左記の点に配慮して事前指導を十分に行い、生徒がこれから始まる学習活動や諸活動に、意欲をもって積極的かつ主体的に取り組むことができるようにする 学習指導や学習活動及び諸活動で使用した資料を整理し、適宜修正を加えて引き継いでいく |
| 選択教科や進路等の選択の指導において | 選択教科等に関して | 生徒各自が、必ずしも自己の興味・関心や意志に基づいて選択しているとは言い難く、結果的に自ら選択した選択教科の学習に意欲的でない面もある。 | <ul style="list-style-type: none"> 学習活動のねらいや内容及び方法、よりよい選択の仕方や考え方等についての理解を図り、生徒の学習意欲を喚起して主体的に学習に取り組むことができるよう工夫する 指導の時間を十分に確保するため、学級活動の時間の他に、選択教科等の時間の一部を充てるなどの工夫をする |
| | 進路の選択に関して | 進路の問題は、絶えず選択の連続であり、しかも中学校卒業時のみならず一生涯にわたるものでもある。 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人が自己理解を深め、自己の将来の生き方を考え卒業後の進路を主体的に選択し、積極的に自己実現を図っていくことができるような指導の工夫をする 進路指導にかかわるガイダンスの場や機会が、従来のみで十分であるかどうか、何についてのガイダンスを、いつ、どのような形で、どれだけ行っていくかを吟味する |

★ **視点4**にかかわる資料

【表3】 学習指導要領に示された学級活動の活動内容例とガイダンスの機能を生かす題材とのかかわり

| 学級活動の活動内容 | 学級活動の活動内容例 |
|-----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 学級や学校の生活の充実と向上に関すること | ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決 アイウ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理 ウ 学校における多様な集団の生活の向上 |
| (2) 個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関すること | エオカキクケ 青年期の不安や悩みとその解決 自己及び他者の個性の理解と尊重 社会の一員としての自覚と責任 男女相互の理解と協力 望ましい人間関係の確立 ケ ボランティア活動の意義の理解 コ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成 サ 性的な発達への適応 シ 学校給食と望ましい食生活の形成 |
| (3) 学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択に関すること | スセソタチツ 学ぶことの意義の理解 自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用 選択教科等の適切な選択 進路適性の吟味と進路情報の活用 望ましい職業観・労働観の形成 主体的な進路の選択と将来設計 |

活動内容例の前のア～ツの記号は、「題材配列検討シート」の「検討後の題材」の「活動内容」の蘭の記入において活用します。
この別冊資料の12、13頁、16、17頁、20、21頁の各学年の指導計画案にこれらを位置付けた案を示しました。

〔注〕 **ゴシック**の活動内容例が、ガイダンスの機能を生かせる題材

★ **視点5**にかかわる資料

「適応にかかわる能力」及び「選択にかかわる能力」

※1頁の【表1】、2頁の【図1】を参照してください。

適応と選択の各能力を位置付けた各学年の指導計画案を、この別冊資料の12、13、16、17、20、21頁に示しました。

★ **視点6**にかかわる資料

【表4】 ガイダンスの機能を充実させるための工夫点

| ガイダンスの機能を充実させるための工夫点 | 主にどの計画レベルで検討するか |
|-------------------------------------|-----------------|
| ア ねらいの明確化 | 単位時間の計画レベル |
| イ 適時、適切な場での活動（3年間の中での位置付け） | 3年間の計画レベル |
| ウ よりよい内容（適切な内容） | 3年間の計画レベル |
| エ 効果的な方法（指導方法や活動形態、他の教育活動との連携） | 各学年の計画レベル |
| オ 学校のもつ教育力の発揮（全教員、上級生、卒業生、地域の人材の活用） | 単位時間の計画レベル |

「題材配列検討シート」を用いて検討した結果(例)

手順2の場面を紹介します。下の資料は、研究協力校の第1学年の学級活動の指導計画を「題材配列検討シート」を用いて、次のようにして検討した結果を示しています。

- ① 「主な行事」、「修正前の題材」等を記入します。
- ② 修正後の「月別時数」を検討し、記入します。(各学年の「月別時数」を調整しておきます。)
- ③ 「主な行事」や「修正前の題材」、「『中学生生活と進路』のプラン」等を見比べながら「修正後の題材」を記入します。
- ④ 「修正後の題材」について、「適応」か「選択」か、「活動内容」のうちのどれにかかわるかの確認をします。

題材配列検討シート (第1学年) 学校生活への適応と主体的な選択を促す学級活動の題材配列一覧表(案) 【湯口中学校版】

| 月 | 主な行事 | 修正前の題材 | | 修正後の題材 | | 月別時数 | 修正後の題材 | | 「中学生生活と進路」のプラン ※丸囲み数字は、配当時数 |
|----|------------------------------------------------------|---------------|------|---------------|------|------|---------------|------|----------------------------------|
| | | 題材名 | 記: 選 | 題材名 | 記: 選 | | 活動内容 | 記: 選 | |
| 4 | 始業式 入学式 生徒会オリエンテーション 3年修学旅行 応援歌練習 体育祭 | ①中学生になって | ○ | 1中学生になって | ○ | 3 | 1中学生になって | ○ | 中学生になって① |
| | | ②生徒会活動のしくみを知る | ○ | 2中学校とは何か | ○ | 3 | 2中学校とは何か | ○ | 中学校とは何だろう② |
| | | ③学級組織づくり | ○ | 4学級目標を決めよう | ○ | 3 | 4学級目標を決めよう | ○ | 中学生生活にふみ出そう① |
| | | ④望ましい学習方法 | ○ | 5学級組織作り | ○ | 3 | 5学級組織作り | ○ | 選択教科のガイダンス* |
| 5 | 生徒総会 中間テスト | ⑤中学生の学習 | ○ | 6望ましい学習方法 | ○ | 3 | 6望ましい学習方法 | ○ | 総合的な学習の時間のガイダンス* |
| | | ⑥楽しい給食 | ○ | 7健康と体力づくり | ○ | 3 | 7健康と体力づくり | ○ | 話し合い活動と活動目標① |
| | | ⑦私の特色 | ○ | 8健康と体力づくり | ○ | 3 | 8健康と体力づくり | ○ | 学級の組織づくり① |
| | | ⑧私の特色 | ○ | 9健康と体力づくり | ○ | 3 | 9健康と体力づくり | ○ | (一)校外体験学習に取り組みよう&ボランティア活動に参加しよう① |
| 6 | 地区中総体 期末テスト | ⑨部活動への参加 | ○ | 10中学生の学習 | ○ | 3 | 10中学生の学習 | ○ | なぜいま学ぶのか① |
| | | ⑩一学期の反省 | ○ | 11生徒総会に向けて | ○ | 3 | 11生徒総会に向けて | ○ | 学習の目標と心がまえ② |
| | | ⑪係班の活動反省 | ○ | 12望ましい学習方法 | ○ | 3 | 12望ましい学習方法 | ○ | 私たちの将来の希望② |
| | | ⑫夏休みの生活設計 | ○ | 13健康と体力づくり | ○ | 3 | 13健康と体力づくり | ○ | 夏休みを有効に活用しよう① |
| 7 | 自然教室 県中総体 期末面談 終業式 | ⑬部活動への参加 | ○ | 14私達の将来の希望1 | ○ | 3 | 14私達の将来の希望1 | ○ | |
| | | ⑭一学期の反省 | ○ | 15私達の将来の希望2 | ○ | 3 | 15私達の将来の希望2 | ○ | |
| | | ⑮係班の活動反省 | ○ | 16一学期の反省 | ○ | 3 | 16一学期の反省 | ○ | |
| | | ⑯夏休みの生活設計 | ○ | 17班・係の活動反省 | ○ | 3 | 17班・係の活動反省 | ○ | |
| 8 | 始業式 地区陸上大会 | ⑰夏休みの生活設計 | ○ | 18夏休みの生活設計 | ○ | 3 | 18夏休みの生活設計 | ○ | |
| | | ⑱夏休みの反省 | ○ | 19夏休みの反省 | ○ | 2 | 19夏休みの反省 | ○ | 学級生活の向上をめざして① |
| | | ⑲夏休みの反省 | ○ | 20二期の計画 | ○ | 3 | 20二期の計画 | ○ | 私たちにできること① |
| | | ⑳球技大会における | ○ | 21働く人々のすがた | ○ | 3 | 21働く人々のすがた | ○ | さまざまな学校行事に取り組みよう① |
| 9 | 地区新人戦 中間テスト | ㉑進路の計画 | ○ | 22働く人々の仕事と考え1 | ○ | 3 | 22働く人々の仕事と考え1 | ○ | 働く人々びとの仕事と考え② |
| | | ㉒将来の希望 | ○ | 23働く人々の仕事と考え2 | ○ | 3 | 23働く人々の仕事と考え2 | ○ | 働く人々びとの仕事と考え② |
| | | ㉒将来の希望 | ○ | 24働く人々の仕事と考え2 | ○ | 3 | 24働く人々の仕事と考え2 | ○ | 健康で安全な生活① |
| | | ㉓文化祭の取り組み | ○ | 25文化祭の取り組み | ○ | 3 | 25文化祭の取り組み | ○ | 心身ともに健康な生活① |
| 10 | 生徒会立会演説会 県新人戦 文化祭 | ㉔文化祭の取り組み | ○ | 26文化祭の反省 | ○ | 3 | 26文化祭の反省 | ○ | 生徒会のガイダンス① |
| | | ㉕文化祭の反省 | ○ | 27人と個性 | ○ | 3 | 27人と個性 | ○ | 人と個性① |
| | | ㉖進路と学習 | ○ | 28自分の特色、友達のよさ | ○ | 3 | 28自分の特色、友達のよさ | ○ | 自分の特色、友達のよさ② |
| | | ㉗本に親しむ | ○ | 29男女の理解と協力 | ○ | 3 | 29男女の理解と協力 | ○ | 男女の理解と協力① |
| 11 | 県新人戦 (総合発表会) 期末テスト | ㉘二期の反省 | ○ | 30健康で安全な生活 | ○ | 3 | 30健康で安全な生活 | ○ | 有意義な冬休みにしよう① |
| | | ㉙冬休みの計画 | ○ | 31二期の反省 | ○ | 3 | 31二期の反省 | ○ | |
| | | ㉚冬の健康 | ○ | 32休みの生活設計 | ○ | 3 | 32休みの生活設計 | ○ | |
| | | ㉛新年を迎えて | ○ | 33冬休みの反省 | ○ | 3 | 33冬休みの反省 | ○ | |
| 12 | 学期反省 期末面談 終業式 | ㉜新年を迎えて | ○ | 34冬休みの反省 | ○ | 3 | 34冬休みの反省 | ○ | 悩みとその解決① |
| | | ㉝冬休みの反省 | ○ | 35集団や社会の一員として | ○ | 3 | 35集団や社会の一員として | ○ | 悩みとその解決① |
| | | ㉞冬休みの反省 | ○ | 36進路と将来設計 | ○ | 3 | 36進路と将来設計 | ○ | 集団や社会の一員として① |
| | | ㉟文集づくり | ○ | 37進路計画の必要性 | ○ | 3 | 37進路計画の必要性 | ○ | 他校との輪を広げよう① |
| 1 | 期末テスト 生徒総会 | ㊱文集づくり | ○ | 38進路計画の必要性 | ○ | 3 | 38進路計画の必要性 | ○ | 自分の進路と将来設計① |
| | | ㊲進路と自分 | ○ | 39進路計画の立て方① | ○ | 3 | 39進路計画の立て方① | ○ | 進路計画の必要性① |
| | | ㊳学年の反省 | ○ | 40中学年への抱負 | ○ | 3 | 40中学年への抱負 | ○ | 進路計画の立て方① |
| | | ㊴新年への抱負 | ○ | | ○ | 3 | | ○ | 進路計画の立て方① |
| 2 | 公立高校入試 修了式 卒業式 | ㊵新年への抱負 | ○ | | ○ | 3 | | ○ | 一年間をふり返り2年生への準備をしよう① |
| | | ㊶新年への抱負 | ○ | | ○ | 3 | | ○ | |
| | | ㊷新年への抱負 | ○ | | ○ | 3 | | ○ | |
| | | ㊸新年への抱負 | ○ | | ○ | 3 | | ○ | |

【注】◎印は、適応や選択にかかわりの深い題材、○印は、適応や選択にかかわりのある題材

題材配列検討シート (第1学年)

学校生活への適応と主体的な選択を促す学級活動の題材配列 一覧表：第1学年

〇〇立〇〇中学校

「題材配列検討シート」 (第1学年)

| 月 | 主 な 行 事 | 修 正 前 の 題 材 | | 修 正 後 の 題 材 | | 材 料 | 「中 学 生 活 と 進 路」 の プ ロ グ ラ ム |
|----|---------|-------------|-----|-------------|-----|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | 題 材 名 | 意 義 | 題 材 名 | 意 義 | | |
| 4 | | | | | | | ※ 丸囲み数字は、配当時数 ・中学生になって① ・中学校とは何だろうか② ・中学生活にふみ出そう① ・選択教科のガイダンス* ・総合的な学習の時間の時間のガイダンス* ・話し合い活動と活動目標① ・学級の組織づくり① (・校外体験学習に取り組もう&ボランティア活動に参加しよう①) ・なぜいま学ぶのか① ・学習の目標と心がまえ② ・私たちの将来の希望② ・夏休みを有効に活用しよう① |
| 5 | | | | | | | |
| 6 | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | ・学級生活の向上をめざして① ・私たちにできること① ・さまざまな学校行事に取り組もう① ・働く人々びとの寸がた② ・働く人びとの仕事と考え② ・健康で安全な生活① ・心身ともに健康な生活① ・生徒会のガイダンス① ・人と個性① ・自分の特色、友だちのよさ② ・男女の理解と協力① ・有意義な冬休みにしよう① |
| 9 | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | ・悩みとその解決① ・集団や社会の一員として① ・他校との輪を広げよう① ・自分の進路と将来設計① ・進路計画の必要性① ・進路計画の立て方① ・一年間をふり返り2年生への準備をしよう① |
| 2 | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | |

〔注〕◎印は、適応や選択にかかわりの深い題材、○印は、適応や選択にかかわりのある題材

「題材配列検討シート」 (第2学年)

題材配列検討シート (第2学年) 学校生活への適応と主体的な選択を促す学級活動の題材配列一覧表: 第2学年 ○○○立○○中学校

| 月 | 主 な 行 事 | 修 正 前 の 題 材 | | 修 正 後 の 題 材 | | 「中学生生活と進路」のプラン ※ 丸囲み数字は、配当時数 |
|----|---------|-------------|-------|-------------|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | 題 材 名 | 読 書 数 | 題 材 名 | 読 書 数 | |
| 4 | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・2年生の自分をデザインしよう① ・自分たちの学級をつくろう② ・選択教科で自分を伸ばそう① ・人はなぜ働くのか① ・人はなぜ学ぶのか① ・自分を高める学習を② ・行事に進んで参加しよう① ・心と体を健康に① ・安全な生活をしよう① ・有意義な夏休みにしよう① |
| 5 | | | | | | |
| 6 | | | | | | |
| 7 | | | | | | |
| 8 | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・学級の生活を見直そう① ・自分の役割をはたそう① ・ボランティア活動をしよう① ・職業とは何だろう① ・職業の内容を調べよう② ・個性を生かす場を求めて① ・異性への理解を深めよう① ・社会の一員として生きる① ・体育大会・文化祭を盛りあげよう① ・学ぶ制度を調べよう① ・中学校卒業後に学ぶ道③ ・自分の力を高めていこう① |
| 9 | | | | | | |
| 10 | | | | | | |
| 11 | | | | | | |
| 12 | | | | | | |
| 1 | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな文化から学ぼう① ・自分は何に向いているか① ・適性を生かす進路を選ぼう② ・進路計画を立てよう② ・私の通知票① ・3年生になる心がまえ① |
| 2 | | | | | | |
| 3 | | | | | | |

「注」◎印は、適応や選択にかかわりの深い題材、○印は、適応や選択にかかわりのある題材

「題材配列検討シート」 (第3学年)

題材配列検討シート (第3学年) 学校生活への適応と主体的な選択を促す学級活動の題材配列一覧表：第3学年 ○○.○○○中学校

| 月 | 主な行事 | 修正前の題材 | | 修正後の題材 | | 月別時数 | 題材 | | 「中学生活と進路」のプラン ※ 丸囲み数字は、配当時数 |
|----|------|--------|-----|--------|-----|------|------|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | 題材名 | 数・単 | 題材名 | 数・単 | | 活動内容 | | |
| 4 | | | | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 3年生になって① 充実した学校生活① 3年生の学習① 自分で選ぶ選択教科① 先輩のすがたに学ぶ② 生き方について考える② 自分たちの修学旅行をつくりあげよう① 学級の充実と改善① 何のために学ぶのか① 地域や社会に目を向ける① 夏休みを利用して、活動の輪を広げよう① |
| 5 | | | | | | | | | |
| 6 | | | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 自分を見つめ直す② |
| 9 | | | | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 進路先を調べてみる③ 体育大会を盛り上げよう① 学習の問題点や悩みを解決する① 身も心もすこやかに① 社会の一員として生きる① 思い出に残る学級に① 文化祭を成功させよう① 自分の進路を最終決定する② 自分の道を切り開こう② 充実した冬休みにしよう① |
| 10 | | | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 中学生活のまとめ① |
| 2 | | | | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 勇気を出してわが道を② 希望にあふれて① 大空から母校へ① |
| 3 | | | | | | | | | |

「注」◎印は、適応や選択にかかわりの深い題材、○印は、適応や選択にかかわりのある題材

II ガイダンスの機能を生かした学級活動指導計画

1- (1) 3年間の学級活動の指導計画案（全題材一覧表）

| 月 | 主な行事 | 第1学年 | | | 第2学年 | | | 第3学年 | | |
|----|------------------------------------------------------------|----------------|---|---|----------------|---|---|------------------|---|---|
| | | 題材名 | 適 | 選 | 題材名 | 適 | 選 | 題材名 | 適 | 選 |
| 4 | ・始業式 ・入学式 ・生徒会オリエンテーション ・3年修学旅行 ・応援歌練習 ・体育祭 | 1中学生になって | ◎ | | 12年生になって | ◎ | | 13年生になって | ◎ | |
| | | 2中学校とは何か | ◎ | | 2学級目標を決めよう | ○ | | 2学級目標を決めよう | ○ | |
| | | 4学級目標を決めよう | ○ | | 3学級組織作り | ○ | | 3修学旅行の準備 | | ○ |
| | | 5学級組織作り | ○ | | 4学級組織作り | ○ | | 4学級組織作り | ○ | |
| 5 | ・生徒総会 ・中間テスト | 7選択教科を選ぼう | | ◎ | 5選択教科で自分を伸ばそう | | ◎ | 5自分で選ぶ選択教科 | | ◎ |
| | | 8体育祭に向けて | ◎ | ○ | 6体育祭に向けて | ◎ | ○ | 6体育祭に向けて | ◎ | ○ |
| | | 9体育祭の反省 | | | 7体育祭の反省 | | | 7体育祭の反省 | | |
| | | 10中学生の学習 | | ◎ | 8自分を高める学習 | ○ | ◎ | 83年生の学習 | ○ | ○ |
| 6 | ・地区中総体 ・期末テスト | 11生徒総会に向けて | | ◎ | 9生徒総会に向けて | | ◎ | 9生徒総会に向けて | | ◎ |
| | | 12望ましい学習方法 | ○ | ◎ | 10規律ある生活 | | | 10何のために学ぶのか | ○ | ◎ |
| | | 13健康と体力づくり | | | 11心と体の健康 | | | 11学級の充実と改善 | | ◎ |
| | | 14私達の将来の希望1 | | ◎ | 12人はなぜ働くのか | | ◎ | 12先輩の姿に学ぶ | | ◎ |
| 7 | ・県中総体 ・期末面談 ・終業式 | 15私達の将来の希望2 | | ◎ | 13人はなぜ学ぶのか | ○ | ◎ | | | |
| | | 16一学期の反省 | ○ | | 14一学期の学級反省 | ○ | | 14一学期の反省 | ○ | |
| | | 17班・係の活動反省 | ○ | | 15一学期の学年反省 | ○ | | 15生き方について考える | | ◎ |
| | | 18夏休みの生活設計 | ○ | | 16夏休みの生活設計 | ○ | | 16夏休みの生活設計 | ○ | |
| 8 | ・始業式 ・地区陸上大会 | 19夏休みの収穫 | ○ | | 17夏休みの収穫 | ○ | | 17夏休みの収穫 | ○ | |
| | | 20二学期の計画 | | ◎ | 18二学期の計画 | | ◎ | 18二学期の計画 | | ◎ |
| | | 21働く人々のすがた | | ○ | 19ボランティア活動 | | ○ | 19自分を見つめ直す | | ◎ |
| | | 22働く人々の仕事と考え1 | | ○ | 20職業とは何か | | ○ | 20進路先の調査 | | ◎ |
| 9 | ・地区新人戦 ・中間テスト | 23働く人々の仕事と考え2 | | ○ | 21職業の内容の調査1 | | ○ | | | |
| | | 24働く人々の仕事と考え2 | | ○ | 22職業の内容の調査2 | | ○ | 22学習の課題や悩みの解決 | | ◎ |
| | | 25文化祭の取り組み | ◎ | ○ | 23文化祭の取り組み | ◎ | ○ | 23文化祭の取り組み | ◎ | ○ |
| | | 26文化祭の反省 | | | 24文化祭の反省 | | | 24文化祭の反省 | | |
| 10 | ・生徒会立会演説会 ・県新人戦 ・文化祭 | 27人と個性 | ○ | ◎ | 25学ぶ制度の調査 | | ◎ | 25社会の一員として生きる | | |
| | | 28自分の特色、友達のよさ | ○ | ◎ | 26中学校卒業後の学ぶ道 | | ◎ | 26進路を最終決定する | | ◎ |
| | | 29男女の理解と協力 | | | 27自分の力を高める | ○ | ◎ | 27自分の道を切り開く | | ◎ |
| | | 30健康で安全な生活 | ○ | | 28異性への理解の深化 | | | 28進路の手続き | | ◎ |
| 11 | ・学期反省 ・期末面談 ・終業式 | 31二学期の反省 | ○ | | 29二学期の反省 | ○ | | 29二学期の反省 | ○ | |
| | | 32冬休みの生活設計 | ○ | | 30冬休みの生活設計 | ○ | | 30冬休みの生活設計 | ○ | |
| | | 33冬休みの反省と新年の決意 | ◎ | | 31冬休みの反省と新年の決意 | ◎ | | 31冬休みの反省と新年の決意 | ◎ | |
| | | 34悩みとその解決 | ◎ | | 32修学旅行の準備 | | ○ | 32身も心も健やかに | | |
| 12 | ・始業式 | 35集団や社会の一員として | | | 33自分の適性 | ○ | ◎ | 33 34勇気を出して自分の道を | ○ | ◎ |
| | | 36進路と将来設計 | | ◎ | 34適性を生かす進路を選ぶ | | ◎ | 35希望にあふれて | ○ | ◎ |
| | | 37進路計画の必要性 | | ◎ | 35進路計画の立案1 | | ◎ | | | |
| | | 38進路計画の立て方 | | ◎ | 36進路計画の立案2 | | ◎ | 36中学校生活のまとめ | ○ | ○ |
| 1 | ・期末テスト ・生徒総会 | 39学年の反省 | ◎ | | 37私の通知表 | ◎ | | 37上級学校への心構え | ○ | ○ |
| | | 40中堅学年への抱負 | ◎ | | 38最高学年への心構え | ◎ | | 38卒業式に向けて | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 2 | ・公立高校入試 ・修了式 ・卒業式 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |

〔注1〕◎印は、適応や選択にかかわりの深い題材、○印は、適応や選択にかかわりのある題材。

〔注2〕年度当初の適応を重点的に考え、1年40単位時間、2・3年38単位時間で計画。標準時数を上回る時数は選択等に充てる時数等から工夫する。

2-(1) 第1年のガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画案

(※ 12、13頁見開きで)

| 月 | 主 な 行 事 | 第 1 学 年 | | | 題材グループ名 | ■：指導のねらい ◎：指導の方法 ▲：指導の留意点 |
|----|------------------------------------------------------------|-------------------|---------|-----|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | 題 材 名 | 活 動 内 容 | ◎ 〇 | | |
| 4 | ・始業式 ・入学式 ・生徒会オリエンテーション ・3年修学旅行 ・応援歌練習 ・体育祭 | 1中学生になって | ア、ク | ◎ | 中学校生活の出発(含:選択教科) | ■中学校生活に少しでも早く慣れさせ、希望と意欲をもって学習や諸活動、毎日の生活に臨む心構えと決意をもたせる。 ◎オリエンテーション計画による指導。 ▲新しい生活への不安を取り除き、学級への所属感をもたせて学校生活への意欲を高める。 ▲中学校の活動の組織や内容を理解させ、進んで活動に参加しようとする意欲と態度を養うように努める。 |
| | | 2 3中学校とは何か | ア、ク | ◎ | | |
| | | 4 4学級目標を決めよう | イ、ク | 〇 | | |
| | | 5 6学級組織作り | イ、ク | 〇 | | |
| 5 | ・生徒総会 ・中間テスト | 7 7選択教科を選ぼう | ソ、ク | ◎ | 私たちの学級 | ■生徒達の主体性と自主性を培い、充実した学校生活を送る基盤を築かせる。 ■学級経営の基盤、人間関係を円滑にする基盤となる学級組織の在り方を考えさせ、活発に活動できる学級組織を作らせる。 ◎グループや学級全体での話し合い。 ▲個々の生徒が思いやりと責任をもって活動できる雰囲気を作る。また、生徒の孤立や排斥行為などがないように留意する。 |
| | | 8 8体育祭に向けて | ア、ウ | ◎ | | |
| | | 9 | | 〇 | | |
| 6 | ・地区中総体 ・期末テスト | 10 10中学生の学習 | ス | ◎ | 中学校の学習と将来の生き方 | ■学ぶことの意義や目的を考えさせ、将来に希望をもって意欲的に学んでいこうとする態度を育てる。 ■自己の学習を振り返らせ、望ましい学習方法と学習習慣を身に付けていこうとする意欲をもたせる。 ■進路学習の概略をとおして職業や進路の多様性に気付かせ、将来設計をとおして進路意識を高めさせる。 ◎先輩の学習計画の紹介、教科担任との連携。 ▲学ぶことが将来の「生き方」に深くかかわることに気付かせる。 ▲将来の夢や希望の実現のための中学校生活の在り方を考えさせる。 |
| | | 11 11望ましい学習方法 | セ | 〇 ◎ | | |
| 7 | ・県中総体 ・期末面談 ・終業式 | 12 12私達の将来の希望1 | ツ | ◎ | 学級生活のなかで | ■二学期の大きな流れを把握させ、学校生活への早期の適応を図らせながら、望ましい人間関係を確立させる。 ◎一学期末の反省とアンケートを基にした話し合い。 ▲集団生活が人間形成に果たす役割の重要性を理解させる。 |
| | | 13 13私達の将来の希望2 | ツ | ◎ | | |
| | | 14 14一学期の反省 | | 〇 | | |
| 8 | ・始業式 ・地区陸上大会 | 15 15班・系の活動反省 | | 〇 | 働く人びとに学ぶ | ■身近に働く人びとの姿や考え方に触れることにより、職業選択能力や職業観・勤労観を育成する。 ◎職場訪問のロールプレイング、職場訪問学習の事前学習。 ▲身近に働く人びとの様子や考え方などに注目させる。 |
| | | 16 16夏休みの生活設計 | | 〇 | | |
| 9 | ・地区新人戦 ・中間テスト | 17 17文化祭の取り組み | ア、ウ | ◎ | 自分を知ろう | ■進路指導の自己理解の導入として、「自分を知る」ことの必要性や方法、内容等を理解させる。 ■個性と職業との関係について考えさせ、自分の個性を将来の職業に生かしていこうとする態度を身に付けさせる。 ◎保護者の声や友達からの手紙を基にした「自分の特色」のまとめ、個性と職業についての話し合い。 ▲互いの個性を認め合う中で自己のよさを理解させる。 |
| | | 18 18働く人々の仕事と考え1 | チ | 〇 | | |
| 10 | ・生徒会立会演説会 ・県新人戦 ・文化祭 | 19 19働く人々の仕事と考え2 | チ | 〇 | 自主的な行動をしよう | ■心身の発達の不均衡からくる不安や悩み、自己嫌悪などの問題のとりえ方や解決法を知り、積極的に解決させる。 ◎いろいろな不安・悩みのアンケートを基にした話し合い。 ▲自分の心身の成長に着目させ、集団の一員としての心構えを考えさせ、自己を積極的に生かしていく意欲や態度を育てる。 |
| | | 20 20文化祭の取り組み | ア、ウ | ◎ | | |
| 11 | ・県新人戦 ・(総合[発表会]) ・期末テスト | 21 21人と個性 | タ | ◎ | 進路計画を立てよう | ■将来の進路希望を実現させるためには適切な進路計画が必要であり、その立て方を理解させて実際に立てさせる。 ■進路計画は必要に応じて、変更・修正していかせる。 ◎ライフプラン(「20年後の自分」)の作成。 ▲進路希望変更の有無とその理由のアンケートを実施し、その資料を基に、進路計画の必要性について話し合わせる。 ▲具体的な進路計画の立て方を理解させ、実際に立てさせる。 |
| | | 22 22自分の特色、友達のよさ | タ | ◎ | | |
| 12 | ・学期反省 ・期末面談 ・終業式 | 23 23健康で安全な生活 | | 〇 | 1年間のまとめと2年生への準備 | ■1年間の中学校生活の反省を行わせ、新たな気持ちで2年生の学校生活を迎える心構えをもたせる。 ◎グループや学級全体での話し合い。 ▲個人の反省、学級、生徒会、学校行事、部活動の参加の反省の上に、2年生に向けて具体的な目標や決意をもたせる。 |
| | | 24 24二学期の反省 | | 〇 | | |
| | | 25 25休みの生活設計 | | 〇 | | |
| 1 | ・始業式 | 26 26冬休みの反省と新年の決意 | エ | ◎ | 進路計画を立てよう | ■将来の進路希望を実現させるためには適切な進路計画が必要であり、その立て方を理解させて実際に立てさせる。 ■進路計画は必要に応じて、変更・修正していかせる。 ◎ライフプラン(「20年後の自分」)の作成。 ▲進路希望変更の有無とその理由のアンケートを実施し、その資料を基に、進路計画の必要性について話し合わせる。 ▲具体的な進路計画の立て方を理解させ、実際に立てさせる。 |
| | | 27 27悩みとその解決 | エ | ◎ | | |
| 2 | ・期末テスト ・生徒総会 | 28 28進路と将来設計 | ツ | ◎ | 1年間のまとめと2年生への準備 | ■1年間の中学校生活の反省を行わせ、新たな気持ちで2年生の学校生活を迎える心構えをもたせる。 ◎グループや学級全体での話し合い。 ▲個人の反省、学級、生徒会、学校行事、部活動の参加の反省の上に、2年生に向けて具体的な目標や決意をもたせる。 |
| | | 29 29進路計画の必要性 | ツ | ◎ | | |
| 3 | ・公立高校入試 ・修了式 ・卒業式 | 30 30進路計画の立て方 | ツ | ◎ | 1年間のまとめと2年生への準備 | ■1年間の中学校生活の反省を行わせ、新たな気持ちで2年生の学校生活を迎える心構えをもたせる。 ◎グループや学級全体での話し合い。 ▲個人の反省、学級、生徒会、学校行事、部活動の参加の反省の上に、2年生に向けて具体的な目標や決意をもたせる。 |
| | | 31 31学年の反省 | ア | ◎ | | |
| | | 32 32中堅学年への抱負 | ア | ◎ | | |

「注1」 ◎印は、適応や選択にかかわりの深い題材、〇印は、適応や選択にかかわりのある題材。

「注2」 題材名の右隣の「活動内容」の記号ア〜ツは、5頁【表3】の活動内容例に示したア〜ツに同じ。

| 適 応 に か か わ る 能 力 | | | 選 択 に か か わ る 能 力 | | |
|---------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 人 間 関 係 能 力 | 感 情 統 制 能 力 | 思 考 能 力 | 問 題 解 決 能 力 | 意 志 決 定 能 力 | 情 報 選 択 能 力 |
| <p>1、2自分から進んでコミュニケーションをとる。 1級友への理解を深める。</p> | <p>1中学校生活や新しい友達に対する不安を取り除く。</p> | <p>1、2、7中学校生活への希望や抱負をもつ。</p> | <p>2、3集団の中で楽しい学校生活を送るための方策（相談など）を知り、実践する。 7選択に迷った際はより多くの情報を求め、教育相談を受ける。</p> | <p>3中学校の学習や活動の特色を知り、意欲的に取り組む。 7選択教科の意義と内容を理解して、自己決定する。</p> | |
| <p>4明るく楽しい学級となるよう、思いやりと責任をもって活動する。 5、6互いの存在や個性を尊重して組織作りを行う。</p> | <p>5、6自分の希望とは異なる役割であっても、集団の一員としての立場を自覚し、行動する。</p> | <p>4こんな学級にしたいという願いや考えをもつ。</p> | <p>4、5、6よりよい学級集団の在り方を考え、話し合いで学級目標／学級組織を決定する。</p> | <p>4みんなの願いを踏まえて学級目標を決める。 5、6自分にふさわしい役割に進んで取り組み、責任を果たす。</p> | |
| | | <p>10何のために学ぶのかということについて考える。 12これまでの自己の学習生活を振り返る。</p> | <p>12学習計画や学習方法について自ら工夫していく。</p> | <p>10、14、15将来の夢や希望をもち、意欲的に学ぼうという志をもつ。 12苦手教科の克服や日常の学習を継続するよう努力をする。</p> | <p>12自己の学習の反省や級友の反省から学習の工夫を知り、意欲を高める。 14、15多様な進路及び生涯学習の場や機会を知り、3年間の進路学習の見直しをもつ。</p> |
| <p>19自分と級友との交わり方を見つめ直す。</p> | <p>19夏休みの生活や学習が不本意に終わっても、その気持ちを引きずらないように心掛ける。 20新学期に当たった不安を取り除く。</p> | <p>19夏休みの目標や計画に沿って夏休みを振り返り、成果と課題を明確にする。</p> | <p>20学級生活をよりよくするための工夫や計画について話し合いで積極的に意見を述べる。</p> | <p>20話し合いで決定したことを踏まえ、集団生活の中で自分を生かしていく意欲をもつ。</p> | <p>21働く人びとの姿は職業によって多様であることを知り、職業に対する視野を広げる。 22働く人びとの姿を調査する際の一般的な準備や質問項目について理解する。 23自らの職業観・勤労観の基礎を築く。 24職場訪問学習報告会の情報を、職業選択能力や自らの職業観・勤労観の拡充に生かす。</p> |
| <p>24職員と協力して職場訪問学習の報告を行う。</p> | | <p>21職業を仕事の内容からとらえる。 22働く人びとへ調査活動の疑似体験をとおして、訪問調査の仕方やマナーを考える。 23人は何のために働いているのか考える。</p> | <p>23働く人びとの職業観や勤労観を参考にして、自分の希望する職業をとらえ直す。</p> | <p>24職場訪問学習報告会で学んだことを基に、これからの中学校生活での心掛けを決意する。</p> | |
| <p>27互いの個性を認め合う中で、自分の良さを理解し、伸ばしていく。</p> | | <p>28自分の希望する職業にはどんな能力や適性が求められるか考える。</p> | <p>28自分の個性を生かすために、日常生活がどうあればよいか考え、改善する。</p> | <p>28自分の個性を将来の職業に生かして行こうとする気持ちをもつ。</p> | <p>27自分を知るための内容や方法を理解することで、個性と進路の関係に気付く。</p> |
| <p>33級友同士で、互いに理解し、敬愛し、励まし合う中で、自分を高める。</p> | <p>33新学期に当たった不安を取り除く。 34心身の発達の不均衡からくる不安や悩みを負わず、自己を肯定的にとらえ、積極的に生かしていく。</p> | <p>34行動面での変化から心身の発達に伴う心の変化について見つめ直す。</p> | <p>34心身の発達の不均衡からくる不安や悩みは、誰もが経験する自我の目覚めであることを知り、解決していく。</p> | <p>33中堅学年に向けて1年生の締めくくりにしっかりと行う気持ちをもつ。</p> | |
| | | <p>36「20年後の自分」を考える。 38将来の進路希望の実現を目指した進路計画を立てる。</p> | <p>37進路計画の必要性について考える。</p> | <p>36自己を生かすために主体的に進路計画を立てる。 37実用的な進路計画を作成し、進路選択に生かすよう決意する。 38自己実現を図る努力をする。</p> | <p>36インターネットで就きたい(興味のある)職業に就くまでのコースを調べる。 37進路希望の理由からどんな時に進路計画の変更・修正が必要か気付く。 38将来の進路希望の実現を目指した計画の立て方を理解する。</p> |
| <p>402年生での課題の改善策を検討し合い、信頼関係を深める。</p> | <p>39不本意だったことも客観的に振り返る。</p> | <p>39個人、学級、学校生活の各レベルで1年間を振り返り2年生に向けての課題と心構えを考える。</p> | <p>402年生に向けて、具体的に、どこをどう改善するか考える。 40先輩として、後輩にどう接し援助していくか考える。</p> | <p>40中堅学年に向けて新たな決意をもって春休みを迎える。</p> | |

「注3」白抜き反転数字の番号は、10頁の表の番号と同じ。題材名の前の番号とも一致し、どの題材でどの能力がかかっているかを示している。

「注4」グレーの網掛けは、適応にかかわる要素が強い題材グループ。

1 ねらい

新入生は〇〇中学校に入学した喜びにあふれている。その中には、中学校生活に対する期待と不安も入り交じっている。

そこで、オリエンテーション期間は、次のことをねらいとして指導していきたい。

- (1) **〇〇中学校に入学した喜びをもたせ、〇〇中生としての自覚をもたせる。**
 - * 先輩たちの姿・行動から〇〇中の伝統や素晴らしさを感じ取らせ、〇〇中学校の生活に積極的に適応・参加していこうとする自覚をもたせる。
- (2) **新たな自分の歴史が始まることを認識させ、広い視野にたった目標をもたせる。**
 - * 小学校時代の反省を踏まえながらも、それにこだわることなく、新しい生活の中で自分の限らない可能性を発揮することに全力を尽くさせる。そして、自己実現を図りながら、自然に集団に適応していくようにさせる。
- (3) **学級目標の決定・学級組織や班の編成を通して、生徒同志・教師と生徒の相互理解を深めながら、好ましい人間関係を形成していく基盤を作らせる。**
 - * 担任団が生徒の活動や意欲を適切に評価することによって、自分の持てる力を望ましい学級や学年を築くために役立てようとする意欲をもたせる。
- (4) **中学生として身に付けなければならない基本的生活習慣やルールを理解させ、実践をとおしてしっかりとした中学校生活を送らせる。**
 - * 〇〇中生として身に付けるべき基本的生活習慣やルールは決して特別なことではなく、集団生活の中では当然でなければならないことであることを強調する。また、それらが自分だけでなく集団全体にかかわっていくことを認識させる。
- (5) **生徒相互・教師と生徒の人間関係を親密にし、信頼関係の中で安定した中学校生活を送れるようにさせる。**
 - * 生徒相互・教師と生徒の交流の機会を工夫し、相互理解を深め、ともに新しい気持ちで夢や理想を追求・実現していこうとする関係を築かせる。
- (6) **父母との連携を密にし、学校・担任団と父母とが一体となって生徒を育てていくことを確認する。**
 - * 学級開きや学級PTAの場、学年通信などとおして、学校と父母相互の意思疎通を図っていく。

2 指導上の留意事項と具体的指導場面

- (1) **中学校生活は、新しい自分を作る・自分を変えるチャンスであることを強調する。**
 - * 新しい出会いを大切に、担任団も過去を問わずこれからの生活で生徒たちを理解していくことを確認する。入学式、学級開き、学年集会など
- (2) **上級生の言動・姿から、〇〇中学校の伝統や校風を感じ取らせる。**
 - * 入学式前の先輩の動き、入学式での合唱や態度、対面式での生徒会活動の紹介・合唱・応援歌、朝夕の挨拶、学級掲示、短活見学などで上級生の素晴らしさを学ばせる
- (3) **生徒相互・教師と生徒の人間関係を親密にするための機会を工夫する。**
 - * 「生活の記録」をとおしての対話、「自己紹介カード」の活用、昼食での巡回による対話、学級組織作り、学年レクでの交流など
- (4) **基本的生活習慣を徹底して身に付けさせる。**
 - * 記名（学習道具類全般）、時刻厳守、服装（名札・バッジ）、提出物、忘れ物、挨拶、時と場に応じた言動など
- (5) **〇〇中学校1年生としての決意と自覚をもたせる。**
 - * 学級での自己紹介、中学生になったの決意作文など
- (6) **安全で健康な中学校生活を送るための注意事項を把握させる。**
 - * 自転車走行テスト、健康診断、給食の準備と食事のマナー、休憩時の過ごし方、登下校の交通安全など
- (7) **学習における不安を取り除き、継続的・計画的な学習習慣を身に付けさせる。**
 - * 「学習のてびき」等の利用、「生活の記録」をとおしての家庭学習指導、教科のオリエンテーションをとおしての指導など
- (8) **家庭との連携をうまく図る。**
 - * 学級開き、学級PTA、学年通信の効果的な利用など。

● 第1学年の年度初めのオリエンテーション期間における「ガイダンスの機能を生かした学級活動」と他の教育活動との関連を図った指導展開の具体案

| | 第1日目 | 第2日目 | 第3日目 | 第4日目 | 第5日目 | 第6日目 | 第7日目 |
|------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|-----------------------------------------|--------------------------------------------|-------------------------|------------------------|-------------------------------------------|
| 短話 | | 提出物確認 | 先生や仮の係が進行と連絡をする | | | 正式の係が進行と連絡をする | |
| 1 | 体験入学の際に、入学式練習を行う。 ・校舎見学や授業参観、部活動見学 ・入学式での代表あいさつの生徒への指導 | 学級活動1 中学生になって ゲーム形式を取り入れて抱負発表や自己紹介を行う | 教科① | 教科③ | 教科⑦ | 教科⑪ | 道徳 |
| 2 | | 学級活動2 中学校とは何か 生徒会 学級など | 教科② | 教科④ | 教科⑧ | 教科⑫ | 教科⑮ |
| 3 | | 対面式 ・中学校生活のしおり ・生徒会誌 ・生徒手帳 | 交通安全教室 | | 教科⑨ | 教科⑬ | 教科⑯ |
| 4 | | | 教科⑤ | 教科⑥ | 教科⑩ | 教科⑭ | 教科⑰ |
| 昼食 | | 仮の班ごとに楽しく昼食をとろう 生徒同士の触れ合いの機会を多くもつよう、配慮する | | | 正式の班で昼食の準備をしよう | | |
| 休憩 | | たくさんの人と話をしよう／名前を覚えよう | | | 学級の友達と交流を深めよう | | |
| 5 | 入学式 | 学級活動3 中学校とは何か 学習と生活 保健室利用 | 身体測定 | 学級活動4 学級目標作り 具体的な価値を 考えられる | 学級活動5 学級組織作り1 | オリエンテーション 総合的な学習の時間 | 学級活動7 選択教科の選択 2年生の先輩の体験談を生かす |
| 6 | | 上級生の清掃や短学活、教室掲示を見学する | | 学級活動6 学級組織作り2 | | | |
| 清掃 | ・担任方針あいさつ ・諸連絡 | 3年生の清掃見学 | | 仮の班で清掃に取り組む | | 正式の班で清掃活動に取り組む | |
| 短話 | | 2年生の短活見学 | 3年生の短活見学 | 仮の係で進行や諸連絡をする | | 正式の係が進行と連絡を行う | |
| 連絡事項等 | ・自己紹介カード ・生徒手帳配付 ・「こんな学級がいい」を宿題に | | ・「こんな学級がいい」のアンケート結果を配付 ・学級目標の案を考えてくる | ・自分がやってみたい役職を考えておく | ・放課後に学年生徒会の組織を確立 | ・中央委員会 ・学年執行部会 | |
| こうした指導展開の案を、入学式の日を生徒に提示して、活動の見通しをもたせておきたいものです。 | | | | | | | |

「注1」 図中の矢印は、各活動のつながり・発展の方向を示す。「注2」 学級活動の白抜き数字は、「発表資料」【表5】に対応する。

2-2) 第2年のガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画案

(※ 16、17頁見開きで)

| 月 | 主な行事 | 第2学年 | | | 題材グループ名 | ■：指導のねらい ◎：指導の方法 ▲：指導の留意点 | | |
|----|------------------------------------------------------------|-----------------|-----|---|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | 題材名 | 活動種 | 註 | | | | |
| 4 | ・始業式 ・入学式 ・生徒会オリエンテーション ・3年修学旅行 ・応援歌練習 ・体育祭 | 1 2年生になって | ア、ク | ◎ | 自分を伸ばす学年に | ■2年生の生活を始めるに当たり、新たな希望を描かせ、一層充実した生活を送ろうとする態度と心構えをもたせる。 ■中堅学年としての立場と役割を自覚させ、学級集団の連帯や向上を図らせる。 ◎オリエンテーション計画による指導。 ▲2年生の生活の流れを理解させ、希望や抱負を生かすための学級目標や学級組織作りに意欲的に取り組ませる。 | | |
| | | 2 学級目標を決めよう | イ、ク | ○ | | | | |
| | | 3 4学級組織作り | イ、ク | ○ | | | | |
| | | 5 選択教科で自分を伸ばそう | ク、ソ | ◎ | | | 選択教科で自分を伸ばそう | ■選択教科のねらいを確認させ、自分の興味・関心に合わせた選択をさせ、意欲的に取り組もうとする態度を養う。 ◎先輩の体験記を基にしたグループ討論。 ▲選択教科の学習のあらましを理解させ、選択の可能性(幅)を広げさせる。 |
| | | 6 体育祭に向けて | ア、ウ | ◎ | | | | |
| | | 7 | | ○ | | | | |
| | | 8 自分を高める学習 | ス、セ | ◎ | | | | |
| 5 | ・生徒総会 ・中間テスト | 9 | | ○ | 将来の生き方と学習 | ■各自の学習の取り組みを振り返らせ、自分に合った学習方法を考えさせて、意欲的に学習に取り組む態度を育てる。 ■望ましい職業観や勤労観の基礎を培い、職業的・社会的自己実現を目指す。 ■勉学や進学の意味及び生涯学習について多面的に理解させる。 ◎聞き取り調査(インタビュー)、パネルディスカッション、ジグソー学習 ▲人は何のために働くのか、「生き方」について考えさせ、望ましい勉学観と生涯学習の心構えをつくらせる。 | | |
| | | 10 | | ○ | | | | |
| | | 11 | | ○ | | | | |
| 6 | ・地区中総体 ・期末テスト | 12 人はなぜ働くのか | タ | ◎ | 充実した学級生活 | ■中だるみといわれる生活に陥りがちな夏休み明けに、一学期末の反省を基に二学期の活動を決めさせ、目標をもって意欲的に活動に取り組ませる。 ◎一学期末反省を基にした話し合い。 ▲行事を中心として二学期の活動の見通しをしっかりとらせる。 | | |
| | | 13 人はなぜ学ぶのか | ス、セ | ◎ | | | | |
| | | 14 一学期の学級反省 | | ○ | | | | |
| 7 | ・県中総体 ・期末面談 ・終業式 | 15 一学期の学年反省 | | ○ | 職業の世界 | ■多様な職業の中から身近な職業を取り上げ、職業の世界について理解させ、自分の希望する職業の実現に生かす基礎を築かせる。 ◎職業と産業の標準分類の活用、職場体験学習の事前学習。 ▲職業と産業の違いを理解させる。 ▲職業と産業の分類を理解させ、職業の内容と特色を調べさせる。 | | |
| | | 16 夏休みの生活設計 | | ○ | | | | |
| | | 17 夏休みの収穫 | | ○ | | | | |
| 8 | ・始業式 ・地区陸上大会 | 18 二学期の計画 | ア、ウ | ◎ | 学ぶための制度と機会 | ■将来の進学希望先に関する情報を学ばせ、その選択の視野を広めながら、生徒の進学希望をよりよく育てる。 ◎グループ毎の調査活動 ▲中学校卒業後の勉学の機会、その後の勉学の機会と支援制度について、生徒自らに調査・研究をさせる。 | | |
| | | 19 ボランティア活動 | ケ | ○ | | | | |
| 9 | ・地区新人戦 ・中間テスト | 20 職業とは何か | チ | ○ | 生き方を考えよう | ■自己の急激な変化から生ずる不安や悩みへの対処法を考えさせ、充実した生き方をさせる。 ◎ブレインストーミング。 ▲二学期の反省の中で、「今自分が悩んでいること」のアンケートを実施し、それを基に話し合わせる。 | | |
| | | 21 職業の内容の調査1 | チ | ○ | | | | |
| | | 22 職業の内容の調査2 | チ | ○ | | | | |
| | | 23 文化祭の取り組み | ア、ウ | ◎ | | | | |
| 10 | ・生徒会立会演説会 ・県新人戦 ・文化祭 | 24 | | ○ | 自分の適性、自分の進路 | ■自己理解の一層の深化を図り、進路計画を検討して、自分にふさわしいものに修正させる。 ◎進路適性検査、進路計画作り。 ▲適性の意味を理解させ、自己理解深化の方法を把握させる。その上で、進路計画の吟味や自己伸長への努力を促す。 | | |
| | | 25 学ぶ制度の調査 | タ | ◎ | | | | |
| | | 26 中学校卒業後の学びの道 | タ | ◎ | | | | |
| 11 | ・県新人戦 ・(総合[発表会]) ・期末テスト | 27 自分の力を高める | タ | ◎ | 3年生への準備 | ■2年生の1年間を振り返り、自らの成長点や今後の課題を明確にさせる。 ■3年生の自分をイメージさせ、最上級生としての心構えをもたせる。 ◎グループや学級全体での話し合い。ウェビングマップ。 ▲個人の生活の反省、グループや学級、生徒会、部活動などの取り組みの反省を確実に行わせ、最上級生としての心構えを話し合わせる。 | | |
| | | 28 | | ○ | | | | |
| | | 29 二学期の反省 | | ○ | | | | |
| 12 | ・期末面談 ・終業式 | 30 冬休みの生活設計 | | ○ | 自分の適性、自分の進路 | ■自己理解の一層の深化を図り、進路計画を検討して、自分にふさわしいものに修正させる。 ◎進路適性検査、進路計画作り。 ▲適性の意味を理解させ、自己理解深化の方法を把握させる。その上で、進路計画の吟味や自己伸長への努力を促す。 | | |
| | | 31 冬休みの反省と新年の決意 | エ | ◎ | | | | |
| 1 | ・始業式 | 32 修学旅行の準備 | | ○ | 自分の適性、自分の進路 | ■自己理解の一層の深化を図り、進路計画を検討して、自分にふさわしいものに修正させる。 ◎進路適性検査、進路計画作り。 ▲適性の意味を理解させ、自己理解深化の方法を把握させる。その上で、進路計画の吟味や自己伸長への努力を促す。 | | |
| | | 33 自分の適性 | ス | ◎ | | | | |
| 2 | ・期末テスト ・生徒総会 | 34 適性を生かす進路を選ぼう | ス | ◎ | 3年生への準備 | ■2年生の1年間を振り返り、自らの成長点や今後の課題を明確にさせる。 ■3年生の自分をイメージさせ、最上級生としての心構えをもたせる。 ◎グループや学級全体での話し合い。ウェビングマップ。 ▲個人の生活の反省、グループや学級、生徒会、部活動などの取り組みの反省を確実に行わせ、最上級生としての心構えを話し合わせる。 | | |
| | | 35 進路計画の立案1 | ツ | ◎ | | | | |
| 3 | ・公立高校入試 ・修了式 ・卒業式 | 36 進路計画の立案2 | ツ | ◎ | 3年生への準備 | ■2年生の1年間を振り返り、自らの成長点や今後の課題を明確にさせる。 ■3年生の自分をイメージさせ、最上級生としての心構えをもたせる。 ◎グループや学級全体での話し合い。ウェビングマップ。 ▲個人の生活の反省、グループや学級、生徒会、部活動などの取り組みの反省を確実に行わせ、最上級生としての心構えを話し合わせる。 | | |
| | | 37 私の通知表 | ア | ◎ | | | | |
| | | 38 最上級生への心構え | ア | ◎ | | | | |

「注1」◎印は、適応や選択にかかわりの深い題材、○印は、適応や選択にかかわりのある題材。

「注2」題材名の右隣の「活動内容」の記号ア～ツは、5頁【表3】の活動内容例に示したア～ツに同じ。

| 適 応 に か か わ る 能 力 | | | 選 択 に か か わ る 能 力 | | |
|---------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 人間関係能力 | 感情統制能力 | 思考能力 | 問題解決能力 | 意志決定能力 | 情報選択能力 |
| <p>1新しい級友とのコミュニケーションを積極的にとり、相互理解の輪を広め、一層深める。</p> | <p>1新しい学級や友達関係への不安を取り除く。</p> | <p>12年生としての希望や抱負をもつ。 2こんな学級にしたいという願いや考えをもつ。</p> | <p>2、3、4みんなの願いを基に、どんな学級をつくるか話し合い、自主的に学級目標/学級組織を決める。</p> | <p>22年生での目標達成に向けて、全力を尽くす決意をもつ。 3、4中堅学年として集団活動に積極的に取り組み責任を果たす決意をもつ。</p> | |
| | <p>3学習上の悩みや不安について客観的にとらえる。</p> | <p>5選択の理由を自分で考える。(体験期間を通して自分に合った選択をする。)</p> | <p>5選択に迷った場合は、より多くの情報を求め、教育相談を受ける。</p> | <p>5将来の生き方を考えながら、個性の伸長を目指して選択教科を選択する。</p> | <p>5選択教科のねらいや教科の種類、授業時数などから、選択の可能性をとらえる。</p> |
| | <p>17夏休みの生活や学習が不本意に終わっても、その気持ちを引きずらないように心掛ける。 18全体の立場に立って考え、感情をコントロールする。</p> | <p>12自分は将来どんな考えや態度で働いたらよいかを考える。</p> | <p>3学習の悩みや不安の解決で、どうすれば効果が高まり成果が上がるかを考える。 12学ぶ目的を、将来の生き方や在り方と関連付けて考える。</p> | <p>8解決策に基づいて信念をもって学習に取り組む。 12、13将来、どんな態度で働くか、どんな生き方をするかの方角性を考える。</p> | <p>3級友の体験などから不得意教科や学習上の悩みの解決法を取り入れる。 12職業の要素を知り、自分の生き方を照らし合わせる。</p> |
| <p>18問題解決のために互いの立場を理解し合い、認め合い協力し合う。</p> | | <p>17夏休みの目標や計画に沿って夏休みを振り返り、成果と課題を明確にする。</p> | <p>13誇れる学級にするための具体的な活動を話し合っ決めて。</p> | <p>18一人一人が自分の役割を理解し、互いに協力し合って学級生活を向上させる。</p> | |
| | | <p>20職業と産業の違いについて考える。 21何を相手にしたり扱ったりしているかの観点から当てはまる職業を考える。 22進路希望を実現するために、今の自分に何が必要かを考える。</p> | <p>21職業の適性を展望し、自分の希望する職業について吟味・検討する。</p> | <p>22職場体験学習の際に、自分の適性や希望と照らし合わせて職業を選ぶ。</p> | <p>20職業の分類、産業の分類を理解し、職業認識を広める。 21、22様々な職業の内容・特色、各職業に必要な適性を理解し、希望する職業の情報を収集する。</p> |
| <p>26班の仲間と協力して調べる。</p> | | <p>25自分の進路選択に基づいた勉学の機会を考える。 26自分の進路希望と対比しながら調べる。</p> | <p>25中学校卒業後の上級学校の調査計画を立てる。 27自分の進路計画を検討・吟味する。</p> | <p>27進路実現への意志を強くする。</p> | <p>25中学校卒業後の勉学の道を学校制度の系統図で理解する。 26高校や専門学校等の教育の目的と種類・学科・課程、奨学制度を理解する。</p> |
| <p>31級友同士で、互いに理解し、敬愛し、励まし合う中で、自分を高める。</p> | <p>31悩みや不安を積極的に解決しようと自覚する。</p> | <p>31今の学校生活を客観的に振り返り、今後どのように生活を充実させるかを考える。 33自分の希望職業を適性の面から検討する。 35、362年生の進路学習の成果を生かす。</p> | <p>34友達の特性を見つけることで、自己理解にもつなげる。 34家族や友達の見解及び進路適性検査等を参考にして、自分の特色をまとめる。</p> | <p>33自分の可能性を広げる決意をする。 34自己の可能性を広げていく気持ちをもつ。 35、36進路計画を修正し、望ましい進路計画を立てる。 35、36強い意志で実現への努力を決意する。</p> | <p>33適性の意味を理解する。 33いくつかの職業を例に、必要と思われる適性を選択肢から選ぶ。 34自己理解の深化を図る観点や方法を理解する。</p> |
| <p>37この1年間の級友の努力を互いに認め合う。</p> | <p>37不本意だったことも客観的に振り返る。</p> | <p>37個人、学級、学校生活などのレベルで1年間を振り返り、3年生への課題を考える。 38「中学3年生」から連想することを考える。</p> | <p>38最高学年生としての心構えを話し合っまとめる。</p> | <p>38最高学年生としての自分の心構え・抱負を固める。</p> | |

「注3」白抜き反転数字の番号は、10頁の表の番号と同じ。題材名の前の番号とも一致し、どの題材でどの能力がかかっているかを示している。

「注4」グレーの網掛けは、適応にかかわる要素が強い題材グループ。

1. ねらい

2年生は学級の再編成により新たなるスタートを迎え、期待と不安に満ちあふれている。また、一方では新入生を迎え、中堅学年としてあるいは先輩としての自覚が高まりつつある時期である。そこで、オリエンテーション期間中には、次のことをねらいとして指導していきたい。

- (1) **2年生に進級した喜びをもたせ、中堅学年としての自覚をもたせる。**(最上級生の言動を支え、〇〇中の伝統やその素晴らしさを1年生に示すことができるようにさせる。)
- (2) **1年生時代の反省を踏まえながらも、そのことにこだわることなく、新しい生活の中で自分の限らない可能性を発揮することに全力を尽くさせる。**(一人一人に望ましい自己実現をさせ、集団に自然に適応させるきっかけを整える。)
- (3) **学級目標の決定・学級組織や班の編成を通して、生徒同士、教師と生徒の相互理解を深めながら、好ましい人間関係を形成していく基盤を作らせる。**(自分の持てる力を望ましい学級や学年を築くために役立てようとする意欲をもたせ、教師団が適切な評価をしながら、みんなで学級・学年集団を高めようとする雰囲気大切にさせる。)
- (4) **中学生として身に付けなければならない学校生活での基本的な生活習慣やルールを確認した上で、実践をとおしながら、新入生の手本となるような生活をさせる。**(1年生の学年末に話し合った、〇〇中生としての、また先輩として心構えを確認させ、言動で示させる。)
- (5) **生徒相互、教師と生徒の人間関係を親密にし、信頼関係を大切にしながら安定した学級・学年の生活を送れるようにさせる。**(生徒同士や生徒と教師との接触の機会を工夫し、相互理解を深め、ともに新しい気持ちで互いの夢や理想、価値あるものを追求し、実現していく関係を築かせる。)
- (6) **父母との連携を密にし、学校・学年・学級・P T A・担任団が一体となって生徒を育てていく下地を作る。**

2. 指導上の留意事項と具体的指導場面

- (1) **2年生の生活は新しい自分を作るチャンス、自分を変える再スタートであることを短活や学活、学年集会で強調する。担任団も過去を問わず、これからの生活を見ながら生徒を理解していくことを確認する。**
 - * 学級開き、短活、始業式、学年集会など
- (2) **上級生の言動・姿を手本に、中堅学年としての立場を自覚し、〇〇中学校の伝統や校風、「〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇」の学校目標を新入生に感じ取らせることができるような行動を常に心がけさせる。**
 - * 入学式の準備活動(清掃)、入学式での合唱や態度、対面式での生徒会活動の紹介・合唱・応援歌、学級掲示、朝夕の挨拶など
- (3) **生徒相互、生徒と教師の人間関係を親密にするための機会を工夫する。**
 - * 「生活の記録」を通してのコミュニケーション、1分間面接、2年生になったの抱負・決意作文、学級組織作りなど
- (4) **基本的な生活習慣の徹底を図り、新入生の模範となるように指導する。**
 - * 記名(学習道具全般)、時刻厳守、服装(名札、記章)、提出物、忘れ物撲滅、挨拶(日常の挨拶、職員室への出入り、授業の挨拶、時と場に応じた言動)など
- (5) **健康で安全な中学校生活を送るための注意事項を再確認させる。**
 - * 自転車通学のルール、自転車の保守点検、健康診断による健康状態の自己把握、毎日の健康観察、食事のマナー、歯みがきの励行、休憩時の過ごし方、体力作りなど
- (6) **学習面での不安を取り除くとともに、計画的・継続的な学習習慣を身に付けさせる。**
 - * 「生活の記録」をとおしての家庭学習指導、春休みの家庭学習時間調査とその適切な評価、教科オリエンテーションにおける2年生の学習の進め方など
- (7) **家庭との連携を上手に行う。**
 - * 学年通信の効果的な活用、P T A授業参観、学年P T Aにおける学年経営方針の概要説明と懇談など

● 第2学年の年度初めのオリエンテーション期間における「ガイダンスの機能を生かした学級活動」と他の教育活動との関連を図った指導展開の具体案

| | 第1日目 | 第2日目 | 第3日目 | 第4日目 | 第5日目 | 第6日目 | 第7日目 |
|-------|--------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|-------------------------|--------------------------|------|-------------------------------|--------------------------------------------------------|
| 短話 | 名簿で学級を確認 | 「こんな学級がいい」 集計結果配付 | | | | | 正式の係が進行と連絡をする |
| 1 | 紹介式 担任発表 始業式 | 学級活動1 2年生になって 新しい環境や友人関係 に早く慣れさせる | 学級活動3 学級組織作り1 | 教科① | 教科⑥ | 教科⑫ | 道徳 |
| 2 | 学級開き ・担任方針 ・「こんな学級 がいい」記入 | 2・3年集会 対面式練習 | 学級活動4 学級組織作り2 | 教科② | 教科⑦ | 教科⑬ | 教科⑯ |
| 3 | 入学式準備 生徒会オリ エンテーシ ョンの工夫 と生徒会誌 の活用 | 対面式 ・中学校生活 のしおり ・生徒会誌 ・生徒手帳 | 交通安全教室 | 教科③ | 教科⑧ | 教科⑭ | 学級活動5 選択教科で自分 を伸ばそう |
| 4 | 入学式練習 | | | 教科④ | 教科⑨ | 教科⑮ | 教科⑰ |
| 5 | 入学式 | 学級活動2 学級目標を決 めよう 具体的な 価値観も の考えを のべる | 身体測定 | 教科⑤ | 教科⑩ | 教科⑱ 総合的な学習の時間 オリエンテーション | 教科⑲ |
| 6 | | | | | 教科⑪ | | |
| 清掃 | 仮の班で清掃に取り組む | | | | | | 正式の班で清掃活動に取り組む |
| 短話 | 担任が諸連絡 | 1年生に 短話紹介 | 仮の係が担当 | | | | 正式の係が進行と連絡を行う |
| 連絡事項等 | ・生徒手帳 ・対面式準備 | 自分がやりたい 役割を考えて おく | 放課後に学年 生徒会の組織 を確立 | 学年行事があ る場合は、活 動を開始 | | ・中央委員会 ・学年生徒会 | こうした指導展開の案を、始業式 の日に生徒に提示して、活動の見通 しをもたせておきたいものです。 |

「注1」 図中の矢印は、各活動のつながり・発展の方向を示す。 「注2」 学級活動の白抜き数字は、「発表資料」【表5】に対応する。
「注3」 2年生での学級編成替えがある場合の例。

2- (3) 第3年のガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画案

(※ 20、21頁見開きで)

| 月 | 主な行事 | 第3学年 | | | 題材グループ名 | ■：指導のねらい ◎：指導の方法 ▲：指導の留意点 | | |
|----|------------------------------------------------------------|-------------------|-----|-----|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | 題材名 | 活動種 | 載：歌 | | | | |
| 4 | ・始業式 ・入学式 ・生徒会オリエンテーション ・3年修学旅行 ・応援歌練習 ・体育祭 | 1 3年生になって | ア、ク | ◎ | 最上級生としての生活 | ■ これまでの中学校生活を反省させ、最上級生としての自覚のもと、新たな希望と自信をもって中学校生活の最後の1年を有意義に過ごす心構えをもたせる。 ◎ オリエンテーション計画による指導。 ▲ 何事にもリーダーとして積極的に全力で取り組ませる。 ▲ 最上級生としての揺るぎない自信と誇りをもって着実な日常生活を送るようにさせる。 ▲ 1年間の学習の重点目標と努力点を明確にもたせる。 | | |
| | | 2 学級目標を決めよう | イ、ク | ○ | | | | |
| | | 3 修学旅行の準備 | | ○ | | | | |
| | | 4 学級組織作り | イ、ク | ○ | | | | |
| | | 5 自分で選ぶ選択教科 | ク、ソ | ◎ | | | 自分で選ぶ選択教科 | ■ 1、2年生での選択教科の選択の経験を生かして将来をも見据えた広い視野での選択をさせ、意欲的に取り組もうとする態度を養う。 ◎ 先輩の選択教科の学習の感想を基に討論、個別相談。 ▲ どの教科が自分にとってよいのかを考えさせ、学習への動機付けをしっかりとさせる。 |
| | | 6 体育祭に向けて | ア、ウ | ◎ | | | | |
| | | 7 | | ○ | | | | |
| 5 | ・生徒総会 ・中間テスト | 8 3年生の学習 | | ○ | 実りある生活と学習 | ■ 学ぶことの意味を視野を広げて考えさせ、学び続けていく姿勢を醸成させる。 ■ 定期的に停滞気味になりがちな学級活動を反省させ、よりよい学級を作って行こうとする心構えをもたせる。 ◎ 学ぶことのアンケート、班活動のブレインストーミング。 ▲ 自分の生き方を豊かにするための学習という考えを再確認させる。 ▲ 3年生スタート時の学級や個人の目標を基に、今を振り返らせる。 | | |
| | | 9 | | ○ | | | | |
| 6 | ・地区中総体 ・期末テスト | 10 何のために学ぶのか | ス | ◎ | 進路を考える | ■ 先輩の進路選択や決定の事例をとおして、将来の生き方や希望する職業に基づいた進路学習の大切さを再認識させる。 ◎ 先輩と語る会。 ▲ 進路選択の6つの段階をまとめ、自分に当てはめさせる。 ▲ 自分の将来の生き方や希望職業の上立った進路選択を考えさせる。 | | |
| | | 11 学級の充実と改善 | ア | ◎ | | | | |
| | | 12 先輩の姿に学ぶ | タ、ツ | ◎ | | | | |
| 7 | ・県中総体 ・期末面談 ・終業式 | 14 一学期の反省 | | ○ | 心豊かに① | ■ 行事などの取り組みを想定して、学級内の問題解決を図ったり絆を深めたりして活気ある生活を築こう、話し合わせる。 ◎ 一学期末の反省を基に、グループや全体で話し合う。 ▲ 行事を中心に、二学期の見通しをもたせる。 | | |
| | | 15 生き方について考える | タ、ツ | ◎ | | | | |
| | | 16 夏休みの生活設計 | | ○ | | | | |
| 8 | ・始業式 ・地区陸上大会 | 17 夏休みの収穫 | | ○ | 進路の選択にそなえて | ■ 進路選択の主体である「自分」に対する理解を一層深めさせる。 ■ 進路先の調査を行わせ、進路選択に生かすようにさせる。 ◎ 「自分についてのまとめ」、事業所調べ。 ▲ 1、2年生での学習を生かし、総合的に自分をとらえさせ、進路の実現への基盤とさせる。 ▲ 進路先の事業所等の内容や特色を調べ、進路決定や修正の手がかりとさせる。 | | |
| | | 18 二学期の計画 | ア | ◎ | | | | |
| 9 | ・地区新人戦 ・中間テスト | 19 自分を見つめ直す | タ | ◎ | 心豊かに② | ■ 学習上の不安や悩みから逃げずに、前向きに解決する努力をさせる。 ◎ ピア・カウンセリング、教育相談。 ▲ 一人で悩んで投げやりにならないようにさせる。 | | |
| | | 20 21進路先の調査 | タ | ◎ | | | | |
| 10 | ・生徒会立会演説会 ・県新人戦 ・文化祭 | 22 学習の課題や悩みの解決 | エ、セ | ◎ | 進路の選択 | ■ 進路計画の検討と進路相談をとおして、自分の進路先を最終決定するための方向付けを図らせる。 ◎ 進路希望チェックリスト。面接の受け方や願書の書き方。 ▲ 自分がなすべきことと必要な準備を把握させ、不安や緊張を和らげる。 | | |
| | | 23 文化祭の取り組み | ア、ウ | ◎ | | | | |
| | | 24 | | ○ | | | | |
| 11 | ・県新人戦 ・(総合[発表会]) ・期末テスト | 25 | | ○ | 心豊かに③ | ■ 卒業までを見通して、これまでの歩みを振り返らせ、まとめさせる。 ◎ グループや学級全体での話し合い。 ▲ 自分たちの歩みを振り返るだけでなく、後輩に残し伝えるものは何かを考えさせる。 | | |
| | | 26 進路を最終決定する | ツ | ◎ | | | | |
| 12 | ・学期反省 ・期末面談 ・終業式 | 27 自分の道を切り開く | ツ | ◎ | 卒業期を迎えて | ■ 新しい生活で予想される悩みについて、どう解決していけばよいかを考えさせ、新しい生活に積極的にいかかわっていく勇氣と心構えをもたせる。 ◎ 先輩等のメッセージやアンケートを基にした話し合い。 ▲ 新生活への気持ちのアンケートを実施し、資料化する。 ▲ 10年後を想定した「未来の自分からの手紙」を書かせる。 | | |
| | | 28 進路の手続き | ツ | ◎ | | | | |
| | | 29 二学期の反省 | | ○ | | | | |
| 1 | ・始業式 | 30 冬休みの生活設計 | | ○ | 心豊かに③ | ■ 卒業までを見通して、これまでの歩みを振り返らせ、まとめさせる。 ◎ グループや学級全体での話し合い。 ▲ 自分たちの歩みを振り返るだけでなく、後輩に残し伝えるものは何かを考えさせる。 | | |
| | | 31 冬休みの反省と新年の決意 | ア | ◎ | | | | |
| 2 | ・期末テスト ・生徒総会 | 32 | | ○ | 卒業期を迎えて | ■ 新しい生活で予想される悩みについて、どう解決していけばよいかを考えさせ、新しい生活に積極的にいかかわっていく勇氣と心構えをもたせる。 ◎ 先輩等のメッセージやアンケートを基にした話し合い。 ▲ 新生活への気持ちのアンケートを実施し、資料化する。 ▲ 10年後を想定した「未来の自分からの手紙」を書かせる。 | | |
| | | 33 34 勇気を出して自分の道を | エ、ツ | ◎ | | | | |
| 3 | ・公立高校入試 ・修了式 ・卒業式 | 35 希望にあふれて | エ、ツ | ◎ | 卒業期を迎えて | ■ 新しい生活で予想される悩みについて、どう解決していけばよいかを考えさせ、新しい生活に積極的にいかかわっていく勇氣と心構えをもたせる。 ◎ 先輩等のメッセージやアンケートを基にした話し合い。 ▲ 新生活への気持ちのアンケートを実施し、資料化する。 ▲ 10年後を想定した「未来の自分からの手紙」を書かせる。 | | |
| | | 36 中学校生活のまとめ | | ○ | | | | |
| | | 37 上級学校への心構え | | ○ | | | | |
| | | 38 | | ○ | | | | |

「注1」◎印は、適応や選択にかかわりの深い題材、○印は、適応や選択にかかわりのある題材。

「注2」題材名の右隣の「活動内容」の記号ア〜ツは、5頁【表3】の活動内容例に示したア〜ツに同じ。

| 適 応 に か か わ る 能 力 | | | 選 択 に か か わ る 能 力 | | |
|---------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 人間関係能力 | 感情統制能力 | 思考能力 | 問題解決能力 | 意志決定能力 | 情報選択能力 |
| 1級友とのコミュニケーションを広める。 | 12年生までで、不本意だった部分について克服していく。 | 1最上級生としての希望や抱負をもつ。 2こんな学級にしたいという願いや考えをもつ。 8これまでの学習方法等を振り返り、今後伸ばしたい点や改善点を明らかにし、その方策を決める。 | 2、4中学生活の最後の年を充実させるために、これまでの経験やみんなの願いを基に、自主的に学級目標/学級組織を決める。 | 1最上級生としての自覚や役割を理解し、良きリーダーとして活動する決意をもつ。 4最上級生として集団生活を積極的にリードし責任を果たす決意をもつ。 83年生での学習を中学校での学習の総仕上げとしてとらえ、計画的に取り組む。 | |
| | 10学ぶことを、自分の生き方から見つめ直し、逃避や怠惰の心に立ち向かう。 | 51、2年生時の選択教科の選択理由を振り返り、学習の満足度を考えた上で、どのような選択が自分にとってよいのかを決める。 10学ぶことの意味を考える。 11学級での活動を再点検し、問題点をあげて、その解決策を考え、よりよい学級を作っていく。 | | 5自らの意志で選択した教科に意欲的に取り組む決意をもつ。 10一生学び続ける意志をもつ。 | 5選択教科のねらいや教科の種類、授業時数等から選択の可能性をとらえる。 |
| | | 12、13自信と希望をもって進路を切り開いて行くための心構えと準備について考える。 15希望職業と希望理由を考え、その職業について検討する。 | 15自分の希望する職業に就くための進路計画等の検討・改善を図る。 | 12、13自分の問題として進路の問題に取り組む。 15職業生活をととして自己実現を目指すよう決意する。 | 12、13先輩のメッセージから、自分の進路選択に必要な条件等をひろいだす。 15働くことの意味を再認識する。 |
| | 17夏休みの生活や学習が不本意に終わっても、その気持ちを引きずらないように心掛ける。 18学級全体で話し合っ決めて決まった事柄を優先し、自我をコントロールする。 | 17夏休みの目標や計画に沿って夏休みを振り返り、成果と課題を明確にする。 182学期の大きな流れを理解し、どの時期にどんなことを頑張るかを考える。 | 18話し合いをととして問題を解決する。 | 18話し合いで決まったことに対し、自分が心掛けることを明確にする。 | |
| | | 19自己理解の学習を振り返り、自己の成長や変化に気付く。 | 19自己の能力や適性、興味・関心を見つめ直しそれを進路選択に生かす。 20、21進路希望調査に積極的に取り組み、結果を発表し合っ自分の進路選択に生かす。 | | 19自己理解を深める力を培う。 20、21自分の希望する進路先の調査の大切さを理解する。 |
| 22自ら進んで心を打ち明け、相談する。 | 22学習上の不安や悩みは誰にでもあり、それから逃げない気持ちをもつ。 | | 22グループ討議や相談によって解決を図る。 | | |
| | | 26自分の進路希望や進路計画を吟味・再検討して、最終的な進路決定への方策を考える。 27今の自分がなすべきことを考える。 28進学や就職に必要な準備を考え、自らの力で準備を進める。 | 27先輩の事例をヒントに、不安や悩みをどのように解決したらよいか考える。 28好ましい面接の受け方について考える。 | 26自分の責任で進路を選択していく。 | 26相談活動をととして進路の最終決定への情報をつかむ。 27先輩の事例を自分の選択に生かす。 28入学願書や就職相談票の記入の仕方を理解する。 |
| 31残りの3カ月を共に頑張ろうという気持ちをもつ。 31後輩へ託すことを、心を込めて伝える。 | | 31これまでの中学校生活(自分達の足跡)を振り返り、どんな形で自分達の思いや感謝の気持ちを伝えるか考える。 | | 31感謝の気持ちをもっ学校生活をおくろうと決意する。 | |
| | | 33、34先輩のメッセージから、自分の生活に生かせる点を考えて、不安や悩みの解決を図ったり、夢の実現への意欲を高めたりさせる。 35未来に希望をもっ進むための心構えを考える。 | 35希望に溢れた自分の将来の姿を構想する。 | 33、34不安を克服し、夢を求めて自分の道を歩んでいく意志をもつ。 35将来の生き方についての意志を固める。 | 33、34みんなが不安を感じていることを知る。 35これまでに学んだことを総動員して考える。 |

「注3」白抜き反転数字の番号は、10頁の表の番号に同じ。題材名の前の番号とも一致し、どの題材でどの能力がかかわっているかを示している。

「注4」グレーの網掛けは、適応にかかわる要素が強い題材グループ。

1. ねらい

3年生は学級の編成もなく、精神的には割合に安心してスタートを切ることができる学年である。しかし、一方では新入生を迎え、最上級生としてあるいはリーダーとして良い意味での責任感や、悪い意味での解放感に浸る学年でもある。

そこで、オリエンテーション期間中には、次のことをねらいとして指導していきたい。

- (1) **新学年のスタートにあたり、その喜びをもたせ、最高学年としての自信と誇りを確かなものにさせる。**(○○中の伝統やその素晴らしさを1・2年生に示すことができるようにさせる。「3年生は偉大であり、下級生は上級生に学ぶ」という指導姿勢の中にある、最高学年としての自信と誇りを具体的な活動をとおして示させる。新入生に対する援助、2年生に対する姿勢、3年生としての役割など)
- (2) **2年生までの反省にたつて、3年生としての抱負と心構えを確認し、一人一人の目標を明確にさせ、これからの学校生活の見通しをもたせる。**(自己の可能性を信じ何事にもひたむきに立ち向かう姿勢、望ましい自己実現と自立に向けての努力、最高学年としてのあるべき姿など)
- (3) **学級目標作りやその実現に向けての活動をとおして、生徒同士、生徒と教師の好ましい人間関係を作る。**(進んでより良い学校生活を築こうとする仲間の良さに共感し、共に学級・学年・学校を向上させようとするムード作りとその実践)
- (4) **修学旅行に向けての取り組みをとおして、班や学級・学年の協力体制の強化を図り、また、各学習地でのさまざまな人との出会い・交流を通して「人生いかに生きるべきか」という課題追求に取り組ませる。**(事前学習の充実、班別研修の事前指導など)

2. 指導上の留意事項と具体的指導場面

- (1) **新しい生活のスタートであることを強調する。**(今までの見方・考え方・感じ方にとらわれない視点と柔軟性にたった相互理解・生徒理解、春休みの成長の確かめ合い)
 - * 学級開き、短活、始業式、学年集会など
- (2) **最高学年としての望ましい自覚と誇りをもたせ、後輩に対し、気迫と思いやりのある援助活動を進めさせる。**
 - * 入学式の準備活動(清掃)、入学式での合唱や態度、対面式での生徒会活動の紹介・合唱・応援歌・態度、日常生活での挨拶・清掃・合唱などの力量、生活全般にわたるはじめ、学級掲示や短学活見学、部活動見学など
- (3) **中学校3年生の立場・特徴を知らせるとともに、自己実現・自立に向けての進路選択のための日常の努力の大切さを認識させる。**
 - * テストの意味、授業を大切にすること、「生活の記録」での指導など
- (4) **学年での集会を大切に、3年生としての決意と自覚を促し、学級・学年としての結束を強め、集団としての力を発揮させる。**
 - * 学年朝会、学活での学年集会、合同の短学活など
- (5) **学年執行部を中心に合同の班活動に積極的に取り組みせ、自分たちの生活を自分たちで創り、向上させていく姿勢をさらに発展させていく。**(自治能力、自治活動の育成、充実)
 - * 修学旅行の係ごとの活動、学年の月目標の設定とその実践など
- (6) **修学旅行に向けての一連の活動を通して、修学旅行の意義や目標を再認識させながら、当日までの取り組みの見通しをしっかりともちたせる。また、日常生活・日常活動との関わりを大切にさせていく。**
 - * 事前学習会の充実(下見の結果の活用、学習地の紹介など)、班別研修事前点検、挨拶・合唱活動の充実など

● 第3学年の年度初めのオリエンテーション期間における「ガイダンスの機能を生かした学級活動と他の教育活動との関連を図った指導展開の具体案

| | 第1日目 | 第2日目 | 第3日目 | 第4日目 | 第5日目 | 第6日目 | 第7日目 |
|-------|----------------------------------------------------------|-------------------------------------|--------------------|------------------|-------------------------------------------------|------------------------|------------------------|
| 短話 | | 「こんな学級がいい」集計結果配付 | 最上級生としての自信と誇りをもたせる | | | 正式の係が進行と連絡をする | |
| 1 | 紹介式 担任発表 始業式 | 学級活動① 3年生になって | 学級活動③ 修学旅行の準備 | 教科① | 教科⑥ | 教科⑫ | 道徳 |
| 2 | 学級開き ・担任方針 ・「こんな学級がいい」記入 | 2・3年集会 対面式練習 | 学級活動④ 学級組織作り | 教科② | 教科⑦ | 教科⑬ | 教科⑯ |
| 3 | 入学式準備 生徒会オリエンテーションの工夫と生徒会誌の活用 | 対面式 ・中学校生活のしおり ・生徒会誌 ・生徒手帳 | 交通安全教室 | 教科③ | 教科⑧ | 教科⑭ | 教科⑰ |
| 4 | 入学式練習 | | | 教科④ | 教科⑨ | 教科⑮ | 学級活動⑤ 自分で選ぶ 選択教科 |
| 昼食 | 仮の班ごとに楽しく昼食をとろう | | | 正式の班で昼食の準備をしよう | | | |
| 体操 | 学級のみならず協力し合って修学旅行に向けての準備を進めよう | | | | | | |
| 5 | 入学式 | 学級活動② 学級目標を決めよう | 身体測定 | 教科⑤ | 教科⑩ | オリエンテーション 総合的な学習の時間 | 教科⑱ |
| 6 | | 価値観を具体的に評価可能なものを考える | | | 教科⑪ | | 卒業生の体験レポートなどを活用する |
| 清掃 | 仮の班で清掃 | 1年生に清掃紹介 | 仮の班で清掃 | 正式の班で清掃活動に取り組む | | | |
| 短話 | 担任が諸連絡 | 仮の係が担当 | 1年生に短話紹介 | 正式の係が進行と連絡を行う | | | |
| 連絡事項等 | ・生徒手帳 ・対面式準備 | 自分がやりたい役割を考えておく | 放課後に学年生徒会の組織を確立 | 修学旅行に向けて新体制で活動する | ・中央委員会 ・学年生徒会 | | |
| | 2年生の冬休み明けに、修学旅行終了時までの学級組織を決定しておき、修学旅行の準備を並行して進めることもあり得る。 | | | | こうした指導展開の案を、始業式の日には生徒に提示して、活動の見通しをもたせておきたいものです。 | | |

「注1」 図中の矢印は、各活動のつながり・発展の方向を示す。「注2」 学級活動の白抜き数字は、「発表資料」【表5】に対応する。「注3」 3年生での学級編成替えがない場合の例。

3 ガイダンスの機能を生かした単位時間の学級活動の指導計画案

● 単位時間毎の学級活動の指導計画案の構成

3年-22 題材名 「学習の課題や悩みの解決」

1 目標
 ア 学習上の不安や悩みから逃げずに、前向きに解決する努力をさせる。
 イ 事例検討や相談活動をとおして、学習の改善を図らせる

2 ガイダンスの機能（適応/選択）にかかわる能力
 ア **人間関係能力**：自ら進んで心を打ち明け、相談する。
 イ **感情統制能力**：学習上の不安や悩みは誰にでもあり、それから逃げない気持ちをもつ。
 ウ **問題解決能力**：グループ討議や相談によって解決を図る。

3 指導上の工夫（留意点）
 ア 事前に、「学習に関する不安や悩み」のアンケートを実施し、集計して資料化しておく。
 イ **ピア・カウンセリング**による教育相談を実施する。
 ウ 一人で悩んでおけやめにならないようにさせる。

4 展開

| 種別 | 主な学習活動と生徒の反応等 | 主な指導と援助 |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 「学習に関する不安や悩み」のアンケート集計を確認し、活動のテーマを知る。 学習上の不安や悩みを取り除き、学習活動の改善を図ろう | アンケート結果から抜付いたことを数名に発表させる。学習に関する不安や悩みは、誰でもがもっていることを把握させ、その原因や解決の方策等を考えることとおして、各自の学習活動の改善に結び付けることを、活動テーマとして確認する。 |
| 5分 | 2 「中学生活と進路」p.50の「集中力を高めて成果をあげる」を読んで、悩みの原因（問題点）はどこにあるかを考える。 ・「ながら勉強」 ・夜遅い時間帯の勉強 | M君、F君と比べて、自分の学習習慣や学習環境と似ているところか異なれば指摘させ、挙げられた点について学級全体の傾向を学子により確認させる。 感情統制能力 に関する工夫 →学習上の悩みの原因と自分の対比 |
| | 3 「中学生活と進路」pp.52-53の「苦手意識を取りのぞこう」を読んで、苦手意識を取り除く方法を班で考える。 ・不得意になった原因を突き出める ・理解できるところとできないところをはっきりさせる ・自分の将来の希望と結び付けて考える | 導入で示した、学級のみならず「学習に関する不安や悩み」のアンケート結果とも照らし合わせて考えさせる。苦手意識を取り除くための視座として、三つの点を指摘させる。 問題解決能力 に関する工夫 →グループでの話し合い |
| 展開 | 4 各自の学習活動の実態と、学習上の不安や悩みを「相談用紙」に記入する（クライアント）。 ・相談用紙の、今までの「家庭での学習の取り組み状況」のアンケートに回答する ・学習活動に関する不安や悩みを書く | 各自の学習活動の実態と学習上の不安や悩みを素直に記入させる。「相談用紙」を二つ折りにし、裏に自分だけが分かる印を付けさせる。「相談用紙」を集め、班長の級友に渡すように再配布させる。 |
| | 5 任意の級友の「相談用紙」にコメントを記入する（カウンセラー）。 ・クライアントの学習の実態、不安や悩みに対して、アドバイスを励ましを記入する | 人間関係能力 に関する工夫 →「相談用紙」への正直な記入 実際にアドバイスや励ましを考えさせる。書き終わったら、二つ折りにして提出させる。自分のマークの付いた「相談用紙」を持っていかせる。 |
| 42分 | 6 回答を熟読した上で、自分の思いや感想をまとめる。 ・カウンセラーの思いをよく考えてみる | 次の観点から、自分の思いや感想をまとめる。 ・学習活動の実態、不安や悩みを書いたときの気持ち ・カウンセラーとしてアドバイスや励ましを記入していた時の気持ち ・回答を読んだ時の気持ち |
| | 7 ピア・カウンセリングを取り入れて学習活動を振り返っての、自分の思いや感想を発表する。 ・不安や悩みは自分だけではなかった ・具体的なアドバイスがあって参考になる ・どちらも悩んでいるので先生に相談したい | 数名に発表させる。本時の活動を基にして自分の学習活動を改善し、進路実現に向けて努力していくように促す。また、教育相談を随時実施することを誓って、まとめる。「相談用紙」に長巻を記入させ、提出させる。 感情統制能力 に関する工夫 →ピア・カウンセリングによるアドバイスと励まし |
| 終末 | 3 | |

5 事後指導
 ・学習計画を作成させ、それに基づいて学習させる。また、必要に応じて個別の教育相談を行う。

「白抜き反転数字と題材名」は、「各学年毎のガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画案」の図の中の「白抜き反転数字と題材名」に一致します。

「各学年毎のガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画案」に示した六つの能力の中から、本時にかかわる能力について掲載しています。
 また、それぞれの能力を展開のどの活動場面で培うかを、「主な指導と援助」の欄に示しました。

3番の指導上の工夫（留意点）と4番の展開の中の「網掛けゴシック」は、ガイダンスの機能の充実を図るために行う活動の工夫を表しています。

吹き出しの中に、指導と援助、活動のヒントを掲載しました。

事後指導を明示し、指導の継続がなされるよう、配慮しました。

活用の手順・方法

「発表資料」pp.14-15を参照してください。

活用上の留意点

- ・主な参考資料は、日本進路指導協会編『中学生活と進路』指導書、埼玉県中学校進路指導研究会編「進路学習を核とした学級活動の展開」です。これらを併せて見て頂くことで効果が期待できると考えます。
 - ・「適応」と「選択」にかかわる題材はできるだけ取り上げましたが、体育祭や文化祭、修学旅行など、各学校の独自色が強い題材については割愛しました。また、二学期末の反省や冬休みの計画作りなども、一学期末の反省や夏休みの計画作りで準用することを考え割愛しました。
 - ・学級組織作りのように、各学年の題材が類似しているため、活動内容も類似した計画になっている場合があります。生徒の発達段階や実態、指導のねらいなどを考慮し、適宜工夫して活用してください。
 - ・内容や構成の面で、不十分なもの、実際の指導で不都合が生じそうなもの（活動の内容が多すぎたり、少なすぎたり、主体的活動が難しい内容であったり等）があります。適宜組み替えたり取捨選択したりして活用ください。
- ※今回示した指導計画案は、ガイダンスの機能の充実を図った指導の、いわばたたき台です。多くの方々に実践して頂き、よりよいものに修正・改善がなされていくことを願うものです。

第1学年のガイダンスの機能を生かした単位時間の学級活動の指導計画案 《目次》

| 月 | 主な行事 | 第1学年 | | | 頁 |
|----|------------------------------------------------------------|----------------------------------------|----|---|---------------------|
| | | 題材名 | 適応 | | |
| 4 | ・始業式 ・入学式 ・生徒会オリエンテーション ・3年修学旅行 ・応援歌練習 ・体育祭 | 1 中学生になって | ◎ | | 26 |
| | | 2 3 中学校とは何か | ◎ | | 27、28 |
| | | 4 学級目標を決めよう | ○ | | 29 |
| | | 5 6 学級組織作り | ○ | | 30 |
| | | 7 選択教科を選ぼう | | ◎ | 31 |
| | | 8 体育祭に向けて 9 | ◎ | ○ | |
| 5 | ・生徒総会 ・中間テスト | 10 中学生の学習 | | ◎ | 32 |
| | | 11 | | | |
| | | 12 望ましい学習方法 | ○ | ◎ | 33 |
| 6 | ・地区中総体 ・期末テスト | 13 | | | |
| | | 14 私達の将来の希望1 | | ◎ | 34 |
| | | 15 私達の将来の希望2 | | ◎ | 35 |
| 7 | ・県中総体 ・期末面談 ・終業式 | 16 一学期の反省 | ○ | | 36 |
| | | 17 班・係の活動反省 | ○ | | 37 |
| | | 18 夏休みの生活設計 | ○ | | 38 |
| 8 | ・始業式 ・地区陸上大会 | 19 夏休みの収穫 | ○ | | 39 |
| | | 20 二期の計画 | | ◎ | 40 |
| 9 | ・地区新人戦 ・中間テスト | 21 22 働く人々のすがた | | ○ | 41、42 |
| | | 23 働く人々の仕事と考 え1 | | ○ | 43 |
| | | 24 働く人々の仕事と考 え2 | | ○ | 44 |
| 10 | ・生徒会立会演説会 ・県新人戦 ・文化祭 | 25 文化祭の取り組み 26 | ◎ | ○ | |
| | | 27 人と個性 | ○ | ◎ | 45 |
| | | 28 自分の特色、友達の よさ 29 | ○ | ◎ | 46 |
| 12 | ・学期反省 ・期末面談 ・終業式 | 30 健康で安全な生活 | ○ | | |
| | | 31 二期の反省 | ○ | | (一学期末の反省を準用してください) |
| | | 32 冬休みの生活設計 | ○ | | (夏休みの生活設計を準用してください) |
| 1 | ・始業式 | 33 冬休みの反省と新年 の決意 | | ◎ | 47 |
| | | 34 悩みとその解決 | | ◎ | 48 |
| 2 | ・期末テスト ・生徒総会 | 35 | | | |
| | | 36 進路と将来設計 | | ◎ | 49 |
| | | 37 進路計画の必要性 | | ◎ | 50 |
| 3 | ・公立高校入試 ・修了式 ・卒業式 | 38 進路計画の立て方 | | ◎ | 51 |
| | | 39 学年の反省 | ◎ | | 52 |
| | | 40 中堅学年への抱負 | ◎ | | 53 |

「注」◎印は、適応や選択にかかわりの深い題材、○印は、適応や選択にかかわりのある題材

1年-1 題材名 「中学生になって」

1 目標

ア 中学校入学の喜びや希望、抱負などを話し合わせ、中学校生活への不安を和らげ、希望と意欲をもって毎日の生活に臨む心構えと決意をもたせる。

イ 学級の人間関係作りのきっかけとして、互いを知り、認め合い、みんなと協力していこうとする意識を高める。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

ア **人間関係能力**：④自分から進んでコミュニケーションをとる。⑩級友への理解を深める。

イ **感情統制能力**：中学校生活や新しい友達に対する不安を取り除く。

ウ **思考能力**：中学校生活への希望や抱負をもつ。

← 学年毎の計画案から

3 指導上の工夫（留意点）

ア 事前に配付した「**自己紹介カード**」を用いて自己紹介し合い、級友への理解を深める。

イ 自己紹介には、**ゲーム形式の活動**を取り入れ、和やかな雰囲気の中で自己開示や他者理解が図られるようにする。

ウ 新しい生活への不安を取り除き、学級への所属感をもたせて学校生活への意欲を高める。

4 展開

| 経過 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 5分 | <p>1 入学式を終え、中学生になった感想を発表する。</p> <p>自己紹介をとおして互いを知り合い、中学校生活への希望と抱負をもとう</p> |
| 展開 | <p>2 担任の先生の自己紹介を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 担任の先生の「自己紹介カード」に基づく自己紹介を聞く <p>3 生徒同士で自己紹介を行う。</p> <p>(1) 隣の人に名前を伝え、互いに握手する。</p> <p>【自己紹介ゲーム1】</p> <p>(2) 「自己紹介カード」に基づいて、各自が自己紹介をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次の【自己紹介ゲーム2】のやり方の説明を受けてから自己紹介の活動を行う メモはとらずにしっかりと聞く |
| 展開 40分 | <p>4 各自の自己紹介を基にして、級友への理解や中学校生活への希望や抱負を深めるためのゲームを行う。</p> <p>【自己紹介ゲーム2】</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなの特技や趣味 中学校生活への希望や抱負 |
| 終末 5分 | <p>5 みんなの自己紹介を聞いての感想や気持ちを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなの素晴らしいところ みんなの気持ち、自分の気持ち 自分の学校生活に生かしていきたいこと |

主な指導と援助

5～6名に発表してもらい、期待と不安が交錯している状況を浮き彫りにする。
そして、自己紹介をとおして、級友を知り合い、学校生活への希望や抱負を確かめ合うような活動をするをテーマとして確認する。

担任教師が和やかに自己紹介を行い、自己開示をとおして、生徒との親和関係を築くように配慮する。

【自己紹介ゲーム1】の進め方
・決められた時間内で、男女を問わずできるだけ多くの級友と名前を伝え合い、握手をする。
・教師は計時を行い、あわせて和やかな雰囲気になるように配慮する。

人間関係能力④ と **感情統制能力** に関する工夫
→ **自己紹介ゲーム 1**

【自己紹介ゲーム2】の進め方
・教師が、特技や趣味、中学校生活への希望や抱負といった中からテーマを決め、生徒の発表を聞きながらメモをとる。
・全員の紹介が終わったら、教師が生徒の言葉を取り上げて再現し、生徒はそれが誰のものだったかを当てる。

人間関係能力⑩ に関する工夫
→ **自己紹介ゲーム2を意識させた自己紹介**

先生や級友との関わりの中で感じたこと、考えたこと、今後に生かしたいことを振り返らせる。

思考能力 に関する工夫
→ **感想や気持ちの発表**

5 事後指導

- ・本時で使用した「自己紹介カード」は、全員分を集めて冊子にまとめ、配付する。
- ・本時で紹介し合った中学校生活への希望や抱負を、学級目標設定の活動に生かす。

1年-2 題材名 「中学校とは何か」(中学校の生活1)

1 目標

- ア 中学校生活における諸活動(生徒会、学年・学級、班)の組織や内容を理解させ、集団の一員としての自覚のもとに活動していく心構えと決意をもたせる。
- イ 中学校での新しい生活に関心をもたせ、集団の中で楽しい学校生活を送るために何が大切か考えさせる。

2 ガイダンスの機能(適応)にかかわる能力

- ア **人間関係能力** : 自分から進んでコミュニケーションをとる。
- イ **思考能力** : 中学生活への希望や抱負をもつ。
- ウ **問題解決能力** : 集団の中で楽しい学校生活を送るための方策を知り、実践する。

3 指導上の工夫(留意点)

- ア 小学校との比較をとおして中学校の活動の組織や内容を理解させ、進んで活動に参加しようとする意欲と態度を養うように努める。
- イ **対面式の前に本時の指導を行う** ことによって、対面式における生徒会活動の紹介や学級の活動と生徒会のかかわりの説明がより効果的に行われるようにする。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 5分 | <p>1 入学式などでの先輩の行動・姿から小学校との違いの面を感じたことを発表する。</p> <p>中学校の諸活動の組織と内容を知り、楽しい学校生活を送っていく決意をもとう</p> |
| 展開 42分 | <p>2 生徒会組織と活動内容の概略について担任の先生の説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・執行部の組織と活動内容 ・各種委員会の組織と活動内容 ・地区生徒会の組織と活動内容 ・部活動の状況 <p>3 学年・学級組織と活動内容の概略について担任の先生の説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級執行部の組織と活動内容 ・学年執行部の組織と活動内容 <p>4 学級の班組織と活動内容の概略について担任の先生の説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班の組織と活動内容例 <p>5 諸活動に参加していく上で大切にしていけることについて話し合い、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の考えや気持ちの文章化 ・グループでの話し合いと発表 |
| 終末 3分 | <p>6 本時の活動を振り返り、希望・抱負を含めて感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感じたこと、気付いたこと ・生徒会の一員として頑張りたいこと ・先輩が築いてきた校風を受け継いでいくこと |

主な指導と援助

5～6名に発表してもらい、先輩の整然とした言動や美しい合唱など、小学校との違いを浮き彫りにする。そして、そのような活動をしていくための組織や内容がどうなっているかを学ぶことを確認する。

生徒手帳を用い、生徒会役員や各種委員会等の組織と活動内容を説明する。必要に応じ、生徒会誌を用いて、活動の実際について紹介する。生徒会の対面式との連携を考えて、説明の内容を絞っておく。

生徒手帳や生徒会誌の活用 生徒会対面式との連携

2～4の各段階で、さらに詳しく知りたいことや疑問点についてはその都度質問させ、適宜補説する。

生徒会や学年・学級の組織と活動内容の概略についての説明を受けて、楽しい学校生活を送っていくためにどんな気持ちで諸活動に参加することが大切かを、グループで話し合わせる。グループでの話し合いの前に、各自の考えや気持ちを書かせる。グループは、座席をみながら数名で適宜編制する。司会と発表者も適宜指定する。

人間関係能力 及び 問題解決能力 に関する工夫 →グループでの話し合い

先生の話やグループの発表を聞いて感じたこと、考えたことなどから、中学校の諸活動に対する希望や抱負を確認させる。

思考能力 に関する工夫 →感想や気持ちの発表

5 事後指導

- ・中学校生活の諸活動の組織や内容の説明を踏まえて、自分のやりたい役職を考えておくよう指示する。

1年-3 題材名 「中学校とは何か」(中学校の生活2)

1 目標

- ア 中学校の学習のあらましを理解させ、日々の学習を大事にしながら進路について具体的に考えていく心構えと決意をもたせる。
- イ 中学校の1日の生活の流れや生活上のルールを理解させ、集団の一員としての自覚のもとに有意義な生活を送っていく心構えと決意をもたせる。

2 ガイダンスの機能(適応)にかかわる能力

- ア **問題解決能力** : 集団の中で楽しい学校生活を送るための方策(相談など)を知り、実践する。
- イ **意志決定能力** : 中学校の学習や活動の特色を知り、意欲的に取り組む。

3 指導上の工夫(留意点)

- ア **学年合同での学級活動**とし、**教科担任の協力を得ながら**中学校の学習のあらましを理解させ、教科や教科担任制への不安を和らげるよう務める。
- イ 中学校の生活上のルールは、特別なことではなく、集団生活の中では当然できなければならない事項であることを強調する。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 中学校の学習や生活に関して知っていることや不安について発表する。 中学校の学習のあらましと生活の流れや基本的なルールについて知ろう |
| 展開 | 2 中学校の学習のあらましについて教科担任の先生の説明を聞く。 ・教科担任による自己紹介と教科の紹介 ・中学校の学習についての基本的な心構え ・教科リーダーの役割 3 中学校における学習の意味・役割について考える。 ・義務教育の最終段階であること ・将来の進路実現に直結していること 4 中学校の生活の流れや生活上のルールについて担当の先生の説明を聞く。 ・1日の生活の流れ ・基本的なルール |
| 40分 | 5 学習や生活などの悩みに対処する、学校の教育相談のしくみについて説明を聞く。 ・教育相談の場や機会 ・教育相談の相手 |
| 終末 | 6 中学校の学習や生活についての説明を聞いて、どんな気持ちでいるかをまとめる。 ・各自で文章化 ・中学校での学習や生活にかかわる決意 ・悩みへの対処 |

主な指導と援助

5~6名に発表してもらい、小学校との違いや多くの生徒が共通に抱えている不安を浮き彫りにする。
そして、中学校の学習や生活がどうなっているかを学ぶことを確認する。

学年の学習担当の先生が司会し、各教科担任に簡単に自己紹介と教科の紹介をしてもらう。
各教科の学習内容や学習方法などにかかわる詳しい説明は、それぞれの最初の授業において「学習のてびき」を用いて行う。
学習についての基本的な心構えや教科リーダーの役割は、学年の学習担当の先生が説明する。

教科担任の協力

「学習のてびき」の活用

数名に発表させ、それらの価値付けを行う。
社会の一員として必要な「学力」を最終的に身に付ける場・機会であること、進路について具体的に考えていく必要があることをおさえさせる。

学年の生活指導担当の先生が、「中学校生活のてびき」を用いて説明する。
適宜質問を取って補説する。
生活上のルールは、集団生活の中では当たり前の事項であることを強調する。

「中学校生活のてびき」の活用

悩みの相談相手は、学級担任や教科担任、部活動顧問など数多くいることを踏まえ、さまざまな機会をとらえて相談できることを確認する。

中学校生活が始まって間もない今の正直な気持ちを書かせる。
学習や生活にかかわる心構えや決意及び不安について把握し、事後指導に生かす。

問題解決能力 や意志決定能力 に関する工夫

→自己の考えや気持ちをまとめる作文

5 事後指導

- ・中学校の学習や生活についての作文から個々の生徒の状況を把握し、必要に応じて二者面談や教育相談を行う。

1年-4 題材名 「学級目標を決めよう」

1 目標

ア 「こんな学級がいい」という共通理解を図らせ、集団の一員としての自覚をもって望ましい学級作りをしていくための「学級目標」を設定させる。

イ 「学級目標」作りをとおして、生徒達の主体性と自主性を培い、充実した学校生活を送る基盤を築かせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **人間関係能力** : 明るく楽しい学級となるよう、思いやりと責任をもって活動する。
- イ **思考能力** : こんな学級にしたいという願いや考えをもつ。
- ウ **問題解決能力** : よりよい学級集団の在り方を考え、話し合いで目標を決定する。
- エ **意志決定能力** : みんなの願いを踏まえて学級目標を決める。

3 指導上の工夫（留意点）

ア 事前に「こんな学級がいい！」のカードに各自の思いや願い（場合によっては父母のもの）を書かせ、それを集計した結果を配付しておき、よく読んで話し合いに臨むようにさせる。

イ 学級目標は学級生活のよりどころとなるものであるから、具体的で評価が可能なものになるようにさせる。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 5分 | 1 「こんな学級がいい！」のアンケート集計を確認し、活動のテーマを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> みんなの願いを反映させた「学級目標」を作ろう </div> |
| 展開 42分 | 2 学級目標作り当たりの留意点や担任の先生の願い及び活動の進め方についての説明を聞く。 ・具体的で評価が可能なもの ・担任方針あいさつ内容の再確認 ・学級目標作りの活動の進め方 3 学級目標作りの活動をする。 (1) 数人ずつの任意のグループに分かれ、「こんな学級がいい！」のアンケート集計を基に、グループとしての学級目標の案を考える。 ・各グループの案とその理由 (2) 各グループからの案を基に話し合い、学級目標を決定する。 ・各グループからの案に対する質疑 ・各グループからの案の整理統合や修正 ・学級目標の決定 |
| 終末 3分 | 4 活動を振り返っての感想や決定した学級目標に対する感想を発表する。 ・みんなの意見や願いが込められた ・学級や自分の進むべき道がわかる ・学級組織決めも積極的に行う |

主な指導と援助

アンケート集計結果から、学級のみんながおおよそどのような願いをもっているかを確認し、みんなの願いを反映させた学級目標を作ることを活動テーマとする。

思考能力 に関する工夫

→「こんな学級がいい！」のアンケート集計

学級目標は学級生活のよりどころとなるものであるから、具体的で評価が可能なものになるようにさせる。
 入学式後の学級開きでの担任方針あいさつ内容を振り返らせ、担任の願いを確認する。
 グループごとに話し合っ案を作り、それを全体でまとめていくこと、全体の司会は担任が行うことを確認する。

グループは、座席をみながら数名で適宜編制する。司会と発表者も適宜指定する。
 その案を考えた理由についても発表できるように準備させる。

人間関係能力 や問題解決能力 に関する工夫

→グループでの話し合い

各グループから出された案に対し、本時の活動テーマや「具体的で評価が可能なもの」という観点からの質疑をとおして案の整理統合や修正を行い、全員で一つの形にしていく。

問題解決能力 や意志決定能力 に関する工夫

→全員での話し合いと決定

学級目標作りの活動の経過と、自分及び級友の言動を振り返っての感想や、決定した学級目標の下での学級や自分のあるべき姿について考えさせ、発表させる。
 次の学級組織作りの活動につなげる。

思考能力 に関する工夫

→感想や気持ちの発表

5 事後指導

- ・生徒各自の「こんな学級がいい」のアンケート集計結果や、決定した学級目標を、通信等で紹介する。
- ・決定された学級目標を教室正面に掲示し、折に触れて学級目標に込められた願いを確認させる。

1年-5・6 題材名 「学級組織作り」 (2時間扱い)

1 目標

ア 「学級目標」に沿った学級作りをするための学級組織の在り方、すなわち、学級経営の基盤であり人間関係を円滑にする基盤となる学級組織の在り方を考えさせ、生徒会活動との関連を踏まえながら、活発に活動できる学級組織を作らせる。

イ 組織は、構成員の協力がなければ機能しないということを認識させ、責任をもって役割を遂行しようとする意欲をもたせる。

2 ガイダンスの機能 (適応) にかかわる能力

- ア **人間関係能力** : 互いの存在や個性を尊重して組織作りを行う。
- イ **感情統制能力** : 自分の希望とは異なる役割であっても、集団の一員としての立場を自覚し、行動する。
- ウ **問題解決能力** : よりよい学級集団の在り方を考え、話し合いで組織を決定する。
- エ **意志決定能力** : 自分にふさわしい役割に進んで取り組み、責任を果たす。

3 指導上の工夫 (留意点)

ア 学級目標決定後に、自分がやってみたい役職を考えさせておく。その際、学級目標のねらいと「学級活動2」で学んだ生徒会、学年・学級、班などの組織を踏まえさせる。

イ 個々の生徒が思いやりと責任をもって活動しようとする雰囲気を作る。また、特定の生徒の孤立や排斥行為などがないように留意する。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 10分 | 1 学級目標とその願いを踏まえ、その実現を目指す学級組織を作ることを確認する。 「学級目標」を実現していくために個々の願いが反映された学級組織を作ろう |
| 展開 85分 | 2 学級組織作りに当たっての留意点を確認し、進め方について決定する。 (1) 学級組織作りに当たっての留意点について確認する。 ・全校生徒会とのかかわり ・学年生徒会とのかかわり (2) 学級組織作りの進め方について決定する。 ア 役員の決定について ・決める役職の順番 ・候補者の擁立と決定の仕方 ・候補者が重複した場合の決定の仕方 イ 班や当番の決定について ・班の構成と班員の決定の仕方 ・座席の決定の仕方 ・清掃区域や給食当番の割当の仕方 ウ 係活動の決定について ・必要な係の種類 ・係員の決定の仕方 |
| 85分 | 3 学級組織作りの活動をする。 ・学級組織作りに当たっての留意点や進め方に沿って決定する |
| 終末 5分 | 4 決定した学級組織を確認し、組織の中での自分の役割について考えさせる。 ・組織が機能するように責任を果たす ・学級目標の達成に向けてみんなと協力して活動する |

主な指導と援助

学級目標を全員で復唱し、それに込められた願いを確認する。学級目標を実現するための学級組織はどうあればよいかをグループで考えさせ、発表させる。

問題解決能力 に関する工夫
→グループでの話し合い

学級で選出すべき役員や委員などが全校や学年の組織とどのようにかかわっているかを示した組織図を用意し、それに沿って確認する。役員や委員などが決定したら、組織図を拡大し、それに役員や委員名を書き添えて(短冊を作って貼り付ける)学級掲示に生かす。

話し合いによって、学級組織作りの進め方について決定していく。司会は、学級担任の先生が行う。話し合いをとおしてみんなが共通理解することによって協力が生まれ、守られていくことを確認する。

役員の決定については、組織図を基にしながら考えさせる。候補者の擁立については、事前にやりたい役職を考えさせているので、意欲を優先し立候補を原則に進めるように導く。

問題解決能力 や **人間関係能力** に関する工夫
→立候補を原則とすること

係活動の決定については、生徒の意見やアイデアを学校の教育活動の中で最大限尊重することによって意欲をもたせ、活動を活発にさせる。

問題解決能力 に関する工夫
→係活動のアイデア

問題が生じた際は、その都度話し合いによって解決する。

人間関係能力 や **問題解決能力** に関する工夫
→話し合い活動

希望とは異なった役割であっても、集団の一員としての立場を自覚し、明るく楽しい学級となるように活動する決意をもたせる。

感情統制能力 や **意志決定能力** に関する工夫
→自己の考えや気持ちをまとめる作文

5 事後指導

- ・話し合いの様子や、決定した組織について、通信等で紹介する。
- ・決定した役割(氏名)を学級組織図に短冊で貼り付け、学級に掲示する。

1年-7 題材名 「選択教科を選ぼう」

1 目標

- ア 選択教科が設置されている理由と、自校の選択教科の種類や授業時数などについて知らせ、選択教科への関心をもたせる。
- イ 選択教科の選択の仕方について理解させるとともに、自分の願いをもって適切な選択を行おうとする態度を養う。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：中学校生活（選択教科）への希望や抱負をもつ。
- イ **問題解決能力**：選択に迷った際は、より多くの情報を求め、教育相談を受ける。
- ウ **意志決定能力** 及び **情報選択能力**：選択教科の意義と内容を理解して、自己決定する。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア **学年合同での学級活動**とし、**選択教科担任の協力を得ながら**選択教科の学習のあらましを理解させ、選択への関心と意欲を高める。
- イ 選択教科の選択の上での考え方の例として、**2年生の先輩の体験談を生かす**。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 中学校には選択教科があることを知り、選択の仕方について学ぶことを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 選択教科のあらましと、適切な選択の仕方について知ろう </div> |
| 展開 | 2 選択教科が設置されている理由と、自校の選択教科の種類や授業時数などについて教務主任の先生の説明を聞く。 ・選択教科設置の理由 ・選択教科の種類と授業時数、教科担任 3 各選択教科の学習内容や学習方法、必要な経費や物品などについて、教科担任の先生からの説明を聞く。 ・学習内容や学習方法 ・必要な経費や物品 ・適正人数 4 選択教科の選択の仕方について、教務主任の先生の説明を聞く。 ・選択の上での留意点 ・選択教科決定の手順 |
| 40分 | 5 2年生の先輩の体験談を聞く。 ・選択教科の選択の理由 ・選択教科を学んでの感想 |
| 終末 | 6 選択教科の説明や体験談を聞いて、どんな考えでどの教科を選択するかまとめる。 ・希望する教科とその理由・決意 7 (第二希望まで) ・選択に当たったの要望 |

主な指導と援助

「選択教科」という言葉を聞いてどのようなことを思い浮かべるか考えさせ、数名に発表させる。

学年の学習担当の先生が司会する。
 選択教科の開設状況については、1年生のものだけでなく、2・3年生の例もあわせた資料を用意し、3年間の見通しをある程度もたせる。

思考能力 に関する工夫
 →「**選択教科**」の関連資料

すべての選択教科の概要を一覧表にした資料を用意し、それに沿って説明する。
 教科担任の先生が、独自に資料や授業風景などの写真を用意して説明してもよい。

情報選択能力 に関する工夫
 →**教科担任の協力**

選択教科の設置の趣旨に照らし合わせ、自分の意志で選択決定するようにさせる。
 選択教科申込用紙の記入の仕方と共に、決定までの手順についても説明する。
 状況によっては第一希望通りにならないこともあること、決定までの間に随時教育相談を行うことを付け加えておく。

生の声で体験談を聞かせることができない場合は、録音しておいて聞かせる。
 開設されているすべての選択教科について聞かせる。

情報選択能力 に関する工夫
 →**先輩の体験談**

選択教科の選択について、自分の考えや気持ちを整理し、選択教科申込用紙にまとめさせる。

意志決定能力 に関する工夫
 →**自己の考えや気持ちをまとめる作業**

5 事後指導

- ・正式決定までの間の試行機会や、随時の教育相談を利用し、より適切な選択をさせる。

1年-10 題材名 「中学生の学習」

1 目標

- ア 学ぶことの意義や目的を考えさせることで、将来に希望をもって意欲的に学んでいこうとする態度を育てる。
- イ 生涯学習の場や機会を知らせ、目的をもって学ぶことの大切さについて考えさせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：何のために学ぶのかということについて考える。
- イ **意志決定能力**：将来の夢や希望をもち、意欲的に学ぼうという志をもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 学ぶことの目的や意義について、**班毎に話し合い、それを基に学級全体で意見交流**する。
- イ 学ぶことが将来の「生き方」に深くかかわることに気付かせる。
- ウ **生涯学習の場と機会の系統図**を用意し、自己の将来の希望と対照して視覚的に理解できるようにする。

4 展開

| 時間 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 3分 | <p>1 中学生になってからの学習についてのアンケート集計を確認し、活動のテーマを知る。</p> <p>何のために学習するのかをみんなで考え、今後の学習への意欲を高めよう</p> |
| 展開 40分 | <p>2 中学校で学習する内容にはどんなものがあるかを振り返り、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の学習を中心に考える <p>3 なぜ、中学校では2番のような学習をするのかを話し合い、発表する。</p> <p>(1) 教科や学習内容毎に、班で分担して学習の目的や意義について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各班で考えた目的や意義 ・教科指導の中での先生の言葉の引用 <p>(2) 各班からの発表を聞き、それを基に学級全体で意見交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各班の考えに対する質疑 ・将来の生活や生き方にかかわることを確認する <p>4 将来の夢や希望の実現のために、中学校卒業後も様々な学習の場や機会があることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校卒業後の学習の場や機会を発表する ・生涯学習の場や機会の系統図をみて、自分の将来の希望を対照させてみる |
| 終末 7分 | <p>5 本時の活動で考えた学ぶことの目的や意義を基に、学習に向かう際の心構えや決意を短冊に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢や希望と結び付けて ・自分の「生き方」を考えて |

主な指導と援助

アンケート結果から、学習の目的や意義をつかめていなかったり揺らいでいたりしている級友がいることを把握させ、学習の目的や意義についてみんなで考えることを活動テーマとすることを確認する。

中学校で学習する教科名等を、思いつくままあげさせる。時間割表によって教科名等を確認させ、それぞれの教科等の学習の内容を大まかに振り返らせる。

各班の分担に配慮し、多様な考えが出されるようにする。学習の目的や意義について、一人一人が考えを発表できるように、場合によっては班の人数を調整する。

思考能力 に関する工夫
→**班毎の話し合い**

各班から出された学習の目的や意義についての考えの中から、共通する部分を確認させる。学ぶことは、将来に深くかかわっていることを浮き彫りにする。

思考能力 に関する工夫
→**学級全体での話し合い**

中学校卒業後の学習の場や機会については、思いつくままあげさせる。生涯学習の場や機会の系統図は、全体提示の後、プリントでも配布し、各自の将来の希望にかかわりそうなものをチェックさせる。

生涯学習の場や機会の系統図の活用

学ぶことの目的や意義としてどのようなことが話し合われたかを、板書等を基に振り返り、それをしっかりと踏まえさせて決意を書かせる。

意志決定能力 に関する工夫
→**学習への心構えや決意を短冊に書く活動**

5 事後指導

- ・決意の短冊を、教室に掲示し、折に触れて振り返らせる。
- ・短冊に書いた決意文を、通信等でも紹介する。

1年-12 題材名 「望ましい学習方法」

1 目標

- ア 自己のこれまでの学習を振り返らせ、問題点を改善し望ましい学習方法と学習習慣を身に付けていこうとする意欲をもたせる。
- イ 苦手教科の克服の工夫について考えさせ、日々の学習を計画的に継続していく心構えをもたせる。
- ウ 家庭での予習・復習の必要性を理解させるとともに、具体的な目標をかかげて学習計画を立てさせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：これまでの自己の学習生活を振り返る。
- イ **問題解決能力**：学習計画や学習方法について自ら工夫していく。
- ウ **意志決定能力**：苦手教科の克服や日常の学習を継続するよう努力をする。
- エ **情報選択能力**：自己の学習の反省や級友の反省から学習の工夫を知り、意欲を高める。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア **学習の実態アンケート調査**を実施し、その結果をTPシートや模造紙等にまとめて資料とする。
- イ **先輩の「苦手教科克服法」**を紹介する。
- ウ 学習計画の立案に当たって、具体例として**先輩の学習計画表を提示**する。
- エ **教科担任との連携**を図り、事後指導に生かしていく。

4 展開

| 経過 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 学習の実態アンケートの結果を基に、望ましい学習の在り方について考えることを確認する。 自分のこれまでの学習を振り返り、望ましい学習方法について考え、学習計画を立てよう |
| 5分 | |
| 展開 | 2 これまでの自分の学習を、チェックシートに基づいて振り返り、問題点を明確にする。 ・学校での学習、家庭での学習 3 学習活動上の問題点を改善するにはどうしたらよいかを、各班で話し合い発表する。 (1) 各自から出された問題点について話し合う。 (2) 各班で話し合われた問題点と改善策を発表する。 4 先輩の「苦手教科克服法」を読み、自己の学習に生かせることをひろい出す。 ・自分の苦手教科を中心に情報選択する 5 先輩の学習計画表を基に、学習計画作成上の工夫点（学びたい点）や留意点について考える。 ・各自が見つけた工夫点について班の中で意見交流する |
| 38分 | |
| 終末 | 6 本時の活動で学んだこと、考えたことを発表し、学習計画表作成に向けての決意を高める。 ・苦手教科の克服に向けて努力する ・しっかりと学習計画を立て、毎日の家庭学習を充実させる |
| 7分 | |

主な指導と援助

- 学習にかかわる悩みや不安などの全体的な傾向として、学習の仕方の問題や苦手教科の問題、学習時間の問題等があげられていることを取り上げ、活動テーマを確認する。
- 学習の実態アンケートの集計結果の提示**
- 机間指導し、問題点を明確にできない生徒には適宜アドバイスする。
- 思考能力**に関する工夫
→**自己の学習生活をチェックシートで振り返る**
- 班長が司会し、記録者を決めて話し合う。はじめに各自の問題点を出し合い、問題点を整理した上で問題毎に順番を決めて話し合う。班員全員の問題について話し合われるよう留意させる。
- 問題解決能力**に関する工夫
→**出された解決策をヒントに、自分に合う方法を考える**
各教科毎に2例程度ずつ紹介する。
- 情報選択能力**に関する工夫
→**「苦手教科克服法」から自分に生かせる方法を選択する**
- 工夫点（学びたい点）や留意点をつかみやすくするために、良い学習計画表例（先輩作）と悪い学習計画表例（教師作）を提示し、両者を対比して検討させる。
- 先輩の学習計画表（良い例）**
- 学習計画表を配布し、本時の活動を踏まえて、取り組み目標を書かせ、数名に発表させる。
学習計画表の目標以外については、宿題とする。
定期テストを控えている場合は、テスト範囲の一覧表も学習計画表作りの資料として配付する。
- 意志決定能力**に関する工夫
→**学習計画の目標決め**

5 事後指導

- ・具体的な学習計画の作成は宿題とし、適宜アドバイスを入れて完成させる。
- ・実施状況を毎日記録させ「生活の記録ノート」等に挟んで提出させる。担任は毎日励ましのコメントを入れる。
- ・実施後は、生徒に自己評価させるとともに、保護者からもコメントをもらい、学年通信等で紹介する。
- ・次回の学習計画立案の際に返却し、参考資料として活用させる。

1年-14 題材名 「私達の将来の希望・その1」 (2時間扱いの1時間目)

1 目標

- ア 将来の夢や希望をもつことの重要性を理解させ、その実現への見通しやなすべきことの展望をもたせて学習意欲を高めさせる。
- イ 3年間の進路学習の内容の概略をとおして職業や進路の多様性に気付かせ、将来設計をとおして進路意識を高めさせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **意志決定能力** : 将来の夢や希望をもち、意欲的に学ぼうという志をもつ。
- イ **情報選択能力** : 多様な進路及び生涯学習の場や機会を知り、3年間の進路学習の見通しをもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 自分が**就きたい職業とその理由について考えさせ、その結果を集計**しておく。
- イ 友達と将来の夢を発表し合い、進路に対する興味・関心を高める。
- ウ **年表形式の将来設計**を書かせ、将来への展望とそれまでにすべきことを考えさせる。
- エ 将来の夢や希望の実現のための中学校生活の在り方を考えさせる。

4 展開

| 時間 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 5分 | 1 級友の将来の夢や希望についてのアンケートを基に、進路について学習することを知る。 将来の夢や希望を発表し合い、その実現に向けての将来設計を考えよう |
| 展開 40分 | 2 自分の将来の夢や希望とその理由について発表する。 ・みんなの前で一人一人発表する 3 級友の夢や希望を聞いた感想、級友の考えから学んだことを発表する。 ・みんないろんな夢をもっている ・希望理由が明確な人もいて、参考にしたい 4 自分や級友の将来の夢や希望の実現のために必要なものは何かを考える。 ・学力や資格、適性、適切な言動や礼儀 等 5 早い段階で将来への夢や希望をもつことの重要性を、資料をとおして学ぶ。 ・目標をもっていると張り合いがでる ・プラス思考で生きていくことができる 6 「〇〇先生の年表～教師になりたい」を参考に、自分の将来設計を年表にする。 ・現時点で分かる範囲で将来設計を書く |
| 終末 5分 | 7 将来の夢を実現させるためにもっと知りたいことや心がけるべきことについてまとめる。 ・自分の適性はどうか ・進路決定までに考えていくべきことは何か ・明確な夢や希望とその理由をもつ |

主な指導と援助

級友がいろいろな夢や希望をもっていることを知らせ、将来の職業に関心をもたせる。
自分達の夢や希望を発表し合い、その実現に向けて将来展望することを、本時の活動テーマとする。

級友の将来の夢や希望のアンケート結果

それぞれの夢や希望を温かい気持ちで聞くように留意させる。
希望理由のキーワード等をメモしながら聞かせる。
夢や希望がはっきり定まっていない生徒や、どうしても発表したくない生徒には配慮するが、できるだけ全員に発表させる。

級友のいろいろな考えや夢を認め合う和やかな雰囲気になるように配慮する。
希望理由は、将来の生き方につながるものであることを押さえさせる。

希望の職業の特徴等を考えて、必要なものを話し合わせる。
今の中学校生活が将来の希望に結び付くことに気付かせる。

夢の有無と将来の暮らしや自己評価の資料から、夢や希望をもっていると、将来や自分に対して肯定的な見方ができることを読み取らせる。
野球の「イチロー選手の小学校6年生の時の夢」の資料から、夢はできるだけ具体的にもった方が、実現に向けての努力事項が明確になり、張り合いもでることに気付かせる。

情報選択能力に関する工夫

→級友の夢や希望、将来への夢を早くもつことの資料
将来設計作りをとおして、夢や希望の実現のために、もっと知るべきことがあることに気付かせる。
夢や希望がはっきりしていない生徒にも、仮の希望を決めさせて取り組ませる。

意志決定能力に関する工夫

→自分の将来設計
展開の4・5・6番の活動で考えたこと、感じたことを中心にまとめる。

5 事後指導

- ・教室掲示に進路コーナーを設け、各自の将来の夢や希望、現在の決意や心がけを掲示する。
- ・中学校3年間での進路学習の流れや内容について、班毎に分担して取材させ、次時の学習の準備をさせる。

1年-15 題材名 「私達の将来の希望・その2」 (2時間扱いの2時間目)

1 目標

- ア 将来の夢や希望をもつことの重要性を理解させ、その実現への見通しやなすべきことの展望をもたせて学習意欲を高めさせる。
- イ 3年間の進路学習の内容の概略をとおして職業や進路の多様性に気付かせ、将来設計をとおして進路意識を高めさせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **意志決定能力**：将来の夢や希望をもち、意欲的に学ぼうという志をもつ。
- イ **情報選択能力**：多様な進路及び生涯学習の場や機会を知り、3年間の進路学習の見通しをもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 進路学習の内容について班毎に調べさせておく。
- イ 進路学習の内容について調べてきたことを発表し合い、進路に対する興味・関心を高める。
- ウ **3年間の進路学習の系統図**（「中学生活と進路」p.34などを基に作成）を用意する。
- エ 将来の夢や希望の実現のための中学校生活の在り方を考えさせる。

4 展開

| 時間 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 3分 | 1 前時を踏まえ、本時は中学校の進路学習がどのように進められるのかを知ることを確認する。 将来の夢や希望の実現に向けての、中学校3年間の進路学習の内容を知ろう |
| 展開 44分 | 2 進路学習の意義について考える。 ・夢の実現のために3年間の進路学習がある ・進路の学習は、生き方の学習である 3 進路学習の内容について班毎に調べてきたことを発表する。 ・各班の発表 ・各班の発表に対する質疑 4 3年間の進路学習の流れや内容について、先生の補説を聞く。 (1) 3年間の進路学習の流れについての補説を聞く。 ・3年間の進路学習の系統 (2) 1年生での進路学習の内容についての説明を聞く。 ・1年生での進路学習の内容 5 「私達の将来の希望」を学んでの感想をまとめる。 ・自己の夢の実現を目指して今努力すること |
| 終末 3分 | 6 「私達の将来の希望」を学んでの感想発表を聞く。 ・希望達成を目指して、もっと学習をがんばり、生活態度にも留意する ・自分の生き方を考えて進路学習を進める |

主な指導と援助

前時の活動を振り返り、将来の夢の実現のためにもっと知りたいことについて確認する。
自分達の夢や希望の実現のために中学校3年間で進路学習をどのように行うのかを知ることを、本時の活動テーマとする。

進路の学習（将来を考えること）は、自分の生き方を考えることであり、学級活動の時間だけでなく教科等の授業時間や日常生活でも心がけていくべきものであることを押さえさせる。

班毎の調査内容の分担については、学年や学期毎に区切る。調査の対象は、教師だけでなく、先輩にも目を向けさせる。調査活動そのものを重視し、調査結果が不十分であっても、大目にて、次の展開4番で補う。

進路学習の系統図をOHP等で示しながら説明する。
進路学習の内容として、自己理解、進路計画・選択、職業観や勤労観、勉学観、進路情報、啓発的体験、進路相談等があることを説明し、理解させる。その際、進路選択の6つの段階にも触れて説明しておく。

3年間の進路学習の系統図
情報選択能力に関する工夫
→進路学習の内容調査と教師の補説

今後の学校生活（学習・生活）に具体的にどのように生かしていくのかを考えて書くようにさせる。

意志決定能力に関する工夫
→「私達の将来の希望」を学んでの感想

2～3人に発表させる。
進路学習の意義と必要性を確認する。

5 事後指導

- ・進路学習のファイルを用意し、進路学習の記録として継続していく。授業の感想を、通信等で紹介する。

1年-16 題材名 「一学期の反省」

1 目標

- ア 一学期の学級の活動を振り返り、成果と課題を明確にして、夏休みと二学期の生活につなげる。
- イ よりよい学級の姿を目指して話し合う。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **思考能力** : 一学期の学級の活動を振り返り、成果と課題を明らかにする。
- イ **問題解決能力** : 課題を解決し、よりよい学級にするための方策を考える。
- ウ **意志決定能力** : 話し合いの決定事項を、二学期の生活で達成させるよう決意する。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 学級目標の願いに基づいて振り返らせる。
- イ 学級の諸活動の改善についてブレインストーミング法で話し合う。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 一学期の学級での生活を振り返って、思い出や感想を述べ合い、活動テーマを確認する。 一学期の学級の諸活動の成果と課題を明らかにして、夏休みや二学期につなげよう |
| 3分 | |
| 展開 | 2 学級活動の振り返りのワークシートに従って、班毎に一学期の取り組み状況を話し合う。 ・生活面の取り組みについて ・学習面の取り組みについて ・行事面の取り組みについて 3 各班で話し合われた結果を発表し合う。 (1) 成果を確認し、讃え合う。 (2) 共通して挙げられた課題点を学級全体で確認し、それらの原因について考える。 ・学習面の課題と原因 ・生活面の課題と原因 ・行事面の課題と原因 4 課題点の解決に向けての話し合いの方法について先生からの話を聞く。 ・ブレインストーミング法 5 出された課題について、その解決法を班毎にブレインストーミング法で話し合う。 ・よりよい学級になるように、考えつくまま活発に意見を出し合う 6 各班の意見を発表し合い、学級としてどうしていくかを全員で話し合う。 ・具体的な行動が可能な形にまとめる |
| 44分 | |
| 終末 | 7 話し合ったことを基に、二学期に向けてみんなが学級を高めていくことを確認し合う。 ・二学期への期待や希望をもつ 8 次時は、一学期の班や係の活動を振り返ることを確認する。 |
| 3分 | |

主な指導と援助

数名に自由に発表させる。
良かったこと、楽しかったことだけでなく、不十分だったこと等もあったことを想起させ、一学期の成果と課題を明確にして、二学期に生かす方策を考えることを活動テーマとして確認する。
本時は、学級全体の反省を行うことを確認する。

班の中で司会者と記録者、発表者を決めて進めさせる。
学級目標の願いを基にしなが、ワークシートにある項目に従って意見を出させる。

思考能力 に関する工夫
→一学期の活動の成果と課題の話し合い
一学期の成果について、担任からも大いに賞賛する。

問題解決能力 に関する工夫
→学級の諸活動の課題点の原因考察
〔ブレインストーミング法の原則〕
①出されたアイデアに対する批判厳禁
②自由奔放に発言する
③より多くのアイデアを出し合う（質より量を求む）
④多くのアイデアが出されていく過程で、それらのアイデアを組み合わせ改善し、より一層発展させたアイデアを生み出していく（付け足し大歓迎）

問題解決能力 に関する工夫
→ブレインストーミング法による話し合い
学級全員で行動できるような視点で考えるように助言する。

みんなでエールを送り合ったり、円陣を組んで声を掛け合ったりさせる。
時間があれば、合唱で締めくくることが考えられる。

意志決定能力 に関する工夫
→二学期に向けての決意固め

5 事後指導

- ・話し合いの結果を、二学期の学級の具体的な行動目標として、教室に掲示する。

1年-17 題材名 「班・係の活動反省」

1 目標

- ア 一学期の班や係の活動を振り返り、成果と課題を明確にして、二学期の活動につなげる。
- イ よりよい学級の姿を目指して話し合う。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **思考能力** : 一学期の班や係の活動を振り返り、成果と課題を明らかにする。
- イ **問題解決能力** : 課題を解決し、よりよい学級にするための方策を考える。
- ウ **意志決定能力** : 話し合いの決定事項を、二学期の班や係の活動で実行するよう決意する。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 学級目標の願いや各班の目標に基づいて振り返らせる。
- イ 他の班や係に対する要望や提案を考えさせる。

後半の、係の反省にかえて、個人の一学期反省を行うことも考えられる。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 前時（学級の諸活動の一学期反省）を振り返り、本時の活動テーマを確認する。 一学期の班や係の活動の成果と課題を明らかにして、二学期の活動につなげよう |
| 3分 | |
| 展開 | 2 各班毎に、一学期の自分達の班の活動を振り返り、反省用紙に記入し発表する。 ・活動上の成果、班の協力体制等の成果 ・活動上の課題、班の協力体制等の課題 |
| | 3 今後、自分達の班で取り組みたい活動や、他の班で取り組んでほしい活動とその理由について、各班で話し合い発表する。 ・自分達の班で取り組みたい活動 ・他の班で取り組んでほしい活動とその理由 |
| | 4 3番で出された活動案について質問や意見を述べ合い、実際に取り組んでいく活動を決める。 ・各班毎に出された案を検討し、決定する |
| | 5 各係毎に、一学期の自分達の係の活動を振り返り、反省用紙に記入し発表する。 ・活動上の成果と課題 |
| | 6 今後、係活動として取り組んでほしい活動とその理由について、各班で話し合い発表する。 ・今までの係で取り組んでほしい活動 ・新しい係で取り組んでほしい活動とその理由 |
| 44分 | |
| 終末 | 7 6番で出された活動案について質問や意見を述べ合い、実際に取り組んでいく活動を決める。 ・各係毎に検討し、決定する |
| | 8 話し合ったことを基に、二学期に向けてみんなで班や係の活動を向上させていくことを確認し合う。 ・二学期の班や係の活動への期待や希望をもつ ・みんなで協力していこうという気持ちをもつ |

主な指導と援助

前時に話し合われた、二学期への学級の取り組み目標を再確認させる。
本時は、班や係の活動について、一学期の成果と課題、二学期の活動に生かす方策を考えることを活動テーマとして確認する。

司会者と記録者、発表者を決めて進めさせる。
実行できた活動、実行できなかった活動を明らかにさせるとともに、班の目標に基づいて、活動上の成果と課題、班の協力体制等の成果と課題について振り返らせる。

思考能力 に関する工夫

→一学期の班の活動等の成果と課題の話し合い

他の班の活動を批判するのではなく、二学期の各班の活動をもっと活発にし、よりよい学級にしていくにはどうすればよいかという視点で考えさせる。

問題解決能力 に関する工夫

→他の班に対する要望や提案を考える

班替えを想定させて、どの班に関しても自分のこととして考えるようにさせる。

一人の生徒がいくつかの係を兼務している場合は、そうした生徒の反省活動が重複しないように係を選ぶか、いくつかのグループに分けて反省活動を行う等の工夫をする。

思考能力 に関する工夫

→一学期の係の活動の成果と課題の話し合い

特定の係の活動を批判するのではなく、二学期に向けてよりよい学級にしていくためにどうすればよいかという視点で考えさせる。

問題解決能力 に関する工夫

→他の係に対する要望や提案を考える

組織替えを想定させて、どの係に関しても自分のこととして考えるようにさせる。

各班や係にエールを送り合ったり、円陣を組んで声を掛け合ったりさせる。
時間があれば、合唱で締めくくるとも考えられる。

意志決定能力 に関する工夫

→二学期に向けての決意固め

5 事後指導

- ・各班や各係で話し合われた成果と課題について、反省用紙を増刷して全員に配付し、情報を共有する。

1年-18 題材名 「夏休みの生活設計」

1 目標

- ア 一学期間の生活の反省に立って、中学生としての夏休みの在り方を考えさせる。
- イ 夏休みの意義や夏休みの生活のきまり、夏休み中の行事などを確認させ、夏休みを有意義に送るようにさせる。
- ウ 夏休みの生活と学習の目標を明確にし、それを実現させるための計画を立てさせて、実行する決意をもたせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **感情統制能力**：開放感に浸り、不規則・不摂生な生活に陥らないように心掛ける。
- イ **思考能力**：小学校での経験や一学期の反省に立ち、夏休みをどう送るべきか考える。
- ウ **問題解決能力**：有意義な夏休みにするため、しっかりした目標のもとに計画を立てる。
- エ **意志決定能力**：計画に沿って有意義な夏休みを送ろうとする気持ちをもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 前時までに取り組んだ、一学期の学級や班係の反省を踏まえさせる。
- イ 夏休み中の主な**行事や部活動の予定は、生徒会で一覧に**して配付する。
- ウ 夏休み中の**学習課題等については、教科係が教科担当に確認し、一覧に**して配付する。
- エ 「夏休みの生活のきまり」については、教師から説明する。**学年合同で実施することも**考えられる。

4 展開

| 時間 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 夏休みを迎えるにあたって、どんな気持ちでいるか発表する。 |
| 2分 | 中学校生活初めての夏休みを充実したものに するためにしっかりした生活設計を立てよう |
| 展 | 2 夏休みの意義について先生の説明を聞く。 ・二学期への大事な橋渡し |
| | 3 小学校での夏休みの経験や、一学期の学級や係・班の反省を踏まえ、有意義な夏休みにするにはどうすればよいか班毎に話し合う。 |
| | 4 夏休み中の主な行事や生活のきまりについて、先生の説明を聞く。 ・関係資料を配付 |
| | 5 夏休み中の学習課題について、各教科係からの説明を聞く。 ・課題の一覧表を配付 |
| | 6 5番までの説明や話し合いを踏まえて、夏休みを迎えるに当たっての心構えを発表する。 ・開放感に浸ってはいられない |
| 開 | 7 夏休みの計画表作りをする。 |
| | (1) 計画表の記入の仕方について、先生の説明を聞く。 |
| | (2) 生活と学習の目標を決める。 (3) 計画表作りを進める。 |
| 43分 | |
| 終末 | 8 夏休みの生活と学習の目標を発表し合い、有意義な夏休みにするための決意を固める。 ・規則正しい生活リズムに関する決意 ・毎日の学習時間等に関する決意 ・自治的、発展的な活動に関する決意 |
| 5分 | |

主な指導と援助

数名に発表させる。
みんなが楽しみにしていることを確認し、有意義な夏休みにするための生活設計を考えることを、本時の活動テーマとする。

夏休みの意義①社会的体験の拡充、②苦手な教科の克服や得意教科の伸長、③部活動の充実、④健康や体力の増進 等

小学校での経験については、思い通りにいかなかった時のことだけでなく、思い通りにいった時のことも踏まえさせる。

思考能力 に関する工夫

→有意義な夏休みにするための班毎の話し合い

「夏休みの生活のきまり」の中でも、健康や安全にかかわる事項は確実に指導する。
適宜質問を受け付けて、指導の徹底を図る。

5番までの説明や話し合いを踏まえ、夏休みを迎えるに当たっての心構えをしっかりともたせて、計画作りをさせる。

感情統制能力 に関する工夫

→夏休みの生活のきまりや課題等の自覚

具体的に評価が可能な目標、実行が可能な計画となるよう、留意させる。

問題解決能力 に関する工夫

→目標を明確にした上での計画表作り

全員に発表させて、各自のがんばりを誓い合わせる。
最後に、教師が生徒全員へのエールの言葉を述べる。

意志決定能力 に関する工夫

→夏休みの目標を発表し合う

5 事後指導

- ・夏休みの計画表を完成させて提出させ、激励、修正等のコメントを入れる。
- ・期末面談の中で、計画表を基にして夏休みの生活について話し合い、確認する。

1年-19 題材名 「夏休みの収穫」

1 目標

- ア 夏休み中の生活と学習の目標を、夏休みの計画に基づいて振り返らせ、成果と課題を確認させる。
- イ 夏休み中の行事等で感じたことや学んだことを発表させ、共有化させる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **人間関係能力**：自分と級友との交わり方を見つめ直す。
- イ **感情統制能力**：夏休みの生活や学習が不本意に終わっても、その気持ちを引きずらないように心掛ける。
- ウ **思考能力**：夏休みの目標や計画に沿って夏休みを振り返り、成果と課題を明確にする。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア **夏休みの計画表を活用**する。
- イ 夏休みの反省用紙を交換し合って、**ピア・カウンセリング**をする。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 夏休みを振り返っての思い出や感想を発表し、活動テーマを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 中学校生活最初の夏休みを振り返り、成果と課題を確認し合おう </div> |
| 展開 | 2 夏休みの課題や提出物等を提出する。 ・通信票、保健票等 ・教科等の課題 3 夏休みの反省の仕方について、先生から説明を聞く。 ・ピア・カウンセリングの手法を取り入れて、互いの夏休みの成果と課題を振り返ることを知る 4 夏休みの計画表を基にしながら、「夏休みの反省用紙」にしたがって各自で夏休みを振り返る。 ・成果や課題を記入する（クライアント） 5 任意の級友の成果や課題に対するコメントを記入する。（カウンセラー） ・クライアントの成果や課題に対して、アドバイスや励ましを記入する 6 回答を熟読した上で、自分の思いや感想をまとめる。 ・カウンセラーがどんな思いでコメントを書いたかよく考える ・自分の思いや感想を記入する |
| 終末 | 7 ピア・カウンセリングを取り入れて夏休みを振り返っての、自分の思いや感想を発表する。 ・頑張ったことを認めてもらってうれしい ・不本意だったのは自分だけでなかった ・新しい気持ちで二学期をスタートできそう |

主な指導と援助

- 数名に発表させる。
有意義な夏休みだったか、そうでなかったかを挙手させ、全体的な傾向を確認した上で、各自の夏休みについていくつかの観点から振り返り、任意の級友同士で互いに評価・激励し合うことを、本時の活動テーマとする。
- 通信票や保健票等は、担任が提出状況を確認する。
教科等の課題は、各教科係に、本時の活動終了後に提出状況を確認させる。
- カウンセラーになって、級友の夏休みの成果と課題にアドバイスや励ましを考えさせる。
（約束事）
 ・否定的なこと、人がいやがることは書かない
 ・秘密は絶対を守る
 ・カウンセラー（答えてくれた人）を探さない
- 夏休みの成果と課題を素直に記入させる。
反省用紙を二つ折りにし、裏に自分だけが分かる印を付けさせる。
反省用紙を集め、任意の級友に渡るように再配布させる。
- 思考能力** に関する工夫
→夏休みの計画に沿った振り返り
- 真剣にアドバイスや励ましを考えさせる。
落ち着いたBGMを流して雰囲気を作る方法もある。
書き終わったら、二つ折りにして提出させる。
自分のマークの反省用紙を間違えずに持っていかせる。
- 次の観点から、自分の思いや感想をまとめさせる。
 ・成果や課題を書いたときの気持ち
 ・成果や課題にアドバイスや励ましを記入していた時の気持ち
 ・回答を読んだ時の気持ち
- 人間関係能力** に関する工夫
→ピア・カウンセリングにおけるシェアリング
- 数名に発表させる。
仲間を信じて、前向きに二学期を歩んでいくように促してまとめる。
「夏休みの反省用紙」に氏名を書かせて提出させる。
- 感情統制能力** に関する工夫
→ピア・カウンセリングによるアドバイスと励まし

5 事後指導

- ・夏休みを振り返ってのアンケートを集計し、通信等で紹介する。
- ・必要に応じて個別の相談や指導に生かす。
- ・アンケート集計をストックし、冬休み明けや2・3年での長期休業明けにおける振り返り（比較）の資料とする。

1年-20 題材名 「二学期の計画」

1 目標

- ア 二学期の大きな流れを把握させ、種々の取り組みを想定させて、どの時期にどんな生活を送るかの見通しをもたせる。
- イ 二学期の学級の具体的活動を決めさせ、二学期の学校生活への早期の適応を図らせながら、望ましい人間関係を確立させる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **感情統制能力**：新学期に当たっての不安を取り除く。
- イ **問題解決能力**：学級生活をよりよくするための工夫や計画についての話し合いで積極的に意見を述べる。
- ウ **意志決定能力**：話し合いで決定したことを踏まえ、集団生活の中で自分を生かしていく意欲をもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 一学期末反省で確認された「二学期に頑張っていくこと」を踏まえて具体的な改善策を考えさせ、集計しておく。
- イ **「二学期の大きな流れ」を示した資料**を用意し、行事を中心にして見通しをしっかりとまとめる。
- ウ 集団生活が人間形成に果たす役割の重要性を理解させる。

4 展開

| 時間 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 先生からの、二学期における期待や思いを聞き、本時のテーマを確認する。 二学期の学校生活の流れをつかみ、学級としての二学期の計画を考えよう |
| 3分 | |
| 展開 | 2 先生から、行事を中心に二学期の流れについて説明を聞き、二学期の学校生活のイメージを把握する。 |
| | 3 一学期末の反省の結果を振り返り、二学期に学級として頑張っていくことを確認する。 ・学級全体で取り組むこと ・班や係で取り組むこと |
| | 4 二学期に取り組むことの詳細策のアンケート結果をみて、みんなの考えの傾向を把握する。 ・学級全体での取り組みに関して ・班や係の取り組みに関して |
| | 5 二学期に取り組むことの詳細策を話し合い、発表する。 ・前向きな姿勢で建設的に話し合う |
| | 6 各班からの発表を基に、学級として取り組み策を決定する。 ・実行可能でやりがいのある活動 ・学級の向上、学級目標の達成につながる活動 |
| 40分 | |
| 終末 | 7 学級としての取り組み策の決定を受けて、各自がどのように頑張っていくか（努力事項）をワークシートに記入する。 |
| 7分 | ・自分のできることを責任をもって精一杯行う ・学級や班、係の向上のために協力する |

主な指導と援助

二学期になると、中学校生活にも慣れてくる。それとともに、学級や班・係の活動等がおろそかになったり、人間関係で問題が起こったりする。しかし、二学期は様々な行事等が目白押しであり、学級集団の活動が問われる。そこで、夏休み明け早期に学校生活への見通しをもたせ、級友と協力しながら学級活動を充実させる方途を考えることを、本時の活動テーマとして確認させる。

教師が用意した「二学期の大きな流れ」を示した資料を基に、二学期の学校生活における諸活動の見通しをもたせる。

感情統制能力 に関する工夫

→「二学期の大きな流れ」の活用

一学期末の反省の記録を基にして全員で確認し、一人一人の生徒に、二学期の方向性をしっかりと意識化させる。級友と協力し学級集団での生活や活動を充実させることが、一人一人の成長にも大きく影響することを説明する。

事前に実施した「二学期に頑張っていくこと」のアンケート結果を配付し、具体的な活動のイメージ化を図る。

アンケート結果や、2番で確認した二学期の大きな流れを踏まえながら、多数決によってではなく、学級目標の達成のために大事な活動かを考えさせる。

問題解決能力 に関する工夫

→学級として目標達成する上で大事な事項を考える

各班から出された事項に対して、必要に応じて質疑を交わせ、学級としての考えにまとめさせる。

問題解決能力 に関する工夫

→学級として目標達成する上で大事な事項を考える

学級としての取り組みの面、班活動としての取り組みの面、係としての取り組みの面から各自の努力事項を考えさせ、ワークシートに記入させる。

意志決定能力 に関する工夫

→各自の努力事項のワークシートへの記入

5 事後指導

- ・決定事項を学級掲示し、取り組みの前後（節目節目で）実行状況を確認させる。

1年-21 題材名 「働く人々のすがた」 (2時間扱いの1時間目)

1 目標

- ア 働く人びとのすがたは、職業によってさまざまであることに気付かせ、職業に対する視野を広めさせる。
- イ 職業を仕事の内容面からとらえる見方に気付かせ、そのとらえ方を把握させて、職業をより深く理解させる。

2 ガイダンスの機能(選択)にかかわる能力

- ア **思考能力** : 職業を仕事の内容からとらえる。
- イ **情報選択能力** : 働く人びとの姿は、職業によって多様であることを知り、職業に対する視野を広げる。

3 指導上の工夫(留意点)

- ア 職業を、仕事の内容面からとらえる見方を、具体的な事例をとおして学ばせる。
- イ **身近な人びとの職業について簡単な事前調査**をさせておく。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | <p>1 身近な人びとがどんな仕事をしてるか発表し合い、本時の活動テーマを確認する。</p> <p>職業によって働き方や仕事の内容にどのような違いがあるか考えよう</p> |
| 展開 | <p>2 職業をどのような観点で分けることができるかを考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方の面からの観点 <p>3 ワークシートを基に、職業を分ける観点の例を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働く場所 ・働く時間 ・服装 ・相手 ・働く年齢 ・資格や免許 ・専門性 ・仕事の変化 ・その他(2番での意見から) <p>4 自分の親(または身近な人)の職業について、3番の観点に従って分類し、仕事の内容を考えてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを書く |
| 展開 | <p>5 職業によっては、仕事の内容を様々含んでいるものがあることの例をあげさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会社員 ・公務員 ・団体職員 等 <p>6 会社員を例に、その中の様々な仕事を班で考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員 ・事務員 ・技術者 等 |
| 終末 | <p>7 自分の希望する職業を、職業の分類の観点(働き方)と仕事の内容からまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入する <p>8 本時の学習のまとめと学習の発展について先生からの説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業に対する視野を広げる意欲をもつ |

主な指導と援助

できるだけ多くの生徒に発表させる。
学級の生徒の父母の職業を集計した資料を提示し、様々な職業があることを把握させた上で、各職業の仕事の様子を考えていくことを、本時の活動テーマとして確認させる。

自由にいろいろな意見を出させる。
意見が出にくい時は、学習課題の中の「働き方」に着目させて考えさせる。

ワークシートは、「中学生活と進路」のpp.44-45を基に作成する。「中学生活と進路」に例示された8つの観点の一つ一つについて、さらに細かく分類の例を示しておく。
2番で発表された中から、よい意見も取り入れて、その他の観点到に付け加える。

情報選択能力に関する工夫
→職業を分ける観点の例

職業によっては、いくつかの観点到にまたがるものがあることに気付かせ、次の活動につなげる。

思考能力に関する工夫
→各職業の仕事の内容を考える

言葉としては一つの職業でも、その中で働いている人によって仕事の内容が異なっている例を考えさせる。
ヒントとして、学校の先生方をあげてもよい。

例として取り上げる職業は、地域の実態等に即して考える。

思考能力に関する工夫
→例示した職業の仕事の内容を考える

職業を選択していくに当たっては、自分の希望する仕事の内容まで掘り下げて、具体的に考えていく必要があること(単に会社員や公務員等ではなく、その中の職種まで考えること)を強調しておく。
新聞を利用して、もっと様々な職業を調べてみるように促す。

5 事後指導

- ・各自の希望する職業についての記入状況を点検し、必要に応じて個別指導する。
- ・新聞の中にある職業を抜き書きして分類させてみる。

1年-22 題材名 「働く人々のすがた」 (2時間扱いの2時間目)

1 目標

- ア 働く人びとの仕事に対する考えや仕事への取り組みについての調査(職場訪問学習)の事前準備をさせる。
- イ 働く人びとの調査の疑似体験を行わせ、質問項目等を吟味させる。

2 ガイダンスの機能(選択)にかかわる能力

- ア **思考能力** : 働く人びとへの調査活動の疑似体験をとおして、訪問調査の仕方やマナーを考える。
- イ **情報選択能力** : 働く人びとの姿を調査する際の一般的な準備や質問項目について理解する。

3 指導上の工夫(留意点)

- ・職場訪問学習(働く人びとの調査)の事前準備について吟味させるため、班毎に**職場訪問学習当日の調査活動の場面でのロールプレイング**を行わせ、それについての意見交換をとおして事前指導を充実させる。

4 展開

| 経過 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 3分 | 1 働く人びとの考えや働くことの喜び・苦勞を知るにはどうすればよいか考える。 働く人びとの、仕事に対する考えや取り組みの様子を調べるための準備をしよう |
| 展開 40分 | 2 働く人びとの調査をする際の事前準備に必要なことや手順を考えさせる。 3 資料を基に、「事前に準備すること」をまとめる。 ・班毎に調査対象を分担する ・アポイントをとる ・下調べをする 4 調査をする人びとを班毎に選び、決定する。 5 資料を参考にして、「質問項目」を考える。 (1) 必須の質問事項 (2) 各班独自の質問事項 6 当日の調査活動を、班毎にロールプレイする。 ・班の中の役割分担に従って演じる 7 各班のロールプレイを見て、質問の内容や、質問の仕方、態度等について意見を述べる。 |
| 終末 7分 | 8 各班毎に、職場訪問学習の準備について吟味する。 ・事前準備に関して ・質問項目に関して 9 先生からの講評を聞く。 |

主な指導と援助

自由に発言をさせる中で、実際に職場を訪ねて「働いている人に聞けばよい」ということに気付かせる。そして、職場訪問学習を行うための準備をすることを、本時の活動として確認させる。

調査対象を具体的に想定して考えさせる。

[アポイントの取り方]
・先生と相談しながら、調査の目的を電話等で伝え、協力の依頼をする。
・協力が得られたら、訪問の日時と場所、服装や持ち物等を打ち合わせる。
・担当者の名前、連絡方法を確認する。

情報選択能力 に関する工夫
→**職場訪問学習の事前準備の仕方**
他の班とからかわないように調整させる。

事後の報告会で情報の共有を図ることや、職業の調査の一般的な型を学ばせることを考え、共通の質問事項を設定しておく。独自の質問事項としては、その職業の特性に合わせたものや生の声でしか聞けないものを考えさせる。

情報選択能力 に関する工夫
→**職場訪問学習の質問事項の準備**

どの班からでもできるように準備させる。時間を見ながらできるだけ多くの班にロールプレイをさせる。

思考能力 に関する工夫
→**職場訪問学習の調査活動のロールプレイ**

ロールプレイとその後の意見交換をとおして、他の班から指摘されたことや学んだことを積極的に取り入れさせる。

5 事後指導

- ・時間内にロールプレイできなかった班は、短学活等の中で実施する。
- ・事前準備の進行状況を、期日を決めて報告させ、適宜アドバイスをする。
- ・質問事項に対しても適宜アドバイスをする。

1年-23 題材名 「働く人々の仕事と考え1」

1 目標

- ア 人は何のために働くのかを考えさせ、職業の三要素について理解させる。
- イ 働く人びとの、仕事に対する考えや仕事への取り組みを知り、職業や働くことに対する関心や理解を深めさせる。
- ウ 身近に働く人びとの姿や考え方に触れることにより、職業選択能力や職業観・勤労観を育成する。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：人は何のために働いているのか考える。
- イ **問題解決能力**：働く人びとの職業観や勤労観を参考にして、自分の希望する職業をとらえ直す。
- ウ **情報選択能力**：自らの職業観・勤労観の基礎を築く。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 職場訪問学習で調査してきた事柄（仕事をする目的）を整理し、資料として活用する。
- イ 身近に働く人びとの様子や考え方などに注目させる。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 人は何のために働くのかを考え、発表し合い、本時の活動テーマを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 人は何のために働いているのか、働くことの意味を考えてみよう。 </div> |
| 展開 | 2 自分の考えは、職業の三要素のどれに最も近い か、立場を決定する。 |
| | 3 経済性派、社会性派、個人性派に別れて、それを選択した理由を考え、ワークシートに記入する。 ・自分の考えを記入する |
| | 4 三つのグループそれぞれの意見を発表し合う。 ・何をすることも先立つものはお金だから、収入を得るためだ ・自分の個性や能力を生かして好きなことを仕事にすると楽しいはずだ ・人から感謝される仕事や世の中の発展に尽くせば、やりがいも生まれるはずだ |
| 展開 | 5 職場訪問学習で調査してきた、働く目的の集約結果の資料を読み、感想を発表する。 ・三つそれぞれの考えや、複数にまたがる考えがあって、どれがいいとはいえない ・その時の社会の状況にもよるようだ |
| | 6 何のために働くのか、再度考え、自分の意見をワークシートにまとめる。 |
| 終末 | 7 自分の希望する職業について、職業の三要素の面から考える。 ・どの要素を大事にするかは、自分の生き方に通じる ・少し迷いが生まれたところもある |

主な指導と援助

自由に発表させる。
 出された意見を、経済性（収入）、社会性（社会貢献）、個人性（個性や個人の能力の発揮）の観点で分類しながら板書し、職業の三要素を把握させ、これを基にして働く目的を考えていくことを、本時のテーマとして確認させる。

考えが複数の要素にまたがることもあり得るが、その場合でも最も重要と考える要素一つを選択させる。

机をコの字型にし、討論しやすい形にする。
 まわりの級友と相談せずに、自分の考え（理由）を書くように促す。

思考能力 に関する工夫
 →仕事をする目的を考える

司会は教師が務める。
 できるだけ多くの生徒を討論に参加させ、討論が発展するように配慮する。
 討論の中で、各自が多面的なものの見方に触れ、考え方が深まっていくように努める。

情報選択能力 に関する工夫
 →職業の三要素で仕事をする目的を考える

実際に仕事に就いている人たちの考えに触れて、自分達の考えと対比して考えを深めさせる。

情報選択能力 に関する工夫
 →実際に働いている人の仕事をする目的を知る

最初の意見と変わってもかまわないことを告げる。
 考えが変わった人を挙手させ、職業のもつ意義の多様性を理解させる。

三要素は、一つの職業の中に一つということではない。また、人によっても一つに限って考えているわけでもない。一人一人様々な考えや価値観があることに留意させる。

問題解決能力 に関する工夫
 →自分の希望する職業を三要素からとらえ直す

5 事後指導

- ・迷いが生まれたり、考えが揺らいだという生徒には、個別に教育相談を行う。

1年-22 題材名 「働く人々の仕事と考え2」

1 目標

- ア 働く人びとの、仕事に対する考えや仕事への取り組みを知り、職業や働くことに対する関心や理解を深めさせる。
- イ 働く人びとからのアドバイスを基に、自分の夢や希望を実現していくための中学校生活の送り方を考えさせる。
- ウ 身近に働く人びとの姿や考え方に触れることにより、職業選択能力や職業観・勤労観を育成する。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **人間関係能力**：班員と協力して職場訪問学習の報告を行う。
- イ **意志決定能力**：職場訪問学習報告会で学んだことを基に、これからの中学校生活での心掛を決意する。
- ウ **情報選択能力**：職場訪問学習報告会の情報を、職業選択能力や自らの職業観・勤労観の拡充に生かす。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 職場訪問学習で調査してきた事柄（中学生へのアドバイス）を整理し、資料として活用する。
- イ 職場訪問学習の報告会で各職業の調査の情報の共有化を図る。
学年合同で実施することも考えられる。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | <p>1 職場訪問学習の報告会のねらいと進め方について、先生から説明を聞く。</p> <p>職場訪問学習の報告会をし、職業や仕事に対する考え方や働いている様子を学び合おう</p> |
| 2 分 | |
| 展 | <p>2 各班毎に職場訪問学習の結果を発表する。</p> <p>(1) 共通の質問事項で調査してきたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の職業の選択理由 ・仕事の内容 ・勤続年数 ・辛いことや嬉しいこと ・今の気持ち ・将来の夢とその計画 <p>(2) 独自に調査してきたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その職種で特徴的なこと ・取材の中の忘れられない一言 等 |
| 開 | <p>3 各班の発表が終わる毎に、質問や意見、感想を述べ合う。</p> |
| 45 分 | <p>4 各班で聞いてきた「中学生へのアドバイス」の資料を読んで、自分の将来の夢や希望に当てはめ、これからの中学校生活で心掛けていくことをワークシートにまとめる。</p> |
| 終 末 | <p>5 職場訪問発表会の感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各班の発表を聞いて、いろんな職業の様子を知ることができた ・夢に向かってアドバイスを生かしていきたい |
| 3 分 | <p>6 先生からの講評を聞く。</p> |

主な指導と援助

司会は、学級担任または学年の進路担当が行う。事前に、進行の仕方を、各班の代表と打ち合わせておく。

左の展開例は、班毎に順番に発表し、その都度質問や意見、感想を述べ合う、一般的な報告会のスタイルである。
1年-22の指導計画案で示したように、情報の共有化を図りやすくするため、共通の質問事項に対する調査結果を初めに発表させる。

ポスターセッション形式での発表も考えられる。その際の留意点は次のとおりである。

- ・全員が発表者と聞き手の両方を体験できるプログラムや発表順序の工夫（班の中でも、発表者を交代する等）
- ・各班の発表ブースの確保（Y字型ブースや△型ブース等、狭い場所でも発表しやすいブースの形の工夫）
- ・ブースの掲示物の制作技能や発表力等の育成

人間関係能力 に関する工夫

→職場訪問学習報告会での班の発表

情報選択能力 に関する工夫

→職場訪問学習報告会からの情報

全班に対して積極的に質問や意見を出すように指導する。発表後は、拍手で讃え合わせる。

人生の先達からの励ましのことばであり、多くの示唆を含んでいることを読み取らせる。

意志決定能力 に関する工夫

→これからの中学校生活

数名に発表させる。事前に、感想発表者を決定しておくことも考えられる。

5 事後指導

- ・発表で使った資料や掲示物は、進路コーナー等に掲示しておく。
- ・ワークシートの記述内容を生かしながら、お世話になった人に礼状を送る。
- ・各班の発表の概要（ワークシートの記述内容）を、通信等で紹介する。

1年-27 題材名 「人と個性」

1 目標

- ア 進路指導の自己理解の導入として、「自分を知る」ことの必要性や方法、内容等を理解させる。
- イ 互いの個性を認め合う中で、温かい人間関係を築かせる。
- ウ 人にはそれぞれ個性があることを把握させ、かけがえのない自分の個性を大事にしていこうとする気持ちをもたせる。

2 ガイダンスの機能（適応／選択）にかかわる能力

- ア **人間関係能力**：互いの個性を認め合う中で、自分の良さを理解し、伸ばしていく。
- イ **情報選択能力**：自分を知るための内容や方法を理解することで、個性と進路の関係に気付く。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 互いの個性を認め合う中で自己のよさを理解させる。
- イ 「家族から見た私」の事前調査をさせる。
- ウ **インスピレーション・クイズ（ヒントは4つ）**を用意し、自分や級友の良いところを考えさせておく。
- エ 「〇〇さんのよいところ」の手紙を書かせ、互いの個性を認め合わせる。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 インスピレーション・クイズを行い、学級の誰であるかを当てる。 人それぞれがもっている「個性」を認め合い、自分の個性について考えていこう |
| 7分 | |
| 展開 | 2 先生から、個性とは何か、自分を知ることの意義について説明を聞く。 ・個性は、個人特有の性質であることが分かる |
| | 3 自分を知るためにはどうすればよいか考える。 (1) 自分を知るために調べる内容を理解する。 ①行動や性格 ②学習への興味関心・成績 ③身体や運動能力 ④趣味・特技 ⑤仕事への興味関心 ⑥進路の希望 ⑦家族の希望や考え 等 (2) 自分を知るために調べる方法を理解する。 ①自分自身での振り返り ②諸検査や実体験 ③周りの人（家族、友人、先生）の意見 |
| | 4 各班毎に、他の班員に対する「〇〇さんのよいところ」の手紙を書き合う。 ・班の中で、自分以外の班員全員に対して手紙を書く ・自分では気付かない長所に気付かせる気持ちで真剣に書く |
| | 5 「自分の特色についてのまとめ」のワークシートについて、分かる部分を記入する。 |
| 36分 | |
| 開 | 6 本時の活動の感想を書く。 |
| | 7 個性を基にしたクイズについて考えることで、次時の活動内容を知る。 ・個性を生かすことの意味から、個性と職業の関係について考えていくことを把握する |
| 7分 | |
| 終末 | |

主な指導と援助

インスピレーション・クイズは、将来の職業の希望から入ることによって、進路学習の導入であることを意識させる。先生が大きな声でゆっくりと読み上げる。ウォーミングアップとして、先生の問題から入ってもよい。班毎に競い合わせる等して盛り上げることも考えられる。

自分を知ることは、理想の自分に近づく第一段階であり、自分のよさ・長所（特長）を知ることは、進路選択の上でも大切であることを説明する。しかし、自分の長所を知らない中学生が多いことを「中学生活と進路」p.60の資料を基に把握させる

自分のどんなことを知る必要があるか、どのようにすれば知ることができるかの二つの視点から自由に意見を発表させる。意見が出にくい時は「中学生活と進路」のp.61を参照させて理解させる。

情報選択能力 に関する工夫
→自分を知るために調べる内容

自分自身による評価では、過大評価や過小評価に陥る危険性があり、客観的に自分を見てくれる人や、試験や検査等も必要であることを理解させる。

情報選択能力 に関する工夫
→自分を知るために調べる方法

自分を知るために、友人から意見をもらう活動をさせる。互いに書き合う時間等を考慮し、班の人数は、6名以内（書き合う人数5名以内）を目途とする。6名を越える場合は班を分割する。また、学級の実態によっては、任意にグループを作ることも考えられる。良さだけを書かせる（傷つくことは書かない）事を徹底する

人間関係能力 に関する工夫
→「〇〇さんのよいところ」の手紙

「周りの人から見て」の欄は、「〇〇さんのよいところ」の手紙や「家族から見た私」の資料を活用させる。時間を決めて記入させる。未完成の部分は、次時まで記入して行くように指示する。

教師が出題する。
〔問題〕次の様な個性の持ち主は、デザイナー、アナウンサー、警察官、看護師、のどの職業に向いているでしょうか。
・人前でしゃべることが好き。
・政治からスポーツまで幅広い知識をもっている。
・声が大きくてはっきりしている。

5 事後指導

- ・「自分の特色についてのまとめ」のワークシートは、次時まで完成させる。

1年-28 題材名 「自分の特色、友達のよさ」

1 目標

- ア 個性と職業との関係について具体的な例をとおして考えさせ、自分の個性と将来の職業についても考えさせた上で、自分の個性を将来の職業に生かしていこうとする態度を身に付けさせる。
- イ 自分の個性を生かすために、日常の生活の在り方や将来の職業の選択の在り方について考えさせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：自分の希望する職業にはどんな能力・適性が求められるか考える。
- イ **問題解決能力**：自分の個性を生かすために、日常の生活がどうあればよいのか考え、改善する。
- ウ **意志決定能力**：自分の個性を将来の職業に生かしていこうとする気持ちをもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 個性と職業との関係について**職業当てクイズ**等をとおして考えさせる。
- イ **ジョハリの「心の4つの窓」**の作業をとおして自己の理解を深めさせる。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 前時の復習をし、本時は個性を生かすために、 個性と職業の関係を考えていくことを確認する。 個性と職業との関係を考え、自分の個性をさらに伸ばすための目標を考えよう |
| 展開 | 2 個性と職業との関係について、事例を基に考える。 (1) 職業当てクイズをする。 (2) いくつかの職業について、どんな個性をもった人が適しているか考える。 3 自分の希望する職業に求められる能力や適性を考え、自分の個性と比較して今後の努力点を書き出す。 ・求められる能力や適性 ・今後の努力点 4 自己理解をいっそう深めていくための方策として、ジョハリの「心の4つの窓」について先生からの説明を聞く。 5 ジョハリの「心の4つの窓」に実際に書き入れ、自己理解を深める。 |
| 展開 | ① 自分のよいところや特色を書く。 ② 別の紙に友達から、自分のよいところや特色を書いてもらう。 ③ ①と②の記述内容を見比べて、「心の4つの窓」の開かれた窓、秘密の窓、盲点の窓に該当する事項を書き込む。 |
| 終末 | 6 「開かれた窓」を大きくし、将来の希望の実現を目指すために、具体的にどうしていくかを、3番の努力点ともかかわらせて話し合わせる。 ・改善や努力をしていくこと ・いっそう伸ばしていくこと |

主な指導と援助

「自分の特色についてのまとめ」のワークシートが完成しているか確認しながら、前時の自分を知る活動を振り返らせる。本時は、個性と職業の関係を考える活動をとおして、自分の個性と希望職業との関係についても考え、自分の個性をもっと伸ばしていくための努力点を考えていくことを確認させる。

職業当てクイズは、次のような要領で5つ程度用意する。
①歌がうまい／子どもが好き／優しい
②動植物が好き／体力がある／体を動かすことが好き
③機械が好き／手が器用／几帳面
なお、答えは一つとは限らないことに留意して指導する。

警察官、看護師等、2～3の職業を取り上げ、どんな適性が考えられるか、できるだけたくさん書かせる。生徒がどれだけ職業を理解しているかの評価ともなる。

自分の希望する職業に求められる能力や適性について、自分の考えに不安がある場合は、先生や友達と相談して確認させる。個性と比較しての努力点については、「自分の特色についてのまとめ」を活用して考えさせる。「中学生生活と進路」p.63のS君の例で考えさせてから取り組ませる方法も考えられる。

思考能力 及び **問題解決能力** に関する工夫
→自分の希望する職業に求められる能力や適性を考える

「中学生生活と進路」のpp.64-65を用いて簡潔に説明する。それぞれの窓にあてはまる特色（個性）は固定したものではなく、変わっていくものであることを理解させる。

①の自分のよいところや特色については、「自分の特色についてのまとめ」のワークシートを用いて記入させ、場合によって追加させる。
②の自分の良さについて書いてもらう友達については、前時の「〇〇さんのよいところ」を書いた人とは異なるように、班をローテーションする等の工夫をする。また、短時間で効率よく作業が進むように、短い言葉で書くことや、班の中で回し書きすることを指示する。

「暗黒の窓」については何も記入されないが、今後の可能性を示す（今後明らかになる個性が入る）部分であることを補足する。

班毎に話し合わせる。班長に司会をさせる。班員一人一人について、3番で各自が考えたことと、「心の4つの窓」の結果を見比べ、何を、どのように改善したり伸ばしたりしていったらよいか前向きに意見交換させ、それぞれのやる気を引き出させる。

問題解決能力 及び **意志決定能力** に関する工夫
→希望実現に向けての努力事項や伸ばす事項の話し合い

5 事後指導

- ・ワークシート等はファイリングさせておき、自己の成長の記録にさせると共に、個別の教育相談の際の資料とする。

1年-33 題材名 「冬休みの反省と新年の決意」

1 目標

- ア 冬休み中の生活と学習の目標を、冬休みの計画に基づいて振り返らせ、成果と課題を確認させる。
- イ 三学期の大きな流れを把握させ、どの時期にどんな生活を送るのかの見通しをもたせる。
- ウ 三学期の学級の具体的活動を確認させ、三学期の学校生活への適応を図らせながら、人間関係を深めさせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **人間関係能力**：級友同士で、互いに理解し、敬愛し、励まし合う中で、自分を高める。
- イ **感情統制能力**：新学期に当たっての不安を取り除く。
- ウ **意志決定能力**：中堅学年に向けて、1年生の締めくくりをしっかりと行う気持ちをもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア **冬休みの計画表を活用**する。
- イ 冬休みの反省用紙を交換し合って、**ピア・カウンセリング**をする。
- ウ **「三学期の大きな流れ」を示した資料**を用意し、行事を中心にして見通しをしっかりとまとめる。

展開の後半（7、8番）に重点を置き、1年のまとめを意識させることも考えられる。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 冬休みを振り返っての思い出や感想を発表し、活動テーマを知る。 |
| 5分 | 冬休みの成果と課題を確認し、三学期の流れをつかんでまとめの学期を歩み出そう |
| 展開 | 2 冬休みの課題や提出物等を提出する。 ・通信票、保健票等 ・教科等の課題 |
| | 3 冬休みの反省の仕方について、先生から説明を聞く。 ・夏休み明け同様、ピア・カウンセリングの手法を用いることを知る |
| | 4 冬休みの計画表を基にしながら、「冬休みの反省用紙」にしたがって各自で冬休みを振り返る。 ・成果や課題を記入する（クライアント） |
| | 5 任意の級友の成果や課題に対するコメントを記入する。（カウンセラー） |
| | 6 カウンセラーからの回答を読む。 |
| 40分 | 7 先生から三学期の大きな流れについて説明を聞き、三学期の学校生活のイメージを把握する。 |
| | 8 二学期末の反省を振り返り、三学期に学級として取り組んでいくことを具体的に確認する。 |
| 終末 | 9 冬休みの反省、三学期の大きな流れや学級の活動方針を受けて、各自がどのように頑張っていくか（努力事項）をワークシートに記入する。 ・みんなと協力して活動していく ・三学期は短い、一年をしっかりと締めくくる |

主な指導と援助

数名に発表させる。
有意義な冬休みだったか、そうでなかったかを挙手させ、全体的な傾向を確認した上で、各自の冬休みについていくつかの観点から振り返り、任意の級友同士で互いに評価・激励し合うことと、三学期の見通しをもつことを、本時の活動テーマとする。

通信票や保健票等は、担任が提出状況を確認する。
教科等の課題は、各教科係に、本時の活動終了後に提出状況を確認させる。

〈ピア・カウンセリング実施上の約束事〉
・否定的なこと、人がいやがることは書かない
・秘密は絶対を守る
・カウンセラー（答えてくれた人）を探さない

冬休みの成果と課題を素直に記入させる。
反省用紙を二つ折りにし、裏に自分だけが分かる印を付けさせる。
反省用紙を集め、任意の級友に渡るように再配付させる。

真剣にアドバイスや励ましを考えさせる。
落ち着いたBGMを流して雰囲気を作る方法もある。
書き終わったら、二つ折りにして提出させる。
自分のマークの反省用紙を間違えずに持っていかせる。

人間関係能力 に関する工夫

→ピア・カウンセリング

教師が用意した「三学期の大きな流れ」を示した資料を基に、三学期の学校生活における諸活動の見通しをもたせる。

感情統制能力 に関する工夫

→「三学期の大きな流れ」の活用

ピア・カウンセリングの感想、三学期の学校生活の見通し、学級としての取り組みを踏まえた上で各自の努力事項を考えさせ、ワークシートに記入させる。

意志決定能力 に関する工夫

→各自の努力事項のワークシートへの記入

5 事後指導

- ・冬休みを振り返ってのアンケートを集計し、通信等で紹介する。
- ・アンケート集計をストックし、2・3年での長期休業明けにおける振り返り（比較）の資料とする。
- ・学級として三学期に取り組んでいくことを掲示する。

1年-34 題材名 「悩みとその解決」

1 目標

- ア 多くの中学生が、心身の発達の不均衡からくる不安や悩み、自己嫌悪などの問題を抱えていること理解させる。
- イ 悩みや問題を解決する方法を知り、積極的に解決していこうとする態度を養う。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **感情統制能力**：心身の発達の不均衡からくる不安や悩みに負けず、自己を肯定的にとらえ、積極的に生かしていく。
- イ **思考能力**：行動面での変化から心身の発達に伴う心の変化について見つめ直す。
- ウ **問題解決能力**：心身の発達の不均衡からくる不安や悩みは誰もが経験する自我の目覚めであることを知り、解決していく。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 自分の心身の成長に着目させ、集団の一員としての心構えを考えさせ、自己を積極的に生かしていく意欲や態度を育てる。
- イ **いらいらや不安・悩みのアンケートを実施**して、資料化しておき、それを基に話し合わせる。

4 展開

| 時間 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 5分 | 1 いらいらや不安・悩みのアンケート結果を基に、その原因と解決法を考えることを確認する。 いらいらや不安・悩みの原因を探り、その解決法をみんなで考えよう |
| 展開 43分 | 2 アンケート結果をみて、同じ経験がないかを含めて感想を発表する。 ・みんなも何だかいらいらすることがあるんだ ・なぜこの時期はこんな悩みが生じるのだろう 3 アンケートAのいらいらも、見方を変えればアンケートBの不安や悩みであることを理解し、Bの不安や悩みについて考えていくことを確認する。 (1) Bの10項目の不安や悩みについて、班毎に話し合う項目の分担を決める。 (2) 班毎に、分担した項目についてブレインストーミング法で話し合う。 (3) 各班で話し合った項目毎の不安や悩みの原因と解決法について発表し、全体で確認する。 4 本時の活動を振り返り、自分の不安や悩みに対してどのように対処していくかを含めて感想を発表する。 |
| 終末 2分 | 5 中学生の心身の特徴について先生の話聞く。 ・中学生は、大人に向かって心身が急激に発達し、そこからくる不均衡で、精神的に不安定になりがちである ・自分で解決できない時は相談をする |

主な指導と援助

- A「中学生生活と進路」p.69の気持ちのチェック表でいらいらの状況を、B同じくp.70の「中学生のさまざまな悩み」で不安・悩みの状況をアンケート調査し、OHP等で提示する。それを基に活動のテーマを確認させる。
- 誰もが同じ思いをしたり、同じような経験をしていることに気付かせ、共感的に受け止めさせる（行為そのものは良いことではないが、そのようにしてしまうことがあるということ。）
- 思考能力**に関する工夫
→各自の行動の変化から心の変化に気付かせる
OHPやパソコンのスライドで、1番で示した資料Bに、資料Aを組み込んで示す。
- 「中学生生活と進路」p.70の「中学生のさまざまな悩み」に例示されている次の10項目を、各班に割り当てる。
①学習／②部活動／③運動／④友人との関係／⑤異性との交際／⑥家族との関係／⑦学校生活／⑧進路／⑨性格／⑩放課後の生活
- 問題解決能力**に関する工夫
→ブレインストーミング法による話し合い
成長の証として肯定的に捉えさせ、自分自身で解決する気持ちを大切にさせる。
ストレスを溜め込まないで適度に発散・気分転換をしたり、相談したりすることが大事であることに気付かせる。
- 感情統制能力**に関する工夫
→各自の不安や悩みに対する対処法の発表
心身の急激な変化に伴ういらいらや不安・悩みからくる中学生期の粗野な言動等は、成長の証ではあるが、他に危害を加えたり自暴自棄になることは決して許されないことを強調する。
また、不安や悩みに対して個別の相談を受けやすいように、プライバシーの保護や、相談に応じる教師集団の連携等について配慮することを説明する。

5 事後指導

- ・必要に応じて個別の相談を行う。
- ・いらいらや不安・悩みの調査結果や学習の様子を家庭にも知らせ、温かい励ましと援助をお願いする。

1年-36 題材名 「進路と将来設計」

1 目標

- ア 将来どんな生き方をしていきたいのか、どんな仕事をしていきたいのかを考え、主体的に進路計画を立てることができるようさせる。
- イ 職業に就くためには多様なコースがあり、自分に合ったコースを選ぶことができることを理解させる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：「20年後の自分」を考える。
- イ **意志決定能力**：自己を生かすために主体的に進路計画を立てる。
- ウ **情報選択能力**：インターネットで就きたい（興味のある）職業に就くまでのコースを調べる。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 「20年後の自分」について、いくつかの観点から考えさせる。
- イ いろいろな職業に就くまでの**進路コースを、インターネットで調べる方法を知らせる**（コンピュータ室を活用）。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | <p>1 将来の自分の生活が満足いくものになる上で大切なことはどんなことか考え、発表する。</p> <p>将来、どんな生き方や仕事をしたいかを考え、その仕事に就くためのコースを調べよう</p> |
| 5分 | |
| 展 | <p>2 これからの社会がどのようになると思うかを考える。</p> <p>・高度技術化 ・国際化 ・高齢化 ・情報化</p> <p>3 2番で考えたことを踏まえ、「20年後の自分」について、次の観点でワークシートに記入する。</p> <p>ア 職業と職場での生活 イ 家庭での生活 ウ 余暇の過ごし方 エ 地域での活動 オ その他</p> <p>4 班内で読み合って考えを広める。</p> <p>・みんな楽しい夢を描いていておもしろい</p> |
| 開 | <p>5 自分の就きたい職業、興味のある職業に就くためのコースを調べる方法を理解する。</p> <p>(1) 「中学生活と進路」p.76の図を参考に、一つの職業に就くにも様々なコースがあることを理解する。</p> <p>(2) 自分の就きたい（興味のある）職業に就くまでのコースをインターネットで調べる方法を理解する。</p> |
| 40分 | |
| 終 | <p>6 20年後の仕事に就くまでの進路設計の書き方の説明を聞いて、設計の見通しをもつ。</p> <p>・いつ、どこの学校や職場に入るか ・そこで何を学んだり、どんな仕事をするか</p> |
| 5分 | |

主な指導と援助

自由に発表させ、次のようなことを引き出す。
◎好きな仕事（自分に向いた仕事） ◎生き甲斐 等
ここでは、仕事や生き甲斐について漠然と出ればよいこととし、あまり深入りしない。

自由に発言させた後で、教師が説明する。
将来の生活を満足させるためには、自分の能力を生かすために、社会のニーズの変化を考える必要もあることを理解させる。

「20年後」に設定した理由は、生徒の年齢が33歳程になっており、大方が職に就いて働いているばかりでなく、家庭をもっている者も相当数あると想定され、夢を具体的に描きやすいと判断したためである。
生徒の実態や指導のねらいから、条件を設定するように留意する。

思考能力 に関する工夫
→「20年後の自分」を考えて記入

互いの良さを認め合い、批判をしないように留意させる。

コンピュータ室を利用して活動する。

複数の職業について調査し記入することができるように、ワークシートの記入欄は複数用意しておく。
利用するWebサイトとして、次のものを紹介する。
①進路指導net
②JOB JOB WORLD
③将来の仕事 なり方完全ガイド

情報選択能力 に関する工夫
→インターネットで職業に就くまでのコースを調べ方

インターネットで職業に就くまでのコースを調べ、その図に基づいて、実現までの具体的な時期や学校名、職場名等、そこの活動の概略を書き込むように指示する。

意志決定能力 に関する工夫
→進路設計の立案への見通し

5 事後指導

- ・職業に就くまでの様々なコースを放課後等に各自で調べさせ、それを掲示したり、冊子にまとめたりする。
- ・進路設計は、時間内に書き切れなかった場合は課題とする。

1年-37 題材名 「進路計画の必要性」

1 目標

- ア 将来の進路希望を実現させるためには、適切な進路計画が必要であることを理解させる。
- イ 進路計画は、必要に応じて、変更・修正していくべきものであることを理解させる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **問題解決能力**：進路計画の必要性について考える。
- イ **意志決定能力**：実用的な進路計画を作成し、進路選択に生かすよう決意する。
- ウ **情報選択能力**：進路希望の理由から、どんな時に進路計画の変更・修正が必要か気付く。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア **14・15**「私たちの将来の希望」の際の資料を振り返り、**進路希望変更の有無とその理由のアンケート**を実施し、資料化する。（「中学生活と進路」p.78を利用して理由を選択式にしてもよい。）
- イ **資料を基に話し合う**。場合によってはディベート形式で話し合うことも考える。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 進路希望の変化のアンケート結果から、進路計画の必要性について考えることを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 将来の夢の実現を図る上での、進路計画の必要性を考えよう </div> |
| 3分 | |
| 展 | 2 進路希望の理由についての資料を確認し、どんな時に変更が必要かを読み取る。 (1) 希望が変わった人の理由 (2) 希望が変わらなかった人の理由 3 進路計画の必要性について、班毎に話し合う。 (1) 進路計画の利点（計画がないと何が困るか）を考える。 (2) 進路計画の欠点（計画を生かすために何が大切か）を考える。 4 話し合った結果について、各班毎に発表し、全体で確認する。 ・見通しや目標をもつことで、着実に準備をしたり達成状況を確認したりできるので大切 ・実現を目指して、その時々で自分に合ったものに変更・修正していかないと意味がない |
| 開 | |
| 45分 | 5 3番の話し合いや4番の意見を参考にして、進路計画の必要性や活用についての自分の意見をまとめる。 |
| 終 | 6 先生の話聞いてまとめをする。 ・1年生段階では詳しく進路計画を立てることはしないが、計画自体は大切である ・絵に描いた餅にしないためにも、必要に応じて変更・修正する |
| 末 | |
| 2分 | |

主な指導と援助

- 前時の進路設計の学習を踏まえ、進路希望の変化の傾向（多い、少ない）と照らし合わせて進路計画の必要性について考えていくことを活動テーマとすることを確認する。
- 希望の変化の有無よりも、理由に注目させ、次の話し合いの根拠とさせる。
情報選択能力 に関する工夫
 →進路計画が必要になる理由の把握
- 話し合いを活発にするために、ディベートの手法を取り入れるのも一法であるが、その際は、「必要派」の意見が優勢になることを見通しておく。
問題解決能力 に関する工夫
 →進路計画の必要性についての話し合い
- 各班からの意見を、利点と欠点に分けて板書する。利点と欠点は表裏の関係にあり、学習計画等と同様に、活用すれば効果がでるが、そうでないと意味をなさないことに気付かせる。
- 進路の問題は長期にわたるものなので、そういう時こそ計画が必要であり、しかも実用性が必要であることを理解させる。
意志決定能力 に関する工夫
 →進路計画の必要性と活用についての考え
- 「卒業生からのメッセージ」の形で、計画をしっかりと頑張って努力していくことの大切さを紹介しても良い。

5 事後指導

- ・次時は、実際に進路計画を立てるので、各自の進路希望をもう一度確認させる。家の人ともしっかり話し合っていくようにさせる。
- ・希望理由等で個別に指導が必要な生徒への配慮をする。

1年-38 題材名 「進路計画の立て方」

1 目標

- ア 将来の進路希望を実現するための進路計画の立て方を理解させ、実際に計画を立てさせる。
- イ 計画に沿って進路の実現を目指して努力しつつ、様々な情報を得て計画を変更・修正していく心構えをもたせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：将来の進路希望の実現を目指した進路計画を立てる。
- イ **意志決定能力**：自己実現を図る努力をする。
- ウ **情報選択能力**：将来の進路希望の実現を目指した計画の立て方を理解する。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 具体的な**進路計画の立て方**を理解させ、実際に立てさせる。
- イ **進路計画の立案を行うためのフレーム**を用意する。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 前時の復習をし、進路計画を立てることの必要性を確認する。 進路計画の立て方を理解し、自分の進路計画を立てよう |
| 展開 | 2 進路計画を立てるためには、どんなことを考えたり、どんな情報を集めたりすることが必要かを考え、発表する。 ・その仕事の内容 ・どんな適性が必要か ・どのようにすればその仕事に就けるか 等 3 「中学生生活と進路」 pp. 80-81を例に、進路計画の立て方を理解する。 ・進路選択のための6つの段階に即して立てる ①将来の希望職業、②進路を決める目的、 ③自分の特色、④進路先の状況、 ⑤進路計画、⑥ 進路相談 |
| 展開 | 4 自分の進路計画を立てる ・これまでの進路の学習を踏まえて記入する ・特にも、進路計画の中の「計画立案」の項目は、前々時36の学習を生かして記入する |
| 46分 | 5 現時点で記入できない項目や不十分な項目には、ワークシートに印（★など）をし、今後の努力事項をワークシートの最後にまとめる。 ・適宜、周りの人達からアドバイスを受ける |
| 終末 | 6 先生の話聞く。 ・進路計画を記入することによって、明確になることがある ・今後、3年生までかけて少しずつ情報をつかみ、計画を変更・修正していく |

主な指導と援助

将来の進路の希望について家族と話をしてきたかを確認し、本時の活動テーマを提示する。
家族と話してこない場合は、今の自分の希望を優先して作業するように話す。

思いっくまま自由に発表させる。
意見が出にくい時は、具体的な職業を想起させて考えさせる。

この形での進路計画作りは、変更・修正を加えながら3年生まで継続していく。

情報選択能力 に関する工夫
→進路計画の立て方

「中学生生活と進路」 pp. 80-81を参考に、ワークシートを作成して配付する。
1年生なので、あまり詳しく記入できなくてもよいことに留意する。

思考能力 に関する工夫
→自分の進路計画の立案

今後の努力事項については、学習面だけでなく、生活面にも結びつけて考えるようにさせる。

意志決定能力 に関する工夫
→自己実現への努力

現時点で記入できる内容でも、時間的に記入できなかった事項は、課題として取り組ませる。

5 事後指導

- ・各自が作成した進路計画に目を通し、必要に応じてアドバイスをする。また、保護者にも見てもらう。
- ・最後は、これまでの関連資料と一緒に、ポートフォリオとして整理（ファイリング）し、次年度以降の指導に引き継いでいく。

1年-39 題材名 「学年の反省」

1 目標

- ア 1年間の中学校生活の反省を確実に行わせる。
- イ 2年生への課題を明確にさせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **感情統制能力**：不本意だったことも客観的に振り返る。
- イ **思考能力**：個人、学級、学校生活の各レベルで1年間を振り返り、2年生に向けての課題と心構えを考える。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 個人の生活の反省、学級、生徒会、学校行事、部活動の取り組みの反省を確実に行わせる。
- イ 個人の「**毎日の生活の記録**」や**年度初めに立てた目標**を用いて一年間を振り返らせる。

4 展開

| 経過 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 7分 | 1 個人の「毎日の生活の記録」を見返し、この1年間を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 中学校での1年間の生活の反省をし、課題を明確にしよう </div> |
| 展開 36分 | 2 年度初めに立てた個人目標を見返し、その時の決意を想起する。 3 2番を踏まえながら、各自でワークシートにしたがって反省を記入する。 ア 1年間で一番頑張ったこと イ 一番努力したこと ウ 私にとってのこの一年 エ 各項目毎の反省 ①学校での生活 ②友人とのこと ③教科・学習 ④総合的な学習の時間 ⑤行事の取り組み ⑥係・委員会活動 ⑦部活動 ⑧健康や安全（身体） ⑨家族の一員として 4 この1年で一番印象に残ったことを発表する。 ・文化祭や体育祭等の学校行事 ・遠足（宿泊研修）等の学年行事 ・部活動 等 5 各自が一番努力したことを発表する。 ・部活動、係活動 ・新しい教科の学習、総合的な学習 ・新しい友人との人間関係 等 |
| 終末 7分 | 6 2年生に向けての課題をまとめ、ワークシートに記入する。 ・生活や人間関係の面から ・学習の面から ・行事や諸活動の面から |

主な指導と援助

個人の「毎日の生活の記録」等の資料がないときは、学級日誌を用いて教師が読み上げる等の工夫をする。
 各自の「毎日の生活の記録」を見返すに当たっては、教師がリードし、行事を中心に振り返る。

ワークシートの「各項目毎の反省」については、「頑張ったこと・努力したこと・成果」と「反省・課題」をありのまま記入するように指示する。

思考能力 及び **感情統制能力** に関する工夫
 →ワークシートに基づいて1年間をありのまま反省

数名に発表させ、同じ意見の人は挙手または起立させる。
 みんなでやり遂げたこと、解決したことが共通の思い出になっていることに気付かせる。

数名に発表させ、友達の頑張りを認めていく気持ちをもたせる。

3番で反省した内容を、生活・人間関係、学習関係、行事や諸活動への取り組み関係等に分類し、中でも特に改善、努力していく事項をまとめさせる。

思考能力 に関する工夫
 →2年生に向けての課題の記入

5 事後指導

- ・「私にとってのこの一年」や「2年生に向けての決意」は原文を通信等で紹介したり、学年代表の学年末の挨拶に反映させたりする。
- ・「1年間で一番頑張ったこと」「一番努力したこと」は集約して通信等で紹介する。

1年-40 題材名 「中堅学年への抱負」

1 目標

- ア 1年間の反省を踏まえ、新たな気持ちで2年生の学校生活を迎える心構えをもたせる。
- イ 先輩としての言動のあるべき姿を考えさせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **人間関係能力** : 2年生での課題の改善策を検討し合い、信頼関係を深める。
- イ **問題解決能力** : ㊸2年生に向けて、具体的に、どこをどう改善するか考える。㊹先輩として、後輩にどう接し援助していくか考える。
- ウ **意志決定能力** : 中堅学年に向けて新たな決意をもって春休みを迎える。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 前時に取り組んだ1年間の反省の上に、2年生に向けて具体的な目標や決意をもたせる。
- イ 1年間の**中学校生活で困ったことや悩んだこと、入学時の作文を基にして、先輩としての心構え**を考えさせる。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 3分 | <p>1 前時の復習を踏まえ、2年生に向けての心構えを考えることを確認する。</p> <p>1年間の反省を踏まえ、中堅学年を迎える上での心構えをつくろう</p> |
| 展開 42分 | <p>2 前時の「2年生に向けての課題」について、2年生での各自の具体的な改善の方策を考えてワークシートに記入する。</p> <p>3 班の中で互いに改善策を見合い、それぞれの考えに対して意見交換をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すばらしい改善策に対する評価と賞賛 ・改善策をもっと効果的で充実したものにするためのアドバイス ・改善策の実行に向けての激励 <p>4 上級生（中堅学年生）としての心構えについて考える。</p> <p>(1) ワークシートの「上級生として」の欄に、この1年間で困ったことや悩んだこと、入学時の作文に書いた先輩のすごさや素晴らしさを各自で記入する。</p> <p>(2) 班毎に記入した内容を確認し、先輩として好ましい助言や援助をしていくために、どういう心構えが必要か話し合う。</p> <p>(3) 各班で話し合った結果を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に下級生の手本となる言動をとる |
| 終末 5分 | <p>5 中堅学年となる上での各自の心構え・抱負をワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題克服の具体策を必ず実行し、改善する ・先輩として恥ずかしくない言動をとる ・自分達が困ったことを後輩に繰り返させない |

主な指導と援助

- 前時のワークシートを配付する。
中堅学年に向けて、課題をどのように解決していくか、先輩としてどんな心構えが必要かを考えることを、本時の活動テーマとして確認する。
- 課題点について、どこをどう改善するか具体的に考えさせる。
問題解決能力㊸ に関する工夫
→2年生での改善策の記入
- 互いの改善策を認め合うとともに、みんなで検討することで個人では考えつかなかった改善策を考え出させ、しっかり実行していこうとする決意をもたせる。こうした活動をとおして信頼関係を深めさせる。
人間関係能力 に関する工夫
→各自の改善策を検討し合う活動
- 記入の観点として、①登下校、②学校生活、③学習（勉強）、④生徒会活動、⑤行事関係、⑥部活動等を準備する。
自分が困ったことや悩んだこと、入学時に感じた先輩のすごさや素晴らしさを中心に記入し、すべての観点について記入する必要はないことを告げる。
- 各自から出された事柄を尊重し合うとともに、それらへの対処法のアドバイスをどうするか具体的な案を考える中で、先輩としての心構えをまとめるように指示する。
- 各班から出された事柄を板書する。
学習や学級のことだけではなく、学校全体や生徒会、部活動における2年生の立場を自覚するように留意させる。
問題解決能力㊹ に関する工夫
→先輩としての心構え、具体的行動
- 春休みの計画表を配付し、その目標欄に記入させることも考えられる。
意志決定能力 に関する工夫
→中堅学年となる上での各自の心構え・抱負

5 事後指導

- ・各自の心構えや抱負を、通信等で紹介する。また、春休みの計画表作成に生かす。
- ・ワークシートはポートフォリオとして整理し、2年生に引き継いで指導に生かす。

第2学年のガイダンスの機能を生かした単位時間の学級活動の指導計画案 《目次》

| 月 | 主な行事 | 第2学年 | | | 頁 |
|----|------------------------------------------------------------|--------------------------|----|---|---------------------|
| | | 題材名 | 適応 | | |
| 4 | ・始業式 ・入学式 ・生徒会オリエンテーション ・3年修学旅行 ・応援歌練習 ・体育祭 | 1 2年生になって | ◎ | | 5 5 |
| | | 2 学級目標を決めよう | ○ | | 5 6 |
| | | 3 4 学級組織作り | ○ | | 5 7 |
| | | 5 選択教科で自分を伸ばそう | | ◎ | 5 8 |
| | | 6 体育祭に向けて | ◎ | ○ | |
| | | 7 | | | |
| 5 | ・生徒総会 ・中間テスト | 8 自分を高める学習 | ○ | ◎ | 5 9 |
| | | 9 | | | |
| | | 10 | | | |
| 6 | ・地区中総体 ・期末テスト | 11 | | | |
| | | 12 人はなぜ働くのか | | ◎ | 6 0 |
| | | 13 人はなぜ学ぶのか | ○ | ◎ | 6 1 |
| 7 | ・県中総体 ・期末面談 ・終業式 | 14 一学期の学級反省 | ○ | | 6 2 |
| | | 15 一学期の学年反省 | ○ | | 6 3 |
| | | 16 夏休みの生活設計 | ○ | | 6 4 |
| 8 | ・始業式 ・地区陸上大会 | 17 夏休みの収穫 | ○ | | 6 5 |
| | | 18 二学期の計画 | | ◎ | 6 6 |
| 9 | ・地区新人戦 ・中間テスト | 19 ボランティア活動 | | ○ | 6 7 |
| | | 20 職業とは何か | | ○ | 6 8 |
| | | 21 職業の内容の調査 1 | | ○ | 6 9 |
| 10 | ・生徒会立会演説会 ・県新人戦 ・文化祭 | 22 職業の内容の調査 2 | | ○ | 7 0 |
| | | 23 文化祭の取り組み | ◎ | ○ | |
| | | 24 | | | |
| 11 | ・県新人戦 ・（総合「発表会」） ・期末テスト | 25 学ぶ制度の調査 | | ◎ | 7 1 |
| | | 26 中学校卒業後の学ぶ道 | | ◎ | 7 2 |
| | | 27 自分の力を高める | ○ | ◎ | 7 3 |
| 12 | ・学期反省 ・期末面談 ・終業式 | 28 | | | |
| | | 29 二学期の反省 | ○ | | (一学期末の反省を準用してください) |
| | | 30 冬休みの生活設計 | ○ | | (夏休みの生活設計を準用してください) |
| 1 | ・始業式 | 31 冬休みの反省と新年の決意 | ◎ | | 7 4 |
| | | 32 修学旅行の準備 | | ○ | |
| 2 | ・期末テスト ・生徒総会 | 33 自分の適性 | ○ | ◎ | 7 5 |
| | | 34 適性を生かす進路を選ぼう | | ◎ | 7 6 |
| | | 35 進路計画の立案 1 | | ◎ | 7 7 |
| 3 | ・公立高校入試 ・修了式 ・卒業式 | 36 進路計画の立案 2 | | ◎ | 7 7 |
| | | 37 私の通知表 | ◎ | | 7 8 |
| | | 38 最高学年への心構え | ◎ | | 7 9 |

「注」◎印は、適応や選択にかかわりの深い題材、○印は、適応や選択にかかわりのある題材

2年-1 題材名 「2年生になって」

1 目標

- ア 2年生としての生活を始めるに当たり、新たな希望を描かせ、一層充実した生活を送ろうとする態度と心構えをもたせる。
- イ 2年生としての希望や抱負を相互に伝え合わせることによって相互理解の輪を広め、各自が目標をもち、その達成のために全力を尽くそうとする意欲をもたせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **人間関係能力**：新しい級友とのコミュニケーションを積極的にとり、相互理解の輪を広め、一層深める。
- イ **感情統制能力**：新しい学級や友達関係への不安を取り除く。
- ウ **思考能力**：2年生としての希望や抱負をもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 2年生は**新しい自分を作るチャンス、自分を変える再スタート**であることを強調し、希望や抱負を大切にさせる。
- イ **2年生の生活の流れを理解させ**、2年生の生活での具体的な希望や抱負をもたせる。
- ウ 各自の希望や抱負を**ゲーム形式の活動**で伝え合い、和やかな雰囲気の中で相互理解を深めさせながら、希望や抱負を生かすための学級目標作りや学級組織作りに意欲的に取り組む決意をもたせる。

4 展開

| 経過 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 始業式や入学式を終え、2年生になった感想を発表する。 各自の2年生にかける希望や抱負を語り合い、力強いスタートを切ろう |
| 5分 | |
| 展 | 2 担任の先生の願いを確認する。 ・学級開きの際の、担任の先生の方針を再確認する |
| 3 | 3 行事や活動を中心にして2年生での学校生活の大きな流れを理解し、それらに対する希望や抱負をもつ。 (1) 1年生での経験を踏まえ、2年生ではどのような学校生活を送るのかを発表し合う。 (2) 2年生での生活に対する自分の希望や抱負をはっきりさせる。 |
| 開 | 4 生徒同士で、2年生の生活に対する希望や抱負を伝え合う。 ・[希望・抱負伝言ゲーム]のやり方の説明を受けてから活動を行う |
| 40分 | |
| 終 | 5 本時の活動の感想や、みんなの希望や抱負を聞いての自分の決意を発表する。 ・新しい級友と打ち解けた ・自分の希望や抱負の実現に向けて全力を尽くす ・級友と共に学級の活動がんばる |
| 5分 | |

主な指導と援助

5～6名に発表してもらい、新しい学年の生活への希望や期待と、新しい人間関係への若干の不安があることを浮き彫りにする。
そして、各自の希望や抱負を伝え合い、相互理解を深めながら、みんなで目標の達成や充実した2年生の生活のスタートを切るための活動することをテーマとして確認する。

新しい自分を作るチャンス、自分を変える再スタートである（過去は問わず、これからの言動を見ていく）こと、中堅学年としての立場と役割を自覚した言動を期待することを確認する。

できるだけ多くの生徒に発表の機会を与え、多種多様な行事や活動を挙げさせる。
挙げられた行事や活動は、年間の流れがわかるように黒板に整理する。
年度途中で学校の最高リーダーの立場に切り替わっていくことを理解させる。

思考能力に関する工夫

→ **2年生での生活の流れを基にした希望や抱負の明確化**

[希望・抱負伝言ゲーム]の進め方
・決められた時間内で、男女を問わずできるだけ多くの級友と希望や抱負を伝え合い、握手をする。
・教師は計時を行い、あわせて和やかな雰囲気になるように配慮する。

人間関係能力や**感情統制能力**に関する工夫

→ **希望・抱負伝言ゲーム**

級友との関わりの中で感じたこと、考えたこと、今後に生かしたいことを振り返らせる。

5 事後指導

- ・本時で考えた2年生での生活に対する希望や抱負を、次時の学級目標設定の活動に生かす。

2年-2 題材名 「学級目標を決めよう」

1 目標

ア 「こんな学級がいい」という共通理解を図らせ、集団の一員としての自覚をもって望ましい学級作りをしていくための「学級目標」を設定させる。

イ 中堅学年としての立場と役割を自覚させ、学級集団の連帯や向上を図らせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

ア **思考能力**：こんな学級にしたいという願いや考えをもつ。

イ **問題解決能力**：みんなの願いを基に、どんな学級をつくるのか話し合い、自主的に学級目標を決める。

ウ **意志決定能力**：2年生での目標達成に向けて、全力を尽くす決意をもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

ア 事前に「こんな学級がいい！」のカードに各自の思いや願いを書かせ、それを**集計した結果を配付**しておき、よく読んで話し合いに臨むようにさせる。

イ 学級目標は学級生活のよりどころとなるものであるから、具体的で評価が可能なものになるようにさせる。

ウ 司会は、教師の事前指導を受けた生徒（仮議長）に行わせる。資料の準備は教師が行う。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 5分 | 1 「こんな学級がいい！」のアンケート集計を確認し、活動のテーマを知る。 みんなの願いを反映させた「学級目標」を作ろう |
| 展開 42分 | 2 学級目標作りにあたっての留意点や担任の先生の願い及び活動の進め方についての説明を聞く。 ・具体的で評価が可能なもの ・担任方針あいさつ内容の再確認 ・学級目標作りの活動の進め方 3 学級目標作りの活動をする。 (1) 数人ずつの任意のグループに分かれ、「こんな学級がいい！」のアンケート集計を基に、グループとしての学級目標の案を考える。 ・各グループの案とその理由 (2) 各グループからの案を基に話し合い、学級目標を決定する。 ・各グループからの案に対する質疑 ・各グループからの案の整理統合や修正 ・学級目標の決定 |
| 終末 3分 | 4 活動を振り返っての感想や決定した学級目標に対する感想を発表する。 ・みんなの意見や願いが込められた ・学級や自分の進むべき道がわかる ・学級組織決めも積極的にを行う |

主な指導と援助

アンケート集計結果から、学級のみんながおおよそどのような願いをもっているかを確認し、みんなの願いを反映させた学級目標を作ることを活動テーマとする。

思考能力に関する工夫

→「こんな学級がいい！」のアンケート集計

学級目標は学級生活のよりどころとなるものであるから、具体的で評価が可能なものになるようにさせる。
学級開きでの担任方針あいさつ内容を振り返らせ、担任の願いを確認する。
グループごとに話し合っ案を作り、それを全体でまとめていくことを確認する。
司会は、生徒（仮議長）が行う。

グループは、座席をみながら数名で適宜編制する。司会と発表者も適宜指定する。
その案を考えた理由についても発表できるように準備させる。

問題解決能力に関する工夫

→グループでの話し合い

各グループから出された案に対し、本時の活動テーマや「具体的で評価が可能なもの」という観点からの質疑をとおして案の整理統合や修正を行い、全員で一つの形にしていく。

問題解決能力 や意志決定能力に関する工夫

→全員での話し合い

学級目標作りの活動の経過と、自分及び級友の言動を振り返っての感想や、決定した学級目標の下での学級や自分のあるべき姿について考えさせ、発表させる。
次の学級組織作りの活動につなげる。

思考能力に関する工夫

→感想や気持ちの発表

5 事後指導

- ・生徒各自の「こんな学級がいい」のアンケート集計結果や、決定された学級目標を、通信等で紹介する。
- ・決定された学級目標を教室正面に掲示し、折に触れて学級目標に込められた願いを確認させる。

2年-3・4 題材名 「学級組織作り」 (2時間扱い)

1 目標

- ア 「学級目標」に沿った学級作りをするための学級組織の在り方(学級経営の基盤であり人間関係を円滑にする基盤となる学級組織の在り方)を考えさせ、生徒会活動との関連を踏まえながら、活発に活動できる学級組織を作らせる。
- イ 組織は、構成員の協力がなければ機能しないということを認識させ、責任をもって役割を遂行しようとする意欲をもたせる。

2 ガイダンスの機能(適応)にかかわる能力

- ア **問題解決能力** : みんなの願いを基に、どんな学級をつくるのか話し合い、自主的に学級組織を決める。
- イ **意志決定能力** : 中堅学年として集団活動に積極的に取り組み責任を果たす決意をもつ。

3 指導上の工夫(留意点)

- ア 学級目標決定後に、自分がやってみたい役職を考えさせておく。その際、学級目標のねらいを踏まえさせる。
- イ 個々の生徒が思いやりと責任をもって活動しようとする雰囲気を作る。また、特定の生徒の孤立や排斥行為などがないように留意する。
- ウ 司会は、教師の事前指導を受けた生徒(仮議長)に行わせる。資料の準備は教師が行う。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 10分 | <p>1 学級目標とその願いを踏まえ、その実現を目指す学級組織を作ることを確認する。</p> <p>「学級目標」を実現していくために個々の願いが反映された学級組織を作ろう</p> |
| 展開 85分 | <p>2 学級組織作りに当たっての留意点を確認し、進め方について決定する。</p> <p>(1) 学級組織作りに当たっての留意点について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒会とのかかわり ・学年生徒会とのかかわり <p>(2) 学級組織作りの進め方について決定する。</p> <p>ア 役員決定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決める役職の順番 ・候補者の擁立と決定の仕方 ・候補者が重複した場合の決定の仕方 <p>イ 班や当番の決定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班の構成と班員の決定の仕方 ・座席の決定の仕方 ・清掃区域や給食当番の割当の仕方 <p>ウ 係活動の決定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な係の種類 ・係員の決定の仕方 |
| 85分 | <p>3 学級組織作りの活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級組織作りに当たっての留意点や進め方に沿って決定する |
| 終末 5分 | <p>4 決定した学級組織を確認し、組織の中での自分の役割について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織が機能するように責任を果たす ・学級目標の達成に向けてみんなと協力して活動する |

主な指導と援助

学級目標を全員で復唱し、それに込められた願いを確認する。学級目標を実現するための学級組織はどうあればよいかをグループで考えさせ、発表させる。

問題解決能力 に関する工夫

→グループでの話し合い

学級で選出すべき役員や委員などが全校や学年の組織とどのようにかかわっているかを示した組織図を用意し、それに沿って確認する。
役員や委員などが決定したら、組織図を拡大し、それに役員や委員名を書き添えて(短冊を作って貼り付ける)学級掲示に生かす。

話し合いによって、学級組織作りの進め方について決定していく。
司会は、生徒(仮議長)が行う。
話し合いをとおしてみんなが共通理解することによって協力が生まれ、守られていくことを確認する。

役員決定については、組織図を基にしながら考えさせる。候補者の擁立については、事前にやりたい役職を考えさせているので、意欲を優先し立候補を原則に進めるように導く。

意志決定能力 に関する工夫

→立候補を原則とすること

係活動の決定については、生徒の意見やアイデアを学校の教育活動の中で最大限尊重することによって意欲をもたせ、活動を活発にさせる。

問題解決能力 に関する工夫

→係活動のアイデア

問題が生じた際は、その都度話し合いによって解決する。

問題解決能力 に関する工夫

→話し合い活動

希望とは異なった役割であっても、集団の一員としての立場を自覚し、明るく楽しい学級となるように活動する決意をもたせる。

意志決定能力 に関する工夫

→自己の考えや気持ちをまとめる作文

5 事後指導

- ・組織図を拡大し、それに役員や委員名を書き添えて(短冊を作って貼り付ける)学級掲示に生かす。
- ・決定した役員や委員・係等を、通信等で紹介する。

2年-5 題材名 「選択教科で自分を伸ばそう」

1 目標

- ア 選択教科のねらいを確認させ、自校の2年生での選択教科の種類や授業時数などについて知らせて選択教科への関心を高める。
- イ 2年生での選択教科の選択の仕方について理解させるとともに、自分の興味・関心にあわせて適切な選択を行い、意欲的に取り組もうとする態度を養う。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：選択の理由を自分で考える。（体験期間を通して自分にあった選択をする。）
- イ **問題解決能力**：選択に迷った際は、より多くの情報を求め、教育相談を受ける。
- ウ **意志決定能力**：将来の生き方を考えながら、個性の伸長を目指して選択教科を選択する。
- エ **情報選択能力**：選択教科のねらいや教科の種類、授業時数などから、選択の可能性をとらえる。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 学年合同での学級活動とし、**選択教科担任の協力を得ながら**選択教科の学習のあらましを理解させ、選択の可能性（幅）を広げさせる。
- イ 選択の考え方の例として、**3年生の先輩の体験談を生かし、それを基にグループ討論する。**

4 展開

| 時間 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 5分 | 1 2年生の選択教科のあらましを知り、選択の仕方について考えることを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 選択教科のあらましと、適切な選択の仕方について知ろう </div> |
| 展 開 38分 | 2 選択教科のねらいと、自校の2年生での選択教科の種類や授業時数、選択の仕方などについて、教務主任の先生の説明を聞く。 ・選択教科のねらい ・選択教科の種類と授業時数、教科担任 ・選択の上での留意点 ・選択教科決定の手順 3 各選択教科の学習内容や学習方法、必要な経費や物品などについて、教科担任の先生からの説明を聞く。 ・学習内容や学習方法 ・必要な経費や物品 ・適正人数 4 3年生の先輩の体験談を聞く。 ・選択教科の選択の理由 ・その選択教科を学んでの感想 5 選択教科の説明を聞いて、選択教科を有意義にするためにどのようなことに留意すればよいかについて、グループ討論する。 ・どうしても迷った場合は教育相談 |
| 終 末 7分 | 6 どんな考えでどの教科を選択するかを、各自でまとめる。 ・希望する教科とその理由・決意 （第二希望まで） ・選択に当たっての要望 |

主な指導と援助

1年生の時の選択教科の選択で、よかったことやよくなかったことを出し合う。
 2年生の選択教科の選択に当たって、よりよい選択の在り方について考えることを、活動テーマとすることを確認する。

学年の学習担当の先生が司会する。
 選択教科の開設状況については、2年生のものだけでなく、3年生の例もあわせて資料を用意し、来年度への見直しをある程度もたせる。
 選択教科申込用紙の記入の仕方と共に、決定までの手順についても説明する。
 状況によっては第一希望通りにならないこともあること、正式決定までの間に2単位時間程度試行機会をおくことや随時教育相談を行うことを付け加えておく。

「選択教科」の関連資料

すべての選択教科の概要を一覧表にした資料を用意し、それに沿って説明する。
 教科担任の先生が、独自に資料や授業風景などの写真を用意して説明してもよい。

情報選択能力 に関する工夫

→教科担任の協力

生の声で体験談を聞かせることができない場合は、録音しておいて聞かせる。
 開設されているすべての選択教科について聞かせる。

情報選択能力 に関する工夫

→先輩の体験談

興味・関心の拡大、個性の伸長、将来の生き方との関連などの視点に気付かせる。
 不適切な例から考えることも示唆する。

問題解決能力 に関する工夫

→選択の在り方についてのグループ討論

選択教科の選択について、自分の考えや気持ちを整理し、選択教科申込用紙にまとめさせる。

思考能力 や意志決定能力 に関する工夫

→自己の考えや気持ちをまとめる作業

5 事後指導

- ・正式決定までの間の試行機会や、随時の教育相談を利用し、より適切な選択をさせる。

2年-8 題材名 「自分を高める学習」

1 目標

- ア これまでの学習の取り組みを振り返らせ、各自の学習の悩みや不安を明確にし、それを克服して学校や家庭での日々の学習の効果をより一層上げる方法を考えさせる。
- イ 多くの人の学習方法や工夫を知り、自分に合った効果的な学習方法を考えることで、意欲的に学習に取り組む態度を育てる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **感情統制能力**：学習上の悩みや不安について客観的にとらえる。
- イ **問題解決能力**：学習の悩みや不安の解決で、どうすれば効果が高まり成果が上がるかを考える。
- ウ **意志決定能力**：解決策に基づいて信念をもって学習に取り組む。
- エ **情報選択能力**：級友の体験などから不得意教科や学習上の悩みの解決方法を取り入れる。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア **学習の悩みに関するアンケート**を行い、学習への取り組み状況や学習上の悩み・不安についてまとめておく。
- イ **先輩や級友から、学習方法の成功例や失敗例を聞き取り調査**し、資料とする。

4 展開

| 時 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 学習の悩みについてのアンケート結果を確認し、活動のテーマを知る。 学習についての悩みを出し合い、その解決策や効果的な学習方法を考えよう |
| 3分 | |
| 展開 | 2 「 悩み相談会 」を開いて悩みを出し合い、その解決策を考える。 (1) アンケート結果から共通する悩みのテーマを三つ程度に絞る。 (2) 班毎に、悩みのテーマに対する解決法を話し合う。 (3) 悩みのテーマ毎に、各班で話し合った結果を発表する。 (4) 班の中で、各自が悩みを話し、他の人が解決法を答える。 (5) 各班で解決策が見つからないものを書き出す。 (6) 学級全体で意見を出し合う。 (7) 先生からのアドバイスを聞く。 |
| 40分 | 3 不得意教科を克服し、学習を効果的に行うにはどうすればよいかを考える。 (1) 不得意な原因について各班で話し合い、共通する原因がないか考える。 (2) 教科毎の効果的な学習方法について、事前にまとめておいた資料を基に考える。 |
| 終末 | 4 本時の活動を振り返り、自分自身の学習の悩みをどのように解決していくか、不得意教科を克服し効果的な学習にするためにどのようにしていくかをまとめる。 ・無理なく継続して実行できるものを考える |
| 7分 | |

主な指導と援助

アンケート結果から、学習に関する悩みは、誰もがもっていることであり、しかも多様であることを把握させ、学習上の悩みの解決方法や効果的な学習方法について考えることを活動テーマとすることを確認する。

学習の悩みに関するアンケート

不得意教科の克服法については、後半で共通に考えるので、テーマからはずしておく。

司会者と記録者、発表者を決めて相談会を進める。各自が自分の考えを必ず述べるようにする。

一人一人の悩みの相談に乗り、真剣に考えてあげるのが本時の活動の中心であるので、(4)の時間を十分に確保する。場合によっては、(1)のテーマを、各班に割り当てて(2)(3)の時間を短縮する。

感情統制能力 に関する工夫

→自分の学習上の悩みの表明

問題解決能力 に関する工夫

→班や学級での話し合い

学級全体でも良い考えが見つからない場合は、教師のアドバイスでフォローする。

原因が自分以外にあると責任逃ればかり考えないように、自分をしっかり見つめさせる。学習の仕方に、ムリ・ムダ・ムラがないか考えさせる。

情報選択能力 に関する工夫

→先輩や級友からの学習方法の成功例や失敗例

将来の夢の実現のためにも努力しなければならないことであることに触れ、実行への決意を高める。実行できなければ意味をもたないことを踏まえさせ、自分を伸ばすために自分にできる具体的な方法を考えさせる

意志決定能力 に関する工夫

→自分の学習の悩みの解決法と効果的な学習方法

5 事後指導

- ・教科担任とも連携し、個別の相談時間を確保する。
- ・効果的な学習方法や各自のまとめは、進路コーナーや通信等でも紹介する。

2年-12 題材名 「人はなぜ働くのか」

1 目標

- 1年「働く人びとの仕事と考え」で学習
- ア 「職業の三要素」について復習し、働く目的について考えさせる。
 - イ 将来、どんな考えや態度で働いたらよいかを考えさせ、望ましい職業観や勤労観の基礎を培い、職業的・社会的自己実現を目指させる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：自分は将来どんな考えや態度で働いたらよいかを考える。
- イ **意志決定能力**：将来、どんな態度で働くか、どんな生き方をするかの方向性を考える。
- ウ **情報選択能力**：職業の要素を知り、自分の生き方を照らし合わせる。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 事前に「**職業を選ぶ基準アンケート**」を実施し、資料化しておく。
- イ 人は何のために働くのか、「生き方」について**パネルディスカッション方式**で考えさせる。（事前指導が必要）

4 展開

| 経過 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 「 職業を選ぶ基準 」のアンケート結果を確認し、活動のテーマを知る。 人は何のために働くのだろうか、「 職業を選ぶ基準 」についてみんなで考えよう |
| 3分 | |
| 展開 | 2 テーマについての話し合いの方法と目的について、先生からの説明を聞く。 ・パネルディスカッション ・視野の拡大と職業観や勤労観の基礎作り |
| | 3 パネラーの主張（職業選択の基準として一番に価値を置くこととその理由）を聞く。 |
| | 4 各パネラーの主張を聞いて感じたことを、ワークシートに記入する。 ・「なるほど」「そうか」と思ったこと ・「自分の考えとは違うな」と思ったこと ・質問したいこと・聞きたいこと |
| 開 | 5 各パネラーに、質問をする。 ・A～Eの全員に質問し、意見交換する |
| 40分 | 6 意見交換を基に、自分の「 職業を選ぶ基準 」の順位を検討し、ワークシートに記入する。 |
| | 7 先生から、1年生で学んだ「 職業の三要素 」の復習と併せて、職業観や勤労観についての説明を聞く。 |
| 終 | 8 本時の学習の感想を、「 職業の三要素 」を踏まえて、ワークシートに記入する。 ・自分の能力を生かしたい ・社会的な貢献をしたい ・多くの収入を得たい |
| 7分 | |

主な指導と援助

アンケート結果から、「**職業を選ぶ基準**」は多様であることを把握させ、人は何のために働くのかをより深く考えることを活動テーマとすることを確認する。

「職業を選ぶ基準」アンケート

事前にパネラーを選出し、リハーサルしておく。どの考えが良いか悪いかという優劣を考えるのではなく、さまざまな意見に触れて、職業に対する視野と考えを広めることに留意させる。

- 各パネラーの職業選択の基準は、次のとおりとする。
- A：収入が多くて、豊かな生活ができる
 - B：社会的な地位や名声が得られる
 - C：社会や人のためにつくせる
 - D：自分の個性や能力を生かせる
 - E：安定してゆとりがある

情報選択能力に関する工夫

→各パネラーの主張から感じたことをまとめる活動

自分自身の判断で検討・決定し、自己の変容を確認させる。

思考能力に関する工夫

→「**職業を選ぶ基準**」の順位をワークシートに記入

職業選択の基準A～Eは、すべて「**職業の三要素**」でくくられることを確認する。職業観・勤労観は多面的であり、それぞれが真理の側面であること、自分の「**生き方**」と結びつけて考えていくことが大切であることに気付かせる。

自分の希望する職業や夢と照らし合わせて考えさせる。

意志決定能力に関する工夫

→活動後の各自の職業観や勤労観をワークシートに記入

5 事後指導

- ・身近なところで働く人々の考えを聞く。
- ・本等で、自分の考える「**職業選択の基準**」に合う職業を探す。

2年-13 題材名 「人はなぜ学ぶのか」

1 目標

- ア 「自分は何のために学んでいるのか」について、級友との話し合いを基にして、勉学や進学目的及び生涯学習について多面的に理解させる。
- イ 「自分が勉強する理由」を考えさせる過程で、自分の勉学観や生き方・在り方への関心を高める。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **意志決定能力**：将来、どんな態度で働くか、どんな生き方をするかの方向性を考える。
- イ **問題解決能力**：学ぶ目的を、将来の生き方や在り方と関連付けて考える。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 「私が勉強する理由」に関する各自の意見を基にした話し合いを通して、生涯学習の心構えを作らせる。
- イ 生涯学習の場で学んでいる人々へのインタビューを紹介し、望ましい勉学観と生涯学習の心構えをつくらせる。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 「私が勉強する理由」のアンケート結果を確認し、活動テーマを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">人は何のために学ぶのか、「学習の目的」についてみんなで考えよう</div> |
| 展開 | 2 テーマについての話し合いの方法と目標について、先生からの説明を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ジグソー学習 ・一人一人が責任をもって話し合いに臨む |
| 展開 | 3 「学習の目的」についてジグソー学習をする。 (1) 最も重要だと考えた項目毎にグループを作り、理由を話し合い、結論をまとめる。 (2) 重要でないと考えた項目毎にグループを作り、理由を話し合い、結論をまとめる。 (3) 生活班に戻って個々のグループで話し合われた内容を発表し合い、情報を共有する。 (4) 先生からのアドバイスを聞く。 |
| 展開 | 4 生活班に戻り、仲間との情報交換をする中で「学習の目的」についてより深く考えたことをまとめる。 |
| 展開 | 5 生涯学習の場で学んでいる人達の、学習に対する考えのインタビューを聞く。 |
| 終末 | 6 本時の活動を振り返り、今自分が中学校で学ぶことの目的や意味を考えまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の将来の希望を叶えるため ・自分を伸ばし豊かな人生を送るため ・次の世代を築く一員としての力をつけるため |

主な指導と援助

アンケート結果から、級友の「勉強する理由」は多様であることを把握させ、人は何のために学習するのかをより深く考えることを活動テーマとすることを確認する。

「私が勉強する理由」アンケート

ジグソー学習では、一人一人が、いくつかのカウンターパートセッション(3の(1)(2))で話し合われた情報を、確実にジグソーセッション(3の(3))の中で伝えなければならないことを理解させる。

出された意見を、ワークシートに簡単にメモさせながら、話し合わせる。

班長に司会させ、3の(1)、(2)で出された意見を、班員全員に発表させる。
 班員は、発表された意見の中から「なるほど」と思ったこと等をメモしながら聞く。

学ぶことの目的や意味について、従前からの考えにとらわれずに柔軟に考えさせる。

問題解決能力に関する工夫

→情報交換を経た上での「学習目的」についての考え

社会の変化や個人の夢の変化等によって、実社会に出て学ぶ必要があること、そうした場で学んでいる人の学習に対する考えから学ぶべき点について留意させる。

生涯学習の場で学んでいる人々へのインタビュー

学ぶことの目的や意味を、将来の自己実現に結び付けながら、多面的に考え、中学校の学習の大切さについてまとめさせる。

意志決定能力に関する工夫

→中学校で学ぶことの目的や意味を生き方と関連させる

5 事後指導

- ・授業後の感想を、通信等で紹介し、家庭からもそれらに対する意見や感想をもらう。
- ・身近な人からも、「学ぶことの目的や意味」についての考えを聞き取りさせる
- ・生涯学習の場で学んでいる人々に対して、学んでの感想を添えてお礼の手紙を出す。
- ・身近な地域に、社会に出てからも学べる場や機会があるか調べる。

2年-14 題材名 「一学期の学級反省」

1 目標

- ア 一学期の学級の活動、班の活動を振り返り、成果と課題を明確にして、夏休みと二学期の生活につなげる。
- イ よりよい学級の姿を目指して話し合う。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **思考能力**：一学期の学級の活動、班の活動を振り返り、成果と課題を明らかにする。
- イ **問題解決能力**：課題を解決し、よりよい学級にするための方策を考える。
- ウ **意志決定能力**：話し合いの決定事項を、二学期の生活で達成させるよう決意する。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 学級目標の願いに基づいて振り返らせる。
- イ 学級の諸活動の反省、班活動の反省を行い、**学年集会の議案にまとめさせる。**

4 展開

| 時間 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 一学期の学級での生活を振り返って、思い出や感想を述べ合い、活動テーマを確認する。 一学期の学級及び班の活動の成果と課題を明らかにして、夏休みや二学期につなげよう |
| 展開 | 2 学級活動の振り返りのワークシートに従って、班毎に一学期の取り組み状況話し合う。 ・生活面、学習面、行事面の成果と課題 |
| | 3 各班で話し合われた結果を発表し合い、学級としての意見にまとめあげる。 (1) 挙げられた成果を確認し、讃え合う。 (2) 挙げられた課題点から、学級全体の課題として取り上げるものを確認する。 ・学習面、生活面、行事面の課題 |
| | 4 課題点を踏まえ、学級として二学期にどのようにしていくのかを、班毎に話し合う。 |
| | 5 各班で話し合われた結果を発表し合い、学級としての意見にまとめあげる。 ・学習面、生活面、行事面の方向性 |
| | 6 各班毎に、一学期の自分達の班の活動を振り返り、反省用紙に記入し発表する。 ・活動の成果と課題 |
| 開 | 7 他の班から出された課題について、学級として二学期にどのようにしていくのかを、班毎に話し合う。 |
| | 8 各班で話し合われた結果を発表し合い、学級としての意見にまとめあげる。 ・各班の二学期の方向性 |
| | 9 話し合ったことを基に、二学期に向けてみんなが学級を高めていくことを確認し合う。 ・二学期への期待や希望をもつ |
| 3分 | 10 次時は、学年集会で学級の成果と課題、二学期の方向性を検討し合うことを確認する。 |

主な指導と援助

2年-14と2年-15は、学年2学級程度の場合に、2時間目に学年集会を開いて学期の活動をまとめる展開例を示したものである。
学級独自で学期の活動をまとめる場合には、1年-16と1年-17の展開を参照願いたい。

数名に自由に発表させる。
良かったこと、楽しかったことだけでなく、不十分だったこと等もあったことを想起させ、一学期の成果と課題を明確にして、二学期に生かす方策を考えることを活動テーマとして確認する。
本時は、学年集会に向けて学級の活動反省を行うことを確認する。

班の中で司会者と記録者、発表者を決めて進めさせる。
学級目標の願いを基にしながら、ワークシートにある項目に従って意見を出させる。

思考能力 に関する工夫
→一学期の活動の成果と課題の話し合い
一学期の成果について、担任からも大いに賞賛する。

問題解決能力 に関する工夫
→学級の諸活動の課題点の確認
学級全員で行動できるような視点で考えるように助言する。

問題解決能力 に関する工夫
→二学期の学級の方向性を考えさせる

思考能力 に関する工夫
→一学期の班活動の成果と課題の話し合い
一学期の各班の成果について、相互に賞賛させる。

問題解決能力 に関する工夫
→各班の活動の課題点の確認
具体的に実行が可能な内容になるように考えさせる。

問題解決能力 に関する工夫
→二学期の各班の方向性を考えさせる
みんなでエールを送り合ったり、円陣を組んで声を掛け合ったりさせる。
時間があれば、合唱で締めくくることが考えられる。

意志決定能力 に関する工夫
→二学期に向けての決意固め

5 事後指導

- ・学級執行部の生徒は、話し合いの結果（学級の意見）をまとめ、学年集会の資料にする。
- ・学年集会における学級提案の提案者等の分担を決める。

2年-15 題材名 「一学期の学年反省」

1 目標

- ア 一学期の各学級の活動、班の活動を振り返り、成果と課題を明確にして、夏休みと二期の生活につなげる。
- イ よりよい学級、学年の姿を目指して話し合う。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **人間関係能力** : 一学期の各学級の諸活動の成果と課題を認め合う。
- イ **問題解決能力** : 課題点や方向性を踏まえ、よりよい学級、学年にするために取り組んでいく事項を確認する。
- ウ **意志決定能力** : 話し合いの決定事項を、二期に、各学級や班の活動で実行するよう決意する。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 学級での話し合いの結果をまとめた議案書を用意し、事前に配付して集會に臨ませる。
- イ **学年集會の形**をとり、互いの学級の活動について質疑を交わしたり相互評価したりさせる。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 学年生徒会長が、本時の学年集會の内容やねらい等について説明し、みんなで確認する。 一学期の各学級の活動の成果と課題を明らかにして、夏休みや二期の活動につなげよう |
| 展開 | 2 各学級毎に、一学期の学級の取り組みの成果と課題、二期に向けての方向性を発表する。 ・生活面、学習面、行事面での成果と課題、方向性 |
| | 3 各学級の発表に対する質問や意見を述べ合う。 ・各学級の一学期の成果と課題に対する質疑 ・各学級の二期の方向性に対する意見 |
| | 4 学年として共通に取り組んでいくべき事項を確認する。 ・一学期の課題と二期の方向性の中から |
| 開 | 5 各学級毎に、一学期の各班の取り組みの成果と課題、二期に向けての方向性を発表する。 ・一学期の活動上の成果と課題 ・二期の活動上の方向性 |
| | 6 各学級の各班の発表に対する質問や意見を述べ合う。 ・各班の一学期の成果と課題に対する質疑 ・各班の二期の方向性に対する意見 |
| | 7 学年として共通に取り組んでいくべき事項を確認する。 ・一学期の課題と二期の方向性の中から |
| 44分 | |
| 終末 | 8 話し合ったことを基に、二期に向けてみんなで学級や学年の活動を向上させていくことを確認し合う。 ・二期の学級や学年の活動への期待や希望 ・みんなで協力していこうという気持ち |
| 3分 | 9 先生からの講評を聞く。 |

主な指導と援助

司會進行は、学年執行部または学年議長が行う。事前に、進行についての練習や、関係者との打合せをしておく。

学年集會による一学期反省

事前の役割分担に基づいて、各学級の担当が発表する。各学級毎に、一学期の生活面、学習面、行事面の成果と課題、二期の方向性を、議案書を利用して簡潔に発表する。議案書に、必要に応じてメモをとらせる。一つの学級について2番と3番の活動を行い、その次に別の学級について2番と3番の活動を行う方法でもよい。

各学級の活動のすばらしい点を学び合う視点をもたせる。

人間関係能力 に関する工夫

→一学期の各学級の活動の成果と課題への賞賛

必要性の高い事項、学年全体で取り組める事項を考えさせる。

問題解決能力 に関する工夫

→学年で取り組んでいく事項の確認

2番と同様に、事前に役割分担し、担当が議案書を利用して簡潔に発表する。議案書に、必要に応じてメモをとらせる。一つの班について5番と6番の活動を行い、その次に別の班について5番と6番の活動を行う方法でもよい。

各班の活動のすばらしい点を学び合う視点をもたせる。

人間関係能力 に関する工夫

→一学期の各班の活動の成果と課題への賞賛

必要性の高い事項、学年全体で取り組める事項を考えさせる。

問題解決能力 に関する工夫

→学年で取り組んでいく事項の確認

学年執行部が、話し合いの決定事項を読み上げる。各学級に対し、お互いにエールを贈り合う。時間があれば、合唱で締めくくることが考えられる。

意志決定能力 に関する工夫

→二期に向けての決意固め

5 事後指導

- ・話し合いの決定事項は学年執行部の通信で、話し合いの様子については学年通信等で紹介する。

2年-16 題材名 「夏休みの生活設計」

1 目標

- ア 一学期間の生活の反省に立って、中学生2回目の夏休みの在り方を考えさせる。
- イ 夏休みの意義や夏休みの生活のきまり、夏休み中の行事などを確認させ、夏休みを有意義に送るようにさせる。
- ウ 夏休みの生活と学習の目標を明確にし、それを実現させるための計画を立てさせて、実行する決意をもたせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **感情統制能力**：開放感に浸り、不規則・不摂生な生活に陥らないように心掛ける。
- イ **思考能力**：1年生での経験や一学期の反省に立ち、夏休みをどう送るべきか考える。
- ウ **問題解決能力**：有意義な夏休みにするため、しっかりした目標のもとに計画を立てる。
- エ **意志決定能力**：計画に沿って有意義な夏休みを送る気持ちをもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 前時までに取り組んだ、一学期の学級や班係の反省を踏まえさせる。
- イ 夏休み中の主な**行事や部活動の予定は、生徒会で一覧に**して配付する。
- ウ 夏休み中の**学習課題等については、教科係が教科担当に確認し、一覧に**して配付する。
- エ 「夏休みの生活のきまり」については、教師から説明する。**学年合同で実施することも**考えられる。

4 展開

| 時間 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 夏休みを迎えるにあたって、どんな気持ちでいるか発表する。 中学校生活2回目の夏休みを充実したものに |
| 2分 | 2 夏休みの意義について先生の説明を聞く。 ・二学期、全校のリーダーへの大事な橋渡し |
| 展 | 3 1年生での夏休みの経験や、一学期の学級や係・班の反省を踏まえ、有意義な夏休みするにはどうすればよいか班毎に話し合う。 |
| | 4 夏休み中の主な行事や生活のきまりについて、先生の説明を聞く。 ・関係資料を配付 |
| | 5 夏休み中の学習課題について、各教科係からの説明を聞く。 ・課題の一覧表を配付 |
| | 6 5番までの説明や話し合いを踏まえて、夏休みを迎えるに当たっての心構えを発表する。 ・開放感に浸ってはいられない |
| | 7 夏休みの計画表作りをする。 (1) 計画表の記入の仕方について、先生の説明を聞く。 (2) 生活と学習の目標を決める。 (3) 計画表作りを進める。 |
| 43分 | 8 夏休みの生活と学習の目標を発表し合い、有意義な夏休みにするための決意を固める。 ・規則正しい生活リズムに関する決意 ・毎日の学習時間等に関する決意 ・自主的、発展的な活動に関する決意 |
| 終末 | |
| 5分 | |

主な指導と援助

- 数名に発表させる。
みんなが楽しみにしていることを確認し、有意義な夏休みにするための生活設計を考えることを、本時の活動テーマとする。
- 夏休みの意義①社会的体験の拡充、②苦手な教科の克服や得意教科の伸長、③部活動の充実、④健康や体力の増進 等
- 1年生での経験については、思い通りにいかなかった時のことだけでなく、思い通りにいった時のことも踏まえさせる。
- 思考能力** に関する工夫
→有意義な夏休みするための班毎の話し合い
- 「夏休みの生活のきまり」の中でも、健康や安全にかかわる事項は確実に指導する。
適宜質問を受け付けて、指導の徹底を図る。
- 5番までの説明や話し合いを踏まえ、夏休みを迎えるに当たっての心構えをしっかりともち、計画作りをさせる。
- 感情統制能力** に関する工夫
→夏休みの生活のきまりや課題等の自覚
- 具体的で評価が可能な目標、実行が可能な計画となるよう、留意させる。
- 問題解決能力** に関する工夫
→目標を明確にした上での計画表作り
- 全員に発表させて、各自のがんばりを誓い合わせる。
最後に、教師が生徒全員へのエールの言葉を述べる。
- 意志決定能力** に関する工夫
→夏休みの目標を発表し合う

5 事後指導

- ・夏休みの計画表を完成させて提出させ、激励、修正等のコメントを入れる。
- ・期末面談の中で、計画表を基にして夏休みの生活について話し合い、確認する。

2年-17 題材名 「夏休みの収穫」

1 目標

- ア 夏休み中の生活と学習の目標を、夏休みの計画に基づいて振り返らせ、成果と課題を確認させる。
- イ 夏休み中の行事等で感じたことや学んだことを発表させ、共有化させる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **感情統制能力**：夏休みの生活や学習が不本意に終わっても、その気持ちを引きずらないように心掛ける。
- イ **思考能力**：夏休みの目標や計画に沿って夏休みを振り返り、成果と課題を明確にする。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア **夏休みの計画表を活用**する。
- イ 夏休みの反省用紙を交換し合って、**ピア・カウンセリング**をする。

4 展開

| 経過 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 夏休みを振り返っての思い出や感想を発表し、活動テーマを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 中学校生活 2 回目の夏休みを振り返り、成果と課題を確認し合おう </div> |
| 展開 | 2 夏休みの課題や提出物等を提出する。 ・通信票、保健票等 ・教科等の課題 |
| | 3 夏休みの反省の仕方について、先生から説明を聞く。 ・ピア・カウンセリングの手法を取り入れて、互いの夏休みの成果と課題を振り返ることを知る |
| | 4 夏休みの計画表を基にしながら、「夏休みの反省用紙」にしたがって各自で夏休みを振り返る。 ・成果や課題を記入する（クライアント） |
| | 5 任意の級友の成果や課題に対するコメントを記入する。（カウンセラー） ・クライアントの成果や課題に対して、アドバイスや励ましを記入する |
| | 6 回答を熟読した上で、自分の思いや感想をまとめる。 ・カウンセラーがどんな思いでコメントを書いたかよく考える ・自分の思いや感想を記入する |
| | 7 ピア・カウンセリングを取り入れて夏休みを振り返っての、自分の思いや感想を発表する。 ・頑張ったことを認めてもらってうれしい ・不本意だったのは自分だけでなかった ・新しい気持ちで二学期をスタートできそう |
| 終末 | |
| 3分 | |

主な指導と援助

数名に発表させる。
 有意義な夏休みだったか、そうでなかったかを挙手させ、全体的な傾向を確認した上で、各自の夏休みについていくつかの観点から振り返り、任意の級友同士で互いに評価・激励し合うことを、本時の活動テーマとする。

通信票や保健票等は、担当が提出状況を確認する。
 教科等の課題は、各教科係に、本時の活動終了後に提出状況を確認させる。

カウンセラーになって、級友の夏休みの成果と課題にアドバイスや励ましを考えさせる。
 〈約束事〉
 ・否定的なこと、人がいやがることは書かない
 ・秘密は絶対に守る
 ・カウンセラー（答えてくれた人）を探さない

夏休みの成果と課題を素直に記入させる。
 反省用紙を二つ折りにし、裏に自分だけが分かる印を付けさせる。
 反省用紙を集め、任意の級友に渡るように再配付させる。

思考能力 に関する工夫
 →夏休みの計画に沿った振り返り

真剣にアドバイスや励ましを考えさせる。
 落ち着いたBGMを流して雰囲気を作る方法もある。
 書き終わったら、二つ折りにして提出させる。
 自分のマークの反省用紙を間違えずに持っていかせる。

次の観点から、自分の思いや感想をまとめさせる。
 ・成果や課題を書いたときの気持ち
 ・成果や課題にアドバイスや励ましを記入していた時の気持ち
 ・回答を読んだときの気持ち

数名に発表させる。
 仲間を信じて、前向きに二学期を歩んでいくように促してまとめる。
 「夏休みの反省用紙」に氏名を書かせて提出させる。

感情統制能力 に関する工夫
 →ピア・カウンセリングによるアドバイスと励まし

5 事後指導

- ・夏休みを振り返ってのアンケートを集計し、通信等で紹介する。
- ・1年生時にも同様のアンケートを実施していたならば、それらと比較して成長点を賞揚する。
- ・必要に応じて個別の相談や指導に生かす。

2年-18 題材名 「二学期の計画」

1 目標

- ア 二学期の大きな流れを把握させ、行事を中心とした取り組みを想起させて、どの時期にどんな生活を送るかの見通しをもたせる。
- イ とかく中だるみといわれる生活に陥りがちな夏休み明けに、一学期末の反省を基に二学期の活動を決めさせ、目標をもって意欲的に活動に取り組ませる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **人間関係能力** : 問題解決のために互いの立場を理解し合い、認め合い、協力し合う。
- イ **感情統制能力** : 全体の立場に立って考え、感情をコントロールする。
- ウ **問題解決能力** : 誇れる学級にするための具体的な活動を話し合って決める。
- エ **意志決定能力** : 一人一人が自分の役割を理解し、互いに協力し合っけて学級生活を向上させる。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 一学期末の反省（学級・学年）で確認された、「二学期に頑張っていくこと」を踏まえさせる。
- イ 「二学期の大きな流れ」を示した資料を用意し、行事を中心にして見通しをしっかりともたせる。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 先生からの、二学期における期待や思いを聞き、本時のテーマを確認する。 二学期の学校生活の流れをつかみ、学級としての二学期の計画を考えよう |
| 3分 | |
| 展開 | 2 行事を中心に、二学期の流れをつかむ。 ・二学期の主な行事を順番に確認する ・先生から、二学期の流れについて補足説明を聞く |
| | 3 一学期末の反省（学級・学年）の結果を振り返り、二学期に学級として頑張っていくことを確認する。 ・生活の面 ・学習の面 ・行事の面 ・班活動 |
| 40分 | 4 3番で確認された事項を達成し、誇れる学級にするための具体的活動と取り組みの心構えを班ごとに考え、発表する。 (1) 具体的な活動について考える。 ・一人一人が進んで参加できるもの ・全員でやることで目標を達成できるもの ・まとまりを感じることができるもの (2) 取り組みの心構えについて考える。 ・みんなで協力すること ・各自の責任を果たすこと |
| | 5 各班からの発表を基に、学級としての具体的活動と取り組みの心構えを決定する。 ・共通して出された活動や学級として大事にするべき心構えを中心にまとめる |
| 終末 | 6 学級の活動の方針を受けて、各自がどのように頑張っていくか（果たすべき自分の役割）をワークシートに記入する。 |
| 7分 | ・仲間を信頼し、協力して学校生活を送る ・自分のできることを責任をもって精一杯行う |

主な指導と援助

中学校生活も半ばを迎える学期が始まる。中学校生活に大分慣れてきている反面、中だるみも生じてくる。しかし、今学期中に生徒会の役員交代も行われ、次期リーダーへの確実なステップを踏み出さなければならない。そうしたことを踏まえながら、学級としてどういう成長を目指すのかを考えることを、本時の活動テーマとして確認させる。

1年生での経験を基に、二学期の主な行事を発表させる。教師が用意した「二学期の大きな流れ」を示した資料を基に、二学期の学校生活における諸活動の見通しをもたせる。

一学期末の反省（学級・学年）の記録を基にして、学級全員で確認し合う。一人一人の生徒に、しっかりと意識化させるために、確実に一学期末の反省（学級・学年）の記録に目を通させる。2番で確認させた「二学期の大きな流れ」ともかかわらせて、どの時期に何に力を入れていくかイメージさせる。

誇れる学級を目指すためには、どのような条件を備えた活動をするべきか考えさせた上で、具体的な活動を考えさせる。

人間関係能力 及び **問題解決能力** に関する工夫
→二学期の具体的活動と取り組みの心構えを考える

誇れる学級、「この学級で良かった」と思うようになるには、どんな心構えで活動するべきかを考えさせる。

各班から出された事項に対して、必要に応じて質疑を交わさせ、学級としての考えにまとめさせる。

問題解決能力 に関する工夫
→誇れる学級を目指す上で大事な事項を考える

生活の面、学習の面、行事の面から各自の努力事項を考えさせ、ワークシートに記入させる。

感情統制能力 及び **意志決定能力** に関する工夫
→各自の努力事項のワークシートへの記入

5 事後指導

- ・決定事項を学級掲示し、取り組みの前後（節目節目で）実行状況を確認させる。

2年-19 題材名 「ボランティア活動」

1 目標

- ア ボランティア活動に積極的に参加する意欲をもたせ、人間関係の在り方、社会的な自己の役割の自覚、自己肯定感（有用感）を培う。
- イ 身近なボランティア活動の情報を集め、参加計画を立案させる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：身近なボランティア活動の例から、自分は「何ができるか」を考える。
- イ **意志決定能力**：自分で考えて「できる」と判断したボランティア活動に積極的に取り組む。
- ウ **情報選択能力**：ボランティア活動の意義や内容、活動を理解する。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア ボランティア活動の意義を理解させ、「何ができるか」考えさせる。
- イ 生徒会や地域のボランティア活動に関する資料を用意する。
- ウ **ボランティア活動参加計画書**を立案させる。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 身近なボランティア活動に、どんなものがあるか発表する。 ボランティア活動の意義や在り方を理解し、参加計画を立てよう |
| 5分 | |
| 展 | 2 ボランティア活動とはどのようなものか、どのような意義があるのかを考え、発表する。 ・自らの意志で活動する（自発性） ・他人や社会のために奉仕する活動（公共性） ・報酬を期待しない活動（無償性） |
| 開 | 3 具体的なボランティア活動を例に、どのような考えで実施されているのかを把握する。 (1) 学校や生徒会のボランティア活動の考え。 (2) 地域や国内外のボランティア活動の考え。 |
| 40分 | 4 身近なボランティア活動のうち、「自分たちでできるもの」を考える。 (1) 「自分でできるもの」を考える。 (2) 「班としてできるもの」を決定する。 |
| 分 | 5 班毎に、「身近なボランティア活動への参加計画書」を立案する。 ・初めに、活動内容を書き、その目的を考える ・次に、期日や日程等を考える |
| 終 | 6 各班の参加目的と活動内容を発表する。 |
| 末 | 7 先生からボランティア活動を継続する上での秘訣を聞く。 |
| 5分 | 8 各班の発表や先生からの継続の秘訣を聞いて、ボランティア活動参加への抱負をまとめる。 ・各自で決意をワークシートに記入する |

主な指導と援助

自由に発表させ、それを板書しておく。
一部に、ボランティア活動まがいの活動があることを指摘し、ボランティア活動の意義や在り方をしっかり理解した上で、「自分達ができる」ボランティア活動を考えることを、本時の活動テーマとして確認させる。

1番で出された活動を基に、ボランティア活動の三原則（創造性を加えて四原則とする考えもある）に気付かせる。難しい場合は、ボランティア活動ではない活動を例にして、考えさせる。

情報選択能力に関する工夫
→ボランティア活動の意義
学校や生徒会、地域や国内外で実施されているボランティア活動の資料を配付する。

情報選択能力に関する工夫
→ボランティア活動の考え方
既存のボランティア活動からだけでなく、自分達で新たに活動を考え生徒会や学校に要望していくことにも挑戦させる。

思考能力に関する工夫
→「自分でできる」ボランティア活動を考える
参加計画書は、ワークシートの形にしておく。
実施期日や当日の日程、事前の準備等は、班の中での希望として計画させ、相手がある場合は連絡を取って調整させる。
各班から1部提出させ、事後指導に生かす。

無理をしないこと、やりがい・喜びを感じることができる活動であること、周りの理解があること等が、やる気を喚起し、継続に結びつくことを紹介する。
意志決定能力に関する工夫
→ボランティア活動参加への決意

5 事後指導

- ・参加予定を取りまとめ、実施前に確認する。また、参加予定を通信等で紹介し、家庭からも声掛けをしてもらう。
- ・実施後は、逐次、短学活等で報告をし合う。また、通信等でも紹介する。

2年-20 題材名 「職業とは何か」

1 目標

- ア 職業の意味について考えさせ、職業と産業の違いについて理解させる。
- イ 職業分類と産業分類について理解させ、生徒の職業認識を広めさせる。
- ウ 身近な地域の職業や産業に目を向けさせ、職業や産業への関心を高めさせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：職業と産業の違いについて考える。
- イ **情報選択能力**：職業の分類、産業の分類を理解し、職業認識を広める。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 日本標準職業分類と日本標準産業分類を基に、職業と産業の違いを理解させる。
- イ 班毎に、**身近な地域の職業と産業の洗い出しと分類**の作業をさせる。

4 展開

| 経過 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 5分 | 1 知っている職業の名前を発表し合い、職業について考えていくことを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">職業とは何かを考えようー産業との対比をとおしてー</div> |
| 展開 40分 | 2 付箋紙に書かれた「職業名」について先生が職業と産業に分けた結果を見て、職業と産業の違いを考える。 ・班毎に話し合う 3 先生からの説明で、職業と産業の違い、両者の関係を知る。 ・職業…個人が行う仕事の内容 ・産業…事業所が行う仕事の内容 ・両者の関係 4 地域にはどんな職業や産業があるかを、班毎に話し合ってワークシートに書き出す。 ・地域の産業 ・地域の職業 5 職業の大分類と具体的職業の例、産業の大分類と具体的産業の例の資料を基に、4番で書き出した職業や産業の分類を見直す。 ・班内で協力して作業する ・他の班とも情報交換する |
| 終末 5分 | 6 自分の希望する職業について、どの産業に属するかを調べ、ワークシートに記入する。 ・自分の希望する職業が属する産業名 ・自分の希望する職業が属する産業は第何次産業か 7 学習の感想を発表する。 ・職業と産業の違いが分かった |

主な指導と援助

自由に発表させる。職業と産業を混同していても構わない。
・クイズ的にテンポ良く進め、たくさん出させる。
・カード（大きめの付箋紙）に書いて、黒板に張り出す。
発表された「職業名」は、職業名と産業名が混ざっていることを話し、本時の活動テーマを確認させる。

適切・明快な表現を求めない。自分たちで話し合う中で、イメージ化を図らせる。

思考能力 に関する工夫
→**職業と産業の違い**

職業と産業の違いについては、「中学生活と進路」p.34の欄外を参照させる。

職業と産業の関係については、「中学生活と進路」p.35の欄外から、次の三点を指摘させる。
・すべての職業は、何かの産業に属している
・一つの産業には、多くの職業が属している
・同じ職業名が、いくつかの産業に属している

学校から見える風景や地域の様子を思い浮かべさせて話し合わせる。
地域の状況によっては、「中学生活と進路」の絵を活用する。

日本標準職業分類と日本標準産業分類を利用して分類させる。産業分類については、第一次、第二次、第三次の分類の仕方についても説明する（次時の指導にも生かす）。
二つの分類表にない職業や産業については、4番の班の予想が妥当かどうか、教師から判定をしてもらうよう、うながす。

情報選択能力 に関する工夫
→**地域の職業と産業の分類**

事後にワークシートを回収し、分類が正しく行われているか確認する。

思考能力 に関する工夫
→**自分の希望する職業の産業別分類**

5 事後指導

- ・ワークシートを回収し、展開の4番で各班が挙げた職業と産業を紹介する。
- ・次時の指導に生かす。

2年-21 題材名 「職業の内容の調査1」

1 目標

- ア 多様な職業の中から身近な職業を取り上げ、職業の世界について理解させ、自分の希望する職業の実現に生かす基礎を築かせる。
- イ 社会の変化に伴って職業や産業も変化し、求められる人材にも変化が生じていることを理解させる。
- ウ 職業を、何を相手にする職業かという点からつかませ、それぞれの職業が求める適性について理解させる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：何を相手にしたり扱ったりしているかの観点から当てはまる職業を考える。
- イ **問題解決能力**：職業の適性を展望し、自分の希望する職業について吟味・検討する。
- ウ **情報選択能力**：様々な職業の内容・特色、各職業に必要な適性を理解し、希望する職業の情報を収集する。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 職業と産業の分類を理解させ、職業の内容と特色を調べさせる。
- イ **産業別人口割合の変化のグラフ**から、産業構造が変化してきたことをつかませる。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 産業別人口割合の変化のグラフから、変化を読み取り、本時の活動テーマを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">職業や産業の変化により、どんな人材が求められるようになってきているか考えよう</div> |
| 5分 | |
| 展 | 2 産業別人口割合が、グラフのように変化してきた理由について考える。 3 第一次、第二次、第三次人口は、主に何を相手にしたりあつかったりする職業かを、次のa～d中から選ぶ。 a－人 b－もの c－自然・生物 d－情報・価値 4 3番のa～dに属する職業の例をあげる。 a－教師、医師、看護師、美容師 等 b－自動車整備工、印刷工、大工 等 c－農耕作業者、動物飼育係、漁業作業員 等 d－銀行員、電話交換手、作家、会計士 等 |
| 開 | |
| 40分 | 5 4番のa～dの職業にはどんな人が向いているか、向いていないかについて、班で話し合い発表する。 a－向き／不向き b－向き／不向き c－向き／不向き d－向き／不向き |
| 終末 | 6 自分の希望する職業が、自分に向いているかどうか、5番の発表を基に振り返る。 7 先生からの講評を聞く。 ・将来の夢の実現に当たっては、社会の変化にも注目する必要がある |
| 5分 | |

主な指導と援助

一次産業人口割合が減少し三次産業人口割合が増加していること、時代の変化と共に産業別人口も変化してきたことを読み取らせる。そして、産業界ではどんな人材が求められるようになってきたかを考えることを、本時の活動テーマとして確認させる。

時代の変化に目を向けさせ、考える視点をもたせる。深入りはしない。（社会科の学習との関連を考慮する。）

各産業における仕事の相手やあつかうものには多面性があり、はっきりと分類できないものがあるが、できるだけa～dの観点に沿って産業を考えるようにさせる。
 目安として、aは第3次産業、bは第2次産業、cは第1次産業、dは第3次産業としておさえさせる。

自由に発表させる。
 意見が出にくい時は、班で話し合わせて発表させる。
 「中学生活と進路」p.39で確認させても良い。

思考能力 に関する工夫
 →何を相手にするかで当てはまる職業を考える
 適性を考える観点として、①行動・性格、②学習、③身体・運動、④興味・特技、⑤仕事への興味・関心等を与え、これらを基に、具体的に考えさせる。

情報選択能力 に関する工夫
 →さまざまな職業の適性を考える

問題解決能力 に関する工夫
 →自分の希望する職業と適性
 これからどんな職業が発展していくのかを考えさせてみることも有効と思われる。
 悩みや不安が生じた場合は個別に相談することを促す。

5 事後指導

- ・自分の希望する職業（将来の夢）に悩みや不安が生じた生徒には、個別に教育相談を行う。

2年-22 題材名 「職業の内容の調査2」

1 目標

- ア 多様な職業の中から身近な職業を取り上げ、職業の世界について理解させ、自分の希望する職業の実現に生かす基礎を築かせる。
- イ 職業の特色を、どんな方法で就職するか、就職後の生活の場はどこかという観点でとらえ、職業観・勤労観を広げさせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：進路希望を実現するために、今の自分に何が必要かを考える。
- イ **意志決定能力**：職場体験学習の際に、自分の適性や希望と照らし合わせて職業を選ぶ。
- ウ **情報選択能力**：様々な職業の内容・特色、各職業に必要な適性を理解し、希望する職業の情報を収集する。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 希望する職業の特色を整理させ、今の自分に何が必要かを考えさせる。
- イ **職場体験学習の事前学習**として位置付け、どの職場に行くかの判断の材料とさせる。

4 展開

| 時間 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 5分 | <p>1 職業の特色について知っておきたいこととして、適性以外に何があるかを発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>職業に就くための方法や、職業によって生活の場がどうなるかを考えよう</p> </div> |
| 展開 30分 | <p>2 職業に就くに当たって必要な条件や方法を考え、次のa～dに分類し、それぞれの具体的な職業の例を出し合う。</p> <p>a－資格や免許が必要 調理師、医師、教師、電気工事士 等</p> <p>b－経験が必要 大工、鋳物師、左官工、骨董鑑定士 等</p> <p>c－高度な知識や判断力が必要 研究者、コンピュータ・プログラマー 等</p> <p>d－素質や才能が必要 野球選手、音楽家、陶芸家、画家 等</p> <p>3 職に就くことで生活の場がどうなるか考え、次の①～④に分類し、それぞれの具体的な職業の例を出し合う。</p> <p>①－生まれ育った町や村 農林漁業の作業員、美容師、自営業主 等</p> <p>②－一人の集中した都市 弁護士、アナウンサー、税理士 等</p> <p>③－国内や県内を移動・転勤 国家公務員、警察官、トラック運転手 等</p> <p>④－世界各地を移動・転勤 パイロット、通訳、外交官、商社員 等</p> |
| 終末 15分 | <p>4 自分の希望する職業について、2番と3番の2つの視点から見直し、実現を図る上で努力すべきこと、克服すべきことをまとめる。</p> <p>6 職場体験学習を、どういった職場で行うべきか、前時と本時の活動を踏まえて考える。</p> |

主な指導と援助

自由に発表させる。
どんな方法で就職するか、就職後の生活の場がどこになるかについて考えることを、本時の活動テーマとして確認させる。

職業に就くに当たって必要な条件や方法について意見が出ないときは、具体的な職業の一例を示して考えさせたり、「中学生生活と進路」p.40を活用して把握させる。

具体的な職業の例については、マスメディアからの情報だけでなく身近な地域で働いている人びとも目を向けさせる。
また、職業によっては、a～dの分類のうち複数に該当するものもあることを、生徒から出された具体的な例を基に補足する。

情報選択能力 に関する工夫
→職業に就く方法の違いと具体的職業

就職に伴う生活の場の違いについては、将来どんなところに住んで仕事をしたいかを自由に発表させる中で、地元から県内市町村、他都道府県、世界各国まで多重の圏域が考えられることを理解させる。
また、移動や転勤を伴うものと伴わないものがあることに気付かせる。

具体的な職業の例については、マスメディアからの情報だけでなく身近な地域で働いている人びとも目を向けさせる。

情報選択能力 に関する工夫
→就職に伴う生活の場の違いと具体的職業

希望する職業に就くためには、場合によっては、自己の能力をもっと伸ばしたり、生活習慣や性格を改善したり、家族の理解を得たりしていかなければならないことに気付かせた上で、それらへの現時点での具体的な対応策を考えさせる。

思考能力 に関する工夫
→今の自分に必要なこと

意志決定能力 に関する工夫
→職場体験学習の学習先の吟味

5 事後指導

- ・職場体験学習の体験先として、できるだけ自分の希望する職業の適性や諸条件に近いものを選ばせる。
- ・職場体験学習が充実したものとなるように、体験時の心構えや聞き取り内容を吟味させる。

2年-25 題材名 「学ぶ制度の調査」

1 目標

- ア 中学校卒業後の学ぶ制度と機会について、学校制度の系統図を中心にして理解させる。
- イ 中学校卒業後の上級学校についての調査計画（方法、内容・視点、分担等）を立てさせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：自分の進路選択に基づいた勉学の機会を考える。
- イ **問題解決能力**：中学校卒業後の上級学校の調査計画を立てる。
- ウ **情報選択能力**：中学校卒業後の勉学の道を学校制度の系統図で理解する。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 学校制度の系統図をみて、「中学校卒業後の学ぶ制度と機会」のワークシートを作成させる。
- イ 中学校卒業後の上級学校の調査計画を立案させる。

4 展開

| 経過 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 3分 | 1 中学校卒業後の上級学校について、知っているものを発表する。 中学校卒業後の学ぶ制度と機会について調べよう |
| 展 開 42分 | 2 板書された学校名がどのような観点で分類されているかを考えて発表する。 ・学校の種類 ・公立か私立か 等 3 板書された各学校が、就職までの過程でどのように位置付いているかを調べ、ワークシートに記入する。 (1) 「中学校卒業後の学ぶ制度と機会」のワークシートに、当てはまる教育機関名を記入しながら理解する。 (2) 現時点で自分が進もうと考えているコースを、ワークシート上でなぞってみる。 4 中学校卒業後の各上級学校について調べる計画を立てる。 (1) どんなことを調べるか（知りたい事項は何か）を、班で話し合う。 ・フリートークンで出し合う ・出ないときは、資料を参照する (2) どのようにして調べるかを、班で話し合う。 ・4(1)と同様にして進める |
| 終末 5分 | 5 どの班がどれを調べるか、分担を決める。 ・班の代表によるじゃんけんまたはくじ引き 6 次時の活動と、準備物の確認をする。 ・分担にしたがって班毎に上級学校調査をする ・分担の上級学校に関する資料を集めてくる |

主な指導と援助

できるだけ多く発表させる。
学校種（高校、高专、大学など）と設置主体（県、市、私）、課程（全日、定時、通信）などが分かるように板書を工夫する。
生徒から出ないものについては、教師から紹介する。

分類毎の違いを簡単に補説し、その観点を板書して明示する。

「中学生生活と進路」p.53の図を基にしてワークシートを作成する。
初めは自力で考えて学校名を記入し、分からないものについて「中学生生活と進路」p.53の図で調べて記入し、確認させる。

情報選択能力 に関する工夫

→「中学校卒業後の学ぶ制度と機会」（系統図）

今の自分の希望するコースを赤色でなぞらせる。

思考能力 に関する工夫

→自分の希望する進路のコースの記入

調べる上級学校は、高校、高专、専修（各種）学校、職業能力開発施設、働きながら学ぶ学校（定時制、通信制、事業所内の訓練施設）とする。
調べる事項は、「中学生生活と進路」p.52を参考にし、①教育内容、②適性、③入学資格、④所在地、⑤修業年限、⑥費用、⑦その学校の卒業生の進路、⑧通学方法などとする。
上記の内容に沿ったワークシートを用意しておく。

調べる方法・資料として、①各学校のパンフレットや案内書、②先輩の話、③体験入学の報告書、④県教委発行の学校一覧、⑤インターネット、⑥取材活動などを押さえておく。

問題解決能力 に関する工夫

→中学校卒業後の各上級学校の調査計画立案

最終的に、調査結果をみんなで共有することから、機械的に分担を決めさせることとする。

5 事後指導

- ・次時の調査に必要な資料を集めさせる。班内での分担（資料収集や次時のまとめ作業の分担など）もさせる。
- ・自分の進路の希望について家族と話し合い、家族の願いを把握させておく。

2年-26 題材名 「中学校卒業後の学ぶ道」

1 目標

- ア 将来の進学希望先に関する情報を学ばせ、その選択の視野を広めながら、生徒の進学希望をよりよく育てる。
- イ 高校、高専、専修（各種）学校、職業能力開発施設、働きながら学ぶ学校それぞれの、教育の目的、種類、学科や課程、内容や特色を調べさせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **人間関係能力**：班の仲間と協力して調べる。
- イ **思考能力**：自分の進路希望と対比しながら調べる。
- ウ **情報選択能力**：高校や専門学校等の教育の目的と種類・学科・課程、奨学制度を理解する。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 中学校卒業後の勉学の機会、その後の勉学の機会と支援制度について、生徒自らに調査・研究をさせる。
- イ **班毎の調査活動**をさせる。
- ウ 前日までに、必要資料の準備ができていないか確認する。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 前時の復習をし、本時は中学校卒業後の学ぶ道について調べていくことを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">中学校卒業後の各種の学ぶ機関について調べ、報告書にまとめよう</div> |
| 2 分 | 2 班毎に分かれて調査し、まとめる。 (1) 高等学校 ア 普通科 イ 専門学科 ウ 総合学科 (2) 高等専門学校 (3) 専修学校・各種学校 (4) 職業能力開発施設 (5) 働きながら学ぶ学校 ア 定時制、通信制 イ 事業所内の職業訓練施設 |
| 展 開 | 3 奨学制度について、先生から説明を聞く。 ・日本育英会 ・母子福祉資金 ・交通遺児育英資金 ・各市町村の育英資金 等 |
| 45 分 | 4 調査結果の発表の仕方とその準備について確認する。 ・いつまでに、誰が、何を、どのように準備するか ・発表時の役割分担をどうするか ・発表のスタイルはどうか |
| 終 末 | |
| 3 分 | |

主な指導と援助

関係資料がそろっているか、確認する。
 本時は、前時に決めた分担にしたがって班毎に調査し、レポートにまとめていくことを確認する。
 資料は、各班で用意したもの他、「中学生活と進路」も活用する。

班内の役割分担にしたがって調査し、まとめる。
 まとめのレポートの様式は、前時に確認した調査事項を踏まえて、教師が用意する。

思考能力 及び **情報選択能力** に関する工夫
 → **中学校卒業後の各種の学ぶ機関についての調査**

各班の協力体制に留意しながら巡回し、支援する。
 調査結果の発表の仕方やその分担も考えながら作業を進めるように指示する。

人間関係能力 に関する工夫
 → **班体制での調査とまとめ、発表準備**

教師が関連資料を用意して説明する。
 平成17年度から、日本育英会は廃止され、各都道府県が金額を決めて募集することになったことに留意する。
 場合によっては、短学活等で説明する。

調査結果の発表（情報の共有化）の時間については、次のような工夫をする。
 ①授業時間として確保できる場合は、その時間で発表会を行う。
 ②授業時間として確保できない場合は、帰りの短学活等を利用し、各班毎に順番を決めて発表をする。

5 事後指導

- ・調査したことを、班毎に短学活等で発表し情報の共有化を図る。
- ・発表を終えた班のレポートは、進路コーナーに掲示したり、通信等で紹介する。
- ・全部の班の発表が終わったら、レポートを冊子にまとめて配付する。

2年-27 題材名 「自分の力を高める」

1 目標

- ア 上級学校調査で得られた情報を活用させ、高校卒業後の学ぶ機関や機会について理解させる。
- イ 「20歳の自分」をデザインさせ、目的意識をもたせて自分の進路計画を検討・吟味させる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **問題解決能力** : 自分の進路計画を検討・吟味する。
- イ **意志決定能力** : 進路実現への意志を強くする。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 「20歳の自分」をデザインさせる。
- イ 各自の進路希望に基づいた勉学の機会を考えさせ、学習に意欲的に取り組む態度を養う。

4 展開

| 経過 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 自分の将来の希望を踏まえて、高校等を卒業した後どうなっているかを考える。 自分の将来の希望の実現を想定して、「20歳の自分」をデザインしてみよう |
| 展開 | 2 高校等の卒業後の学ぶ機関を考え、発表する。 ・大学 ・短大 ・専門学校 等 3 大学、短大、専門学校ではどんなことを学ぶのか、どんな制度になっているか、資料から把握する。 ・県内の大学、短大、専門学校を例として取り上げる 4 「20歳の自分」をデザインする。 ・どこで何をしているか ・そこに至るまでにどんな道をたどったか ・その後、どんな道をたどる予定か |
| 42分 | 5 自分を高めるために、他に学ぶ機会がないか考える。 ・生涯学習の機会があることを、実例を基に理解する |
| 終末 | 6 「学ぶための制度と機会」を学んでの感想や自分の進路希望の実現に向けての決意を書く。 ・上級学校の様子が具体的に分かってきたので、進路の問題が現実味を帯びてきた 5 ・自分の進路希望を順序立てて考えていきたい 分 ・「20歳の自分」に書いたことを実現したい |

主な指導と援助

数人に発表させる。
前回までの学習（調査）と各班の発表を基にして、自分の将来の希望実現のための進路計画（「20歳の自分」）を立てることを本時の活動として確認させる。

中学校卒業後に希望の上級学校で学んだ後、どんな進路を選ぶことができるか考えさせる。
知っている大学や短大、専門学校等の名前を挙げさせ、興味関心や意識を高める。

資料としては、「中学生活と進路」p.67の「20歳、その時私は？」やpp.106-108をベースにして利用するが、その中の主な教育機関については、より詳しい資料を教師が用意して提示する。

25 「学ぶ制度の調査」で使用したワークシートを活用し、具体的な教育機関の名前等も書き加えさせる。
また、「中学生活と進路」p.67の「20歳、その時私は？」を例にして、「20歳の自分」を文章化させる。

問題解決能力 に関する工夫

→ 「20歳の自分」のデザイン

地域の社会教育施設の講座や通信教育、習い事、海外留学、職場での研修等を想起させ、学ぼうとすればいくらかでも学習の機関や機会があることに気付かせる。
生涯学習の精神は、自分で求めて学ぶことにあることを理解させる。

進路計画「20歳の自分」のワークシートに記入させる。
時間があれば、数名に発表させる。

意志決定能力 に関する工夫

→ 自分の進路希望の実現に向けての決意

5 事後指導

- ・進路計画「20歳の自分」の資料は、個人資料として、個別の指導・相談に生かす。
- ・進路計画「20歳の自分」が完成しなかった場合は宿題とし、後日集めて指導する。

※ 「二学期の反省」の際に「今自分が悩んでいること」のアンケートを実施し、冬休み明け直後の学級活動（2年-31「冬休みの反省と新年の決意」）の指導に生かす。

アンケートの項目は、①学級、②学習、③進路、④友達、⑤性格、⑥身体、⑦家庭、⑧異性、⑨先生、⑩部活動、⑪その他 等とする。

2年-31 題材名 「冬休みの反省と新年の決意」

1 目標

- ア 冬休み中の生活と学習の目標を、冬休みの計画に基づいて振り返らせ、成果と課題を確認させる。
- イ 自己の急激な変化から生ずる不安や悩みへの対処法を考えさせ、充実した生き方をさせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **人間関係能力**：級友同士で、互いに理解し、敬愛し、励まし合う中で、自分を高める。
- イ **感情統制能力**：悩みや不安を積極的に解決しようと自覚する。
- ウ **思考能力**：今の自分の生活を客観的に振り返り、今後どのように生活を充実させるかを考える。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア **冬休みの計画表を活用**する。
- イ 冬休みの反省用紙を交換し合って、**ピア・カウンセリング**をする。
- ウ **二学期の反省の中で、「今自分が悩んでいること」のアンケート**（27の下欄参照）を実施し、資料化しておく。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 冬休みを振り返っての思い出や感想を発表し、活動テーマを知る。 冬休みの成果と課題を確認し、心の不安や悩みを解消して、まとめの学期を歩み出そう |
| 展開 | 2 冬休みの課題や提出物等を提出する。 ・通信票、保健票等 ・教科等の課題 |
| | 3 冬休みの反省の仕方について、先生から説明を聞く。 ・夏休み明け同様、ピア・カウンセリングの手法を用いることを知る |
| | 4 冬休みの計画表を基にしながら、「冬休みの反省用紙」にしたがって各自で冬休みを振り返る。 ・成果や課題を記入する（クライアント） |
| | 5 任意の級友の成果や課題に対するコメントを記入する。（カウンセラー） |
| | 6 カウンセラーからの回答を読む。 |
| | 7 二学期末に実施した不安・悩みのアンケート結果を見て、傾向をつかむ。 ・どんな悩みが挙げられているか ・自分に共通する悩みはないか |
| | 8 なぜ、7番のような不安・悩みが生じているのか、その原因と解決策を話し合う。 ・班毎に、ブレインストーミング法で行う |
| 開 | 9 各自、感想と決意を書く。 ・今後、どのように生活を充実させるか |
| | 10 先生からまとめの話を聞く。 ・中学生期は、心身の変化が大きくそれに伴って不安や悩みが生じるが心配はいらないこと ・誰もが抱える不安や悩みを乗り越えて、最高学年に向けて頑張ること |

主な指導と援助

- 数名に発表させる。
有意義な冬休みだったか、そうでなかったかを挙手させ、全体的な傾向を確認した上で、各自の冬休みについていくつかの観点から振り返り、任意の級友同士で互いに評価・激励し合うことと、中学生期の不安や悩みの解決策を考えることを、本時の活動テーマとする。
- 通信票や保健票等は、担任が提出状況を確認する。
教科等の課題は、各教科係に、本時の活動終了後に提出状況を確認させる。
- 〈ピア・カウンセリング実施上の約束事〉
・否定的なこと、人がいやがることは書かない
・秘密は絶対に守る
・カウンセラー（答えてくれた人）を探さない
- 冬休みの成果と課題を素直に記入させる。
反省用紙を二つ折りにし、裏に自分だけが分かる印を付けさせる。
反省用紙を集め、任意の級友に渡るように再配付させる。
- 真剣にアドバイスや励ましを考えさせる。
落ち着いたBGMを流して雰囲気を作る方法もある。
書き終わったら、二つ折りにして提出させる。
自分のマークの反省用紙を間違えずに持っていかせる。
- 人間関係能力** に関する工夫
→ピア・カウンセリング
- OHPやパソコンのスライドにしたり、模造紙に書いたりして提示し、全体で一斉に確認できるようにする。
- 原因については、何となくいらつく、人からとやかく言われたくない、身体的なことが気になるようになったといったことが出されると考えられる。これらを共感的に受け止め、心の面での変化が生じていることに気付かせる。
- 感情統制能力** に関する工夫
→不安・悩みについての話し合い（ブレインストーミング法）
- 思考能力** に関する工夫
→不安の解消と今後の生活に向けての決意
- 本時の活動によっても不安や悩みが解消されない時や、新たな不安や悩みが生じた時は、積極的に相談するように話す。

5 事後指導

- ・冬休みを振り返ってのアンケートの集計や、各自の今後の決意を通信等で紹介する。
- ・アンケート集計をストックし、2・3年での長期休業明けにおける振り返り（比較）の資料とする。
- ・必要に応じて個別の相談を行う。

2年-33 題材名 「自分の適性」

1 目標

- ア 自己理解の一層の深化を図らせる。
- イ 適性の意味を理解させ、希望の職業を自分の適性の面から考えさせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：自分の希望職業を適性の面から検討する。
- イ **意志決定能力**：自分の可能性を広げる決意をする。
- イ **情報選択能力**：④適性の意味を理解する。⑤いくつかの職業を例に、必要と思われる適性を選択肢から選ぶ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 適性の意味を理解させ、自己理解深化の方法を把握させる。
- イ いくつかの職業を例に、必要と思われる適性を選ぶワークシートを用意する。

職場体験報告会等を行う場合は、体験した職業における適性を紹介する場面を入れさせる。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | <p>1 適性とはどのような意味かを予想して考え、発表する。</p> <p>適性の意味を知り、いくつかの職業を例に、それに合う適性を考えよう</p> |
| 3分 | |
| 展開 | <p>2 いくつかの職業を例に、それぞれの職業の特色と、必要と思われる適性について考え、話し合う。</p> <p>(1) 各自で考え、自分の考えをワークシートに記入する。</p> <p>(2) 班毎に検討する。</p> |
| 42分 | |
| 4分 | |
| 展開 | <p>3 自分の希望する職業の適性について考え、話し合う。</p> <p>(1) 自分の希望する職業の適性について考え、ワークシートに記入する。</p> <p>(2) ペアまたは班で話し合い、確認する。</p> |
| 4分 | |
| 展開 | <p>4 「中学生活と進路」p.71「適性を見つめ、可能性を広げよう」を読んで、感想を発表する。</p> |
| 5分 | |
| 終末 | <p>5 自分の希望する職業に就くために、今後努力していきたいことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 希望する職業に必要とされる適性をもっと深く調べてみる いろんなことに挑戦し自分の可能性を広げる |

主な指導と援助

自由に発表させる。
ヒントとして、演劇の役割などでの「適役」ということばを基に考えさせる。
「中学生活と進路」P.70で適性の意味を確認するとともに、活動テーマを確認させる。

情報選択能力④に関する工夫

→適性の意味の確認

ワークシートの例（一部）

| 職業の分類の観点 | A 職業名 | B 特に必要と思われる能力・人柄 |
|----------|-------|------------------|
| 人にサービスする | | |
| 人に奉仕、教える | | |
| 自然・生物が相手 | | |
| 物や機械が相手 | | |
| 事務をとる | | |
| 芸術関係、創造力 | | |

〔A群 職業名〕

タレント 美容師 大工 会社の事務員 飼育員 保育士

※ 各観点毎に2、3種類の職業例を用意する。

〔B群 必要と思われる能力・人柄〕

物を作るのが好き 人前で演技をしたり歌うのが好き
資料をうまく整理できる 植物や動物を世話するのが得意
手先が器用 面倒見がいい 人と接することが好き

※ 各観点毎に2、3種類の能力・人柄例を用意する。また、1つの能力・人柄例が、複数の職業に関係する場合はあることに留意させる。

情報選択能力⑤に関する工夫

→いくつかの職業とその適性を考える

多面的、客観的に考えるようにさせる。
机間指導で、適宜援助する。

思考能力に関する工夫

→自分の希望職業の適性からの検討

職業には適性があるが、絶対的なものではなく、自分の可能性を広げていくことで対応できることに気付かせる。

強い目的意識をもって努力を重ねることが大切であることを強調する。

意志決定能力に関する工夫

→各自の希望達成を目指した努力事項

5 事後指導

- ・ワークシートを集め、「今後努力していきたいこと」を通信等で紹介する。
- ・必要に応じて、個別指導（個人面談）を行う。
- ・進路適性検査を行う。

2年-34 題材名 「適性を生かす進路を選ぼう」

1 目標

- ア 自己理解を一層深化させるには、どんな観点や方法によったらよいかを理解させる。
- イ 友達の特性を意識して見つけていくことで、他者理解の雰囲気を作りつつ、自己理解の方法を理解させる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **問題解決能力**：④友達の特性を見つけることで、自己理解にもつなげる。⑥家族や友達の意見及び進路適性検査等を参考にして、自分の特色をまとめる。
- イ **意志決定能力**：自己の可能性を広げていく気持ちをもつ。
- ウ **情報選択能力**：自己理解の深化を図る観点や方法を理解する。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 適性の意味を理解させ、自己理解深化の方法を把握させる。
- イ 家族から、自分の個性についてと、進路についての考えを聞いてこさせる。
- ウ 適性検査を実施し、資料を得ておく。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 「高校生が進路について学びたかったこと」の資料を見て、自己理解の大切さを理解する。 自分の個性や適性をより深く知る観点や方法を理解し、自分をもっと知ろう |
| 3分 | |
| 展開 | 2 自分を知る観点にはどんなものがあるかを考えて発表する。 ①行動や性格 ②学習への興味関心・成績 ③身体や運動能力 ④趣味・特技 ⑤仕事への興味関心 ⑥進路の希望 ⑦家族の希望や考え 等 |
| 44分 | 3 自分を知るための方法にはどんなものがあるかを考えて発表する。 ①自分自身での振り返り ②諸検査や実体験 ③周りの人（家族、友人、先生）の意見 |
| 44分 | 4 3番の中で出された「親しい人から聞く」方法として、「私からみたあなた」のテーマで友達についての特色を短冊に書き、意見交換する。 |
| 44分 | 5 4番で書いた短冊、家族から聞いてきた意見、適性検査の結果を見ながら、2番の7つの観点到に沿って自分の特色をできるだけ詳しくワークシートに記入する。 |
| 3分 | 6 自分を生かしていくためには、自分の可能性を広げていく気持ちをもつことが大切であることを理解する。 ・プラス思考で考える ・夢を実現しようとする強い願いをもつ |
| 3分 | |

主な指導と援助

「中学生活と進路」p.73の「高校生が進路について学びたかったこと」の資料をOHPやパソコンのスライド等で大きく提示できるようにしておく。
進路を考える上で必要な情報の中でも、自分を知ることの大切さを理解させ、本時のテーマを確認する。

1年生の時の「人と個性」の学習を想起させながら、自由に発表させる。
意見が出にくい時は、「中学生活と進路」pp.74-75を参考にして振り返り、確認させる。

1年生の時の「人と個性」の学習を想起させながら、自由に発表させる。
意見が出にくい時は、「中学生活と進路」p.73「自分を知るための方法の例」を参考にして振り返り、確認させる。
また、同頁の「自分を知る検査の例」について補説する。

情報選択能力に関する工夫
→自己理解を図る観点や方法

班の中で、互いに相手の特性を書き合う。記入した特性について、どんなことからそうしたことを感じているのか意見交換させる。くれぐれも誤解が生じないように留意させる。
人間関係が不安な場合は、良いところだけを記入させる。

問題解決能力④に関する工夫
→友達の特性を見つける活動

検査の結果は絶対的なものではないことに留意させる。
できるだけ客観的に自分を見つめるように留意させる。
時間内に記入できなかった場合は課題とする。

問題解決能力⑥に関する工夫
→自分の特色をまとめる活動

「中学生活と進路」p.76「夢に勝る適性はない」を読んでの感想を発表させる。

意志決定能力に関する工夫
→「夢に勝る適性はない」の読み物資料

5 事後指導

- ・ワークシートや適性検査の結果を持ち帰り、家族とも話し合うようにさせる。
- ・ワークシートや使用した資料などは、ポートフォリオとして整理し、3年生に引き継いで指導に生かす。

1 目標

- ア 希望実現のために進路計画を検討・修正し、自分にふさわしいものにしていく必要性を理解させる。
- イ 進路計画を吟味するための観点を理解させる。
- ウ 進路計画を積極的に検討し、自分にふさわしいものに修正させる。
- エ 進路計画の実現を目指して、意欲的に取り組む態度を身に付けさせる。

2 ガイダンスの機能(選択)にかかわる能力

- ア **思考能力** : 2年生の進路学習の成果を生かす。
- イ **問題解決能力** : 進路計画の検討・修正はどんな場合に必要か考える。
- ウ **意志決定能力** : ㊸進路計画を修正し、望ましい進路計画を立てる。㊹強い意志で実現への努力を決意する。

3 指導上の工夫(留意点)

- ア 自己理解の深化を踏まえ、進路計画の吟味や自己伸長への努力を促す。
- イ 1年生で作成した進路計画を見直させ、**新たな進路計画を立案**させる。

1時間目に数名の父母から進路計画にかかわる講話を聞き、2時間目に進路計画を検討・修正する方法も考えられる。

4 展開(1/2時)

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 5分 | 1 前時で学習した自分の特色とのかかわりで、 進路の希望がどうなってきたか、考え発表する。 進路計画を検討するポイントを考え、新たな進路計画を立てよう |
| 展開 43分 | 2 どのような場合に進路計画を検討し、修正しなければならないかを班で話し合う。 (1) 班毎に話し合う。 (2) 各班で出された意見を発表する。 (3) 先生の、進路計画の検討・修正の経験談を聞く。 |
| 終末 2分 | 3 進路計画の検討・修正をする上でのポイントを確認し、自分の進路計画を見直す。 4 次時の活動についての説明を聞く。 ・これまでの進路の学習を踏まえて新しい進路計画をたてる |

主な指導と援助

数名に発表させる。
進路希望に変化が生じてきた例、変化が生じない例の双方を取り上げるようにする。
進路計画の見直しをしていくことを本時の活動テーマとして確認させる。

これまでの進路の学習を振り返らせ、それらを踏まえて、様々な観点から総合的に考えさせる。
進路の学習を進める中で、進路計画にかかわる様々な条件が変化してきていることに気付かせる。

問題解決能力 に関する工夫
→進路計画の検討・修正が必要な場合を考える
「中学生活と進路」p.77「進路計画を立てるポイント」を基に、進路計画の検討・修正のポイントを確認させる。
また、この「進路計画を立てるポイント」の内容を、1年生の33「進路計画の立て方」で触れた「進路選択の6つの段階」に沿った形に改編して、「進路計画の検討・修正チェックシート」を作成し、検討させる。

思考能力 に関する工夫
→進路計画の検討・修正のポイントに沿った見直し

4 展開(2/2時)

| | |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 2分 | 1 前時に学習した、進路計画の検討・修正のポイントを確認する。 |
| 展開 43分 | 2 これまでの進路の学習内容を踏まえて、自分の新しい進路計画を立てる。 ・進路選択の6つの段階を踏まえる ①将来の希望職業、②進路を決める目的、 ③自分の特色、④進路先の状況、 ⑤進路計画、⑥進路相談 |
| 終末 5分 | 3 でき上がった進路計画を実現していくために、今後特に努力していくことと、実現への決意を書く。 |

1年生の時の進路計画の資料、2年生でのこれまでの進路学習関係の資料を参照させる(進路学習ファイルの活用)。
用意する進路計画の様式は、1年生の時の進路計画の様式に準じ、進路選択の6つの段階を踏まえて作成する。

意志決定能力㊸ に関する工夫
→新しい進路計画の作成

2年生での進路学習は最後であるので、本時のまとめと決意を3年生につなげていくように促す。

意志決定能力㊹ に関する工夫
→今後の努力事項と実現への決意の記入

5 事後指導

- ・「今後特に努力していくこと」と「実現への決意」を通信等で紹介する。
- ・作成した進路計画や関連資料は、ポートフォリオとして整理し、3年生に引き継いで指導に生かす。

2年-37 題材名 「私の通知表」

1 目標

- ア 2年生の1年間を振り返り、自らの成長点や今後の課題を明確にさせる。
- イ 各自のこの1年間の成果と課題について意見交換し、讃え合わせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **人間関係能力** : この1年間の級友の努力を互いに認め合う。
- イ **感情統制能力** : 不本意だったことも、客観的に振り返る。
- ウ **思考能力** : 個人、学級、学校生活などのレベルで1年間を振り返り、3年生への課題を考える。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 個人の生活の反省、グループや学級、生徒会、部活動などの取り組みの反省を確実に行わせる。
- イ 年度当初に書いた「2年生になって」の作文を導入に活用する。
- ウ 「私の通知表」を作成させ、それを基に、**班内で話し合わせ**成果と課題を明確にさせる。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 「2年生になって」の作文を読んで、この一年を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 中学校2年生の1年間の生活と学習の反省をし、課題を明確にしよう </div> |
| 展開 | 2 年度初めに設定した個人目標の観点からも振り返ってみる。 |
| | 3 「中学生活と進路」p.80の「私の通知表」を参考にして2年生での1年間を振り返り、「私の通知表」を作成する。 ア 目標の達成度 イ 学習関係 ウ 生徒会・行事関係 エ 部活動関係 オ 係活動関係 カ 1年間の思い出ベスト3！ ①良かったこと ②大変だったこと キ 努力したこと |
| 開 | 4 班内の2、3人で「私の通知表」を見合っ、意見交換をする。 ・互いの努力の認め合いと思い出の共有 |
| | 5 2年生での学習の仕方について振り返る。 (1) 学習の仕方についてのチェック表で各自チェックする。 (2) 班内で、学級としての学習の仕方について話し合い、発表する。 (3) 学級としての学習上の改善点をまとめる。 |
| 40分 | |
| 終末 | 6 3年生に向けての課題をまとめ、ワークシートに記入させる。 ・生活や人間関係の面から ・学習の面から ・行事や諸活動の面から |
| 7分 | |

主な指導と援助

2年生の1年間を反省するに当たり、年度当初に書いた決意作文を読ませることで、初心に返らせる。そして、新鮮な気持ち、挑戦心、向上心を喚起させながら反省を行い、3年生へ前向きな気持ちでつないでいくように促し、活動テーマを確認する。

「中学生活と進路」p.80の「私の通知表」に基づいてワークシートを作成し、記入させる。

できるだけ客観的な目で振り返るように指示し、不本意だったことも素直に振り返らせる。

感情統制能力 に関する工夫
 →客観的な目でこの1年間の自分を振り返る

まず、良い点を認め合い、次に課題点について話し合う。

人間関係能力 に関する工夫
 →班の中での意見交換・認め合い

「中学生活と進路」p.81の「学習の仕方を振り返る」を活用して振り返らせる。

学級としての学習の仕方を振り返る観点として、各学校で定めている「授業の約束」等を考える。一般的な観点としては、①授業での集中の状況、②授業への取り組みの積極性、③課題や道具の準備の状況、④支え合いや協力の状況、⑤家庭学習の取り組み状況、⑥定期テストの取り組み状況等が考えられる。

本時の活動で行った1年間の反省を踏まえて課題をまとめさせる。課題に前向きに取り組んでいく気持ちをもたせる。

思考能力 に関する工夫
 →反省を基に、3年生への課題を考える

5 事後指導

- ・「1年間の思い出ベスト3」や「努力したこと」を通信等で紹介する。

2年-38 題材名 「最高学年への心構え」

1 目標

- ア 3年生の自分をイメージさせ、最高学年生としての心構えをもたせる。
- イ 3年生への準備期間としての春休みを有意義なものにするための目標をもたせる。

この活動を三学期初めに実施し、そこでの決意を基に、三学期の成果と課題を最後にまとめる方法も考えられる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **思考能力**：「中学3年生」から連想することを考える。
- イ **問題解決能力**：最高学年生としての心構えを話し合っまとめる。
- ウ **意志決定能力**：最高学年生としての自分の心構え・抱負を固める。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 「中学3年生」ということばから連想するウェビングマップを作らせ、イメージをふくらませる。
- イ 最高学年生としての心構えを話し合わせる。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 「中学生生活と進路」p. 81「3年生はスタートが大切です」を読み、本時のテーマを確認する。 3年生での自分をイメージし、最高学年生になる上での心構えをもとう |
| 展開 | 2 「中学3年生」ということばから連想することをウェビングマップにし、話し合う。 (1) 各自でウェビングマップを作成する。 (2) 班員それぞれのウェビングマップを見ながら、中学3年生の特色を話し合う。 3 最高学年生としての心構えについて話し合い、ワークシートに記入する。 (1) 班毎に、次の観点で話し合う。 ア 学習への取り組み姿勢 イ 生活面での姿勢 ウ 学年・学校行事への取り組み姿勢 エ 生徒会や部活動への取り組み姿勢 (2) 各班で話し合った内容を発表する。 |
| 開 | (3) 全体で共通して留意していくべき心構えを確認する。 |
| 42分 | 4 3年生への準備期間としての春休みの過ごし方について考える。 (1) 各自の目標を設定する。 (2) 春休みの計画表を作成する。 |
| 終末 | 5 最高学年生になる上での各自の心構えや抱負をワークシートに記入する。 ・進路の実現に向けて、学習を充実させる ・自信と誇りをもった言動をとる ・下級生から敬愛される最高学年生を目指す |

主な指導と援助

残された中学校での1年間を有意義なものにするために、今から3年生になるという自覚をもち、準備をしていくことの重要性を理解させて本時の活動テーマを確認させる。
前時にまとめた「3年生に向けての課題」を振り返らせたり、3年生の先輩からのメッセージ（録音）を聞かせたりして意識を高めさせる方法も考えられる。

一つのことにこだわらずに、ゲーム感覚でどんどん記入するようにさせる。
進路決定にかかわる大切な学年であることや、学校のリーダー（学校の顔）であることを共通に認識できたか確認する。

思考能力 に関する工夫
→「中学3年生」のウェビングマップ作り
2番(2)の活動で認識した「中学3年生」の姿と関連させて考えさせる。
特に、アの観点については進路決定とのかかわりで、イ～エの観点については学校のリーダーとしての立場とのかかわりで考えさせる。

進路の実現に向けて各自が努力し、みんなで励まし合っ学習していくこと、下級生から敬愛される最高学年生を目指して自信と誇りをもった言動をとること等について確認させたい。

問題解決能力 に関する工夫
→最高学年生の心構えの話し合い
春休みの計画を立てる上でのポイントとして、「中学生生活と進路」p. 84を参考にさせる。
計画表の作成は、時間内にできないと思われるので、目標や留意点（立案のポイント等）を確認し、残りは課題とする。

前時にまとめた「3年生に向けての課題」と、本時の班や学級での話し合いで確認したことを踏まえて、各自の3年生に向けての心構え・抱負を考えさせる。
意志決定能力 に関する工夫
→各自の3年生に向けての心構え・抱負

5 事後指導

- ・最高学年生としての心構えや抱負を、通信等で紹介したり、学年代表の学期末の挨拶に反映させたりする。
- ・作成した資料は、ポートフォリオとして整理し、3年生に引き継いで指導に生かす。
- ・春休みの計画の作成は、課題として取り組ませる。

第3学年のガイダンスの機能を生かした単位時間の学級活動の指導計画案 《目次》

| 月 | 主な行事 | 第3学年 | | | | |
|----|------------------------------------------------------------|---------------------------------|----|---|---------------------|-----------|
| | | 題材名 | 適応 | | | 選択 |
| 4 | ・始業式 ・入学式 ・生徒会オリエンテーション ・3年修学旅行 ・応援歌練習 ・体育祭 | 1 3年生になって | ◎ | | ----- 8 1 | |
| | | 2 学級目標を決めよう | ○ | | ----- 8 2 | |
| | | 3 修学旅行の準備 | | ○ | | |
| | | 4 学級組織作り | ○ | | ----- 8 3 | |
| | | 5 自分で選ぶ選択教科 | | ◎ | | ----- 8 4 |
| | | 6 体育祭に向けて | ◎ | ○ | | |
| | | 7 | | | | |
| 5 | ・生徒総会 ・中間テスト | 8 3年生の学習 | ○ | ○ | ----- 8 5 | |
| | | 9 | | | | |
| | | 10 何のために学ぶのか | ○ | ◎ | ----- 8 6 | |
| 6 | ・地区中総体 ・期末テスト | 11 学級の充実と改善 | ◎ | | ----- 8 7 | |
| | | 12 13 先輩の姿に学ぶ | | ◎ | ----- 8 8 | |
| 7 | ・県中総体 ・期末面談 ・終業式 | 14 一学期の反省 | ○ | | ----- 8 9 | |
| | | 15 生き方について考える | | ◎ | ----- 9 0 | |
| | | 16 夏休みの生活設計 | ○ | | ----- 9 1 | |
| 8 | ・始業式 ・地区陸上大会 | 17 夏休みの収穫 | ○ | | ----- 9 2 | |
| | | 18 二学期の計画 | | ◎ | ----- 9 3 | |
| 9 | ・地区新人戦 ・中間テスト | 19 自分を見つめ直す | | ◎ | ----- 9 4 | |
| | | 20 21 進路先の調査 | | ◎ | ----- 9 5 | |
| 10 | ・生徒会立会演説会 ・県新人戦 ・文化祭 | 22 学習の課題や悩みの解決 | ◎ | ○ | ----- 9 6 | |
| | | 23 文化祭の取り組み | ◎ | ○ | | |
| | | 24 | | | | |
| 11 | ・県新人戦 ・（総合「発表会」） ・期末テスト | 25 | | | | |
| | | 26 進路を最終決定する | | ◎ | ----- 9 7 | |
| | | 27 自分の道を切り開く | | ◎ | ----- 9 8 | |
| 12 | ・学期反省 ・期末面談 ・終業式 | 28 進路の手続き | | ◎ | ----- 9 9 | |
| | | 29 二学期の反省 | ○ | | (一学期の反省を準用してください) | |
| | | 30 冬休みの生活設計 | ○ | | (夏休みの生活設計を準用してください) | |
| 1 | ・始業式 | 31 冬休みの反省と新年の決意 | ◎ | | ----- 1 0 0 | |
| 2 | ・期末テスト ・生徒総会 | 32 | | | | |
| | | 33 34 勇気を出して自分の道を | ○ | ◎ | ----- 1 0 1 | |
| 3 | ・公立高校入試 ・修了式 ・卒業式 | 35 希望にあふれて | ○ | ◎ | ----- 1 0 2 | |
| | | 36 中学校生活のまとめ | ○ | | | |
| | | 37 上級学校への心構え | ○ | ○ | | |
| | | 38 | | | | |

「注」◎印は、適応や選択にかかわりの深い題材、○印は、適応や選択にかかわりのある題材

3年-1 題材名 「3年生になって」

1 目標

- ・3年生としての生活を始めるに当たり、これまでの中学校生活を反省させ、最上級生としての自覚のもと、新たな希望と自信をもって中学校生活の最後の1年を有意義に過ごす心構えをもたせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **人間関係能力** : 級友とのコミュニケーションを広める。
- イ **感情統制能力** : 2年生までで、不本意だった部分について克服していく。
- ウ **思考能力** : 最上級生としての希望や抱負をもつ。
- エ **意志決定能力** : 最上級生としての自覚や役割を理解し、良きリーダーとして活動する決意をもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 何事にもリーダーとして積極的に全力で取り組み、その成果を適切に評価し、最上級生としての**揺るぎない自信と誇りをもって着実な日常生活を送る**ようにさせる。
- イ 進路の面での3年生の立場を自覚させ、1年間の**学習の重点目標と努力目標を明確にもたせる**。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 5分 | 1 始業式や入学式を終え、3年生になった感想を発表する。 各自の3年生にかける希望や抱負、目標を明確にし力強いスタートを切ろう |
| 展開 40分 | 2 担任の先生の願いを確認する。 ・学級開きの際の、担任の先生の方針を再確認する 3 3年生での学校生活の大きな流れを理解し、それらに対する希望や抱負をもつ。 (1) 1・2年生までの経験を踏まえ、3年生ではどのような学校生活を送るのかを発表し合う。 (2) 1・2年生までの生活を振り返り、3年生での学校生活に対する自分の希望や抱負をはっきりさせる。 4 進路の問題から、3年生の置かれた立場を自覚し、3年生での学習に対する目標を立てる。 ・重点目標 ・努力目標 |
| 終末 5分 | 5 本時の活動をとおして打ち立てた3年生での目標を短冊に清書する。 ・生活の面での目標 ・行事の取組に対する目標 ・学習の重点目標と努力目標 |

主な指導と援助

5～6名に発表してもらい、最上級生としての喜びの一方で、指導的立場における若干の不安があることを浮き彫りにする。
そして、各自の希望や抱負を明確にし、さらに進路の実現に向けて学習面での目標を打ち立て、3年生の生活を力強くスタートさせるための活動をするをテーマとして確認する。

最高学年としての望ましい自覚と誇りをもって、後輩に気迫と思いやりのある援助活動をするように期待していることを確認する。

できるだけ多くの生徒に発表の機会を与え、多種多様な行事や活動を挙げさせる。
挙げられた行事や活動は、年間の流れがわかるように黒板に整理する。生徒には年間カレンダーシートを配付し、各自記入させる。
最終的には、各自の進路の実現に向かって1年間が流れていくことを気付かせる。

人間関係能力、**感情統制能力**、**思考能力** に関する工夫

→ **3年生での生活の流れをつかみ1・2年生までの生活の反省の上になった希望や抱負の明確化**

これまでの学習方法等を客観的に振り返らせ、今後伸ばしたい点や改善点を明らかにし、その対策を練らせる。その上で、学習の重点目標や努力目標を立てさせる。

思考能力 に関する工夫

→ **現状分析に基づいた改善目標の立案**

自分で考えた対策に基づく目標を一字一句清書することで、実行への決意を強化させる。

意志決定能力 に関する工夫

→ **決意の清書**

5 事後指導

- ・本時で考えた3年生での生活や学習に対する希望や抱負を、次時の学級目標設定の活動に生かす。
- ・各自の、3年生での生活や学習に対する希望や抱負、目標を短冊に書かせ、教室に掲示する。
- ・各自の、3年生での生活や学習に対する希望や抱負、目標を通信等でも紹介する。

3年-2 題材名 「学級目標を決めよう」

1 目標

- ア 「こんな学級がいい」という共通理解を図らせ、集団の一員としての自覚をもって望ましい学級作りをしていくための「学級目標」を設定させる。
- イ 最高学年としての立場と役割を自覚させ、学級集団のさらなる連帯強化や向上を図らせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **思考能力**：こんな学級にしたいという願いや考えをもつ。
- イ **問題解決能力**：中学校生活の最後の年を充実させるために、これまでの経験やみんなの願いを基に、自主的に学級目標を決める。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 事前に「こんな学級がいい！」のカードに各自の思いや願いを書かせ、それを生徒に集計させ、その結果を配付しておき、よく読んで話し合いに臨むようにさせる。
- イ 学級目標は学級生活のよりどころとなるものであるから、具体的で評価が可能なものになるようにさせる。
- ウ 司会は、教師の事前指導を受けた生徒（仮議長）に行わせる。資料の準備も生徒に行わせる。

4 展開

| 時間 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 5分 | 1 「こんな学級がいい！」のアンケート集計を確認し、活動のテーマを知る。 みんなの願いを反映させた「学級目標」を作る |
| 展開 42分 | 2 学級目標作り当たりの留意点や担任の先生の願い及び活動の進め方についての説明を聞く。 ・具体的で評価が可能なもの ・担任方針あいさつ内容の再確認 ・学級目標作りの活動の進め方 3 学級目標作りの活動をする。 (1) 数人ずつの任意のグループに分かれ、「こんな学級がいい！」のアンケート集計を基に、グループとしての学級目標の案を考える。 ・各グループの案とその理由 (2) 各グループからの案を基に話し合い、学級目標を決定する。 ・各グループからの案に対する質疑 ・各グループからの案の整理統合や修正 ・学級目標の決定 |
| 終末 3分 | 4 活動を振り返っての感想や決定した学級目標に対する感想を発表する。 ・みんなの意見や願いが込められた ・学級や自分の進むべき道がわかる ・学級組織決めも積極的に行う |

主な指導と援助

アンケート集計結果から、学級のみんながおおよそどのような願いをもっているかを確認し、みんなの願いを反映させた学級目標を作ることを活動テーマとする。

思考能力に関する工夫

→「こんな学級がいい！」のアンケート集計

学級目標は学級生活のよりどころとなるものであるから、具体的で評価可能なものになるようにさせる。
学級開きでの担任方針あいさつ内容を振り返らせ、担任の願いを確認する。
グループごとに話し合って案を作り、それを全体でまとめていくことを確認する。
司会は、生徒（仮議長）が行う。

グループは、座席をみながら数名で適宜編成する。司会と発表者も適宜指定する。
その案を考えた理由についても発表できるように準備させる。

問題解決能力に関する工夫

→グループでの話し合い

各グループから出された案に対し、本時の活動テーマや「具体的で評価が可能なもの」という観点からの質疑をとおして案の整理統合や修正を行い、全員で一つの形にしていく。

問題解決能力に関する工夫

→全員での話し合い

学級目標作りの活動の経過と、自分及び級友の言動を振り返っての感想や、決定した学級目標の下での学級や自分のあるべき姿について考えさせ、発表させる。
次の学級組織作りの活動につなげる。

思考能力に関する工夫

→感想や気持ちの発表

5 事後指導

- ・生徒各自の「こんな学級がいい」のアンケート集計結果や、決定させた学級目標を、通信等で紹介する。
- ・決定された学級目標を教室正面に掲示し、折に触れて学級目標に込められた願いを確認させる。

3年-4 題材名 「学級組織作り」

1 目標

- ア 「学級目標」に沿った学級作りをするための学級組織の在り方（学級経営の基盤であり人間関係を円滑にする基盤となる学級組織の在り方）を考えさせ、全校や学年の生徒会活動との関連を踏まえながら、活発に活動できる学級組織を作らせる。
- イ 組織は、構成員の協力がなければ機能しないということを認識させ、責任をもって役割を遂行しようとする意欲をもたせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **問題解決能力**：中学生活の最後の年を充実させるために、これまでの経験やみんなの願いを基に、自主的に学級組織を決める。
- イ **意志決定能力**：最上級生として集団活動を積極的にリードし責任を果たす決意をもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 学級目標決定後に、自分がやってみたい役職を考えさせておく。その際、学級目標のねらいを踏まえさせる。
- イ 個々の生徒が思いやりと責任をもって活動しようとする雰囲気を作る。また、特定の生徒の孤立や排斥行為などがないように留意する。
- ウ 司会は、教師の事前指導を受けた生徒（仮議長）に行わせる。資料の準備も生徒に行わせる。

4 展開

| 経過 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 5分 | <p>1 学級目標とその願いを踏まえ、その実現を目指す学級組織を作ることを確認する。</p> <p>「学級目標」を実現していくために各自の願いが反映された学級組織を作ろう</p> |
| 展開 40分 | <p>2 学級組織作りについての留意点を確認し、進め方について決定する。</p> <p>(1) 学級組織作りについての留意点について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒会とのかかわり ・学年生徒会とのかかわり <p>(2) 学級組織作りの進め方について決定する。</p> <p>ア 役員の決定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決める役職の順番 ・候補者の擁立と決定の仕方 ・候補者が重複した場合の決定の仕方 <p>イ 班や当番の決定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班の構成と班員の決定の仕方 ・座席の決定の仕方 ・清掃区域や給食当番の割当の仕方 <p>ウ 係活動の決定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な係の種類 ・係員の決定の仕方 <p>3 学級組織作りの活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級組織作りについての留意点や進め方に沿って決定する |
| 終末 5分 | <p>4 決定した学級組織を確認し、組織の中での自分の役割について考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織が機能するように責任を果たす ・学級目標の達成に向けてみんなと協力して活動する |

主な指導と援助

学級目標を全員で復唱し、それに込められた願いを確認する。学級目標を実現するための学級組織はどうあればよいかをグループで考えさせ、発表させる。

問題解決能力 に関する工夫

→グループでの話し合い

学級で選出すべき役員や委員などが全校や学年の組織とどのようにかかわっているかを示した組織図を用意し、それに沿って確認する。
役員や委員などが決定したら、組織図を拡大し、それに役員や委員名を書き添えて（短冊を作って貼り付ける）学級掲示に生かす。

話し合いによって、学級組織作りの進め方について決定していく。
司会は、生徒（仮議長）が行う。
話し合いをとおしてみんなが共通理解することによって協力が生まれ、守られていくことを確認する。

役員の決定については、組織図を基にしながら考えさせる。
候補者の擁立については、事前にやりたい役職を考えさせているので、意欲を優先し立候補を原則に進めるように導く。

意志決定能力 に関する工夫

→立候補を原則とすること

係活動の決定については、生徒の意見やアイデアを学校の教育活動の中で最大限尊重することによって意欲をもたせ、活動を活発にさせる。

問題解決能力 に関する工夫

→係活動のアイデア

問題が生じた際は、その都度話し合いによって解決する。

問題解決能力 に関する工夫

→話し合い活動

希望とは異なった役割であっても、集団の一員としての立場を自覚し、明るく楽しい学級となるように活動する決意をもたせる。

意志決定能力 に関する工夫

→自己の考えや気持ちをまとめる作文

5 事後指導

- ・組織図を拡大し、それに役員や委員名を書き添えて（短冊を作って貼り付ける）学級掲示に生かす。
- ・決定した役員や委員・係等を、通信等で紹介する。

3年-5 題材名 「自分で選ぶ選択教科」

1 目標

- ア 選択教科のねらいを確認し、自校の3年生での選択教科の種類や授業時数などについて知らせ、選択教科への関心を高める。
- イ 3年生での選択教科の選択の仕方について理解させるとともに、1・2年生での選択教科の選択の経験を生かして将来をも見据えた広い視野での選択をさせ、意欲的に取り組もうとする態度を養う。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力** や **問題解決能力** : 1・2年生時の選択教科の選択理由を振り返り、学習の満足度を考えた上で、どのような選択が自分にとってよいのかを決める。
- イ **意志決定能力** : 自らの意志で選択した教科に意欲的に取り組む決意をもつ。
- ウ **情報選択能力** : 選択教科のねらいや教科の種類、授業時数等から選択の可能性をとらえる。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア **学年合同での学級活動**とし、**選択教科担任の協力を得ながら**選択教科の学習のあらましを理解させると共に、どの教科が自分にとってよいのかを考えさせ、学習への動機付けを明確にさせる。
- イ 選択の考え方の例として、**卒業生の先輩の体験談**を生かし、**それを基に討論したり個別相談したりする**。

4 展開

| 時間 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 3年生の選択教科のあらましを知り、選択の仕方について考えることを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 選択教科のあらましと、適切な選択の仕方について知ろう </div> |
| 5分 | |
| 展 | 2 選択教科のねらいと、自校の3年生での選択教科の種類や授業時数、選択の仕方などについて、教務主任の先生の説明を聞く。 ・選択教科のねらい ・選択教科の種類と授業時数、教科担任 ・選択の上での留意点 ・選択教科決定の手順 3 各選択教科の学習内容や学習方法、必要な経費や物品などについて、教科担任の先生からの説明を聞く。 ・学習内容や学習方法 ・必要な経費や物品 ・適正人数 |
| 開 | 4 卒業生の先輩の体験文読む。 ・選択教科の選択の理由 ・その選択教科を学んでの感想 |
| 38分 | 5 選択教科の説明を聞いて、選択教科の選択に当たったの考え方について、討論したり、個別相談したりする。 |
| 終末 | 6 どんな考えでどの教科を選択するかを、各自でまとめる。 ・希望する教科とその理由・決意 7 (第二希望まで) ・選択に当たったの要望 |
| 7分 | |

主な指導と援助

1・2年生の時の選択教科の選択で、よかったことやよくなかったことを出し合う。
 3年生の選択教科の選択に当たって、よりよい選択の在り方について考えることを、活動テーマとすることを確認する。

学年の学習担当の先生が司会する。
 選択教科の開設状況についての資料を用意し、それに基づいて説明する。
 選択教科申込用紙の記入の仕方と共に、決定までの手順についても説明する。
 状況によっては第1希望通りにならないこともあること、正式決定までの間に2単位時間程度試行機会をおくことや随時教育相談を行うことを付け加えておく。

「選択教科」の関連資料
 すべての選択教科の概要を一覧表にした資料を用意し、それに沿って説明する。
 教科担任の先生が、独自に資料や授業風景などの写真を用意して説明してもよい。

情報選択能力 に関する工夫
 →**教科担任の協力**
 選択時の考えや、学習終了時の感想を書かせておいたものをプリントして配布する。
 開設されているすべての選択教科についての資料を配付する。

情報選択能力 に関する工夫
 →**先輩の体験文**
 討論は、選択の仕方(組み合わせ)の可能性の面から行わせる。
 討論でも不明確な点は個別に相談させる。

思考能力 及び **問題解決能力** に関する工夫
 →**選択の在り方についての討論や個別相談**

選択教科の選択について、自分の考えや気持ちを整理し、選択教科申込用紙にまとめさせる。

意志決定能力 に関する工夫
 →**自己の考えや気持ちをまとめる作業**

5 事後指導

- ・正式決定までの間の試行機会や、随時の教育相談を利用し、より適切な選択をさせる。

3年—8 題材名 「3年生の学習」

1 目標

- ア 3年生の学習は、中学校での学習の総仕上げとして調和のとれた学習を進めることを第一義とするという意識をもたせる。
- イ これまでの学習方法等を振り返らせ、今後伸ばしたい点や改善点を把握させて、学習の充実を図らせる。
- ウ 学習や諸活動に対する重点目標、諸活動とのかかわりを踏まえた学習計画を立てさせ、3年生での学習や活動への見通しと意欲をもたせる。

2 ガイダンスの機能（適応・選択）にかかわる能力

- ア **思考能力** や **問題解決能力** : これまでの学習方法を振り返り、今後伸ばしたい点や改善点を明らかにし、その方策を決める。
- イ **意志決定能力** : 3年生での学習を、中学校の学習の総仕上げとしてとらえ、計画的に取り組む。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア **3年生の学習に対する疑問や悩みに関する事前アンケート**の実施し、資料化する。
- イ **教科係に、3年生での学習への取り組みの心構えや留意点について、各教科担任から取材**させる。

4 展開

| 時間 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 5分 | 1 3年生の学習に対する疑問や悩みのアンケート結果を確認し、活動のテーマを知る。 3年生としての学習の心構えについて考え、自分に合った年間学習計画を立てよう |
| 展開 42分 | 2 3年生としての学習の心構えについて考える。 (1) 1年間の学習や進路選択についての流れを確認する。 ・先生からの説明を聞く (2) 教科係が各教科担任から取材してきた、3年生での学習の心構えや留意点を聞く。 ・ワークシートにメモをしながら聞く (3) 3年生での学習の心構えについて、学級全員に共通する事項を確認し、話し合う。 ・授業を大切に ・毎日の学習（家庭学習も）を充実させる 3 3年生での学習を充実させ、効率よく進めるためのポイントについて班で話し合う。 ・教科や諸活動の重点目標を設定する ・自分に合った年間学習計画を考える ・自分に合った生活リズムを確立する |
| 終末 3分 | 4 本時の活動で学んだことを基に、年間学習計画表作成に向けての決意を高める。 ・ムリ、ムダ、ムラのない具体的な計画に ・中学校の総仕上げの学習になるように ・毎日の授業や家庭学習を大切に |

主な指導と援助

受験や進学に関する不安、効果的な学習の仕方、学習への意欲等についての悩みを抱えている仲間が多いことを把握させ、3年生としての学習への心構えや年間の学習計画を考えることを、活動テーマとすることを確認する。

3年生の学習に対する疑問や悩みのアンケート

3年生での行事定表等を活用し、1年間の学習や進路選択についての流れを把握させる。
3年生の学習は、中学校の学習の総仕上げであり、その過程の中に受験が位置していることを説明する。

次のようなねらいから、共通の取材内容項目を設定して取材させておく。教科担任とも連携を図っておく。
①各教科に共通する心構えや留意点について考えやすくする。
②各教科（特に、自分が不安や悩みを抱えている教科）の学習の心構えや留意点をとらえやすいようにする。

思考能力 に関する工夫

→各教科担任からの取材を基に学習の改善点を考える

ワークシートのメモを基にしながら共通する事項を確認する。

問題解決能力 に関する工夫

→学習の心構えについて学級全員での話し合い

導入で提示したアンケート結果のうち、効果的な学習の仕方や学習への意欲等の問題を基に、これまでの学習で良かった点や悪かった点、今後伸ばしていきたい点等を具体的に考えさせ、目標設定や計画的な取り組み、それを支える生活リズムの確立の大切さに気付かせる。

問題解決能力 に関する工夫

→効果的な学習についての班での話し合い

年間学習計画表の作成は宿題とする。
数名に、年間学習計画表作成に向けての決意を発表させる。

意志決定能力 に関する工夫

→年間学習計画作成に向けての決意表明

5 事後指導

- ・宿題の年間学習計画表は、提出後に点検や助言をし、継続的な相談活動に生かす。
- ・良い計画表を通信等で紹介する。

3年-10 題材名 「何のために学ぶのか」

1 目標

- ア 学ぶことの意味について視野を広げて考えさせ、生涯学習の意義に触れ、一生学び続けていく姿勢を醸成させる。
- イ 学び続けようとする意欲や姿勢は、その人の生き方と密接に関連していることを理解させる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **感情統制能力**：学ぶことを、自分の生き方から見つめ直し、逃避や怠惰の心に立ち向かう。
- イ **思考能力**：学ぶことの意味を考える。
- ウ **意志決定能力**：一生学び続ける意志をもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 「今、どんな理由で学んでいるか」のアンケートを実施し、資料化する。
- イ 「学ぶことについて」のアンケートを実施し、資料化する。
- ウ 学ぶ目的について**班で話し合い**、自分の生き方を豊かにするための学習というとらえを再確認させる。
- エ 身近な地域の**生涯学習実践者**から、「**学習に対する考え方**」を取材させ、資料化しておく。

4 展開

| 経過 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 「今、どんな理由で学んでいるか」のアンケート結果を確認し、活動テーマを知る。 人は何のために学ぶのか、中学校3年生の立場で「学ぶ目的」について考えよう |
| 3分 | |
| 展開 | 2 「人は何のために学ぶのか」をテーマに、班毎に話し合い、発表をする。 (1) 「今、どんな理由で学んでいるか」や「学ぶことについて」のアンケート結果をヒントにして班毎に話し合い、発表する。 ・生きていく上での知識や技能を身に付ける ・自分自身や人生を豊かにする (2) 各班の発表に対して、質問をする。 (3) 先生からのアドバイスを聞く。 3 生涯学習の意味を知る。 ・先生の説明を聞き、ワークシートに記入する 4 生涯学習実践者の方から取材してきた「学習に対する考え方」を聞く。 ・学ぶことを楽しんでいる ・学ぶことで自分を高めている ・学ぶことに終わりはない |
| 40分 | |
| 終末 | 5 本時の活動を振り返り、中学校3年生としての「学ぶ目的」について、現在の自分の学習状況を踏まえながらどう考えていくかまとめる。 ・将来の自己実現への大事な活動 ・社会に出てからの生活の基礎 ・生涯にわたって学び続ける基礎 |
| 7分 | |

主な指導と援助

学ぶ理由として受験や進路のため等、さまざまな理由が挙げられていることを把握させ、義務教育最終学年の立場から「学ぶ目的」について考えることを、活動テーマとすることを確認する。

「今、どんな理由で学んでいるか」のアンケート

「学ぶことについて」のアンケート中の、学んで身に付いたこと、学んで良かったこと、今後学びたいこと等の視点から考えるように助言する。

思考能力に関する工夫

→**班での話し合い**

学生の時だけが学ぶ時期ではないことを確認する。

生涯学習とは、「生涯にわたって自分で学んでみようというものを見つけ、それに適した方法で継続的に行う学習」である。学校での学習は、社会に出てからの基礎となっていることを確認させる。

場合によっては、ビデオ撮影してきたものを提示したり、ゲストティーチャーとして来校していただいて実際に話をしてもらおう。その際、学ぶ喜びに力点を置いて話していただく。

意志決定能力に関する工夫

→**生涯学習実践者から、「学習に対する考え方」を聞く**

学ぶことに終わりはないことを確認し、自分の将来の生き方と結びつけながら、積極的な学習に努めるように励ます。

感情統制能力に関する工夫

→**「学ぶ目的」を自分の学習状況を踏まえて考える**

5 事後指導

- ・感想文を通信等で紹介し、保護者の方々にも理解をいただきながら、家庭での励ましをお願いする。
- ・生涯学習の実践者の方から取材してきた「学習に対する考え方」も通信等で紹介し、進路コーナーにも掲示する。

3年-11 題材名 「学級の充実と改善」

1 目標

- ・時期的に停滞気味になりがちな学級の活動（班や係の活動等）を反省・改善させ、役割と責任を意識させてよりよい学級を作っていくとする心構えをもたせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ・ **思考能力** や **問題解決能力**、**意志決定能力**：学級での活動を再点検し、問題点をあげて、その解決策を考え、よりよい学級を作っていく。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 学級の諸活動（班や係の活動）チェックリストで活動の点検をし、資料化する。
- イ **3年生スタート時の学級や個人の目標を基に、今を振り返らせる。**
- ウ **他の班からの班活動の改善や要望や提言をブレインストーミング法で話し合う。**

4 展開

| 経過 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 このごろの学級の様子や雰囲気について、感想を述べ合い、活動テーマを確認する。 学級の諸活動について振り返り、課題を改善して、今後の学級の諸活動を充実させよう |
| 3分 | |
| 展開 | 2 学級の諸活動のチェック結果を知り、学級の多くの仲間が考える問題点は何かを確認する。 ・学級全体にかかわる問題点 ・班や係にかかわる問題点 3 学級全体及び班や係の問題点の原因について班毎に話し合い、学級で確認する。 ・緊張感や変化、刺激がなくなって、漫然と日々を送っている ・なれ合いが生じて、規律がゆるみ、真面目さが薄れた ・人間関係（男女関係）がぎくしゃくしてきた 4 問題点の解決に向けての話し合いの方法について先生からの説明を聞く。 ・ブレインストーミング法 5 学級全体及び班や係の問題点の解決法について、班毎にブレインストーミング法で話し合い、発表する。 ・よりよい学級の在り方を目指し、考えつくままに活発に意見を出し合う |
| 40分 | |
| 終末 | 6 発表された意見を集約し、具体的にどうしていくか、全員で確認する。 ・学級全体で取り組んでいくこと 7 ・各班や係で取り組んでいくこと ・各個人が留意していくこと |
| 7分 | |

主な指導と援助

数名に発表させる。学級役員や班長等に感想を述べてもらうことも考えられる。

学級目標や班の目標に照らし合わせて振り返らせる

評価の芳しくない事項を問題点として順次挙げさせ、学級全体にかかわる問題か、班や係にかかわる問題か分類させる。

思考能力 に関する工夫

→学級の諸活動の再点検と問題点のピックアップ

特定の班や係の非難に走らないように留意させる。
3年生スタート時の意欲が薄らいできていることに気付かせる。

問題解決能力 に関する工夫

→学級の諸活動の問題点の原因考察

〔ブレインストーミング法の原則〕
①出されたアイデアに対する批判厳禁
②自由奔放に発言する
③より多くのアイデアを出し合う（質より量を求む）
④多くのアイデアが出されていく過程で、それらのアイデアを組み合わせ改善し、より一層発展させたアイデアを生み出していく（付け足し大歓迎）

司会者と記録者を決めて話し合う。
問題点の原因毎に、解決法を出し合い、まとめる。

問題解決能力 に関する工夫

→ブレインストーミング法による話し合い

学級の全員が、解決に向けて行動できるような視点で考えていくように助言する。
最後に、学級全員で解決に向けて努力していくことを確認する。

意志決定能力 に関する工夫

→よりよい学級にしていくために全員で確認

5 事後指導

- ・新しい活動目標や活動内容、活動計画を作成する。掲示物なども刷新する。
- ・必要に応じて組織の改編及び、役員・班や係のメンバーの刷新をする。

3年-12-13 題材名 「先輩の姿に学ぶ」 (2時間扱い)

1 目標

- ア 先輩の進路選択や決定の事例をとおして、将来の生き方や希望する職業に基づいた進路学習の大切さを再認識させる。
- イ 自分の進路を自信と希望をもって切り開いていくために、どういう心構えや準備が必要かを考えさせる。
- ウ 進路選択のための6つの段階を自分に当てはめ、進路計画等の検討・改善を図らせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：自信と希望をもって進路を切り開いていくための心構えと準備について考える。
- イ **意志決定能力**：自分の問題として進路の問題に取り組む。
- ウ **情報選択能力**：先輩のメッセージから、自分の進路選択に必要な条件等をひろい出す。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア **学年合同で「先輩と語る会」**を実施する。**保護者の参加**も積極的に呼びかける。
 (注) 招聘する先輩としては、次の理由により、各上級学校の第2学年の生徒から人選する。人数は、各上級学校から2名が望ましい。
 - ・上級学校での生活が1年数ヶ月を経過し、学校の様子により詳しくなっている。
 - ・現在の中学校3年生にとって、中学校入学時の3年生にあたり、大きな影響を受けている。
- イ 事前学習として、進路選択に必要な条件（6つの段階）をまとめ、自分に当てはめさせ、不足していることや「先輩と語る会」でつかむべきことを焦点化させておく。

4 展開

| 経過 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 「先輩と語る会」の趣旨を含め、校長先生からのあいさつを聞く。 先輩方から、進路決定までの体験談や各上級学校の様子を聞き、進路選択の参考にしよう |
| 5分 | |
| 展開 | 2 各先輩から、進路決定までの体験談や進学先の各学校の様子を聞き、質問をする。 (1) 各上級学校の先輩の発表を聞く。 (2) 発表を聞いて、自分の進路希望と照らし合わせながら考えを深めたり、質問したりする。 ・高等学校（公立・私立） ・高等専門学校 ・専門学校・各種学校 |
| 90分 | 3 先輩の発表では分からなかったことについて全体をとおして聞きたいことを質問する。 ・各上級学校の様子から ・先輩の、中学時代の進路への取り組みから |
| 5分 | |
| 終末 | 4 代表の生徒が、感想を含めてお礼の言葉を述べる。 ・進路の決定までの心構えや努力事項 ・各上級学校の様子について分かったこと ・自分の進路計画の見直しに生かすこと |

主な指導と援助

司会進行は、学年の進路担当の教師が行う。渉外関係は学年主任が中心となって進める。
学年合同での「先輩と語る会」の実施

各先輩に順番に発表してもらう。事前準備や開催条件によっては、ポスターセッション形式で進めることも考えたい。少人数に分かれて各先輩から聞くことができるので、効果が上がると考えられる。
情報選択能力に関する工夫
 →「先輩と語る会」

事前に、各上級学校の概要を調査させたり、自分の進路計画を作成させて、「語る会」の際の質問項目を考えさせておく。
思考能力に関する工夫
 →「先輩と語る会」の事前準備

先輩の発表から学んだこと、取り入れたいことを、ワークシートに記入させ、代表の生徒数名に発表させる。
意志決定能力に関する工夫
 →「先輩と語る会」を終えての感想と決意

5 事後指導

- ・先輩の発表要旨や3年生の感想を、通信等で紹介する。
- ・事前に作成した自己の進路計画の修正や改善をさせるなどし、継続的な進路相談に生かす。
- ・夏休み中の高校体験入学への動機付けを図ったり、二学期の高校説明会への橋渡しとなるよう資料を整備する。

3年-14 題材名 「一学期の反省」

1 目標

- ア 一学期の学年と各学級の活動を振り返り、成果と課題を明確にして、夏休みと二学期の生活につなげる。
- イ よりよい学級、学年の姿を目指して話し合う。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **人間関係能力**：一学期の学年と各学級の諸活動の成果と課題を確認し合う。
- イ **問題解決能力**：課題点や方向性を踏まえ、よりよい学級、学年にするために取り組んでいく事項を確認する。
- ウ **意志決定能力**：話し合いの決定事項を、二学期に、学年や各学級の活動で実行するよう決意する。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 学年執行部が中心となり、学年や各学級の活動結果をまとめた議案書を用意し、事前に配付して集会に臨ませる。
- イ 学級での話し合いは、短学活の時間や放課後に行わせる。
- ウ **学年集会の形**をとり、学年執行部や各学級の活動について質疑を交わしたり相互評価したりさせる。

4 展開

| 経過 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 学年生徒会長が、本時の学年集会の内容やねらい等について説明し、みんなで確認する。 一学期の各学級の活動の成果と課題を明らかにして、夏休みや二学期の活動につなげよう |
| 3分 | |
| 展開 | 2 月目標の取り組みの成果と課題について、学年執行部からの発表を聞く。 ・各月毎の取り組みの成果と課題 |
| | 3 学年執行部の発表に対する質問や意見を述べ合う。 ・月目標の取り組みの成果と課題に対する質疑 |
| | 4 二学期の月目標の取り組みの方向性について、学年執行部の提案を聞く。 ・一学期の課題を踏まえた提案 |
| | 5 学年執行部からの提案内容について討議し、学年としての二学期の取り組みの方向性を確認する。 |
| | 6 各学級毎に、一学期の学級の取り組みの成果と課題、二学期に向けての方向性を発表する。 ・生活面、学習面、行事面での成果と課題、方向性 |
| | 7 各学級の発表に対する質疑や意見を述べ合う。 ・各学級の一学期の成果と課題に対する質疑 ・各学級の二学期の方向性に対する意見 |
| | 8 学年として共通に取り組んでいくべき事項を確認する。 ・一学期の課題と二学期の方向性の中から |
| | 9 話し合ったことを基に、二学期に向けてみんなで学年や学級の活動を向上させていくことを確認し合う。 ・二学期の学年や学級の活動への期待や希望 ・みんなで協力していこうという気持ち |
| 3分 | |
| 10 先生からの講評を聞く。 | |
| 終末 | |

主な指導と援助

司会進行は、学年執行部または学年議長が行う。
事前に、進行についての練習や、関係者との打合せをしておく。

学年集会による一学期反省

事前の分担にしたがい、学年執行部の担当者が議案書を利用して簡潔に発表する。
議案書に、必要に応じてメモをとらせる。

学年の活動のすばらしさや学年執行部の頑張りに気付かせる。

人間関係能力 に関する工夫

→一学期の学年の活動や学年執行部のへの賞賛

学年執行部の担当者が議案書を利用して簡潔に発表する。
提案の理由を大事にさせる。
議案書に、必要に応じてメモをとらせる。

必要性の高い事項、学年全体で取り組める事項を考えさせる。

問題解決能力 に関する工夫

→学年で取り組んでいく事項の確認

事前の役割分担に基づいて、各学級の担当が発表する。
各学級毎に、一学期の生活面、学習面、行事面の成果と課題、二学期の方向性を、議案書を利用して簡潔に発表する。
議案書に、必要に応じてメモをとらせる。
一つの学級について6番と7番の活動を行い、その次に別の学級について6番と7番の活動を行う方法でもよい。

各学級の活動のすばらしい点を学び合う視点をもたせる。

人間関係能力 に関する工夫

→一学期の各学級の活動の成果と課題への賞賛

必要性の高い事項、学年全体で取り組める事項を考えさせる。

問題解決能力 に関する工夫

→学年で取り組んでいく事項の確認

学年執行部が、話し合いの決定事項を読み上げる。
学年執行部と各学級に対し、互いにエールを贈り合う。
時間があれば、合唱で締めくくることが考えられる。

意志決定能力 に関する工夫

→二学期に向けての決意固め

5 事後指導

- ・話し合いの決定事項は学年執行部の通信で、話し合いの様子については学年通信等で紹介する。

3年-15 題材名 「生き方について考える」

1 目標

- ア いろいろな角度から将来の希望職業と希望理由について検討させ、自分の生き方と結び付けさせる。
- イ 働くことの意味について再確認させることで、各自の職業観や勤労観、生き方に対する考えを深めさせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：希望職業と希望理由を考え、その職業について検討する。
- イ **問題解決能力**：自分の希望する職業に就くための進路計画等の検討・改善を図る。
- イ **意志決定能力**：職業生活をとおして自己実現を目指すよう決意する。
- ウ **情報選択能力**：働くことの意味を再認識する。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 自分の将来の生き方や希望職業の上に立った進路選択を考えさせる。
- イ **働く目的について、「中学生活と進路」pp. 24-25の「なぜその職業、その進路を選ぶのか」を基に「ロールプレイ」**をとおして考えさせる。ロールプレイは事前に練習しておく。
- ウ **職業人としての生き方の実例を紹介し**、職業生活をとおした自己実現について考えさせる。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 5分 | 1 自分の希望する職業とその理由についてのアンケート結果を確認し、活動のテーマを知る。 希望職業とその理由について考え、働くことの意味を見直して、生き方に結び付けよう |
| 展開 | 2 自分の希望する職業について、どの位知っているかを、次の三点からチェックする。 ・その職業の仕事の内容 ・その職業への適性や、求められる資格 ・その職業に就くまでの道筋 3 自分はどんな生き方を希望しているのかをチェックする。 4 働く目的（働くことの意味）について、ロールプレイをとおして考える。 (1) ロールプレイを見た感想を発表する。 (2) 質問や意見をとり、協議する。 |
| 展開 40分 | (3) 働く目的（働くことの意味）について、自分の考えをまとめる。 5 実際に働いている人から取材してまとめた「職業人としての生き方の実例」の資料を読み、感想や自分に取り入れたいことをまとめる。 |
| 終末 5分 | 6 本時の活動で学んだことを基に、自分の進路計画の検討点、改善点を考える。 ・希望職業についてもっと調べるべきこと ・自分が望む生き方をはっきりさせること ・働くことの意味をはっきりさせること |

主な指導と援助

希望する職業とその理由が多岐にわたっていることを把握させ、希望職業や働く目的について考えて自己の生き方に結び付けることを、活動テーマとすることを確認する。

自分の希望する職業とその理由のアンケート

各自、ワークシートに記入する。
書けないからといって時間をかけ過ぎないようにする。むしろ、自分の希望する職業についてまだ不明なことが多いことに気付かせる。

思考能力に関する工夫

→自分の希望する職業の検討

現代の社会は価値観が多様化しており、いろいろな考えがあることを補足する

演技者には、事前練習の際に、演技の後で質疑の時間をとることを伝え、あらかじめ心づもりをさせておく。
聞き手は、各自メモをとりながら演技を見るように指示する。

情報選択能力に関する工夫

→働く目的についてのロールプレイ

場合によっては、VTR等での提示を工夫する。
職業人としての生き方の一端をつかませる。

意志決定能力に関する工夫

→「職業人としての生き方の実例」の感想

将来の職業生活とその人の生き方は密接不可分の関係であることを確認する。
進路計画の実際の検討・改善作業は、宿題とする。

問題解決能力に関する工夫

→自分の進路計画の検討点、改善点の明確化

5 事後指導

- ・自分の進路計画の検討と改善を行わせる。必要に応じて、個別の相談を行う。
- ・自分の希望する職業について、不明な点を各自で調べさせる。
- ・「職業人としての生き方の実例」にしたがって、身近な人々等からも職業観や労働観、生き方について取材させる。

3年-16 題材名 「夏休みの生活設計」

1 目標

- ア 一学期間の生活の反省に立って、中学生としての最後の夏休みの在り方を考えさせる。
- イ 夏休みの意義や夏休みの生活のきまり、夏休み中の行事などを確認させ、夏休みを有意義に送るようにさせる。
- ウ 夏休みの生活と学習の目標を明確にし、それを実現させるための計画を立てさせて、実行する決意をもたせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **感情統制能力**：不規則・不摂生な生活や、過度に心配して不安定な生活にならないように心掛ける。
- イ **思考能力**：1、2年生での経験や一学期の反省に立ち、夏休みをどう送るべきか考える。
- ウ **問題解決能力**：有意義な夏休みにするため、しっかりした目標のもとに計画を立てる。
- エ **意志決定能力**：計画に沿って有意義な夏休みを送る気持ちをもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 学年で取り組んだ、一学期の反省を踏まえさせる。
- イ 夏休み中の主な行事予定は、生徒会で一覧にして配付する。
- ウ 夏休み中の学習課題等については、教科係が教科担当に確認し、一覧にして配付する。
- エ 「夏休みの生活のきまり」や「高校体験入学」については、教師から説明する。学年合同での実施も考える。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 夏休みを迎えるにあたって、どんな気持ちでいるか発表する。 中学校生活最後の夏休みを充実したものにす るためにしっかりした生活設計を立てよう |
| 展開 | 2 夏休みの意義について先生の説明を聞く。 ・進路の実現に向けて力を蓄える時である |
| | 3 1、2年生での夏休みの経験や、一学期の学 年の反省を踏まえ、有意義な夏休みするには どうすればよいか班毎に話し合う。 |
| | 4 夏休み中の主な行事や生活のきまり、高校体 験入学での留意点について、先生の説明を聞く。 ・関係資料を配付 |
| | 5 夏休み中の学習課題について、各教科係から の説明を聞く（課題がない場合は割愛する）。 ・課題の一覧表を配付 |
| | 6 5番までの説明や話し合いを踏まえて、夏休 みを迎えるに当たっての留意点を発表する。 ・大事な夏休みである |
| | 7 夏休みの計画表作りをする。 (1) 生活と学習の目標を決める。 (2) 計画表作りを進める。 |
| | 8 夏休みの生活と学習の目標を発表し合い、有 意義な夏休みにするための決意を固める。 ・規則正しい生活リズムに関する決意 ・毎日の学習時間等に関する決意 ・進路実現に向けた活動に関する決意 |

主な指導と援助

数名に発表させる。
楽しみ半分、進路に向けた学習の不安が半分といった状況を確認し、有意義な夏休みにするための生活設計を考えることを、本時の活動テーマとする。

夏休みの意義①社会的体験の拡充、②苦手な教科の克服や得意教科の伸長、③部活動の充実、④健康や体力の増進 等

1、2年生での経験については、思い通りにいかなかった時のことだけでなく、思い通りにいった時のことも踏まえさせる。

思考能力 に関する工夫

→有意義な夏休みにするための班毎の話し合い

「夏休みの生活のきまり」の中でも、健康や安全にかかわる事項は確実に指導する。
「高校体験入学」については、体験の目的やマナーについて、確実に指導する。
適宜質問を受け付けて、指導の徹底を図る。

5番までの説明や話し合いを踏まえ、夏休みを迎えるに当たっての留意点をしっかりと意識させて、計画作りをさせる。

感情統制能力 に関する工夫

→夏休みの生活のきまりや課題等の自覚

作成の仕方は、1、2年生の経験を踏まえさせる。具体的で評価が可能な目標、実行が可能な計画となるよう、留意させる。

問題解決能力 に関する工夫

→目標を明確にした上での計画表作り

全員に発表させて、各自のがんばりを誓い合わせる。
最後に、教師が生徒全員へのエールの言葉を述べる。

意志決定能力 に関する工夫

→夏休みの目標を発表し合う

5 事後指導

- ・夏休みの計画表を完成させて提出させ、激励、修正等のコメントを入れる。
- ・期末面談の中で、計画表を基にして夏休みの生活について話し合い、確認する。
- ・高校体験入学に関して、必要に応じて個別指導する。

3年-17 題材名 「夏休みの収穫」

1 目標

- ア 夏休みの生活と学習の目標を、夏休みの計画に基づいて振り返らせ、成果と課題を確認させる。
- イ 夏休み中の行事等で感じたことや学んだことを発表させ、共有化させる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **感情統制能力**：夏休みの生活や学習が不本意に終わっても、その気持ちを引きずらないように心掛ける。
- イ **思考能力**：夏休みの目標や計画に沿って夏休みを振り返り、成果と課題を明確にする。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 夏休みの計画表を活用する。
- イ 夏休みの反省用紙を交換し合って、**ピア・カウンセリング**をする。

4 展開

| 経過 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 夏休みを振り返っての思い出や感想を発表し、活動テーマを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 中学校生活最後の夏休みを振り返り、成果と課題を確認し合おう </div> |
| 展開 | 2 夏休みの課題や提出物等を提出する。 ・通信票、保健票等 ・教科等の課題 3 夏休みの反省の仕方について、先生から説明を聞く。 ・ピア・カウンセリングの手法を取り入れて、互いの夏休みの成果と課題を振り返ることを知る 4 夏休みの計画表を基にしながら、「夏休みの反省用紙」にしたがって各自で夏休みを振り返る。 ・成果や課題を記入する（クライアント） 5 任意の級友の成果や課題に対するコメントを記入する。（カウンセラー） ・クライアントの成果や課題に対して、アドバイスや励ましを記入する 6 回答を熟読した上で、自分の思いや感想をまとめる。 ・カウンセラーがどんな思いでコメントを書いたかよく考える ・自分の思いや感想を記入する |
| 終末 | 7 ピア・カウンセリングを取り入れて夏休みを振り返っての、自分の思いや感想を発表する。 ・頑張ったことを認めてもらってうれしい ・不本意だったのは自分だけでなかった ・新しい気持ちで二学期をスタートできそう |

主な指導と援助

数名に発表させる。
 有意義な夏休みだったか、そうでなかったかを挙手させ、全体的な傾向を確認した上で、各自の夏休みについていくつかの観点から振り返り、任意の級友同士で互いに評価・激励し合うことを、本時の活動テーマとする。

通信票や保健票等は、担当が提出状況を確認する。
 教科等の課題は、各教科係に、本時の活動終了後に提出状況を確認させる。

カウンセラーになって、級友の夏休みの成果と課題にアドバイスや励ましを考えさせる。
 （約束事）
 ・否定的なこと、人がいやがることは書かない
 ・秘密は絶対を守る
 ・カウンセラー（答えてくれた人）を探さない

夏休みの成果と課題を素直に記入させる。
 反省用紙を二つ折りにし、裏に自分だけが分かる印を付けさせる。
 反省用紙を集め、任意の級友に渡るように再配付させる。

思考能力 に関する工夫

→夏休みの計画に沿った振り返り

真剣にアドバイスや励ましを考えさせる。
 落ち着いたBGMを流して雰囲気を作る方法もある。
 書き終わったら、二つ折りにして提出させる。
 自分のマークの付いた反省用紙を間違えずに持っていかせる。

次の観点から、自分の思いや感想をまとめさせる。
 ・成果や課題を書いたときの気持ち
 ・成果や課題にアドバイスや励ましを記入していた時の気持ち
 ・回答を読んだときの気持ち

数名に発表させる。
 仲間を信じて、前向きに二学期を歩んでいくように促してまとめる。
 「夏休みの反省用紙」に氏名を書かせて提出させる。

感情統制能力 に関する工夫

→ピア・カウンセリングによるアドバイスと励まし

5 事後指導

- ・夏休みを振り返ってのアンケートを集計し、通信等で紹介する。
- ・2年生時にも同様のアンケートを実施していたならば、それらと比較して成長点を賞揚する。
- ・必要に応じて個別の相談や指導に生かす。

3年-18 題材名 「二学期の計画」

1 目標

- ア 二学期の大きな流れを確認させ、どの時期にどんな生活を送るかの見通しをもたせる。
- イ 行事などの取り組みを想定して、学級内の問題解決を図ったり学級内の絆を深めたりして活気ある生活を築くよう、話し合わせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **感情統制能力**：学級全体で話し合って決まった事柄を優先し、自我をコントロールする。
- イ **思考能力**：二学期の大きな流れを理解し、どの時期にどんなことを頑張るかを考える。
- ウ **問題解決能力**：話し合いをとおして問題を解決する。
- エ **意志決定能力**：話し合いで決まったことに対し、自分が心掛けることを明確にする。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 一学期末の反省（学年集会）で確認された、「二学期に頑張っていくこと」を踏まえさせる。
- イ 「二学期の大きな流れ」を示した資料を用意し、行事を中心にして見通しをしっかりと見通しをもたせる。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 先生からの、二学期における期待や思いを聞き、本時のテーマを確認する。 二学期の学校生活の流れをつかみ、学級としての二学期の計画を考えよう |
| 3分 | |
| 展開 | 2 行事を中心に、二学期の流れをつかむ。 ・二学期の主な行事を順番に確認する ・先生から、2学期の流れについて補足説明を聞く 3 一学期末の反省（学年集会）の結果を振り返り、二学期に学級として頑張っていくことを確認する。 ・生活の面 ・学習の面 ・行事の面 4 3番で確認した事項を達成するために、何が大切かを班ごとに考え、発表する。 ・しっかりとした目的意識 ・厳しさと暖かさ（互いの信頼） ・計画的な行動と協力体制 等 |
| 40分 | |
| 開 | 5 各班からの発表を基に、学級としての取り組みの基本方針を決定する。 ・共通して出された事項や学級として大事にするべき事項を中心にまとめる |
| 7分 | |
| 終末 | 6 学級の活動の方針を受けて、各自がどのように頑張っていくか（努力事項）をワークシートに記入する。 ・仲間を信頼し、協力して学校生活を送る ・自分のできることを責任をもって精一杯行う |

主な指導と援助

中学校生活の大きな山場であり、行事等とおして良い思い出をつくっていく学期であること、各自の進路の決定を控えて精神的に不安定になったりすることがあるが、そのような時こそ、学級みんなで支え合っていくことが大事であること、そうした学級をつくっていくために、どういうことが必要かを考えることを、本時の活動テーマとして確認させる。

1・2年生での経験を基に、二学期の主な行事を発表させる。教師が用意した「二学期の大きな流れ」を示した資料を基に、二学期の学校生活における諸活動の見通しをもたせる。

思考能力に関する工夫
→「二学期の大きな流れ」を基に、見通しをもつ

一学期末の反省（学年集会）の記録を基にして、学級全員で確認し合う。
一人一人の生徒に、しっかりと意識化させるために、確実に一学期末の反省（学年集会）の記録に目を通させる。
2番で確認させた「2学期の大きな流れ」ともかかわらせて、どの時期に何に力を入れていくかイメージさせる。

学級としての目標の達成のために大事なことはどんなことかを考えさせる。

問題解決能力に関する工夫
→学級として目標達成する上で大事な事項を考える

各班から出された事項に対して、必要に応じて質疑を交わさせ、学級としての考えにまとめさせる。

問題解決能力に関する工夫
→学級として目標達成する上で大事な事項を考える

生活の面、学習の面、行事の面から各自の努力事項を考えさせ、ワークシートに記入させる。

感情統制能力 及び **意志決定能力** に関する工夫
→各自の努力事項のワークシートへの記入

5 事後指導

- ・決定事項を学級掲示し、取り組みの前後（節目節目で）実行状況を確認させる。

3年-19 題材名 「自分を見つめ直す」

1 目標

- ア 進路選択の主体である「自分」に対する理解を一層深めさせる。
- イ 自分の能力や適性、興味・関心について検討し、進路選択に生かすことができるようにさせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：自己理解の学習を振り返り、自己の成長や変化に気付く。
- イ **問題解決能力** や **意志決定能力**：自己の能力や適性、興味・関心を見つめ直し、それを進路選択に生かす。
- ウ **情報選択能力**：自己理解を深める力を培う。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 1・2年生での学習を生かし、総合的に自分をとらえさせ、進路の実現への基盤とさせる。
- イ 生徒一人一人の希望進路を確認しておいて指導する。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 進路選択のための段階を確認し、本時は「自分の特色」について考えることを把握する。 自分についての理解を深め、自分の諸特性を進路選択に生かしていこう |
| 展開 | 2 自分を理解するためにどんな学習をしてきたか、また、自分を理解する方法にはどんなものがあったかを確認する。 ・進路適性検査 ・十人十色 ・自己評価、相互評価 等 3 ワークシート「自分についてのまとめ」にしたがって作業をし、自分の特色をつかむ。 (1) 自分の行動の傾向や性格について記入する。 (2) 自分が考えている将来の仕事とその適性について記入する。 4 今までの自分と比べて、変わったところ（成長したところ）をワークシートに記入し、発表する。 ・身体的にかかわる変化 ・性格や言動にかかわる変化 ・学習にかかわる変化 等 5 希望進路（上級学校、職業）実現のために、今後努力が必要なことをワークシートに記入する。 |
| 終末 | 6 自分について見つめ直した結果から考えて、自分が希望する進路について適していると思われる点や不安な点をワークシートにまとめる。 ・希望進路について適していると思われる点 ・希望進路について不安な点 |

主な指導と援助

教師の説明で、進路選択のための6つの段階（①将来の希望職業、②進路を決める目的、③自分の特色、④進路先の状況、⑤進路計画、⑥進路相談）を再確認し、本時の活動テーマを把握させる。
※進路選択の6つの段階＝3年-12・13で触れておく。できれば教室掲示しておきたい。

1・2年生での進路学習の記録があれば、参考にさせる。
客観的に自分を理解する方法として、進路適正検査等があったことを確認する。
確認程度とし、意見が出ない時は教師が説明する。

作業のための時間を十分に確保する。
机間指導をし、自分の特色や希望職業に適している点等を書けないでいる生徒に助言をする。

情報選択能力 に関する工夫

→自分の特色や進路適性を考える

できるだけ多くの人に発表させる。
同じようなことが出されたら、挙手で意思表示させる。
肯定的に自分を見つめさせる。

思考能力 に関する工夫

→自己の変化（成長）した点

「自分についてのまとめ」と希望進路の特性を対比して今後の努力事項を考えさせる。
机間指導をし、書けないでいる生徒に助言をする。

まとめる時間を十分に確保する。
不安な点は、教育相談等とおして、できるだけ早く解決するようにアドバイスする。

問題解決能力 及び 意志決定能力 に関する工夫

→自己を見つめ直した上での希望進路の選択

5 事後指導

- ・自分が希望する進路について適していると思われる点や不安な点を書けなかった生徒には個別に指導する。
- ・ファイリングして保存し、個人相談の資料とする。

3年-20-21 題材名 「進路先の調査」 (2時間扱い)

1 目標

- ア 自分の希望する進路先を調査することの大切さを理解させ、調査方法、調査事項等を考えさせる。
- イ 進路先の調査を積極的に行わせ、その結果を発表し合って、進路情報をつかみ、自分の進路選択に生かすようにさせる。

2 ガイダンスの機能(選択)にかかわる能力

- ア **問題解決能力** 及び **意志決定能力** : 進路希望調査に積極的に取り組み、結果を発表し合って自分の進路選択に生かす。
- イ **情報選択能力** : 自分の希望する進路先の調査の大切さを理解する。

3 指導上の工夫(留意点)

- ア 進路先の事業所等の内容や特色を調べ、進路決定や修正の手がかりとさせる。
- イ 学年合同で実施する。

4 展開(1/2時)

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 5分 | 1 進路先での先輩の体験談資料を読み、その感想を発表して、本時の活動テーマを把握する。 希望する進路先について調査して、発表し合い、自分の進路選択に生かそう |
| 展開 40分 | 2 決定した調査先毎に、グループに分かれる。 (1) 上級学校別のグループに分かれる。 (2) 事業所別のグループに分かれる。 3 自分の希望進路先について知りたいことを書き出す。 (1) 上級学校について知りたいことを書き出す。 (2) 事業所について知りたいことを書き出す。 4 3番で考えたことを基にしながら、グループ毎に調査方法と調査内容を話し合い、調査計画を立てる。 |
| 終末 5分 | 5 本時の進行状況を確認し、次時の活動に向けて準備すべきことを打ち合わせる。 |

主な指導と援助

資料を読み、何が問題だったか(進路先の状況をしっかりつかんでいなかったこと)に気付かせ、進路選択の諸条件の中にある「進路先の調査」を本時の活動テーマとすることを確認させる。

情報選択能力 に関する工夫
→進路先の調査の重要性を示す資料の提示

事前の準備として、生徒の希望進路先を調査し、それを基に学級の枠を超えてグループを作る。

(1)と(2)は選択で取り組むことも考える。特に(1)については、高校体験入学を生かし、その体験レポートを基にした報告会で情報を共有することも考える。
事業所については、共通の概要資料を教師側で用意し、生徒の調査先選択の判断の一助とする。

グループの中での役割分担をしてから、調査計画にしたがって作業を進める。

調査活動は、各グループ毎とし、放課後等を活用させる。

4 展開(2/2時)

| | |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 5分 | 1 発表にあたり、発表順や方法、聞く側の心得や留意点について先生から説明を聞く。 |
| 展開 40分 | 2 調査したことを発表し合い、それぞれについて質問をして情報を共有する。 ・グループ毎に発表する ・メモをとりながら聞き、発表に対する評価をする |
| 終末 5分 | 3 他のグループの報告を聞いて思ったこと、感じたこと、考えたことを書く。 ・自分の希望する進路先にも通じるものがある ・知らないことがあって興味がわいた |

問題解決能力 に関する工夫
→希望進路先の調査活動(放課後等を活用)

場合によっては、ポスターセッション形式で実施する等、実施方法を工夫する。
聞く側がメモをとるためのワークシートは教師が用意する。
各グループの発表後に、その都度、質疑の時間をとる。

問題解決能力 に関する工夫
→希望進路先の調査結果の発表活動

自分の能力や適性等と照らし合わせて学習を振り返らせ、考えさせる

意志決定能力 に関する工夫
→自分の希望進路と対比し考えを深める

5 事後指導

- ・各グループの発表資料は回収し、冊子にする。(場合によっては、進路コーナーに掲示する。)
- ・進路相談に活用し、自分に合った進路計画を立てさせる。

3年-22 題材名 「学習の課題や悩みの解決」

1 目標

- ア 学習上の不安や悩みから逃げずに、前向きに解決する努力をさせる。
- イ 事例検討や相談活動をとおして、学習の改善を図らせる

2 ガイダンスの機能（適応/選択）にかかわる能力

- ア **人間関係能力** : 自ら進んで心を打ち明け、相談する。
- イ **感情統制能力** : 学習上の不安や悩みは誰にでもあり、それから逃げない気持ちをもつ。
- ウ **問題解決能力** : グループ討議や相談によって解決を図る。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 事前に、「学習に関する不安や悩み」のアンケートを実施し、集計して資料化しておく。
- イ **ピア・カウンセリング**や教育相談を実施する。
- ウ 一人で悩んで投げやりにならないようにさせる。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 「学習に関する不安や悩み」のアンケート集計を確認し、活動のテーマを知る。 学習上の不安や悩みを取り除き、学習活動の改善を図ろう |
| 展開 | 2 「中学生活と進路」p. 50の「集中力を高めて成果をあげる」を読んで、悩みの原因（問題点）はどこにあるかを考える。 ・「ながら勉強」 ・夜遅い時間帯の勉強 |
| | 3 「中学生活と進路」pp. 52-53の「苦手意識を取りのぞこう」を読んで、苦手意識を取り除く方法を班で考える。 ・不得意になった原因を突き止める ・理解できるところとできないところをはっきりさせる ・自分の将来の希望と結び付けて考える |
| | 4 各自の学習活動の実態と、学習上の不安や悩みを「相談用紙」に記入する（クライアント）。 ・相談用紙の、今までの「家庭での学習の取り組み状況」のアンケートに回答する ・学習活動に関する不安や悩みを書く |
| | 5 任意の級友の「相談用紙」にコメントを記入する（カウンセラー）。 ・クライアントの学習の実態、不安や悩みに対して、アドバイスや励ましを記入する |
| | 6 回答を熟読した上で、自分の思いや感想をまとめる。 ・カウンセラーの思いをよく考えてみる |
| 終末 | 7 ピア・カウンセリング を取り入れて学習活動を振り返っての、自分の思いや感想を発表する。 ・不安や悩みは自分だけではなかった ・具体的なアドバイスがあって参考になる ・どちらも悩んでいるので先生に相談したい |

主な指導と援助

アンケート結果から気付いたことを数名に発表させる。学習に関する不安や悩みは、誰でもがもっていることを把握させ、その原因や解決の方策等を考えることをとおして、各自の学習活動の改善に結び付けることを、活動テーマとして確認する。

M君、F君と比べて、自分の学習習慣や学習環境と似ているところがあれば指摘させ、挙げられた点について学級全体の傾向を挙手により確認させる。

感情統制能力 に関する工夫
→**学習上の悩みの原因と自分との対比**

導入で示した、学級のみんなの「学習に関する不安や悩み」のアンケート結果とも照らし合わせて考えさせる。苦手意識を取り除くための視点として、三つの点を指摘させる。

問題解決能力 に関する工夫
→**グループでの話し合い**

各自の学習活動の実態と学習上の不安や悩みを素直に記入させる。「相談用紙」を二つ折りにし、裏に自分だけが分かる印を付けさせる。「相談用紙」を集め、任意の級友に渡すように再配布させる

人間関係能力 に関する工夫
→**「相談用紙」への正直な記入**

真剣にアドバイスや励ましを考えさせる。書き終わったら、二つ折りにして提出させる。自分のマークの付いた「相談用紙」を持っていかせる。

次の観点から、自分の思いや感想をまとめさせる。
・学習活動の実態、不安や悩みを書いたときの気持ち
・カウンセラーとしてアドバイスや励ましを記入していた時の気持ち
・回答を読んだときの気持ち

数名に発表させる。本時の活動を基にして自分の学習活動を改善し、進路実現に向けて努力していくように促す。また、教育相談を随時実施することを告げて、まとめる。「相談用紙」に氏名を記入させ、提出させる。

感情統制能力 に関する工夫
→**ピア・カウンセリングによるアドバイスと励まし**

5 事後指導

- ・学習計画を作成させ、それに基づいて学習させる。また、必要に応じて個別の教育相談を行う。

3年-26 題材名 「進路を最終決定する」

1 目標

- ア 進路計画の検討と進路相談をとおして、自分の進路先を最終決定するための方向付けを図らせる。
- イ 自分の責任で進路を選択決定していくという意識をもたせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力** 及び **問題解決能力** : 自分の進路希望や進路計画を吟味・再検討して、最終的な進路決定への方策を考える。
- イ **意志決定能力** : 自分の責任で進路を選択していく。
- ウ **情報選択能力** : 相談活動をとおして進路の最終決定への情報をつかむ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 「進路希望チェックリスト」を活用する。
- イ 進路計画表と進路相談票を用意する。

進路計画表は、2年三学期に作成。3年12・13「先輩の姿に学ぶ」や15「生き方について考える」で変更・修正してきている。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 進路選択のための6つの段階を基に、最終的な進路計画を作ることを確認する。 進路計画の検討と進路相談をとおして、自分の責任で自分の進路先を最終決定しよう |
| 展開 | 2 「進路計画表」で、自分の進路計画の現状を書き出す。 ①将来の希望職業について ②進路を決める目的について ③自分の特色について ④進路先の状況について ⑤進路計画について ⑥進路相談について 3 自分の進路希望と進路計画の検討を行う。 (1) これからの努力事項（まだ取り組みが不十分なところ）を明確にする。 (2) 目標や実現への意志を確認し明確にする。 (3) 適性や家族の意見など、周りからの条件との折り合わせができていないか確認する。 |
| 42分 | 4 進路の最終決定に向けて、進路相談の際に聞いたり相談したりしたいことについて、各自で考え進路相談票に記入する。 |
| 終末 | 5 進路相談について、先生からの話を聞く。 ・進路相談は大切なものであるが、最終的な決定は自分で行うものであること ・進路相談の指導体制 ・進路相談のスケジュール |

主な指導と援助

進路選択のための6つの段階については、1・2年生で簡単に触れている。また、3年19「自分を見つめ直す」でも学習した。本時は、それを再々確認し、残された進路計画の検討と進路相談を進め、進路の最終決定（中学校段階としての、将来的な見通しを踏まえさせた上での進学・就職の最終決定）に進んでいくことを活動テーマとして確認させる。

「進路計画表」は進路選択の6つの段階を踏まえて作成する。12・13「先輩の姿に学ぶ」で作成したものを参考にさせ、現在の状況をできるだけ具体的に記入させる。

思考能力 及び **問題解決能力** に関する工夫
→進路計画の吟味・再検討

「中学生生活と進路の」p.64「進路希望チェックリスト」も活用して検討する。
進路希望チェックリストに準じて、進路計画表の各項目も5段階で評価し、実現に向けての進捗状況を総合的に判定させる。

思考能力 及び **問題解決能力** に関する工夫
→進路計画の吟味・再検討

できるだけ具体的に記述させる。

情報選択能力 に関する工夫
→進路相談の内容の具体化

進路相談は、あくまでも自分での決定のための援助であり、情報の提供やアドバイスはするが、決定は各自が行うものであることを強調する。
自分で納得した上で決定をしなかったために後悔したり、自暴自棄になったりした例を紹介する等の工夫をする。

意志決定能力 に関する工夫
→自分の意志で進路決定する心構えの醸成

5 事後指導

- ・進路計画表と進路希望チェックリスト、進路相談票を集め、点検する。
- ・特に、進路相談票については、他の先生との連携や新たな資料の収集など早期の対応が求められるものがあるので、できるだけ早く相談項目の概要を把握しておく。
- ・進路計画表や進路相談票に基づき、進路相談を進める。

3年-27 題材名 「自分の道を切り開く」

1 目標

- ア 誰もが進路を控えて不安や悩みを抱えていることを知らせ、気持ちを和らげさせる。
- イ 先輩の事例を参考にさせ、自分の進路に生かしていこうとする気持ちをもたせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：今の自分がなすべきことを考える。
- イ **問題解決能力**：先輩の事例をヒントに、不安や悩みをどのように解決したらよいか考える。
- ウ **情報選択能力**：先輩の事例を自分の選択に生かす。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 自分がなすべきことと必要な準備を把握させ、不安や緊張を和らげる。
- イ **受験や面接を控えての不安や悩みのアンケート**を実施し、資料化しておく。
- ウ 受験や面接を控えての不安や悩みの解消にかかわる**先輩の事例を準備**する。

面接に関しては11月末の時点ではそれほど不安に感じていないことも予想されるが、冬休み前後の本格的な指導の契機にしておく。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 受験や面接を控えての不安や悩みのアンケート結果を確認し、活動のテーマを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 受験や面接に対する不安や心配を克服する方法を考え、自らの進路を切り開いていこう </div> |
| 3分 | |
| 展開 | 2 数人の先輩達の、受験や面接を控えての不安や悩みの体験談とその解決策を読む。 ①「志望動機をはっきりと」 ②「気分をリフレッシュさせながら」 ③「自分を信じて進もう」 ④「チャレンジ精神でがんばる」 |
| | 3 2番の4つの事例について、不安や悩みの解決方法としてすばらしいところ、参考になるところを話し合い、自分たちの考えにまとめる。 (1) 班毎に話し合う。 (2) 各班の話し合いで出されたことを発表し合う。 |
| | 4 不安や悩みを解消するために、自分が今なすべきこと、できそうなことをまとめる。 ・メリハリのある生活を送る ・やるだけやって自信をつける 等 |
| | 5 4番で考えたことを発表する。 |
| | 終末 |

主な指導と援助

ほとんどの仲間が受験や面接を控えて、不安や心配、焦りなどを抱えていることを把握させる。そして、本時の活動テーマは、それらを克服して進路を切り開いていく方策を考えることを確認する。

「中学生活と進路」pp.72-75の4人の例を読ませる。事前のアンケート結果から浮き彫りになった生徒の不安や悩みに対応した事例を、各学校の卒業生の実例で用意できれば、申し分がない。そうした資料がない場合は、教師の指導経験の中から実例を資料化して提示する方法も考えられる。

先輩の事例から、参考になる方法や考え方を抜き出し、自分達の悩みや不安に当てはめてみるようにさせる。その上で、それらをより実際に則し効果的なものにするためにどうすればよいかを考えさせる。

情報選択能力 及び **問題解決能力** に関する工夫
 →先輩の事例から不安や悩みの解消策を考える

3番の、班での話し合いで出されたことや、各班から発表されたことを、自分に当てはめて考えさせる。

思考能力 に関する工夫
 →不安や悩みの解消のために自分がなすべきこと

できるだけ多くの生徒に発表させる。

進路が目前に迫ると、誰もが不安や悩みをもつようになる。本時はそれを和らげる方法を考えたが、仲間を信頼し励まし合うことは特に大切であることを強調する。
 受験や面接は個人の問題ではあるが、それを控えての不安や悩みは、みんなに共通することである。そこで、みんなで支え合い励まし合っていくことが必要であり、行事などを通して培ってきた学級の和、人間関係の真価が問われることを理解させたい。

5 事後指導

- ・進路相談を継続する。
- ・生徒達が抱えている不安や悩みを通信等で紹介し、家庭との連携を強化する。特に、生徒の気持ちを理解し、温かくかつ力強く支えていくこと（腫れ物に触るような感覚での甘やかしをしないことや、家族が不安のあまり神経質にならないようにすること）をお願いする。

3年-28 題材名 「進路の手続き」

1 目標

- ア 進学や就職のためにどのような準備が必要なのか明確にさせる。
- イ 入学願書や就職相談票の記入の仕方を理解させる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力** 及び **問題解決能力** : 進学や就職に必要な準備を整え、自らの力で準備を進める。
- イ **問題解決能力** : 好ましい面接の受け方について考える。
- ウ **情報選択能力** : 入学願書や就職相談票の記入の仕方を理解する。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 入学願書や就職相談票のコピーを用意し、実際に記入させる。
- イ 面接のロールプレイを行い、面接の受け方を考えさせる。

4 展開

| 経過 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 5分 | <p>1 入学試験や就職試験への最終準備としてどんなことが必要か考え発表する。</p> <p>入学や就職の試験に向けての最終準備の中身を知り、着実に準備をしていこう</p> |
| 展開 40分 | <p>2 「中学校生活と進路」 pp.70-71の「進路実現へのパスポート」を参考にして、現時点での準備の進捗状況を確認しチェックする。</p> <p>3 2番で、まだ準備ができていない事項（○印がつかなかった事項）を確認し、それらに対しての今後の取り組みについて、先生の説明を聞く。</p> <p>4 入学願書や就職相談票の記入の仕方の説明を聞き、実際に下書きしてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学願書のコピー（公立、市立） ・就職相談票のコピー（希望者がいない時は省略） <p>5 面接のロールプレイを見て、よりよい面接の受け方となるように、改善点を出し合う。</p> <p>(1) 次のような役割分担で、よくない例を意図的に演じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接官役－担任教師 ・生徒役－副担任教師 <p>(2) どこをどう直せばよいかを発表する。</p> |
| 終末 5分 | <p>6 進路の手続きについて、先生からの今後の指示を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「進路実現へのパスポート」を活用して、各自でできることはどんどん準備を進める ・入学願書や就職相談票の下書きを提出する ・先生との面接練習をする |

主な指導と援助

- 思いのまま発表させ、それらを確認めたりすることを本時の活動テーマとして確認させる。
関係書類の提出期限については、厳しい現実があることを、具体的事例で強調しておく。
- 「中学校生活と進路」の例を参考にして、自校用を作成しておくことよい。その際、複数校を受験する生徒を考えて、確認欄を増やしておく。
教師が各項目を読み上げ、必要に応じて説明をしながらチェックさせる。
- 全員に共通する事項については、教師から準備の指示をする。個人的な事項は、教師の助言を得ながら各自で準備させる。
- 思考能力** 及び **問題解決能力** に関する工夫
→進学や就職に必要な準備のチェック
時間を有効に使うためにも、記入例を用意して説明する。公文書の記入上の注意の学習も兼ねて、氏名・住所、学校名、学科名などを正確に書くことを強調する。
時間が不十分な時は、課題にする。
- 情報選択能力** に関する工夫
→入学願書や就職相談票の記入の仕方
- 受け答えの仕方や内容はもちろん、入室から退室までの行動や服装、言葉遣いなども意図的に問題のある形で演じる。
生徒が演技をする場合は、事前に指導し、練習させておく。
- 問題解決能力** に関する工夫
→面接のロールプレイをみて改善点を考える
- 面接にかかわっては、過去の質問例を印刷して配付し、自分なりの回答例を考えさせておく。また、面接の手引きがあれば、それも配付する。
教師との面接練習に臨む前に、友達同士で練習しておくように指示する。

5 事後指導

- ・「進路実現へのパスポート」を集めて点検し、必要に応じてアドバイスする。
- ・入学願書や就職相談票の記入（下書き）の点検をし、清書に向けての指導をする。
- ・面接指導をする。

3年-31 題材名 「冬休みの反省と新年の決意」

1 目標

- ア 冬休み中の生活と学習の目標を、冬休みの計画に基づいて振り返らせ、成果と課題を確認させる。
- イ 卒業までを見通して、これまでの歩みを振り返らせ、まとめさせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **人間関係能力**：㊸残り3カ月を共に頑張ろうという気持ちをもつ。㊹後輩に託すことを、心を込めて伝える。
- イ **思考能力** 及び **問題解決能力**：これまでの中学生生活（自分達の足跡）を振り返り、どんな形で自分達の思いや感謝の気持ちを伝えるか考える。
- ウ **意志決定能力**：感謝の気持ちをもって学校生活をおくろうと決意する。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 冬休みの計画表を活用する。
- イ 冬休みの反省用紙を交換し合って、**ピア・カウンセリング**をする。
- ウ **班や学級全体での話し合い**。
- エ 自分たちの歩みを振り返るだけでなく、後輩に残し伝えるものは何かを考えさせる。

展開の後半（7、8番）に重点をかけて活動をすることも考えられる。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 冬休みを振り返っての思い出や感想を発表し、活動テーマを知る。 冬休みの成果と課題を確認し、三学期の流れをつかんでまとめの学期を歩み出そう |
| 展開 | 2 冬休みの課題や提出物等を提出する。 ・通信票、保健票等 ・教科等の課題 |
| | 3 冬休みの反省の仕方について、先生から説明を聞く。 ・夏休み明け同様、ピア・カウンセリングの手法を用いることを知る |
| | 4 冬休みの計画表を基にしなが、 「冬休みの反省用紙」 にしたがって各自で冬休みを振り返る。 ・成果や課題を記入する（クライアント） |
| | 5 任意の級友の成果や課題に対するコメントを記入する。（カウンセラー） |
| | 6 カウンセラーからの回答を読む。 |
| 42分 | 7 これまでの自分達の足跡を振り返り、どんな形で自分達の思いや感謝の気持ちを伝えるか考える。 (1) 班毎に話し合う。 (2) 各班の意見を出し合い、学級全体の意見にまとめる。 |
| 終末 | 8 7番の決定を受けて、各自がどのように取り組んでいくかを考え、反省用紙に記入する。 (1) 先輩としての心構えや思いの面から。 (2) 学校や世話になった人々への感謝の気持ちの面から。 |

主な指導と援助

数名に発表させる。
有意義な冬休みだったか、そうでなかったかを挙手させ、全体的な傾向を確認した上で、各自の冬休みについていくつかの観点から振り返り、任意の級友同士で互いに評価・激励し合うことと、自分達の思いや感謝の気持ちを伝える方法を考えることを、本時の活動テーマとする。

通信票や保健票等は、担任が提出状況を確認する。
教科等の課題は、各教科係に、本時の活動終了後に提出状況を確認させる。

〈ピア・カウンセリング実施上の約束事〉
・否定的なこと、人がいやがることは書かない
・秘密は絶対を守る
・カウンセラー（答えてくれた人）を探さない

冬休みの成果と課題を素直に記入させる。
反省用紙を二つ折りにし、裏に自分だけが分かる印を付けさせる。
反省用紙を集め、任意の級友に渡すように再配付させる。

真剣にアドバイスや励ましを考えさせる。
落ち着いたBGMを流して雰囲気を作る方法もある。
書き終わったら、二つ折りにして提出させる。
自分のマークの反省用紙を間違えずに持っていかせる。

人間関係能力㊸ に関する工夫

→**ピア・カウンセリング**

自分たちが大事にしてきた活動や思いは何であったか、今までどのような人々に支えられて学校生活を送ってきたかを振り返らせる中から、取り組みの方向性をつかませる。
取り組みの具体化については、学級役員や有志に一任し、提案に協力していくことを確認させる。

思考能力 及び **問題解決能力** に関する工夫

→**後輩に託すことと周りの人々への感謝の策を話し合う**

中学校生活を有終の美で締めくくるために、自分はどのような心構えでどんなことをしていくか替えさせる。

人間関係能力㊹ 及び **意志決定能力** に関する工夫

→**自分の思いや感謝の気持ちを伝えるための決意**

5 事後指導

- ・冬休みを振り返ってのアンケートを集計し、通信等で紹介する。
- ・後輩に託すこと、学校や関係者への感謝の方策の具体化に向けて有志を募り、計画の立案や実施への助言をする。

3年-33・34 題材名 「勇気を出して自分の道を」 (2時間扱い)

1 目標

- ア 新しい学校、新しい職場生活に積極的にかかわっていく勇気と心構えをもたせる。
- イ 新しい生活で予想される悩みについて、どう解決していけばよいかを考え、自己向上意欲を高めさせる。
- ウ 身近な人のメッセージから、夢をもつことの大切さを再認識させ、その実現に向かって努力する決意をもたせる。

2 ガイダンスの機能(選択)にかかわる能力

- ア **思考能力** 及び **問題解決能力** : 先輩のメッセージから、自分の生活に生かせる点を考えて、不安や悩みの解決を図ったり、夢の実現への意欲を高めたりさせる。
- イ **意志決定能力** : 不安を克服し、夢を求めて自分の道を歩んでいく意志をもつ。
- ウ **情報選択能力** : みんなが不安を感じていることを知る。

3 指導上の工夫(留意点)

- ア 先輩、先生、家族の**メッセージや、アンケート**を基にした話し合い
- イ **新生活への気持ち(特に不安)のアンケート**を実施し、資料化しておく。

※第2時間目を、学年集会の形で実施することも考えられる。

4 展開(1/2時)

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 新生活に対する気持ちのアンケート結果を確認し、活動テーマを知る。 新しい世界へ踏み出す勇気と心構えをもち、夢を追い求めていこう |
| 5分 | |
| 展開 | 2 班の中で、新生活に向けての今の自分の気持ちを発表し合う。 3 先輩からのメッセージを読み、1、2番で確認したみんなの不安や心配事への対処法で参考になる点について話し合う。 |
| 37分 | 4 新生活に対する各自の決意をワークシートに記入する。 |
| 終末 | 5 各自の決意を発表する。 ・座右の銘をもっていつも励みにする ・新しい環境の中で新しい自分を築いていく |
| 8分 | |

主な指導と援助

新生活への不安や心配事は誰もがもっていること、その一方で新生活への期待もあることを把握させ、本時の活動テーマを確認させる。

情報選択能力 に関する工夫

→新生活に対する気持ちのアンケート結果

「中学生活と進路」p.80の「感謝のこぼれをばはげみに」を読ませる。
1番のアンケート結果を踏まえて、より適切な事例を、各学校での事例から用意できれば申し分ない。

思考能力 及び **問題解決能力** に関する工夫

→先輩のメッセージを自分の不安解消に生かす

先輩のメッセージから、自分の新生活に生かせる点を取り入れさせる。

できるだけ多くの生徒に発表させる。

意志決定能力 に関する工夫

→新生活に対する各自の決意の発表

4 展開(2/2時)

| | |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 前時の復習をする。 ・新生活の不安や心配事への対処法 |
| 5分 | |
| 展開 | 2 将来の夢をもつことについての身近な人からのメッセージを読み、感じたことを発表する。 ・人生の先輩の言葉は、重く、励みになる |
| 35分 | 3 将来の夢を実現させるために大切なことについて、先生方からメッセージをもらう。 ・校長先生、教頭先生、学年団の先生から |
| 終末 | 4 将来の夢の実現に向けて努力していく気持ちを作文にする。 ・自分の願いや理想をできるだけ具体化する ・スモールステップで夢に近づいていく 等 |
| 10分 | |

前時に書いた「新生活に対する決意」をプリントにまとめて配付し、振り返らせる。

生徒の励みになる内容のメッセージを用意する。
夢をもつことの大切さを再認識させる。

学年集会の場に、校長先生を初め、数名の先生を招いてメッセージをいただく。都合がつかない時はVTRに録画しておいて紹介する。(時間的なことも考えると、この方法が確実。)

思考能力 及び **問題解決能力** に関する工夫

→先輩のメッセージを自分の不安解消に生かす

今までの進路の学習で学んだことを踏まえて、できるだけ具体的に書かせる。

意志決定能力 に関する工夫

→将来の夢の実現に向けた気持ちを作文

5 事後指導

- ・将来の夢の実現に向けての作文を、通信等で紹介する。
- ・必要に応じて個別の指導をする。

3年-35 題材名 「希望にあふれて」

1 目標

- ア これからの人生を希望をもって歩むための心構えや抱負を考えさせる。
- イ 自分の将来についてのプランを書かせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：未来に希望をもって進むための心構えを考える。
- イ **問題解決能力**：希望に溢れた自分の将来の姿を構想する。
- ウ **意志決定能力**：将来の生き方についての意志を固める。
- エ **情報選択能力**：これまでに学んだ方法を総動員して考える。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 10年後を想定した「**未来の自分からの手紙**」を書かせる。
- イ 手紙を、**タイムカプセルに入れて、10年後に開封**することにする。

4 展開

| 過程 | 主な学習活動と生徒の反応等 |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 「中学生活と進路」p.82の「夢や希望を実現するために」を読んで、活動テーマを確認する。 「 未来の自分からの手紙 」を書き、未来に希望をもって飛び出そう |
| 展開 | 2 自分で決めた進路先について、希望をもって進むための心構えを考え、発表する。 ア 可能性や夢を追い求める イ 粘り強く努力する ウ 職業の三要素から考える ・社会に貢献し認められるようになる ・満足のいく収入を得る ・自分のもっている能力を生かす 等 3 次の要領で「 未来の自分からの手紙 」を書く。 ア 前文「10年後の私から、10年前の私へ」 イ 10年後の自分について考えたこと ・今の生活や家族（日常のようす） ・中学校卒業後の歩み（進路、就職、生活） ・どんな仕事をしているか ・就職するまでの苦労、努力、成功や失敗 ・今、親しくしている人（友達） ・中学校の時の経験で生きていること ・その他 |
| 40分 | |
| 終末 | 4 「 未来の自分からの手紙 」を書いてみての感想を発表する。 ・書いたとおりになっていればいい ・10年後がとても楽しみ |
| 7分 | 5 今後の取り組みの予定について、先生からの説明を聞く。 |

主な指導と援助

希望に溢れ、生き甲斐をもって暮らすためには、自分の良さを生かしながら社会に貢献できる人間になる必要があることを資料から押さえさせる。そこで、そのようになっている自分を想像して、未来の自分からのメッセージを書くことをとおして、将来への希望をふくらませることを活動テーマとして確認させる。

入学試験への合格といった目先のことばかりでなく、長い目で進路をとらえて考えるようにさせる。
プラス思考で考えるようにさせる。

思考能力 に関する工夫
→希望をもって進路を歩むための心構えを考える

手紙の様式は、教師が用意する。書かせる項目は、生徒の実態などを考え、適宜変更する。
夢や希望が溢れた内容になるように、前向きな気持ちで書かせる。
10年後、20年後、30年後、40年後のライフプランを書かせる方法も考えられる。

問題解決能力、**意志決定能力**、**情報選択能力** に関する工夫
→「**未来の自分からの手紙**」

希望いっぱいにして新しい世界へ飛び立てるようにさせる。できれば、全員に発表させる。

10年後のみんな、10年後の自分と今考えた自分との再会を楽しみにして、力強く歩いていくよう促して話をまとめる。

5 事後指導

- ・「未来の自分からの手紙」をタイムカプセルに入れる。
- ・場合によっては、「未来の自分からの手紙」を文集にまとめる。

4 指導資料

- 指導実践で用いた指導資料の一部を掲載します。
紙面の都合で、記入欄などを縮めています。各調査紙やワークシートの大きさ、レイアウト等は適宜変更してご使用ください。

1年-1 「中学生になって」

学級みんなに自分を分かってもらおう！

4月 日 () の 時間目に、下の「自己紹介カード」を使って、自己紹介をしてもらいます。わかりやすく、そして楽しい紹介となるように工夫してみてください。

紹介後は、このカードは集めて、学年全員分をまとめて印刷し冊子にする予定です。そこで、記入にあたっては濃い目の鉛筆か黒いペンを使用してください。

このわくの中に
自画像を描く→



自己紹介カード

氏名 ()
ふりがな ()

平成 年 月 日 生まれ

血液型 () 型

「自己紹介カード」に書かせる項目については各学校・学年の先生がアイデアを出し合い工夫する。

冊子にしてまとめる他に、拡大して学級や廊下の掲示板上に掲示するなどの工夫も考えられる。

1. 好きなことば、食べ物、色、スポーツ、遊び、動植物など
2. 私をこう呼んでください（ニックネーム）
3. 私の長所・特徴
4. 趣味や特技など
5. ○中学生になっての抱負・希望（頑張りたい教科や活動など）

1年-4 「学級目標を決めよう」

学級目標を考えよう

こんな学級がいい！

第1学年

1年 組 番・氏名

1. ○○中学校でのこの1年、私は、このようでありたい！

[生活の面では]
[学習の面では]
[行事に対しては]

2. 1番のことを達成するために、

[私の学級は、このようであってほしい！]
[学級目標の案は]

4月 日 () の朝、担任の先生に提出を！

【活用上の工夫】

- ◎ 提出を受けた後、全員の願いや意見を箇条書きで集計し、学級目標作りの前に配付する。その資料をよく読んでおいて学級目標作りの話し合いに臨むように指示する。
- ◎ 全員の願いや意見の集計結果や、話し合いの後で決定した学級目標などは、学級通信（学年通信）を利用して、家庭にも知らせる。
- ◎ 場合によっては、父母の願いや意見を書いていただく蘭を設け、それも踏まえて学級目標を考える。

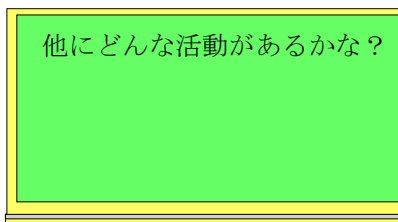
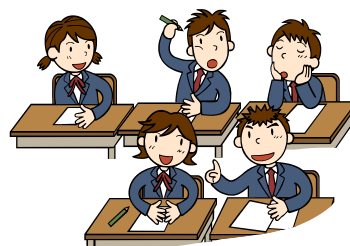
〇〇中 **班活動について** 年/月/日

各学級とも組織が決まり、本格的な学級の活動が始まろうとしています。さて、第1学年では、班の活動(班活)を熱心に行いながら、学級全体・学年全体の活動を活発にしていく仕組みを作ろうと考えています。

下に示すのは、各班の活動のうち、これだけはやってほしい内容です。これらの他に、各班で独自に考えた活動を盛り込んで、班活動活発にいきましょう。

**〇中に新たな「〇〇〇」を！
築こう！ 私達の手で〇中黄金時代を！**

- ◆ **レク班** — 学級の心の面での向上を図る班
 - * 学級レクの企画・実施
 - * 毎日の学級合唱の向上のための企画・指導
 - * 新曲への取り組み(選曲・楽譜・掲示用の歌詞の用意など)
 - * 合唱交歓会(他の学級との交流会)の企画・実施
- ◆ **生活班** — 学級や自分達の生活の向上を図る班
 - * 「学習・生活記録ノート」の集配
 - * チャイム着席の推進、遅刻や居残りをなくそう運動
 - * きまり(服装・持ち物など)の徹底
 - * 教室内の生活の指導・呼びかけ
 - * あいさつをしっかりとやろう運動
- ◆ **学習班** — 学級の学習の良い雰囲気作りをする班
 - * 朝読書をしっかりと行おう運動
 - * 学習クラスマッチの取り組み向上運動と採点
 - * 授業態度の向上を目指す活動
 - * 忘れ物をなくそう運動
 - * 発言を頑張ろう運動
- ◆ **広報班** — 情報を正確かつ迅速に伝える班
 - * 学級新聞の発行(最低月に1回)
 - * 他の学級や学校の新聞の整理・掲示
 - * 各班の「班だより」の作成の呼びかけ
 - * 学級の掲示物の整備と補修
- ◆ **保健班** — 学級の健康と安全面を担当する班
 - * 病人やけが人の世話
 - * 給食の準備や後片付けの指導・呼びかけ
 - * 牛乳を残さず飲もう運動
 - * 学級の窓開け・窓閉め(換気)
- ◆ **美化班** — 学級の生活環境を整える班
 - * 学級の財産(マジック・テープ・のりなど)の管理と整理
 - * 花や植物の世話
 - * 学級の本棚の整理
 - * 清掃活動向上運動の推進と点検
 - * 正面黒板の管理(黒板消し・チョーク補充)



班の活動計画を立てよう！

1年 組 班

1. 班の目標 (学級をどのようにしていこうと考えるか)

2. 活動の重点 (簡条書でよい)

3. 具体的な活動内容 (どんな活動を、いつ、どのように行うか)

4. 班のメンバー (◎: 班長、○: 副班長)

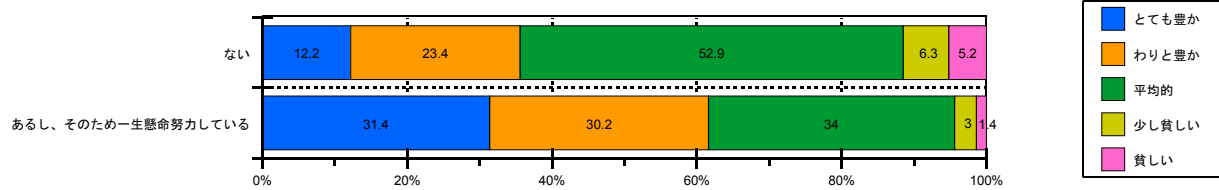
| | | |
|---------|---------|---------|
| ◎ _____ | ○ _____ | . _____ |
| . _____ | . _____ | . _____ |

1年-14 「私達の将来の希望・その1」

将来の夢と実現のための努力（クロス集計）

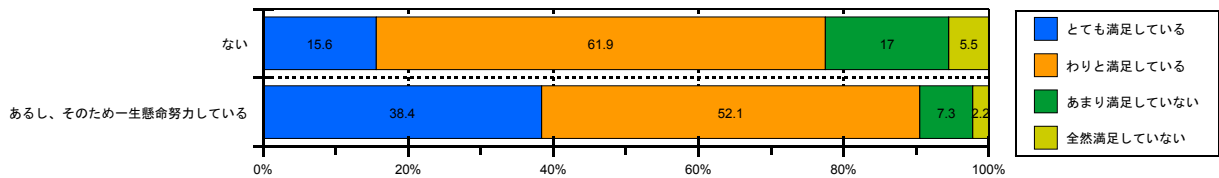
①将来の暮らし向き×将来つきたい仕事・夢の有無

| | とても豊か | わりと豊か | 平均的 | 少し貧しい | 貧しい |
|--------------------|-------|-------|------|-------|-----|
| ない | 12.2 | 23.4 | 52.9 | 6.3 | 5.2 |
| あるし、そのため一生懸命努力している | 31.4 | 30.2 | 34.0 | 3.0 | 1.4 |



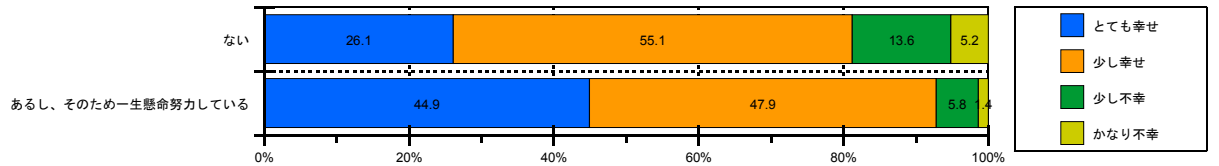
②将来の生活の満足度×将来つきたい仕事・夢の有無

| | とても満足している | わりと満足している | あまり満足していない | 全然満足していない |
|--------------------|-----------|-----------|------------|-----------|
| ない | 15.6 | 61.9 | 17.0 | 5.5 |
| あるし、そのため一生懸命努力している | 38.4 | 52.1 | 7.3 | 2.2 |



③今と比べて将来は幸せか×将来つきたい仕事・夢の有無

| | とても幸せ | 少し幸せ | 少し不幸 | かなり不幸 |
|--------------------|-------|------|------|-------|
| ない | 26.1 | 55.1 | 13.6 | 5.2 |
| あるし、そのため一生懸命努力している | 44.9 | 47.9 | 5.8 | 1.4 |



④自己評価×生来つきたい仕事・夢の有無

| | あるし、そのため一生懸命努力している | ない |
|-------------|--------------------|------|
| 異性に好まれる | 22.0 | 12.3 |
| クラスの人気者 | 24.0 | 13.3 |
| 成績がよい | 26.0 | 21.3 |
| よく勉強している | 30.2 | 14.6 |
| 運動神経がすぐれている | 47.0 | 28.9 |
| 仲間から信頼されている | 47.2 | 33.2 |
| 友だちがたくさんいる | 70.6 | 50.7 |
| 親とうまくいっている | 73.8 | 57.0 |

(注) 数字は「とても」+「少し」そう思う割合 >は差が5%以上

①～④とも出典は、
「モノグラフ 中学生の世界」
Vol. 58 中学生の人生観
ベネッセ教育研究所 1997年

イチロー選手の小学校6年生の時の夢

※生徒には、誰の作文かを明かさずに提示し、読後に教える。

「僕の夢は、一流のプロ野球選手になることです。そのためには、中学、高校で全国大会へ出て、活躍しなければなりません。活躍できるようになるためには、練習が必要です。ぼくは、その練習にはじしんがあります。ぼくは3歳の時から練習を始めています。3歳～7歳までは半年位やっていたんですが、三年生の時から今までは、365日中、360日は、はげしい練習をやっています。だから一週間中、友達と遊べる時間は、5時間～6時間の間です。そんなに、練習をやっているんだから、必ずプロ野球の選手になれると思います。そして、中学、高校でも活躍して高校を卒業してからプロに入団するつもりです。そしてその球団は中日ドラゴンズか、西武ライオンズが夢です。ドラフト入団で契約金は、一億円以上が目標です。ぼくが自信があるのは、投手と打撃です。昨年の夏ぼくたちは、全国大会へきました。そしてほとんどの投手を見てきましたが、自分が大会ナンバー1投手とかくしんできるほどです。打撃では、県大会、4試合のうちに、ホームランを3本打ちました。そして、全体を通した打りつは、5割8歩3りんでした。このように、自分でもなっとくいくせいでした。そして、ぼくたちは、1年間負け知らずで野球ができました。だからこの調子で、これからもがんばります。そして、ぼくが一流の選手になって試合にでれるようになったら、お世話になった人に、招待券をくばって、おうえんしてもらおうのも夢の1つです。とにかく一番大きな夢はプロ野球選手になることです。」(原文のまま)

1年-27 「人と個性」

事前調査

「家族から見た私」

- 1 私のよいところ
- 2 私の直してほしいところ
- 3 将来のこと（期待していること）
- 4 その他

「インスピレーション・クイズ」

※友達と相談しないで、自分の考えを正直に書きましょう。

- 1 私の将来の夢は、
- 2 自分の性格を一言で言うと、
- 3 今、興味をもっていることは、
- 4 友達によく言われることは、

授業で用いる資料

「〇〇さんのよいところ」 ※ワークシートに貼り付けやすいように、付箋紙を利用してもよい。

（ ）さんへ
私は、あなたのこんな点が素晴らしいと思っています。

※性格、行動や態度、学習、運動や技能、特技や趣味など、よい点だけを書いてください。

授業ワークシート

【自分の特色についてのまとめ】

| | 自分自身での振り返りから | 諸検査や実体験から | 周りの人(家族、友人、先生)の意見から |
|-------------|--------------|-----------|---------------------|
| 行動や性格 | | | |
| 学習への興味関心・成績 | | | |
| 身体や運動能力 | | | |
| 趣味・特技 | | | |
| 仕事への興味関心 | | | |
| 進路の希望 | | | |
| 家族の希望や考え | | | |
| その他 | | | |

【本時の活動の感想】

1年-28 「自分の特色、友達のよさ」

授業で用いる資料

学習ワークシート

【この職業にはどんな個性をもった人が適しているでしょうか】

| | |
|-----|--|
| 警察官 | |
| 看護師 | |

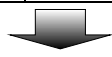
【自分の希望する職業に求められる能力や適性と、今後の努力点】

| 自分の希望する職業名 | 希望する職業に求められる能力や適性 | 今後の努力点（自分の個性と、求められる能力や適性を比較して） |
|------------|-------------------|--------------------------------|
| | | |

【ジョハリの「心の4つの窓」で自分の個性をより深く知ろう】

※先生の説明を聞いた後、実際に下の各「窓」に書き入れてみましょう。箇条書きにすると見やすいと思いますよ。

| | | | |
|-------------|-------------------------|--------------|--------------------------|
| 秘密の窓 | ・自分は書いていて、他の人は書いていなかった面 | 開かれた窓 | ・自分も、他の人も書いていた面 |
| 暗黒の窓 | | 盲点の窓 | ・自分は書いていなかったが、他の人は書いていた面 |



【「開かれた窓」を大きくし、将来の希望の実現を目指すために具体的にどうしていくか】

※班の中で話し合い、班員からもらったアドバイスをメモし、決意を固めよう。

| | 具体的な方策（何を、どのようにしていくか） |
|--------------|-----------------------|
| 改善や努力をしていくこと | |
| いっそう伸ばしていくこと | |

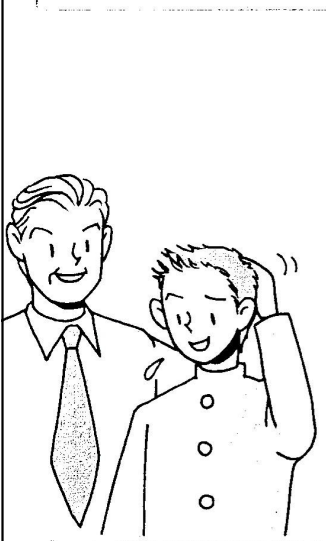
進路学習ワークシート 学習の課題や悩みの解決 「学習資料」 3B・氏名

1 「学習に関する不安や悩み」事前アンケート結果 (マル1つで1人。●：男子/◎：女子)

| | | | |
|----|---------------------|----------------|-----------------------------------|
| 1 | 家庭での勉強に集中できない | ●●●●●●◎◎◎◎◎◎ | (6/6) |
| 2 | 勉強時間が確保できない | ●●●◎◎◎ | |
| 3 | 勉強方法が分からない | ●●●●●●◎◎◎◎◎◎◎◎ | (7/8) |
| 4 | すぐに飽きてしまう | ●●●●●●●●◎◎◎◎ | (9/5) |
| 5 | みんながどれ位勉強しているのか気になる | ●●●●◎◎◎◎ | (5/5) |
| 6 | 適当な問題集や参考書がない | ●◎◎◎ | |
| 7 | 授業中集中できない | ●●●●◎◎ | |
| 8 | やる気が起こらない | ●●●●●●●◎◎◎◎ | (8/4) |
| 9 | 苦手教科があって克服できないでいる | ●●●●●●●●◎◎◎◎◎◎ | (10/8) |
| 10 | 授業についていけない | ●◎ | |
| 11 | 分からない点を教わる相手がいない | ● | |
| 12 | その他(具体的に) | ●● | 手遅れかどうか、参考書の内容/先生の言っていることが時々分からない |

2 「苦手意識を取りのぞこう」

先生 さてA君、きみはとくに数学が苦手だったね。
A君 そうですよ。でも、九九ぐらいは完ぺきですよ(笑)。
先生 A君が数学の勉強をしたくないのは、結局のところ、これまでの勉強でわからないところがそのままになっているからではないのかな。
A君 そのとおりです。ぼくだって、わかるときの授業にはついていけるし、ちゃんと理解できたときなんかは、勉強していても楽しいですよ。



でも、どこまでがわかっている、どこからわからないのか、それがよくわからないんです。あれ、なんだか混乱してきちゃった。
Bさん 私が苦手になっている理科についても、まったく同じかもしれません。
先生 さっきいった悪循環を断ち切るには、それが先決だよ。なぜ、その教科が不得意なのか、原因をきちんとつきとめないことには、穴のあいたバケツにいくら水を入れようとしても、その穴をふさがないかぎり、水はたまらないのだから。

A君 そうか。でもいつごろから数学が苦手になってしまったのかな。たしか1年生のときには、そんなに不得意ではなかったはずだけど。今度ひまを見つけて、1・2年生のときの教科書をチェックしてみようかな。たぶん、どこからわからなくなったのか、わかると思います。

Bさん 私は理科のなかでも、OだのHだのCだのっていう記号が出てくると、もうぜんぜんだめです。

先生 ところで、Bさんは英語が得意だけど、そうなったのは何かきっかけがあったの。

Bさん 将来、海外の学校に留学したいという希望があるので、自分なりに英語はがんばったつもりなんです。

A君 ぼくだって将来はサッカーの選手になりたいから、体育は一生けんめいがんばっているし、成績もいいよ。

先生 そんなふうに分の将来に結びつけてみると、勉強する姿勢も違ってくるよね。それと得意とか不得意とかいうのは、ちょっとしたきっかけによることも多いんだ。

A君 ぼくはマンガ雑誌に連載されている時代劇が好きなので、それで歴史はわりと得意になったんです。数学ものの連載もあると、ひょっとして好きになれるかもしれません。

それだと、簡単に数学も得意科目になっていいのにな。

Bさん 私も理科に興味を持てるように、何かきっかけを探してみようかな。先生、何かヒントはありませんか。

先生 たとえば、みんなが好きなゲームの話でいえば、攻略法の裏技と同じで、自分でつかんだコツは絶対に忘れないからね。自分でそのコツをつかむふうをしてみることもだね。



【作業】上の資料を読んで、苦手意識を取りのぞくための方法を班で話し合い、3つにまとめよう。

| |
|---|
| ① |
| ② |
| ③ |

進路学習ワークシート 学習の課題や悩みの解決 「相談用紙」

おもてめん
【表面】

*裏面の□（四角）の中に、あなただけが分かる印や記号を記入してください。

1 「家庭での学習の取り組み状況」を振り返り、また、学習上の不安や悩みを書きましょう。

| | | | | |
|------------------------------------------|--------|---|---|-------------|
| (1) 今までの家庭での学習について、自分の取り組み状況を振り返ってみましょう。 | | | | |
| 1 計画を立てて勉強している | (している) | 4 | 3 | 2 1 (していない) |
| 2 計画どおりに勉強できている | | 4 | 3 | 2 1 |
| 3 教科書などの復習をしている | | 4 | 3 | 2 1 |
| 4 要点などをノートにまとめている | | 4 | 3 | 2 1 |
| 5 問題集などをしっかりと解いている | | 4 | 3 | 2 1 |
| 6 単語や漢字練習などは書きながら覚えようとしている | | 4 | 3 | 2 1 |
| 7 分からない点や理解できない点は友達や先生などに聞いて解決している | | 4 | 3 | 2 1 |

(2) 現在抱えている学習上の不安や悩みを書きましょう。

*表（この面）が見えないように、二つ折りにして、前の箱に入れてください。

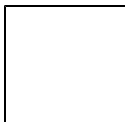
2 「家庭での学習の取り組み状況」や学習上の不安や悩みに対するアドバイスや励まし(カウンセラー) → 1 番に記されている学習の取り組み状況や不安や悩みに対して、アドバイスや励ましを考え、記入してください。

*表（この面）が見えないように、二つ折りにして、前の箱に入れてください。

3 この活動の内容についての感想、クライアントやカウンセラーを経験した気持ち、2 番のアドバイスや励ましを読んだ上での素直な気持ちなど、自分の思いをまとめてください。

氏名 _____

【裏面】



【事前アンケート】 「学習に関する不安や悩み」

あなたが今、学習に関することで不安に思ったり悩んだりしていることはどんなことですか。該当する番号を○で囲んでください。(複数回答可)

| | |
|-----------------------|---------------------|
| 1 家庭での勉強に集中できない | 7 授業中集中できない |
| 2 勉強時間が確保できない | 8 やる気が起こらない |
| 3 勉強方法が分からない | 9 苦手教科があって克服できないでいる |
| 4 すぐに飽きてしまう | 10 授業についていけない |
| 5 みんながどれ位勉強しているのか気になる | 11 分からない点を教わる相手がいない |
| 6 適当な問題集や参考書がない | 12 その他（具体的に _____) |

参考資料

網掛けのしてある「活動内容の例」が、ガイダンスの機能を生かすことができると考えた題材。以下、113頁まで同じ。
 中学校学習指導要領（平成10年12月）解説－特別活動編－ pp. 32-54を基に作成

◎ 学習指導要領に示された学級活動の活動内容例とガイダンスの機能を生かす題材とのかかわりの一覧表

| 活動内容 | 活動内容の例 | 活動のねらい | 具体的な問題例 (題材例) | 解決策や指導の方法 | 指導上の留意点 |
|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| 学級や学校の生活の充実と向上に関する事 | 1 学級や学校における生活上の諸問題の解決 | ① 生活全般についての適応を図る | <ul style="list-style-type: none"> 入学や進級、学級編成替え、転入・転出などの際に生じる人間関係などの諸問題 生徒会の委員会や学校における様々な集団への所属とその後の適応に関する問題 | <ul style="list-style-type: none"> →入学や進級の際のオリエンテーション →個別指導やグループ指導 →学級成員の親睦を深める活動の場や機会の設定 | |
| | | ② 集団生活としての学級や学校の生活の充実と向上を図る | <ul style="list-style-type: none"> 様々な問題を出し合って解決したり、役割分担し合って処理する活動 | →組織や係が、生徒会活動と連携して自発的、自治的な活動を推進 | *いじめ、暴力、差別、偏見には、学級活動だけでなく、生徒会活動などでも適切に取り上げ、学校全体で解決に取り組む |
| | | ③ 集団生活の進め方にかかわる諸問題への対応とその解決を図る | <ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動や学校行事への参加や協力の問題 組織や係活動の円滑な運営に伴う問題 学級の環境整備に関する問題 | →グループや全体での話し合いや討論などで解決 | |
| | 2 学級内の組織づくりや仕事の分担処理 | ① 学級の成員すべてが互いの個性を尊重しながら、何らかの役割を分担して協力し合う | <ul style="list-style-type: none"> 学級の目標や組織づくり 仕事の役割分担やルール 学級生活の充実のための工夫 | →グループや全体で話し合う | *学級の全員が、自己の役割に対する責任と喜びを感じ、よりよい学級にするため様々な創意工夫ができるようにする |
| | | ② 学級や学校生活への適応を図る | <ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動や学校行事への参加や協力 多様な集団と活動の在り方 集団生活のマナーとルール | →上級生などの経験等も活用したガイダンス →生徒相互の話し合いや体験発表 →地域の文化・スポーツ団体やボランティア団体の人々を招いての講話 | |
| | | ③ 積極的に多様な集団へ参加し自主的、実践的な活動を進めることへの指導・援助を行う | | | |
| 個人及び社会の一員としての在り方・健康や安全に関する事 | 1 青年期の不安や悩みとその解決 | ① 青年期の心理、心身の発達の特徴やそれに伴う悩み、発達課題などに対する理解を深めさせる | <ul style="list-style-type: none"> 自分が不安に感じること、悩みとその解決方法 青年期の理解に関すること 自分の身近な人の青年時代 | →ブレインストーミングのように生徒が自由に話し合う →資料を調べる →先輩や身近な大人にインタビューして発表したり話し合ったりする | |
| | | ② 題材の設定を工夫し、不安や悩みを率直に語り合えるようにする | | | |
| | | ③ 人生における青年期の意義（青年期特有の問題を乗り越えることで人間として成長する）を理解させる | | | |
| 2 自己及び他者の個性の理解と尊重 | ① 卒業までの期間を見通して系統的、発展的な指導を行い、自己の個性をより正しく理解させる | <ul style="list-style-type: none"> 自分の長所・短所 友人への期待と励まし 個性を生かす方法 | →グループや学級全体で話し合う →諸検査の実施や教育相談の手法を活用する →卒業生や社会人などの講話を通して他者の生き方に学ばせる | | |
| | ② 他者への思いやりを深め、共に生きる人間としての心の豊かさをもって成長していくようにさせる | | | | |
| | ③ 社会生活上のルールやモラルの意義について考えさせる | <ul style="list-style-type: none"> 集団生活におけるルールやマナー 自由と責任及び権利と義務 | →学級や学校における生活上の問題、地域における身近な出来事、新聞やビデオ等の資料 →話し合いやディベート →パネルディスカッション | | |
| 3 社会の一員としての自覚と責任 | ② 正義感や公正さを重んじる心、自律・自制の心などの大切さについて理解させる | | | | |
| | ③ 社会生活を営む上で必要なマナーやスキルについて体験的に習得させる | | | | |
| | ④ 自主的、自律的な生き方は、義務や責任と表裏一体のものであり、中学生であっても社会の一員として責任ある行動が求められることを理解させ、その意識の涵養を図る | | | | |

| 活動内容 | 活動内容の例 | 活動のねらい | 具体的な問題例(題材例) | 解決策や指導の方法 | 指導上の留意点 |
|------------------------|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 個人及び社会の一人としての在り方に関すること | 4 男女相互の理解と協力 | ① 男女相互の理解を一層深める ② 人間として互いに協力し合う態度を養う | ・男女相互の理解と協力 ・人間の尊重と男女の平等 ・異性交友の望ましい在り方 ・男女共同参画社会と自分の意識 | →アンケートやインタビューをもとに話し合う →新聞やテレビ等の資料を基に話し合ったり討論したりする | *「性的な発達への適応」とも関連付け、生徒の発達段階や実態、心身の発育・発達における個人差などにも留意し適時、適切な指導を行う |
| | 5 望ましい人間関係の確立 | ① 様々な人間関係について振り返らせ、その集団の中の行動の仕方や生き方について考えさせ、望ましく円滑な人間関係の確立に資するようにする ② 人間関係を形成する力や自己表現力、他者への思いやりや正義感、連帯感や協力心などを育む取組を積極的に進めていく | ・人間関係づくり ・望ましい人間関係の在り方 ・自己表現とコミュニケーション能力 | →ロールプレイングや体験発表を取り入れた話し合い →学級成員等の親睦を深める活動 →体験を通してのコミュニケーション能力の育成 | |
| | 6 ボランティア活動の意義の理解 | ① ボランティア活動の意義を理解させることによってボランティア精神の涵養を図り、自発的な参加への意欲を高める ② ボランティア活動の方法等についての啓発を図る | ・社会福祉活動 ・環境保全・保護活動 ・災害救助活動 ・地域のコミュニティづくり ・国際社会への貢献と協力 ・ボランティア活動に携わっている人を招いての講話 ・生徒のボランティア体験談を聞く | →ボランティア活動の様々な場面や実際について紹介 →ボランティア活動の意義の理解を深める →勤労生産・奉仕的活動に参加しての体験発表や話し合い →生徒会活動の一環として行われるボランティア活動の取組を基にした話し合い | *自発性・無償性・公共性・先駆性等のボランティア活動の基本的性格の理解と実践意欲の喚起を促す *学校内や地域等で可能なボランティア活動体験を企画し、ボランティア活動に必要な知識や技能を体験的に学ぶ *学校行事や生徒会行事との関連を図る |
| しでの在り方・健康や安全に | 1 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成 | ① 心の健康を含め自らの健康を維持し、改善することができるように指導・助言する ② 生活行動を見直し、安全に配慮するとともに、危険を予測できる力や的確に行動できる力を高めていく ③ 自然災害等に対する心構えや適切な行動について考える | ・心の健康や体力の向上に関する事 ・生活習慣病とその予防 ・食事・運動・休養の効用と余暇の活用 ・喫煙、飲酒、薬物乱用などの害に関する事 ・ストレスへの対処と自己管理 ・生活安全や交通安全に関する事 ・種々の災害時の安全に関する事 ・生命の尊重に関する事 ・環境整備に関する事 | →様々な視点に立ってこれらの問題を考え意見を交換できるようなディベートやディスカッション →実践力の育成につながるロールプレイング →事故の発生状況や危険箇所の調査結果をもとにした話し合い →「ひやりとした」といった体験に基づく感想や発表 →安全マップの作成 →実技を通じた学習 →ロールプレイング | *学校教育全体で行われる保健指導や安全指導等との関連を密にする |
| | 2 性的な発達への適応 | ① 性に対する正しい理解を基盤に、身体的な成熟に伴う性的な発達に対処し、適切な行動がとれるように指導・助言を行う | ・思春期の心と体の発育・発達に関する事 ・性情報への対応や性の逸脱行動に関する事 ・友情と恋愛と結婚 | →資料等をもとにした話し合いや討論 →専門家の講話を聞く | *自己の行動に責任をもって生きることの大切さや、人間尊重の精神に基づく男女相互の望ましい人間関係の在り方などと結び付けて指導する *率直に意見を言えるとともに、自分の将来と結びつけてしっかりと考えていけるような取組をさせる *保健体育をはじめとした各教科等の学習との関連、学級活動の他の活動との関連を図る *個人差を考慮して取り扱うとともに、家庭教育との関連も図る |
| | 3 学校給食と望ましい食生活の形成 | ① 望ましい食習慣の形成、食事を通しての好ましい人間関係の育成などをねらいとして、日々の給食の時間における指導との関連を図りながら、心身の健全な発達に資するよう指導する ② 学校給食を実施していない学校においても、望ましい食習慣の形成については健康・安全に関する指導の一環として指導する | ・健康と食習慣 ・食事のマナーと楽しさ ・栄養のバランスのとれた食生活 | →アンケートや新聞などの資料をもとにした話し合いやディベート | *養護教諭や学校栄養職員などの専門性を生かす *家庭との連携を図る。家庭の中でも話し合えるような題材の設定 |

| 活動内容 | 活動内容の例 | 活動のねらい | 具体的な問題例 (題材例) | 解決策や指導の方法 | 指導上の留意点 |
|----------------------------|---------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学業生活の充実 ・将来の適切な選択に関すること | 1 学ぶことの意義の理解 | ① 学ぶことの意義として、次のようなことに気付くように活動させる ・自身の学習のつまづきを克服したり、自分のよさや得意なことを伸ばしたりするために勉強する ・自己を高め、充実した人生を送るために勉強する ・学ぶことの楽しさやおもしろさに気付いて勉強する ・自分の将来の夢や希望を実現させるために勉強する | ・自分のよさや得意なことを伸ばす学習 ・充実した人生と学習 ・学ぶことの楽しさやおもしろさ ・学ぶことと職業 | →上級生や卒業生、働きながら学んでいる人、地域の職業人、生涯学習に取り組む保護者などの体験談などを取り入れながら、自分なりの考えをまとめ、発表したり、話し合ったりする | * 日常の学習や選択教科の選択、当面する進路の選択や将来の生き方を考える学習などとの関連を図りながら活動を進める |
| | 2 自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用 | ① 生徒主体の教科等の学習の事後指導として（問題解決型の学習過程を振り返りながら）「自ら学ぶ」ということがどのようなことであるのかを理解させる ②（学習のつまづきの原因やその克服の方法を皆で考え）自分にふさわしい学習の方法を見つけさせる | ・自ら学ぶ意義や方法 ・不得意教科の克服 ・自分にふさわしい学習方法 ・自宅学習の内容や方法 | →教科担任の教師との連携の下で、生徒が意欲的に、楽しく取り組むことができた教科等の学習などについてその学習過程を振り返りながら、なぜ意欲をもって、楽しく勉強できたのかを話し合う活動 →教科学習等での悩みを率直に出し合い、多くの生徒に共通する悩みあるいは深刻な悩みを学級の問題として受け止め、その解決や、そのために各自ができることなどについて話し合い、実行し、成果を確かめ合う | * 学校図書館等をどのように利用したかを含めてそれまでの学習を振り返らせ、自主的な学習の場、様々な情報が得られる場としての学校図書館の意義や役割に気付かせ、積極的に活用する態度を養わせる |
| | 3 選択教科等の適切な選択 | ① 各学年で、どのような選択教科が設けられているのか、それらは、それぞれ何時間の学習で、どのような内容の学習を行うのか、どのような選択が可能であるのかなどについて、十分に理解させる ② ①のような活動を踏まえて、生徒が、自分の能力・適性等を伸ばす選択、あるいは自分の興味・関心や将来の希望進路に基づく選択など、様々な選択があることを理解し、自分なりの考え、理由をもって選択教科を選択することができるように指導・援助する | ・選択教科の理解と自分にふさわしい選択 ・先輩に学ぶ選択教科の選択 | →選択教科をどのような視点で選択したらよいかを話し合ったり、どのような理由で、どのような選択教科を選択しようとしているかを互いに発表し合ったりする | * ガイドンスの機能の充実を図る観点から、学級活動の時間のみならず、選択教科等の時間の一部も充てるなどして十分に時間を確保する * 全教師が協力して、各選択教科の説明会や体験学習、あるいは先輩の経験から選択の在り方を学ぶ会などを計画的に実施する |

| 活動内容 | 活動内容の例 | 活動のねらい | 具体的な問題例(題材例) | 解決策や指導の方法 | 指導上の留意点 |
|-------------------------------------------|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学業生活の充実・将来の生き方と進路の適切な選択に関する主体的な進路の選択と将来設計 | 4 進路適性の吟味と進路情報の活用 | ① 多面的に自分自身をみつめ自分を知る ② 友人の理解を通して自分を知る ③ 職業適性などから客観的に自分を知る ④ 自己の個性の理解に基づいて、自分のよさを発揮し、個性を伸ばす進路を探索するために、当面する進路に関する情報を収集し、整理して、自分や友人が活用できる資料としてまとめる | ・自分のよさの発見 ・職業と適性 ・生き方を学ぶ ・学ぶ制度と機会・学校調べ | →自分の興味・関心、得意な教科の学習や活動、性格や行動など多面的に自分自身を見つめたり、生徒が互いのよさを見つめ合い、確かめ合ったりする活動 →職業適性検査等を活用して個性を生かす職業について考える活動 →地域の社会人や職業人の講話を聞く活動 →勤労や奉仕の体験を通して生き方や進路の多様性を理解する活動 →上級学校を訪問、見学したり、体験入学をして、その結果をまとめて発表したりする学習 | *職業適性を取り上げ、適性と進路との関係について考えさせるに当たっては、進路についての夢や希望を抱き、その実現のための強い意志と努力に優る適性はないという理解が得られるように留意する |
| | 5 望ましい職業観・勤労観の形成 | ① 職業・勤労に関する実際の体験などを通して、生徒が、働くことの楽しさや厳しさを知り、職業・勤労についての関心を高める ② 職業・勤労の目的や意義について、生計を維持するためばかりではなく、職業を通じて社会の一員としての役割を果たし、自己の能力・適性を発揮しているといった視点から理解することを指導・援助する | ・学校行事などとして実施する地域の職業調べや事業所・福祉施設等における勤労体験・介護体験 ・職業人や福祉団体関係者を招いての講話等との関連を図りながら、身近な職業、働く目的と意義、働くことと生きがいなどについて題材化 | →事前、事後の指導として、調査、話し合い、感想文の作成、発表 | |
| | 6 主体的な進路の選択と将来設計 | ① 将来の生活における職業人、家庭人、地域社会の一員などとしての役割や活動及びその変化を知り、生徒が将来の生活を具体的に描いてみる ② 将来設計を進路計画として立案する ③ 進路計画の実現を目指して、生徒が、卒業後の進路選択の問題を、自分自身の課題として受け止め、自ら解決するために、(中略)何を知り、どのように考え、いかに行動すべきかなどについて検討する | ・人生と生きがい ・30年後の私 ・志望校・希望職業の選択 ・進路の選択と私の悩み | →地域の職業人や福祉団体関係者の講話と感想文の作成や発表、話し合い →ライフプランの作成 →進路計画を立案し、発表する活動 →志望校の選択について選択のためのスキルを学ぶ活動(進学目的の明確化、各学校・学科の特色など目的実現のための選択肢の理解各選択肢で求められる選択の条件や必要な努力についての理解、選択理由の明確化、選択の結果とその受け止め方など) | *進路の選択の指導に当たっては、個別指導としての進路相談を、学級活動における指導との関連を図りながら適切に行うことが大切 |